

科目名 (英)	ミュージックセオリー I	選択 必修	必修	年次	1	担当教員	株式会社国際エジュケーションズ
	(Music Theory I)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	通年
学科・コース	プロミュージシャン科・商業音楽科・音楽プロデュース科・スーパー・eエンターテイメント科						
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 プロミュージシャンや声優、俳優には移調や楽曲制作、演奏に必要な基礎知識、裏方には照明や台本に照らし合わせてタイミングや間の取り方を、そして音楽の基礎知識をあまり必要としない学科の学生にも、学び方や、考え方の多面性を育てることが目標。							

授業計画・内容	
1回目	<楽譜の歴史> ファンデーションカリキュラムの説明、楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への移り変わりを知る
2回目	<音名> 鍵盤と音名の一致 楽器ごとの音域を知る
3回目	<音符、休符> 音符、休符の表し方
4回目	<拍子記号> 小節線について、単純拍子、複合拍子は紹介のみ、タイ、シンコペーション
5回目	<反復記号> 反復記号を学び、音源を使用して楽譜を終えるようにする
6回目	<スコアリーディング> 楽譜と音源を使用し、前半の総復習
7回目	<確認テスト> 確認テスト
8回目	<メジャースケール> メジャースケールの仕組み、#系のメジャースケールの仕組み
9回目	<メジャースケール> 5度圏、b系のメジャースケールの仕組み
10回目	<記譜法、臨時記号> 調号を臨時記号の違い、臨時記号の効力、正しい楽譜の書き方
11回目	<テンポ、強弱記号> 速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ
12回目	<スコアリーディング> 楽譜と音源を使用し、後半の総復習
13回目	<期末テスト> 期末テスト
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学 習	宿題はほぼありませんが、毎回プリントを提出して頂きます。
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	基礎ですので面白くはないかもしれませんが、楽しく学べるよう準備しています。よろしくお願いたします。
【使用教科書・教材・参考書】 ミュージックセオリー教科書、ワークブック	

科目名 (英)	イヤートレーニング I	選択 必修	必修	年次	1	担当教員	株式会社国際エジュケーションズ
	(Ear Training I)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	プロミュージシャン科・商業音楽科・音楽プロデューサー科・スーパー・エンターテイメント科						
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 音程1～8度、音程のまとめ、メジャーとマイナーの聞き分け。四分音符から16分音符まで。							

授業計画・内容	
1回目	<音名> リズムは四分音符と四分休符、2線紙を使って音の高低を判定。
2回目	<音符、休符> 5線紙を使っての書きとり、八分音符が入ったリズム打ち、3線紙を使って音の高低判定。
3回目	<拍子記号> リズム八分休符の書きとり、5線紙を使ってC～Eの書きとり、全音、半音と度数のみ
4回目	<反復記号> リズム復習、休符の多い書きとり問題、音程は1,2,3,8のみ
5回目	<スコアリーディング> リズム復習、16分音符の導入、メロディー暗記問題、音程1, 2, 3, 8度のみ、変化記号がついた場合。
6回目	<中間テスト>
7回目	<メジャースケール#系> リズム復習、16分音符、書きとり、メロディーは跳躍進行、八分音符の導入、新曲視唱、音程は1～5, 8 トライトーン
8回目	<メジャースケールb系> リズム八分休符、八分音符の導入、メロディーはC～Fまでの順次進行、音程は1～5, 8 トライトーン②
9回目	<記譜法、臨時記号> リズム8分と16分の組み合わせの導入、メロディーC～Gまでの順次進行、音程1～6と8度
10回目	<テンポ、強弱記号> リズム16分と8分の組み合わせの導入、メロディーC～Gまでの跳躍進行、音程1～8度
11回目	<スコアリーディング> リズム総復習、メロディー総復習、音程1～8度
12回目	<予備テスト>
13回目	<期末テスト>
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学 習	宿題はありませんが、進行に差し支える学生には復習プリントを用意しています。
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	歌う事によって、体で音を感じていきましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】 プリント	

科目名 (英)	デジタルテクノロジー基礎 I	必修 選択	必修 選択	年次	1年前期	担当教員	西本祐介
	(Digital Technology Fundamentals)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年前期
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科音楽プロデュース科・プロミュージシャン科					曜日・時限	火.5限
【授業の学習内容】 映像制作アプリケーションの操作方法やPWA(プログレッシブ・ウェブ・アプリ)などの制作方法を学ぶと同時に最新のテクノロジーについての学習を行います。 <実務者経験> 20年以上にわたり、アーティスト・ディレクター・インストラクターとして様々な音楽・映像・イベント・コンテンツの制作・ステージ出演・マネジメント業務を行う。							
【到達目標】 Keynote・Power Pointの操作ができるようになる 映像系アプリケーションの操作ができるようになる Webサービスを利用したプレゼンテーション素材の制作ができるようになる							

授業計画・内容	
1回目	Keynoteを使ったプレゼンテーション素材の制作①「文字入力・画像挿入などの基本操作について」
2回目	Keynoteを使ったプレゼンテーション素材の制作②「文字入力・画像挿入・データの書き出しについて」
3回目	iMovieとKeynoteを連携したプレゼンテーション素材の制作①「iMovieの基本操作と画像挿入について」
4回目	iMovieとKeynoteを連携したプレゼンテーション素材の制作②「iMovieの基本操作と動画の挿入について」
5回目	Googleドライブ・スプレッドシートの活用について①
6回目	Glide Appを使ったアプリ制作について①「基本操作方法」※画像編集に役立つWebサービスの紹介
7回目	Glide Appを使ったアプリ制作について②「プロフィール掲載アプリの制作①」 ※音声・映像データを共有する為のクラウドサーバーについて
8回目	Glide Appを使ったアプリ制作について③「プロフィール掲載アプリの制作②」※動画の素材収集に役立つWebサービスの紹介
9回目	プロフィールアプリの制作①とフォントの追加について
10回目	プロフィールアプリの制作②
11回目	プロフィールアプリの制作③
12回目	業務で使える様々なアプリケーションテクニック①
13回目	業務で使える様々なアプリケーションテクニック②
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	鉛筆やノートと同じレベルでPCに触れていきましょう。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に行う作品の完成度 ■受講態度(主に欠席・遅刻など)
受講生への メッセージ	様々なアプリケーションに触れることで「自分の中の出来る！」を増やしていきましょう。 多くの「出来る！」がアイデアを生み出してくれます。 そのアイデアを是非顧客満足につなげていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook	

科目名 (英)	デジタルテクノロジー基礎Ⅱ	必修 選択	必修 選択	年次	1年後期	担当教員	西本祐介
	(Digital Technology Fundamentals)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年後期
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科音楽プロデュース科・プロミュージシャン科					曜日・時限	火・5限
【授業の学習内容】							
映像制作アプリケーションの操作方法やPWA(プログレッシブ・ウェブ・アプリ)などの制作方法を学ぶと同時に最新のテクノロジーについての学習を行います。							
<p><実務者経験> 20年以上にわたり、アーティスト・ディレクター・インストラクターとして様々な音楽・映像・イベント・コンテンツの制作・ステージ出演・マネジメント業務を行う。</p>							
【到達目標】							
Keynote・Power Pointの操作ができるようになる 映像系アプリケーションの操作ができるようになる Webサービスを利用したプレゼンテーション素材の制作ができるようになる							

授業計画・内容	
1回目	Final Cut Proの操作方法と作品制作について① 定番のWebサービスの紹介①
2回目	Final Cut Proの操作方法と作品制作について② 定番のWebサービスの紹介②
3回目	Final Cut Proの操作方法と作品制作について③ 定番のWebサービスの紹介③
4回目	Final Cut Proの操作方法と作品制作について④ 定番のWebサービスの紹介④
5回目	デザインを考える、デザインを簡易的に行えるアプリやWebサービスについて①
6回目	デザインを考える、デザインを簡易的に行えるアプリやWebサービスについて②
7回目	Glide Appを使ったより高度なアプリ制作①
8回目	Glide Appを使ったより高度なアプリ制作②
9回目	様々なアプリを複合的に使用しプレゼンテーション素材を制作する①
10回目	様々なアプリを複合的に使用しプレゼンテーション素材を制作する②
11回目	進級制作をGlideアプリ内に搭載する①「デジタルポートフォリオ制作」
12回目	進級制作をGlideアプリ内に搭載する②「デジタルポートフォリオ制作」 ブラッシュアップ
13回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	鉛筆やノートと同じレベルでPCに触れていきましょう。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に行う作品の完成度 ■受講態度(主に欠席・遅刻など)
受講生への メッセージ	<p>様々なアプリケーションに触れることで「自分の中の出来る！」を増やしていきましょう。 多くの「出来る！」がアイデアを生み出してくれます。 そのアイデアを是非顧客満足につなげていきましょう。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	
Macbook	

科目名 (英)	デジタルテクノロジー基礎Ⅲ	必修 選択	必修 選択	年次	2or3年	担当教員	西本祐介
	(Digital Technology Fundamentals)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	半期
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科音楽プロデュース科・プロミュージシャン科						
【授業の学習内容】 映像を使ったプレゼンテーションができるようになることをテーマに「映像・ビジネス・アプリ・AI」などのアプリケーションを学ぶ <実務者経験> 20年以上にわたり、アーティスト・ディレクター・インストラクターとして様々な音楽・映像・イベント・コンテンツの制作・ステージ出演・マネジメント業務を行う。							
【到達目標】 ビジネス系アプリの基本操作とビジネスシーンで使えるテクニックを覚える 映像を使ったプレゼンテーション素材を作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	イベント時のタイムスケジュールを作る(EXCELの計算式)①
2回目	EXCELの計算式を使った入力と制作物①
3回目	EXCELの計算式を使った入力と制作物②
4回目	Word/Excel/PowerPointを使った資料制作と連携方法について①
5回目	Word/Excel/PowerPointを使った資料制作と連携方法について②
6回目	Word/Excel/PowerPointを使った資料制作と連携方法について③
7回目	PDFの加工について
8回目	プロフィールシートの制作①「レイアウト」
9回目	プロフィールシートの制作②「映像や音声の埋め込み」
10回目	プロフィールシートの制作③「添削と完成」
11回目	Webサービスの有効活用①
12回目	Webサービスの有効活用②
13回目	Webサービスの有効活用③
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	鉛筆やノートと同じレベルでPCに触れていきましょう。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に行う作品の完成度 ■受講態度(主に欠席・遅刻など)
受講生への メッセージ	様々なアプリケーションに触れることで「自分の中の出来る！」を増やしていきましょう。 多くの「出来る！」がアイデアを生み出してくれます。 そのアイデアを是非顧客満足につなげていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook	

科目名 (英)	デジタルテクノロジー基礎Ⅳ	必修 選択	必修 選択	年次	2or3年	担当教員	西本祐介
	(Digital Technology Fundamentals)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	半期
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科音楽プロデュース科・プロミュージシャン科						
【授業の学習内容】 映像を使ったプレゼンテーションができるようになることをテーマに「映像・ビジネス・アプリ・AI」などのアプリケーションを学ぶ <実務者経験> 20年以上にわたり、アーティスト・ディレクター・インストラクターとして様々な音楽・映像・イベント・コンテンツの制作・ステージ出演・マネジメント業務を行う。							
【到達目標】 ビジネス系アプリの基本操作とビジネスシーンで使えるテクニックを覚える 映像を使ったプレゼンテーション素材を作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	進級制作に向けての作業と制作物の確認
2回目	自分の売り出したいものを「映像・文字データに起こす」
3回目	完成イメージの明確化と不足物についての確認
4回目	課題制作01
5回目	課題制作02
6回目	課題制作03
7回目	課題制作04
8回目	中間報告と添削(リテイク)
9回目	課題制作05
10回目	課題制作06
11回目	課題制作07
12回目	課題制作08
13回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	鉛筆やノートと同じレベルでPCに触れていきましょう。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に行う作品の完成度 ■受講態度(主に欠席・遅刻など)
受講生への メッセージ	様々なアプリケーションに触れることで「自分の中の出来る！」を増やしていきましょう。 多くの「出来る！」がアイデアを生み出してくれます。 そのアイデアを是非顧客満足につなげていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook	

科目名 (英)	グローバルコミュニケーション I (Global Communication I)	必修 選択	必修	年次	1.2.3.4	担当教員	ILC
学科・コース	全学科・全コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	240 (16)	開講区分	開講時間は受講者のレベルにより異なる
						曜日・時限	開講時間は受講者のレベルにより異なる
【授業の学習内容】 日常生活の様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。 ※講師1実務者経験:2001年より日本にて英会話講師の経験あり ※講師2実務者経験:2000年より日本にて教授をしている。小学、中学、高等学校等で英会話の教授経験あり。							
【到達目標】 様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。							
授業計画・内容							
1回目	EVOLVE UNIT 01 ※使用テキスト(EVOLVE1.2.3)は受講者レベルにより異なる						
2回目	EVOLVE UNIT 02						
3回目	EVOLVE UNIT 03						
4回目	EVOLVE UNIT 04						
5回目	EVOLVE UNIT 05 授業内小テスト						
6回目	EVOLVE UNIT 06						
7回目	TOEIC中間試験						
8回目	EVOLVE UNIT 07						
9回目	EVOLVE UNIT 08						
10回目	EVOLVE UNIT 09						
11回目	EVOLVE UNIT 10 授業内小テスト						
12回目	EVOLVE UNIT 11						
13回目	EVOLVE UNIT 12						
14回目	試験前対策						
15回目	TOEIC期末試験						
準備学習 時間外学 習	事前に教科書を読んでおきましょう。						
評価方法	TOEIC中間・期末試験の結果 60% 授業内小テストの結果 10% 授業内課題への取り組み 10% 出席状況 20%						
受講生への メッセージ	皆さんは既にたくさんの英語を知っています。英語を話せるように、一緒に頑張りましょう！						
【使用教科書・教材・参考書】 EVOLVE1.2.3 ※受講者のレベルにより異なる							

科目名 (英)	韓国語講座 I (Korean Language)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	松浦彩李
学科・コース	全学科(希望者のみ受講)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日1限目
【授業の学習内容】 文字の読み、書き、発音。挨拶をする/自己紹介をする。国籍、趣味、職業、好みを尋ねる。家族紹介をする。場所を尋ねる。 (講師プロフィール) 韓国出身。日本在住22年。大学で観光経営学を学ぶ。日韓通訳案内士の免許を持って、通訳や翻訳。 日本認定心理士の資格を持つ。							
【到達目標】 文字を読める書ける。 簡単な挨拶が出来る。 平易な韓国語が理解でき、初歩的な韓国語でコミュニケーションがとれるようになる							

授業計画・内容	
1回目	ハングルの仕組みと基本母音字
2回目	子音字(1)平音
3回目	子音字(2)激音、濃音
4回目	合成母音字
5回目	パッチム (一文字パッチム、二文字パッチム)
6回目	日本語のハングル表記、辞書引き方、キーボードの打ち方、発音上手になるコツ、小テスト(単語の正しい表記、発音通りの表記)
7回目	自己紹介:私は日本人です (～は、～です、～と申します、～といいます)
8回目	趣味は何ですか? (～が、～は、～ですか) 語彙 単語
9回目	韓国人ではありません(～でいらしゃいますか、～ではありません)
10回目	今、日本にいます(あります・います/ありません・いません)、こそあど言葉
11回目	週末には普段何をしていますか? (します、しています、～です、～ですか)
12回目	演劇を見ます(です、ますのか)こまった丁寧語、用言の否定語、動詞の反対語、ハッピーバースデーの歌)
13回目	何料理が好きですか(です、ますの打ち解けた丁寧語)
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	テキストを見て学習した内容の復習をしましょう
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率50% ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】小テスト50%
受講生への メッセージ	前期の授業ですべての韓国語の文字が読めます。文字が読めるとKPOPももっと楽しめます 自分の名前も韓国語で書いて簡単な自己紹介もできます。
【使用教科書・教材・参考書】 楽しく学べる韓国語	

科目名 (英)	韓国語講座Ⅱ (Korean Language)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	松浦彩李
学科・コース	全学科(希望者のみ受講)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日1限目
<p>【授業の学習内容】 値段を尋ねる(買い物)。予定について話す。道を尋ねる。食事や映画を誘う。希望を述べる。</p> <p>(講師プロフィール) 韓国出身。日本在住22年。大学で観光経営学を学ぶ。日韓通訳案内士の免許を持って、通訳や翻訳。日本認定心理士の資格を持つ。</p>							
<p>いつ、どこ、誰が、なぜ、どのように、いくらなどを使って簡単な会話ができる。韓国旅行で買い物ができる。電車に乗ったり、道を尋ねる事が出来る。食堂で好きな食べ物を注文することなど簡単な会話ができる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	とても素敵でよかったです 用言の過去形(～した、～かった、だった)形容詞の反対語						
2回目	この靴いくらですか?漢数詞いち、に、さん、,,,,、けれど～ですね						
3回目	夕方6時から10時まであります、固有数詞一つ、二つ、三つ、,,,,						
4回目	運転できますか 可能、不可能の表現						
5回目	食事はされましたか 敬語(現在の尊敬語、～なさる、～される/過去の敬語、～なされた)						
6回目	旅行はどこへ行きますか 勧誘形、しましょう/ざんざいな言い方/助詞～で、～の方へ						
7回目	映画を見たいです ～がしたい/～したがる						
8回目	写真を撮ってもいいですか してもいい/してみる/しないでください禁止						
9回目	報告書を作らなければなりません 義務、条件 しなければなりません						
10回目	コンビニがあるのでそこで尋ねてください 原因、理由 ～だから、～ので						
11回目	何をなさいますか ～します意志や推測の表現						
12回目	冬休みの時何をするつもりですか ～と思います、～のために						
13回目							
14回目	9月特別授業						
15回目	9月特別授業						
準備学習 時間外学習	特にありません。						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率50% ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】小テスト50% 						
受講生への メッセージ	<p>文字は読めるようになったので、楽しく、しっかり基礎を勉強することによって、ますます興味を持つようになると思います。 これからは自分で言いたいことを会話文を作ってどんどん会話しましょう。日本語の語順とほぼ同じなので単語はたくさん覚えましょう。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>楽しく学べる韓国語</p>							

科目名 (英)	韓国語講座Ⅲ (Korean Language)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松浦彩李
学科・コース	全学科(希望者のみ受講)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日2限目
【授業の学習内容】 初対面の人と話す。趣味、家族、職業について話す。手紙やメールを書く。道案内をする。誘ったり、希望を述べる 感想をいう。 (講師プロフィール) 韓国出身。日本在住22年。大学で観光経営学を学ぶ。日韓通訳案内士の免許を持って、通訳や翻訳。 日本認定心理士の資格を持つ。							
【到達目標】 自己紹介と他人の紹介ができる。交通手段を尋ねる事ができる。手紙やメールを書ける。誘ったり、希望を述べたり、 感想をいう事ができる。							

授業計画・内容	
1回目	お名前は何とおっしゃいますか (インタビューする)会話 単語 表現
2回目	打ち解けた敬語 ～でいらっしゃいますか/条件、仮定 ～たら /意図、計画 ～しようと思います①練習問題 日本語を韓国語に訳する
3回目	朝子といいますが、日本から来ました (自己紹介)会話 単語 表現
4回目	説明、紹介 ～なので/ 以来、期間～してから/動作の順序～した後で、～する前に 1) メールを読む
5回目	魚は焼かないでください(決まりを言う)会話 単語 表現
6回目	義務～しなければなりません 2)メールを読む ② 練習問題 日本語を韓国語に訳する
7回目	丁寧な命令、許可、禁止～ください/～でもいいですか/～してはいけません
8回目	ファンの集いに行くことになりました(約束をする)会話 単語 表現
9回目	形容詞の連体形～な、～い/理由～で、～なので/決心～することになりました ③ 練習問題 日本語を韓国語に訳する
10回目	道を渡って左にずっと行ってください(道案内をする)会話 単語 表現
11回目	位置を表す語 前、後、左、右/ 手段～で/動作の順序～してから 3)メールを書く
12回目	ファンの集いに行ってみたんですけど…(感想を言う)会話 単語 表現
13回目	動作、存在しの現在連体形 ～している、～する～/試行、経験 ～してみました
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	特にありません。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率50% ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】小テスト50%
受講生への メッセージ	<p>日常会話が少しずつ言えるようになります。</p> <p>KPOPの歌詞も少しずつ訳することができます。</p>
【使用教科書・教材・参考書】 楽しく学べる韓国語	

科目名 (英)	韓国語講座Ⅳ (Korean Language)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松浦彩李
学科・コース	全学科(希望者のみ受講)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日2限目
【授業の学習内容】 一日の日課を話す。敬語で丁寧に依頼する。体の具合を言う。人の趣向や性格を言う。間接話法で伝える。 (講師プロフィール) 韓国出身。日本在住22年。大学で観光経営学を学ぶ。日韓通訳案内士の免許を持って、通訳や翻訳。 日本認定心理士の資格を持つ。							
【到達目標】 最近のマイブームや経験したことを話すことができる。敬語を使ってより丁寧な依頼をすることができる。 体の具合を説明できる。間接話法で伝えることができる。							

授業計画・内容	
1回目	「朝子さんの一日」 読解 読んで韓国語で質問したり、答えましょう
2回目	「少し安くしてください」店での買い物 依頼
3回目	～してみてください(勧誘/アドバイス)/～していただけますか(より丁寧な依頼)
4回目	「私の気持ちですから受け取ってください」(プレゼントする) ～だから(理由)
5回目	～ですね(感嘆)/～そうです、～だろうと思います(推測)
6回目	「咳がひどくて眠れませんでした」(体の具合をいう)
7回目	～出来ない(不可能)/～時、するとき(時間、場合)
8回目	「字幕を見ながら勉強しています」(勉強の仕方を話す)
9回目	～する方です(傾向)/～しながら(同時、並行動作)/～するのが(事柄)
10回目	「今日は来られないそうです」(話を伝える、間接話法)
11回目	～だそうです、～だったそうです(間接話法過去)
12回目	久しぶりに来てみて、どうですか(思い出を話す)
13回目	
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	特にありません。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率50% ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】小テスト50%
受講生への メッセージ	日常会話が出来て、一人で韓国に行った場合でも基本的な事柄に対応出来るようになります。
【使用教科書・教材・参考書】 ちょこっとチャレンジ！韓国語	

科目名 (英語表記)	キャリア教育 I (Carrier planning-I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	各担任により開講
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	各クラスごとに異なる

【授業の学習内容】
 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ(思いやりの心)を理解し、セルフマネジメント(自己管理)とチームマネジメント(協働作業)が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OBOGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。

- 【到達目標】
1. セルフマネジメント(自己理解)を実践できる
 2. チームマネジメント(協働作業)を実践し、集団での役割を果たすことができる
 3. 自己の働く意義(勤労観・職業観)を説明できる
 4. 目指す音楽業界を理解し、その特徴を説明できる
 5. 自己実現(夢をかなえる)のための目標設定をし実践できる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	集団(クラス)づくりの理解と実践 (集団の中での自己の学校生活の土台づくりを行う)
2回目	サポートアンケート実施。その他のインフォメーション 働く意義(勤労観・職業観)を理解し考える
3回目	学園祭を盛り上げるためにはどうすれば良いか?「集団での役割」の理解と実践
4回目	ネットリテラシー「集団での役割」の理解と実践
5回目	「集団での役割」の理解と実践 <学園祭準備活動>
6回目	グループワーク:音楽業界が求める人材を理解し、自己の目標を設定する
7回目	グループワーク:音楽業界研究と自己の進路を考える ①
8回目	グループワーク:人としての「在り方・生き方」を考え、自己の進むべき方向を定める
9回目	グループワーク:希望進路を達成するための人間力を理解し、自己の現状を振り返る
10回目	グループワーク:夢への一歩を踏み出す勇気を身につける
11回目	グループワーク:音楽業界研究と自己の進路を考える ②
12回目	グループワーク:セルフマネジメント(自己理解)とチームマネジメント(協働作業)の振り返り
13回目	グループワーク:振り返りとこれからの目標を設定する
14回目	Hospital Of Miracle リハーサル
15回目	Hospital Of Miracle 本番

準備学習
時間外学習

1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く
2. OB・OGセミナー、新人発掘プレゼンテーション、企業説明会に参加する
3. 海外実学研修、外部イベント校外学習に参加する
4. 事前課題など各種レポートを書く

評価方法

1. 【セルフマネジメント(自己理解)】 学習ポートフォリオ (50%)
2. 【セルフマネジメント(自己理解)】 事前課題等の各種レポート (50%)

【使用教科書・教材・参考書】

科目名 (英語表記)	キャリア教育Ⅱ (Carrier planning-Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	各担任により開講
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】							
<p>本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ(思いやりの心)を理解し、セルフマネジメント(自己管理)とチームマネジメント(協働作業)が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OBOGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。</p>							
【到達目標】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフマネジメント(自己理解)を実践できる 2. チームマネジメント(協働作業)を実践し、集団での役割を果たすことができる 3. 履歴書・プロフィールシート作成ができるようになる 							

授業計画・内容	
1回目	自己理解 ① 働く意義(勤労観・職業観)を理解し考える
2回目	自己理解 ② 自己PR/履歴書作成 <自己PR・趣味特技>
3回目	自己理解 ③ 自己PR/履歴書作成 <専門分野・関心事>
4回目	自己理解 ④ 自己PR/履歴書作成 <志望動機・立志作文>
5回目	企業研究 ① 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ①
6回目	企業研究 ② 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ②
7回目	企業研究 ③ 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会の振り返り
8回目	社会人準備 ① 夢をかなえた先輩たちの「行動の原則 + α」を学ぶ
9回目	社会人準備 ② マネー教育(収入と支出のバランスを学ぶ)
10回目	社会人準備 ③ 社会保険や税の仕組みなどを学ぶ
11回目	「集団での役割」の理解と実践 ① <WeareFSM準備活動>・自己理解とインターンシップ準備 ①
12回目	「集団での役割」の理解と実践 ② <WeareFSM準備活動>・自己理解とインターンシップ準備 ②
13回目	卒業進級制作展 We are FSM リハーサル
14回目	卒業進級制作展 We are FSM リハーサル
15回目	卒業進級制作展 We are FSM 本番
準備学習 時間外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. OB・OGセミナー、行動企業説明会、海外実学研修、動物施設での校外学習に参加する 3. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【セルフマネジメント(自己理解)】 学習ポートフォリオ (50%) 2. 【セルフマネジメント(自己理解)】 事前課題等の各種レポート (50%)
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英語表記)	キャリア教育Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	各担任により開講
	(Carrier planning-Ⅲ)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】							
<p>本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ(思いやりの心)を理解し、セルフマネジメント(自己管理)とチームマネジメント(協働作業)が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OBOGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。</p>							
【到達目標】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフマネジメント(自己理解)を実践できる 2. ホスピタリティを実践し、視野を拡大する。 3. 履歴書・プロフィールシート作成ができるようになる 4. インターンシップ、オーディションなど現場で行動できるコミュニケーション力をつける 							

授業計画・内容	
1回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ① 個人スピーチの実施(自己肯定感を高める。)
2回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ② 個人スピーチの実施(自己肯定感を高める。)
3回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ③ 個人スピーチの実施(自己肯定感を高める。)
4回目	ネットリテラシー「集団での役割」の理解と実践
5回目	企業研究 ① 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ①
6回目	企業研究 ② 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ②
7回目	企業研究 ③ 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会の振り返り
8回目	グループワーク ① チームワークカ
9回目	グループワーク ② プレゼンテーションカ
10回目	グループワーク ③ イノベーションカ
11回目	自己理解とオーディション対策・インターンシップ準備 ①
12回目	自己理解とオーディション対策・インターンシップ準備 ②
13回目	自己理解とオーディション対策・インターンシップ準備 ③
14回目	Hospital Of Miracle リハーサル
15回目	Hospital Of Miracle 本番
準備学習 時間外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. OB・OGセミナー、行動企業説明会、海外実学研修、動物施設での校外学習に参加する 3. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【セルフマネジメント(自己理解)】 学習ポートフォリオ (50%) 2. 【セルフマネジメント(自己理解)】 事前課題等の各種レポート (50%)
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英語表記)	キャリア教育Ⅳ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	各担任により開講
	(Carrier planning-Ⅳ)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】							
<p>本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ(思いやりの心)を理解し、セルフマネジメント(自己管理)とチームマネジメント(協働作業)が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OBOGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。</p>							
【到達目標】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. スピーチ能力を高める 2. 自分自身をしっかり表現できる 3. 履歴書・プロフィールシート作成ができるようになる 4. インターンシップ、オーディションなど現場で行動できるコミュニケーション力をつける 							

授業計画・内容	
1回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ① 個人面談 (面接練習)
2回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ② 個人面談 (面接練習)
3回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ③ 個人面談 (面接練習)
4回目	SNSについて学ぶ
5回目	企業研究 ① 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ①
6回目	企業研究 ② 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ②
7回目	企業研究 ③ 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会の振り返り
8回目	スピーチ練習 スピーカーとは
9回目	スピーチ練習 表現力を高める
10回目	スピーチ練習 相手に伝えるには
11回目	自己プロフィールを書く 将来の夢
12回目	自己プロフィールを書く 一番得意な事
13回目	自己プロフィールを書く まとめ
14回目	Hospital Of Miracle リハーサル
15回目	Hospital Of Miracle 本番
準備学習 時間外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. OB・OGセミナー、行動企業説明会、海外実学研修、動物施設での校外学習に参加する 3. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【セルフマネジメント(自己理解)】 学習ポートフォリオ (50%) 2. 【セルフマネジメント(自己理解)】 事前課題等の各種レポート (50%)
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英語表記)	キャリア教育Ⅴ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	各担任により開講
	(Carrier PlanningⅤ)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ(思いやりの心)を理解し、セルフマネジメント(自己管理)とチームマネジメント(協働作業)が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OBOGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。 <講師プロフィール> 東京音楽大学出身 サクソフォニスト ジャニーズをはじめアイドルのサポートメンバーとして活躍。ジャズ、吹奏楽などの演奏活動と指導もを行っている。							
【到達目標】 1. 就職活動、デビュー活動を円滑に行うことが出来る 2. 目に止まるプロフィールシート、履歴書が書けるようになる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	個人面談① 卒業後の目標を設定する
2回目	個人面談② 卒業後の目標を設定する
3回目	個人面談③ 卒業後の目標を設定する
4回目	プロフィールシート、履歴書の書き方① 書式の説明
5回目	プロフィールシート、履歴書の書き方② 記入
6回目	プロフィールシート、履歴書の書き方③ チェック～フィードバック
7回目	プロフィールシート、履歴書の書き方④ 修正～完成
8回目	面接練習①
9回目	面接練習②
10回目	面接練習③
11回目	面接練習 フィードバックと今後の対策
12回目	前期のまとめ
13回目	卒業進級制作展 We are FSM リハーサル
14回目	卒業進級制作展 We are FSM リハーサル
15回目	卒業進級制作展 We are FSM 本番
準備学習 時間外学習	1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. 新社会人の基礎力のテキストを復習しておく
評価方法	1. 【セルフマネジメント(自己理解)】 学習ポートフォリオ (50%) 2. 【セルフマネジメント(自己理解)】 事前課題等の各種レポート (50%)
【使用教科書・教材・参考書】 新社会人の基礎力のテキスト(株式会社 教育企画センター)	

科目名 (英語表記)	キャリア教育Ⅵ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	各担任により開講
	(Carrier PlanningⅥ)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】							
<p>本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ(思いやりの心)を理解し、セルフマネジメント(自己管理)とチームマネジメント(協働作業)が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OBOGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。</p> <p><講師プロフィール> 東京音楽大学出身 サクソフォニスト ジャニーズをはじめアイドルのサポートメンバーとして活躍。ジャズ、吹奏楽などの演奏活動と指導もを行っている。</p>							
【到達目標】							
1. 「社会人の基礎力の理解」が理解でき実践できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	新社会人の基礎力テキスト第1章「会社に入ること」① 第1章01-10
2回目	新社会人の基礎力テキスト第1章「会社に入ること」② 第1章11-20
3回目	新社会人の基礎力テキスト第2章「組織の中で働くということ」①第2章21-29
4回目	新社会人の基礎力テキスト第2章「組織の中で働くということ」②第2章30-39
5回目	新社会人の基礎力テキスト第3章「自分を成長させるキャリアパス」①第3章40-47
6回目	新社会人の基礎力テキスト第3章「自分を成長させるキャリアパス」②第3章48-58
7回目	新社会人の基礎力テキスト第4章「社会人の基礎力を高める」①第4章59-67
8回目	新社会人の基礎力テキスト第4章「社会人の基礎力を高める」②第4章68-74
9回目	新社会人の基礎力テキスト第5章「企業人として遵守すべき規範とは」①第5章75-86
10回目	新社会人の基礎力テキスト第5章「企業人として遵守すべき規範とは」②第5章87-95
11回目	新社会人の基礎力テキスト第6章「社会人として自分を守り高める」①第6章96-102
12回目	新社会人の基礎力テキスト第6章「社会人として自分を守り高める」②第6章103-109
13回目	卒業進級制作展 We are FSM リハーサル
14回目	卒業進級制作展 We are FSM リハーサル
15回目	卒業進級制作展 We are FSM 本番
準備学習 時間外学 習	1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. 新社会人の基礎力のテキストを復習しておく
評価方法	1. 【セルフマネジメント(自己理解)】 学習ポートフォリオ (50%) 2. 【セルフマネジメント(自己理解)】 事前課題等の各種レポート (50%)
【使用教科書・教材・参考書】	
新社会人の基礎力のテキスト(株式会社 教育企画センター)	

科目名 (英)	就職対策 I	選択 必修	選択 必修	年次	2	担当教員	有限会社コンフィエ 由木千尋
	(Preparatuon For Career)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
学科・コース	商業音楽科・音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	火曜日2/3限
【授業の学習内容】 キャリア形成の課題に応じたシートやワークを用いて、就職に不可欠なエントリーシート、履歴書の元となるジョブカードを作成し、必要な時に何時でも自分自身で就職に関する書類を用意できるようにする。キャリア・プランを描き、自分の適性や能力を踏まえて、将来目指したいキャリアを実現する為の具体的な行動計画を作成する。自己の強みを見出し、他人と協働できるようグループワーク、グループディスカッションに取り組む。面接試験のマナーや対応を学ぶ。大人としてのマナーを学ぶ。							
【到達目標】 1. 仕事観・人生観・職業観を持つことができる。 2. 仕事理解・職業理解を深める。 3. 自己理解を深め、自分らしい職業選択ができる。 4. 自己の選択した仕事・職について、企業が求める書類を提出し、就職試験を受ける準備ができる。 5. 就職試験の選考を進め、面接等を受けるに足る知識・実践力を養うことができる。							
授業計画・内容							
1回目	オリエンテーション 就活スケジュールの説明						
2回目	キューブリックの説明&KP法ワーク/就活に必要な道具&マインド						
3回目	インターンシップ&検索エンジンについて						
4回目	エントリーシートと履歴書の違い、キューブリックの作成						
5回目	仕事と人生と価値観とは						
6回目	価値観カード、履歴書作成①						
7回目	価値観カード、履歴書作成②						
8回目	求人票の見方について						
9回目	自己紹介、自己PRの仕方について/メールの使用方法						
10回目	履歴書自己PR部分の作成						
11回目	自己PRの元となる強みについて、ストレングスファインダーカードを使って探してみる						
12回目	履歴書添削						
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル						
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル						
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番						
準備学習 時間外学 習	準備：自身の就活を自主的に進める。進める過程で発生する準備や疑問について、自己の課題として授業内で解決。 時間外学習：合同企業説明会等への積極的参加(WEB含む)。インターンシップ等での自己研鑽。						
評価方法	課題 (課題提出、提出期限の厳守) 習熟度 (到達目標に対する習熟度)						
受講生への メッセージ	就職活動において最も大切なものはグリッド(熱意と継続力)。自分自身が納得できる就活を達成できるまで、諦めず粘り強く、取り組んで下さい。昨日の自分よりも今日の自分、未来の自分へ。自分で自分を越えて成長していきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 講師が用意する冊子。プリント等。パワーポイントによる準備。							

科目名 (英)	就職対策Ⅱ	選択 必修	選択 必修	年次	3	担当教員	有限会社コンフィエ 由木千尋
	(Preparatuon For Career)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
学科・コース	商業音楽科・音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	火曜日2/3限
【授業の学習内容】							
<p>キャリア形成の課題に応じたシートやワークを用いて、就職に不可欠なエントリーシート、履歴書の元となるジョブカードを作成し、必要な時に何時でも自分自身で就職に関する書類を用意できるようにする。キャリア・プランを描き、自分の適性や能力を踏まえて、将来目指したいキャリアを実現する為の具体的な行動計画を作成する。自己の強みを見出し、他人と協働できるようグループワーク、グループディスカッションに取り組む。面接試験のマナーや応対を学ぶ。大人としてのマナーを学ぶ。</p>							
【到達目標】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事観・人生観・職業観を持つことができる。 2. 仕事理解・職業理解を深める。 3. 自己理解を深め、自分らしい職業選択ができる。 4. 自己の選択した仕事・職について、企業が求める書類を提出し、就職試験を受ける準備ができる。 5. 就職試験の選考を進め、面接等を受けるに足る知識・実践力を養うことができる。 							
授業計画・内容							
1回目	これまでの内容を振り返りながら、現時点までの各々の就職活動の進捗具合を振り返る。就活における情報や悩みをシェア。						
2回目	ジョブカードの紹介(意義・目的)。シートを使って自己分析を行う。自己のエントリーシートに起こすために必要な部分を補足する。						
3回目	各人のエントリー企業を確認。これからエントリーできる、またエントリーしたい企業の洗い出しを行い、情報収集について考える。						
4回目	キャリア・プランを描くために大切な「興味・関心」「こだわり・価値観」「強み・能力」を精査しながらジョブカードの作成を進める。						
5回目	ジョブカードを基に面接時に求められる対応内容の確認と、面接時のマナー・立ち居振る舞いを演習する。						
6回目	面接演習 個人面接を中心にグループで面接演習を行なう。						
7回目	面接演習 実際の企業での面接を出来る限り再現して演習を行う。						
8回目	企業の社会的な役割と組織を学ぶ。						
9回目	就業規則やコンプライアンス等、社会と企業のルールを学ぶ。						
10回目	仕事のプライオリティの付け方、報告・連絡・相談等、仲間との連携について学ぶ。						
11回目	名刺の受け渡し、来客応対、電話応対等ビジネスマナーの基本を身につける。						
12回目	就職内定までの状況を再確認。演習予備日。						
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル						
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル						
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番						
準備学習 時間外学 習	<p>準備：自身の就活を自主的に進める。進める過程で発生する準備や疑問について、自己の課題として授業内で解決。</p> <p>時間外学習：合同企業説明会等への積極的参加(WEB含む)。インターンシップ等での自己研鑽。</p>						
評価方法	課題(課題提出、提出期限の厳守) 度(到達目標に対する習熟度)						習熟
受講生への メッセージ	就職活動において最も大切なものはグリッド(熱意と継続力)。自分自身が納得できる就活を達成できるまで、諦めず粘り強く、取り組んで下さい。昨日の自分よりも今日の自分、未来の自分へ。自分で自分を越えて成長していきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
講師が用意する冊子。プリント等。パワーポイントによる準備。							

科目名 (英)	キャリアスキルアップ (Career Skill Enhancement)	選択 必修	選択 必修	年次	1.2.3.4	担当教員	西本祐介
学科・コース	商業音楽科・音楽プロデュース科・スーパードエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	通年
						曜日・時限	不定期で開講
【授業の学習内容】 作品制作課題・イベント実習を通じてデビュー・就職におけるプレゼンテーション資料制作を行える技術・知識を習得します。							
【到達目標】 1.Microsoft Teamsを使った資料の提出方法を身に付ける 2.Googleサービスの活用方法を学ぶ 3.Keynote/PowerPointなどのプレゼンテーションアプリケーションの操作方法を学ぶ 4.動画・画像データの取り扱い方法を学ぶ							
授業計画・内容							
1回目	各自の課題設定と制作物についてまとめる・Teamsの使用方法和アカウントセッティング						
2回目	Teamsを使ったデータのやり取りについて、Googleアカウントの設定とプレゼンテーションアプリの基本操作						
3回目	Googleドライブの活用方法とその他のクラウドサービスについて、画像データを挿入したプレゼンテーション資料について						
4回目	画像素材の集め方、Webサービス・フリー素材について						
5回目	フォントの追加方法とデザインについて・AIを使ったデザイン(Webサイト紹介)						
6回目	プレゼンテーション資料の制作(画像挿入と簡単な加工方法・トリミングについて)						
7回目	プレゼンテーション資料の制作(ファイルの書き出し方法)						
8回目	画像ファイルを加工できるWebサービスの紹介と実践						
9回目	動画ファイルを含むプレゼンテーション資料制作①						
10回目	動画ファイルを含むプレゼンテーション資料制作②						
11回目	音声データの取り扱いとクラウドストレージサービスの紹介						
12回目	資料のブラッシュアップ(追加記載などの確認)						
13回目	資料提出						
14回目	9月特別授業						
15回目	9月特別授業						
準備学習 時間外学習	自身が制作したもの(音声・動画)をまとめておく、参加したイベントをExcelなどで参加日含めまとめておく						
評価方法	課題 (課題提出、提出期限の厳守)						
受講生への メッセージ	資料制作は自分自身のパンフレットを作るつもりで制作しましょう。 自分の長所・魅力を文字化できることが大切です。						
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook・Microsoft Teams・Googleサービス(ドライブ・スプレッドシートetc)							

科目名 (英)	PAベーシック I (Public Adress Basic I)	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	宮下 明
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	前期
【授業の学習内容】		PA全般についての知識・技術を学び、業界で使用されている機材の名称や使い方を覚える。					
<講師プロフィール>		※ 実務者経験:株式会社総合舞台入社後、南こうせつ、ゴダイゴの全国ツアーを始め、様々なライブ、コンサート、イベントに携わる。また、Zepp Fukuokaの音響管理業務なども手掛ける。現在は株式会社エスエルアイに所属する福岡を代表するPAエンジニア。					
【到達目標】		劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようにする。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。					

授業計画・内容	
1回目	イベントホール、機材管理室の使用方法など
2回目	PAの仕事、作業、役割などについて
3回目	音の流れと接続方法
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	マイク、スタンド、ケーブル等の使い方②
6回目	スピーカー、アンプ等の使い方①
7回目	スピーカー、アンプ等の使い方②
8回目	ワイヤレスマイクについて
9回目	アナログミキサー、周辺機器の使用方法①
10回目	アナログミキサー、周辺機器の使用方法②
11回目	アナログミキサー、周辺機器の使用方法③
12回目	アナログミキサー、周辺機器の使用方法④
13回目	アナログミキサー、周辺機器の使用方法⑤
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学 習	教科書を基に予習復習を忘れずに行う
評価方法	●出席率 (30%) ●授業態度 (30%) ●確認テスト (40%)
受講生への メッセージ	PAエンジニアになるための基礎知識を養います。しっかり学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
PA入門(iPad教科書)	

科目名 (英)	PAベーシック II (Public Adress Basic II)	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	宮下 明
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	後期
【授業の学習内容】		PA全般についての知識・技術を学び、業界で使用されている機材の名称や使い方を覚える。					
<講師プロフィール>		※ 実務者経験:株式会社総合舞台入社後、南こうせつ、ゴダイゴの全国ツアーを始め、様々なライブ、コンサート、イベントに携わる。また、Zepp Fukuokaの音響管理業務なども手掛ける。現在は株式会社エスエルアイに所属する福岡を代表するPAエンジニア。					
【到達目標】		劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようにになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。					

授業計画・内容	
1回目	前期の復習①
2回目	前期の復習②
3回目	デジタルミキサー、周辺機器の使用方法①
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	デジタルミキサー、周辺機器の使用方法③
6回目	デジタルミキサー、周辺機器の使用方法④
7回目	デジタルミキサー、周辺機器の使用方法⑤
8回目	サウンドメイキング①
9回目	サウンドメイキング②
10回目	サウンドメイキング③
11回目	オペレーション実習①
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	教科書を基に予習復習を忘れずに行う
評価方法	●出席率 (30%) ●授業態度 (30%) ●確認テスト (40%)
受講生への メッセージ	PAエンジニアになるための基礎知識を養います。しっかり学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
PA入門(iPad教科書)	

科目名 (英)	音響学 I (Sound Science I)	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	富永 堅
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
【授業の学習内容】							
<p>舞台の裏方としての知識を学び、舞台機構(音響機構調整作業)3級の合格を目指す。</p> <p><講師プロフィール> ※ 実務者経験:福岡 中洲にあるMusic Bar S.O.Ra Fukuokaの音響チーフ、また様々なイベントの音響を手がける。</p>							
【到達目標】							
<p>劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようにする。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	催物の種類・劇場の種類・舞台の種類について
2回目	舞台設備の種類、機能及び用途・舞台照明・舞台用語について
3回目	音響基礎知識・音源の基礎知識について
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	電気工学及び電子工学の基礎理論
6回目	電源設備及び電気計器の種類及び使用方法について
7回目	中間テスト
8回目	興行場法関係法令及び消防法関係法令、電波法関係法令について
9回目	特許法関係法令、舞台機構に関係する部分について
10回目	安全衛生に関する詳細な知識
11回目	検定対策①
12回目	検定対策②
13回目	検定対策②
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学 習	教科書を基に予習復習を忘れずに行う
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●出席率 (30%) ●授業態度 (30%) ●確認テスト (40%)
受講生への メッセージ	舞台機構(音響機構調整作業)3級 合格を目指して頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
舞台音響技能検定・過去問題ナビゲーション	

科目名 (英)	舞台知識 II (Sound Science II)	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	富永 堅
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
【授業の学習内容】							
音についての知識と、PAエンジニアとして必要な知識を身につける。							
<講師プロフィール> ※ 実務者経験: 福岡 中洲にあるMusic Bar S.O.Ra Fukuokaの音響チーフ、また様々なイベントの音響を手がける。							
【到達目標】							
劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようにする。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	PAとはどんな仕事か、音はなぜ聞こえるのか
2回目	音波の伝播
3回目	同じ音場、別の音場
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	周波数、可聴限界周波数
6回目	波長と振動
7回目	音色とは
8回目	音質とは
9回目	音波の性質
10回目	音圧・音圧レベル・音量、騒音の定義
11回目	NC値(Noise Criteria Curves)
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	教科書を基に予習復習を忘れずに行う
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●出席率 (30%) ●授業態度 (30%) ●確認テスト (40%)
受講生への メッセージ	舞台機構(音響機構調整作業)3級 合格を目指して頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
舞台音響技能検定・過去問題ナビゲーション	

科目名 (英)	音響機器オペレート I (Acoustic Equipment Operation I)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	西岡幹浩
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
				曜日・時限	水曜 2、3時限目		
<p>【授業の学習内容】</p> <p>PAエンジニアとして一般的に使用するケーブルの種類マイクの名前種類、機材の名前扱い方を覚え、基本的な機材の組み方繋ぎ方など初歩的な知識を身につける。</p> <p><講師プロフィール></p> <p>※ 実務者経験:熊本を中心にNumberShotやAso Rock Festivalなど九州各地のイベント・フェス等にフリーのエンジニアとして参加。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	自己紹介 ケーブル巻き練習
2回目	マイク種類 ダイナミクス コンデンサー ファンタム電源の話
3回目	ケーブル種類 マイクケーブル SPケーブルの違い
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	DI説明
6回目	音声信号流れ
7回目	電源の説明
8回目	GEQ パラメトリックの違い
9回目	ミキサーつまみ種類
10回目	マイキング
11回目	アナログ卓のリバープの繋げ方
12回目	チューニングのやり方
13回目	前期テスト
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●出席率 (30%) ●授業態度 (30%) ●確認テスト (40%)
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	音響機器オペレートⅡ (Acoustic Equipment Operation Ⅱ)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	西岡幹浩
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
				曜日・時限	水曜 2、3時限目		
【授業の学習内容】 PAエンジニアとして一般的に使用するケーブルの種類マイクの名前種類、機材の名前扱い方を覚え、基本的な機材の組み方繋ぎ方など初歩的な知識を身につける。 <講師プロフィール> ※ 実務者経験:熊本を中心にNumberShotやAso Rock Festivalなど九州各地のイベント・フェス等にフリーのエンジニアとして参加。							
【到達目標】 劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	メンテナンス ケーブル作り ハンダ作業
2回目	PS15システムの説明
3回目	VRXシステムの説明
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	RIOデジチェーン リダントの説明
6回目	回線表 見方
7回目	WLの設定の説明
8回目	マトリックスの説明
9回目	バンド資料を見て回線表作成
10回目	チューニング ハウスとモニター
11回目	モニ卓の説明
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	●出席率 (30%) ●授業態度 (30%) ●確認テスト (40%)
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	Pro Tools I (ProTools I)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	金子 秀樹
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーエンターテイメント科(レコーディング専攻者)	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜3限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>音源制作のユニバーサルツールであるProToolsを使用したレコーディング・音源編集・ミックスダウン技術を習得します。</p> <p><講師プロフィール>世界屈指のライブハウス「ブルーノート」にて音響のチーフエンジニアとして活躍。またコンポーザー、ドラマーでもあり、「天晴ニッポン」は全国のよさこいイベントで使用される。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>自作楽曲の音源制作やインターネットを活用したプロモーションツールの作成を習得する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	実習室のシステム、取り扱い等の説明。DTM、ProToolsについての説明。
2回目	ProTools基本操作① 立ち上げ方から周辺機器、基本操作の説明。音素材を使用してバランスのみの調整。
3回目	ProTools基本操作② 音素材を使用してバランスのみの調整～バウンスで2mix作成。
4回目	ProTools基本操作③ トラック作成(オーディオ、インスタ、クリップトラック等)、In/Outの設定。
5回目	プラグイン①-① インサートによるEQの使用法と説明。
6回目	プラグイン①-② EQ(ドラム周りの音作りの基本)。
7回目	プラグイン①-③ EQ(ベース・ギター周りの音作りの基本)。
8回目	プラグイン①-④ EQ(キーボード・声周りの音作りの基本)。
9回目	プラグイン② インサートによるコンプレッサー・ゲートの使用法と説明(ドラム、ベース、声の素材で音作り)。
10回目	プラグイン③-① Send/Returnによるリバーブ(Returnチャンネルの作成とリバーブの種類と特徴)。
11回目	プラグイン③-② Send/Returnによるディレイ(ディレイの種類と特徴)、リバーブとディレイを使用して音作り。
12回目	プラグイン④-① Instトラックへの音源ソフトのアサイン。リアルタイム録音と打ち込みの説明。
13回目	プラグイン④-② Instトラックで打ち込み曲を作成し、バウンスによる2mixを作成。実技テスト
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	いろいろな音楽を聴き、いろいろな芸術作品を鑑賞することで、オリジナル作品の幅が広がります。
評価方法	実技テスト 課題提出
受講生への メッセージ	現代の作品発表の場は様々です。いろいろな媒体に対応出来る人になりましょう。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>ProTools.各種プラグイン</p>	

科目名 (英)	ProTools II	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	金子 秀樹
	(ProTools II)	授業 形態	講義 実習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーエンターテイメント科(レコーディング専攻者)						
【授業の学習内容】 音源制作のユニバーサルツールであるProToolsを使用したレコーディング・音源編集・ミックスダウン技術を習得します。 <講師プロフィール>世界屈指のライブハウス「ブルーノート」にて音響のチーフエンジニアとして活躍。またコンポーザー、ドラマーでもあり、「天晴ニッポン」は全国のよさこいイベントで使用される。							
【到達目標】 自作楽曲の音源制作やインターネットを活用したプロモーションツールの作成を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	オーディオトラックの録音① マイクを使用して録音(マイクの種類や特徴、リージョンの編集)。
2回目	オーディオトラックの録音② プラグインのアンブシュミレーターの使用方法和録音。 ※翌週の為の楽曲選定を宿題として告知
3回目	音源作成① 先週の宿題で選定した楽曲のベースとなる部分を打ち込みで作成。
4回目	音源作成② 打ち込み、オーディオトラックの録音、修正等。
5回目	音源作成③ 打ち込み、オーディオトラックの録音、修正等。
6回目	音源作成④ EQ、エフェクト処理を含むトータルミックス、2mixまで作成。
7回目	音源作成⑤ 先週作成した2mixをマスタリングして書き出し作業。
8回目	インターネットを使用したプロモーションツールの作成方法。
9回目	演習課題制作① ※4週で完成出来るようスケジュールも考慮する。作成する曲数は複数でも可。
10回目	演習課題制作②
11回目	演習課題制作③
12回目	演習課題制作④ 実技テスト
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	いろいろな音楽を聴き、いろいろな芸術作品を鑑賞することで作品の幅が広がります。
評価方法	実技テスト 課題提出
受講生への メッセージ	現代の作品発表の場は様々です。いろいろな媒体に対応出来る人になりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ProTools.各種プラグイン	

科目名 (英)	ProToolsⅢ・Ⅳ	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	森脇正太郎
	(ProToolsⅢ・Ⅳ)	授業 形態	講義・実技	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・eエンターテイメント科(レコーディング専攻者)					曜日・時限	金曜4.5限
【授業の学習内容】 音源制作のユニバーサルツールであるProToolsを使用したレコーディング・音源編集・ミックスダウン技術を習得します。 <講師プロフィール> イナズマ戦隊、ぱってん少女隊などのライブレコーディングでエンジニアを務める。福岡のテレビ局で音響効果、MAエンジニアとしても活躍。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響&ライブレコーディングを行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 録音やミックスダウンなどのスタジオワークや、MAがある程度できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	1年次の復習
2回目	Wavesプラグインについて。<目標>Waves Goldに入っているプラグインの使用方法を理解する。
3回目	Mixdown。その1 <目標>ProToolsの使い方を思い出し、ミックスしよう。(ポップス)
4回目	Mixdown。その2 <目標>ProToolsの使い方を思い出し、ミックスしよう。周りの友達作品と比べてみて発表しよう。(ポップス)
5回目	ケーブル作成。半田ごて。<目標>ケーブルを作れるようになろう。
6回目	立体音響。<目標>VRやバイノーラル・サラウンドなど立体音響について理解を深めよう。
7回目	MA、音響効果について。その1、収録 <目標>映像に合うように自分自身でアテレコを行い、作品を作ろう。
8回目	MA、音響効果について。その2、音響効果 <目標>映像に合う効果音やBGMを選曲しよう。
9回目	MA、音響効果について。その3、ラウドネス <目標>テレビでO.A出来る音についてしっかり理解しミックスしよう。
10回目	様々なインターフェース接続方法について <目標>スタジオ以外での多チャンネル録音やコンピューターシステムを組めるようになるう。
11回目	今までの復習。
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席日数。授業態度。作品の完成度。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	電気知識 I (Electric Knowledge I)	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	山田 晴美
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテインメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
				曜日・時限	金曜・4限		
【授業の学習内容】 主たる業務の現場となる、劇場(ホール)の構造と名称および設備について必要な知識を習得する。 特に9月に予定されているミュージカルへ向けて 音響スタッフとして劇場での作業が円滑に行えるように学習する。 ミュージカル対策としてワイヤレスマイクの運用に必要な知識を習得する。 <講師プロフィール> ※ 実務者経験: ステージオフィスヤマダ代表。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、博多駅スタジオのシステム担当、ユニバーシアード福岡大会コミュニティラジオシステム担当の他、九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わっている。							
【到達目標】 劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期講義の概要
2回目	劇場の構造 舞台機構① 舞台の構造と名称
3回目	劇場の構造 舞台機構② 各種舞台設備について
4回目	劇場の構造 舞台機構③ 舞台用語の基礎知識
5回目	舞台備品について 舞台備品・器具の基礎知識
6回目	劇場の構造 照明設備① 舞台照明システムについて
7回目	劇場の構造 照明設備② DMX512Aについて
8回目	劇場の構造 照明設備③ 大電力設備の危険性とその障害
9回目	劇場の構造 音響設備① ホール常設の音響システムと持込PAとの差異
10回目	劇場の構造 音響設備② ホール音響設備の特色
11回目	劇場の構造 音響設備③ ホール音響設備をどう使用するか
12回目	前期講義のまとめ まとめと質疑応答、並びに課題の提示
13回目	前期評価 課題レポートによる言
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。 各種メディア(4K-TV、インターネット等)での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	取組姿勢 : 20%(学習に対する取組姿勢) 課題 : 50%(課題提出、提出期限の厳守) 習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 PA照明舞台用語辞典(i-Pad) 公立文化施設 舞台技術ハンドブック(プリントにて配布) その他、必要に応じて 資料プリントを講師より配布して行う。	

科目名 (英)	電気知識Ⅱ (Electric Knowledge Ⅱ)	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	山田 晴美
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
				曜日・時限	金曜・4限		
【授業の学習内容】 主たる業務の現場となる、劇場(ホール)の構造と名称および設備について必要な知識を習得する。 特に9月に予定されているミュージカルへ向けて、音響スタッフとして劇場での作業が円滑に行えるように学習する。 ミュージカル対策としてワイヤレスマイクの運用に必要な知識を習得する。 <講師プロフィール> ※ 実務者経験:ステージオフィスヤマダ代表。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、博多駅スタジオのシステム担当、ユニバーシアード福岡大会コミュニティラジオシステム担当の他、九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わっている。							
【到達目標】 劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	後期講義の概要
2回目	電気について① その歴史、周波数
3回目	電気について② 交流と直流、電圧と電流、消費電力
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	直流抵抗について① 直列、並列
6回目	直流抵抗について② 合成抵抗
7回目	直流回路における分圧と分流
8回目	直流回路における、電圧・電流・抵抗に関する 複合計算とその関わり
9回目	電源の方式 単相2線、単相3線、3相4線式
10回目	仮設電源について
11回目	後期 期末テスト
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。 各種メディア(4K-TV、インターネット等)での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	取組姿勢 : 20%(学習に対する取組姿勢) 課題 : 50%(課題提出、提出期限の厳守) 習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 PA照明舞台用語辞典(i-Pad) 公立文化施設 舞台技術ハンドブック(プリントにて配布) その他、必要に応じて 資料プリントを講師より配布して行う。	

科目名 (英)	電気知識Ⅲ (Electric Knowledge)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	山田 晴美
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
				曜日・時限	金曜日 3限目		
【授業の学習内容】 1年次に於いて 修得した知識を基に学内外で行われる催事・イベントが更に安全・確実に実施出来るよう実際に即した知識を習得する。 日々進歩する最新技術にも対応できるよう、可能な限り紹介を行い、解説をする。 <講師プロフィール> 音響・照明会社に長年勤務。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフェム開局に携わり、近年では九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わる。総務省/第3級陸上特殊無線技士、総務省/第2級陸上特殊無線技士、FMのおがたの無線従事者として選任、一般社団法人日本音響家協会2級音響技術者							
【到達目標】 催事・イベント開催に際して 機器の故障、設備の障害等が発生した場合 速やかにその原因を関連スタッフと共に究明し 的確な指示が出せるようになる。 (企画制作コース向け)音響・照明・舞台・映像等の技術スタッフを指揮、統括できる企画スタッフとしての知識と技能を身につける。 (照明ライティングコース向け)あらゆる現場に於いて、適切な照明設備の規模・プラン・仕込み・オペレーションおよび保守が出来るスキルを身につける。、							

授業計画・内容	
1回目	前期講義の概要
2回目	今更聞けない 5つの疑問 休校期間中の課題「今更聞けない 5つの疑問」の解消
3回目	今更聞けない 5つの疑問 休校期間中の課題「今更聞けない 5つの疑問」の解消
4回目	今更聞けない 5つの疑問 休校期間中の課題「今更聞けない 5つの疑問」の解消
5回目	今更聞けない 5つの疑問 休校期間中の課題「今更聞けない 5つの疑問」の解消
6回目	今更聞けない 5つの疑問 休校期間中の課題「今更聞けない 5つの疑問」の解消
7回目	催事において発電機を使用する場合について 必要とされる電力に対して発電機のオーダー
8回目	仮設電源使用時の安全管理 消防面、防災面からの注意事項
9回目	電源の確保と会場ごとの状況による対応① 会場下見の際のポイント
10回目	電源の確保と会場ごとの状況による対応② 各設備からの電力要求の調整
11回目	催事の於ける 諸手続きについて 各種催事に於ける 監督官庁等への届出および許認可について
12回目	前期講義のまとめ まとめと質疑応答
13回目	前期評価
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	学内の催事会場の設備、規模の把握に常に、気掛けるように努力する事。
評価方法	○取組姿勢 : 20%(学習に対する取組姿勢) 課題 : 50%(課題提出、提出期限の厳守) 習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	催事・イベントの実施に際して 司令塔となるべく知識と技能を身に付けて行きましょう。 電気のエキスパートを目指しましょう。 判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 イベントクリエイター入門 必要に応じて 資料プリントを講師より配布して行う。	

科目名 (英)	電気知識IV	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	山田 晴美
	(Electric Knowledge)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	金曜日 3限目
【授業の学習内容】 1年次に於いて 修得した知識を基に学内外で行われる催事・イベントが更に安全・確実に実施出来るよう実際に即した知識を習得する。 日々進歩する最新技術にも対応できるよう、可能な限り紹介を行い、解説をする。 <講師プロフィール> 音響・照明会社に長年勤務。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、近年では九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わる。総務省/第3級陸上特殊無線技士、総務省/第2級陸上特殊無線技士、FMのおがたの無線従事者として選任、一般社団法人日本音響家協会2級音響技術者							
【到達目標】 催事・イベント開催に際して 機器の故障、設備の障害等が発生した場合 速やかにその原因を関連スタッフと共に究明し 的確な指示が出せるようになる。 音響・照明・舞台・映像等の技術スタッフを指揮、統括できる企画スタッフとしての知識と技能を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	後期講義の概要
2回目	いまさら聞けない疑問① イベントや現場での疑問の洗い出しと解決
3回目	いまさら聞けない疑問② イベントや現場での疑問の洗い出しと解決
4回目	いまさら聞けない疑問③ イベントや現場での疑問の洗い出しと解決
5回目	いまさら聞けない疑問④ イベントや現場での疑問の洗い出しと解決
6回目	半田付け実習（マイクケーブルの補修） 正しい半田付けの技術の習得
7回目	半田付け実習（マイクケーブルの補修） 正しい半田付けの技術の習得
8回目	半田付け実習（マイクケーブルの補修） 正しい半田付けの技術の習得
9回目	PCを利用した催事の注意点 大型映像を使用する際のフォーマット
10回目	ネットワーク環境の整備 Wi-Fi環境の整備を行う場合の注意点
11回目	後期講義のまとめ まとめと質疑応答
12回目	後期評価
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。 各種メディア(4K-TV、インターネット等)での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	○取組姿勢 : 20%(学習に対する取組姿勢) 課題 : 50%(課題提出、提出期限の厳守) 習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 イベントクリエイート入門 必要に応じて 資料プリントを講師より配布して行う。	

科目名 (英)	楽器知識 I (Instruments Knowledge)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	金子秀樹
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	15 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 コンサートスタッフとして必要な楽器の名称や知識、音色、取り扱いやセッティングなどを学びます。 <講師プロフィール> ※ブルーノートフクオカにサウンドチーフとして就任、その後独立しフリーランスでPAとレコーディングの音響技師。 楽曲制作を行なっています。学校が所有する楽器や持ち込み可能な楽器に関しては実物を使用して実施します。 実物の使用が困難な楽器に関しては資料音源や資料動画を使用して実施します							
【到達目標】 各楽器の形や名称、音色を理解し、楽器のセッティングや結線が行なえる。							

授業計画・内容	
1回目	楽器の種類と分類
2回目	楽器の略称(各種資料で使用される表記)
3回目	ドラム① メーカー、各パーツの名称、サイズ、ヘッドの種類(シンバルも含む)
4回目	ドラム② セッティング演習
5回目	ドラム③ セッティング演習(パッケージ含む)
6回目	キーボード① メーカー、種類、特徴
7回目	キーボード② セッティング演習(結線、パッケージ含む)
8回目	ベース、ギター① ベースの各パーツの名称、種類と特徴、アンプの操作
9回目	ベース、ギター② ギターの各パーツの名称、種類と特徴、アンプの操作
10回目	パーカッション① メーカー、種類、分類
11回目	パーカッション② セッティング演習
12回目	ピアノ、オルガン 音の出る仕組みとマイクアレンジ
13回目	特殊な楽器(民族楽器等)
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	いろんなジャンルの音楽や楽器に興味を持ち、触れることによって楽器への理解度が増します。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	楽器を理解することで音作りに役立つと同時に、演奏者とのコミュニケーションも取りやすくなります。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	楽器知識Ⅱ (Instruments Knowledge)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	金子秀樹
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	15 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 コンサートスタッフとして必要な楽器の名称や知識、音色、取り扱いやセッティングなどを学びます。 <講師プロフィール> ※ブルーノートフクオカにサウンドチーフとして就任、その後独立しフリーランスでPAとレコーディングの音響技師。楽曲制作を行なっています。学校が所有する楽器や持ち込み可能な楽器に関しては実物を使用して実施します。実物の使用が困難な楽器に関しては資料音源や資料動画を使用して実施します。							
【到達目標】 各楽器の形や名称、音色を理解し、楽器のセッティングや結線が行なえるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	同期、マニピュレーター 簡易セットから本格的なセット
2回目	オーケストラ、ビッグバンド 構成やマイクアレンジ
3回目	ジャンルの違いでことなる楽器の用途①
4回目	ジャンルの違いでことなる楽器の用途②
5回目	前回までの内容の総復習
6回目	舞台機構調整技師試験対策① 鍵盤楽器の種類、和楽器の種類、音色や特徴
7回目	舞台機構調整技師試験対策② 弦楽器の種類、管楽器の種類、音色や特徴
8回目	舞台機構調整技師試験対策③ 打楽器の種類、民族系楽器の種類、音色や特徴
9回目	舞台機構調整技師試験対策④ 模擬試験
10回目	WeAreFSM対策①
11回目	WeAreFSM対策②
12回目	WeAreFSM対策③
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	いろんなジャンルの音楽や楽器に興味を持ち、触れることによって楽器への理解度が増します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	楽器を理解することで音作りに役立つと同時に、演奏者とのコミュニケーションも取りやすくなります！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	楽器知識Ⅲ (Instruments KnowledgeⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	金子秀樹
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	15 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 コンサートスタッフとして必要な楽器の名称や知識、音色、取り扱いやセッティングなどを学びます。 <講師プロフィール> ※ブルーノートフクオカにサウンドチーフとして就任、その後独立しフリーランスでPAとレコーディングの音響技師。 楽曲制作を行なっています。学校が所有する楽器や持ち込み可能な楽器に関しては実物を使用して実施します。 実物の使用が困難な楽器に関しては資料音源や資料動画を使用して実施します							
【到達目標】 各楽器の形や名称、音色を理解し、楽器のセッティングや結線が行なえる。							

授業計画・内容	
1回目	楽器の種類と分類テスト
2回目	楽器の種類と分類復習&解説
3回目	ドラム① メーカー、各パーツの名称、サイズ、ヘッドの種類(シンバルも含む)応用編
4回目	ドラム② セッティング演習応用編
5回目	ドラム③ セッティング演習(パッケージ含む)応用編
6回目	音響技能検定要素試験対策①
7回目	音響技能検定要素試験対策②
8回目	音響技能検定要素試験対策③
9回目	音響技能検定要素試験対策④
10回目	パーカッション③ メーカー、種類、分類
11回目	パーカッション④ セッティング演習
12回目	ピアノ、オルガン 音の出る仕組みとマイクアレンジ②
13回目	学期末テスト
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	いろんなジャンルの音楽や楽器に興味を持ち、触れることによって楽器への理解度が増します。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	楽器を理解することで音作りに役立つと同時に、演奏者とのコミュニケーションも取りやすくなります。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	楽器知識Ⅳ (Instruments KnowledgeⅣ)	必修 選択	必修 選択	年次	Ⅱ	担当教員	金子秀樹
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	15 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 コンサートスタッフとして必要な楽器の名称や知識、音色、取り扱いやセッティングなどを学びます。 <講師プロフィール> ※ブルーノートフクオカにサウンドチーフとして就任、その後独立しフリーランスでPAとレコーディングの音響技師。楽曲制作を行なっています。学校が所有する楽器や持ち込み可能な楽器に関しては実物を使用して実施します。実物の使用が困難な楽器に関しては資料音源や資料動画を使用して実施します。							
【到達目標】 各楽器の形や名称、音色を理解し、楽器のセッティングや結線が行なえるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	同期、マニピュレーター 簡易セットから本格的なセット②
2回目	オーケストラ、ビッグバンド 構成やマイクアレンジ②
3回目	ジャンルの違いでことなる楽器の用途③
4回目	ジャンルの違いでことなる楽器の用途④
5回目	前回までの内容の総復習
6回目	鍵盤楽器の種類、和楽器の種類、音色や特徴
7回目	弦楽器の種類、管楽器の種類、音色や特徴
8回目	打楽器の種類、民族系楽器の種類、音色や特徴
9回目	模擬試験
10回目	WeAreFSM対策①
11回目	WeAreFSM対策②
12回目	WeAreFSM対策③
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	いろんなジャンルの音楽や楽器に興味を持ち、触れることによって楽器への理解度が増します。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	楽器を理解することで音作りに役立つと同時に、演奏者とのコミュニケーションも取りやすくなります！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	Music Business It I	選択 必修	選択 必修	年次	1	担当教員	高田 雄貴
	(Music Business It I)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	火曜 1・2時限目
【授業の学習内容】 ビジネスソフト(Word・Excel/PowerPoint)の操作方法を、学ぶとともにイベント制作時に必要な書類作成ができるようになる。 <講師プロフィール> 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会所属のキョードー東京在籍中より、主業務先は主要放送局(フジテレビ、テレビ朝日、日本テレビ等のテレビ局や新規開局FM局のイベントや音楽番組の制作に関わる。現在、イベント制作会社ビーハイブ代表。							
【到達目標】 Wordの基本操作の習得 Excelを使い計算式を用いた簡単なタイムスケジュールが作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	Wordを使った文字入力について学ぶ(フォント・フォントサイズの変更)、書類の保存方法と保存場所
2回目	PC上でよく使うショートカットキーを覚える(Alt+S、Alt+C、Alt+Vなど)
3回目	Wordの行間の設定とレイアウトについて①
4回目	Wordの行間の設定とレイアウトについて②
5回目	Wordヘッダー・フッターについて、Wordアートを使ってみる
6回目	Word外部からの画像データを挿入してみる
7回目	Excelについて学ぶ・文字入力の方法(セル内での文字の折り返しなど)
8回目	Excelの計算式を利用したスケジュールシートの制作①
9回目	Excelを利用したイベント用タイムスケジュールの制作について(計算式を埋め込んだ資料の制作)①
10回目	Excelを利用したイベント用タイムスケジュールの制作について(計算式を埋め込んだ資料の制作)②
11回目	WordとExcelを連動した資料制作①
12回目	WordとExcelを連動した資料制作②
13回目	Word/Excelで使えるショートカットテクニック(文字の置き換えなど)
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	イベント時には皆さんの作る資料がとても大切になります。 「理解してもらいやすい資料」を作れるようになりますように。
【使用教科書・教材・参考書】 PC・Word Excel	

科目名 (英)	Music Business It II	選択 必修	選択 必修	年次	1	担当教員	高田 雄貴
	(Music Business It II)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	火曜 1・2時限目
【授業の学習内容】 ビジネスソフト(Word・Excel/PowerPoint)の操作方法を、学ぶとともにイベント制作時に必要な書類作成ができるようになる。 <講師プロフィール> 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会所属のキョードー東京在籍中より、主業務先は主要放送局(フジテレビ、テレビ朝日、日本テレビ等のテレビ局や新規開局FM局のイベントや音楽番組の制作に関わる。現在、イベント制作会社ビーハイブ代表。							
【到達目標】 Wordの基本操作の習得 Excelを使い計算式を用いた簡単なタイムスケジュールが作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	Power Pointの基本操作①(文字・画像挿入・レイアウトなど)
2回目	Power Pointの基本操作②(図形の挿入・アニメーションの設定と資料の書き出し)
3回目	Power Pointの基本操作③(動画・音声を挿入した資料制作)
4回目	Googleスプレッドシートの活用
5回目	Googleドライブを使った資料の受け渡しについて
6回目	ビジネスシーンで使える便利な機能やちょっとしたテクニック(氏名の一括ローマ字返還、PDFデータからの文字の抽出)
7回目	Excel: 計算式を用いた資料制作①
8回目	Excel: 計算式を用いた資料制作②
9回目	イベント資料の制作①「情報の収集」
10回目	イベント資料の制作②「情報を適したアプリケーションを判断しまとめる」
11回目	資料の修正作業と追加項目の制作①
12回目	資料の修正作業と追加項目の制作②
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	資料制作を作る際の効率の良い方法を是非身に付けてほしいと思います。
【使用教科書・教材・参考書】 PC・Word Excel	

科目名 (英)	Planning Basic I	選択 必修	選択 必修	年次	1	担当教員	高田 雄貴
	(Planning Basic I)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	月曜 1・2時限目
【授業の学習内容】							
<p>下記内容について、必須の能力の習得と、その能力を発揮するためのマーケットの関係を実務を通じて身につける為に構成する</p> <p>[1] エンタテインメント業界での音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)についての基礎知識を学習する</p> <p>[2] エンタテインメント業界での音楽ビジネスのコア3ビジネスのうちイベント(コンサート/ライブ他)企画の実施についての基礎知識を学習する</p> <p>[3] エンタテインメント業界での音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)について学ぶ中から企画実務の基本を学習する</p> <p><講師プロフィール></p> <p>一般社団法人コンサートプロモーターズ協会所属のキョードー東京在籍中より、主業務先は主要放送局(フジテレビ、テレビ朝日、日本テレビ等のテレビ局や新規開局FM局のイベントや音楽番組の制作に関わる。現在、イベント制作会社ピーハイブ代表。</p>							
【到達目標】							
<p>エンタテインメント業界での音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)についての基礎知識をと方法論を修得</p> <p><具体的な目標></p> <p>[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する</p> <p>[2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する</p> <p>[3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で業界人として必要な心構えを構築する</p>							

授業計画・内容	
1回目	はじめに ~ 企画って何?を考える [演習課題:イベント参加アンケート分析]
2回目	企画を立案するのは誰の為?を理解する [演習課題:配布プリントの内容確認]
3回目	イベント会場の基本について理解する [演習課題:全国のホールを調査する]
4回目	企画立案の基本である5W1Hを理解する [演習課題:企画アイデアシートの項目調査]
5回目	イベント本番日の時間的流れを理解する [演習課題:モデルタイムテーブルの作成]
6回目	メディアとプロモーションの基本を理解する [演習課題:メディアネットアークの調査]
7回目	ネットを活かしたプロモーション、ホームページとSNSを理解する [演習課題:SNSメディアの調査]
8回目	音楽イベントのマーケットについて知る [演習課題:シンクタンクのレポートを確認する]
9回目	あのアーティストって売れてる?ヒットチャートを理解する [演習課題:ヒットチャート調査のリスト化]
10回目	企画を制作する為に、スタッフについて知る [演習課題:エンドロールの研究]
11回目	集客をビジネス化するには(入場券とプレイガイド)を理解する [演習課題:プレイガイドの研究]
12回目	音楽エンタテインメント業界のビジネスモデルを知る [演習課題:CDのできるまで]
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、エンタテインメント業界への興味が不可欠です。さらに流行、芸能ニュース、等について予習が必要です。 (目標②)各自の趣味趣向だけにとらわれず、広くエンタテインメントビジネスについて関わりを持つ心がけが必要です。 (目標③)自動車運転免許取得に際し、実際に動かすだけではなく法規が必要なのと同じく、演習前には講義で学習した理論の復習が必要です。 (目標④)各講義の内容は関連性を持っていますので、講義の復習が必要です。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	<p>魅 力: イベントビジネスプランニングにおける企画(プランニング)と制作実施をプロデュースする事は、エンタテインメントビジネス業界を目指す究極目標であり、将来にとっても大きなモチベーションとなります。また、この学習を通じてエンタテインメントマーケットの仕組みや、流れの情報を多く知る事で、実務に着いた際にも自信を持って業務に当たる事が出来るでしょう。そしてその成功を掴む為にも身に付けるべき能力の一つです。</p> <p>授業計画: この授業で身に付けた能力を試すものとして、実際のイベントで実習を行います。その必要な理論(知識)は、前半の授業から常に行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	
<p>教科書:</p> <p>教 材: インターネット端末「ipad」Apple社製</p> <p>参考書: Musicman エフ・ビー・コミュニケーションズ株式会社 / 『よくわかる音楽著作権ビジネス 基礎編』5th Edition リットーミュージック 他</p>	

科目名 (英)	Planning Basic II	選択 必修	選択 必修	年次	1	担当教員	高田 雄貴
	(Planning Basic II)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	月曜 1・2時限目
【授業の学習内容】							
<p>下記内容について、必須の能力の習得と、その能力を発揮するためのマーケットの関係を実務を通じて身につける為に構成する</p> <p>[1] エンタテインメント業界での音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)についての基礎知識を学習する</p> <p>[2] エンタテインメント業界での音楽ビジネスのコア3ビジネスのうちイベント(コンサート/ライブ他)企画の実施についての基礎知識を学習する</p> <p>[3] エンタテインメント業界での音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)について学ぶ中から企画実務の基本を学習する</p> <p><講師プロフィール></p> <p>一般社団法人コンサートプロモーターズ協会所属のキョードー東京在籍中より、主業務先は主要放送局(フジテレビ、テレビ朝日、日本テレビ等のテレビ局や新規開局FM局のイベントや音楽番組の制作に関わる。現在、イベント制作会社ビーハイブ代表。</p>							
【到達目標】							
<p>エンタテインメント業界での音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)についての基礎知識をと方法論を修得</p> <p><具体的な目標></p> <p>[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する</p> <p>[2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する</p> <p>[3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で業界人として必要な心構えを構築する</p>							

授業計画・内容	
1回目	イベントのスタイルとビジネスモデル [演習課題:ACPCの資料を検証]
2回目	企画書作成の準備をする・1 [演習課題:アーティストの調査]
3回目	企画書作成の準備をする・2 [演習課題:夏フェスティバルの調査]
4回目	実在のイベントをモデルに企画書化する・1 [演習課題:夏フェスティバルの調査]
5回目	実在のイベントをモデルに企画書化する・2 [演習課題:モデルタイムテーブルの作成]
6回目	会場設備理論(全国の会場を分析する)ホール編 [演習課題:全国のホールを調査する]
7回目	会場設備理論(全国の会場を分析する)ライブハウス編 [演習課題:全国のホールを調査する]
8回目	会場設備理論(全国の会場を分析する)アリーナスタジアム編 [演習課題:全国のホールを調査する]
9回目	イベント企画の研究 [演習課題:オリンピックについて調査する]
10回目	イベントと法規 [演習課題:消防申請について調査する]
11回目	単体イベントとツアー [演習課題:クリスマスツアーの調査]
12回目	ツアーの企画を立案する [演習課題:交通インフラの調査]
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	(目標①)前提:この授業を受けるには、エンタテインメント業界への興味が不可欠です。さらに流行、芸能ニュース、等について予習が必要です。 (目標②)各自の趣味趣向だけにとらわれず、広くエンタテインメントビジネスについて関わりを持つ心がけが必要です。 (目標③)自動車運転免許取得に際し、実際に動かすだけではなく法規が必要なのと同じく、演習前には講義で学習した理論の復習が必要です。 (目標④)各講義の内容は関連性を持っていますので、講義の復習が必要です。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	<p>魅力: イベントビジネスプランニングにおける企画(プランニング)と制作実施をプロデュースする事は、エンタテインメントビジネス業界を目指す究極目標であり、将来にとっても大きなモチベーションとなります。また、この学習を通じてエンタテインメントマーケットの仕組みや、流れの情報を多く知る事で、実務に着いた際にも自信を持って業務に当たる事が出来るでしょう。そしてその成功を掴む為にも身に付けるべき能力の一つです。</p> <p>授業計画: この授業で身に付けた能力を試すものとして、実際のイベントで実習を行います。その必要な理論(知識)は、前半の授業から常に行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:	
教材: インターネット端末「ipad」Apple社製	
参考書: Musicman エフ・ビー・コミュニケーションズ株式会社 / 『よくわかる音楽著作権ビジネス 基礎編』5th Edition リットーミュージック 他	

科目名 (英)	Web Design Basic I (Web Design Basic)	必修 選択	年次	1	担当教員	島村紀博
学科・コース		授業 形態	総時間 (単位)	()	開講区分	前期
【授業の学習内容】 WEB制作に必要なイラストレーター、フォトショップで基礎的なパーツの作り方や、イラストレーター、フォトショップを使用してチラシや名刺の制作、写真の補正等の応用も学習する。						
【到達目標】 webの制作時に必要となるイラストレーターの操作を中心に、名刺や広告等を印刷物として入稿できるようになる。						

授業計画・内容	
1回目	macとイラストレーターを触ってみるmacの初歩的な使用の仕方、コピー&ペーストやfinderの操作の仕方、wan内でのファイルのやり取り仕方(課題の提出)等を学ぶ、イラストレーターは新規ファイルの作成、ツールボックスの説明と機能の説明
2回目	イラストレーターの基礎、パス編 まずはイラストレーターの基礎で最も重要なパスをしっかりと学ぶ、波線やフリーハンドでの正円を描き、パスの使い方に慣れる
3回目	イラストレーターの基礎、大きなカーブをパスで描く パスで感覚が掴みにくい、大きな円の切り替えしを学ぶ、ガイドラインを利用してパスでハートを描く
4回目	イラストレーターの基礎、大きなカーブの連続を描く Sと言う文字を下絵にして、大きなカーブの連続のパスを丁寧に描く、アンカーポイント数を制限して丁寧にトレースを仕上げる。
5回目	イラストレーターを利用してパスを描く レイヤーとレイヤー内での上下の関係を意識しながら単純なイラストを描く、まずはライブペイントを使用せずに重なり付だけでイラスト描く
6回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
7回目	複雑なイラストをイラストレーターで描く レイヤーや上下の関係を意識して複雑なイラストを仕上げる、同時にグラデーションや透明などの機能も学ぶ
8回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
9回目	複雑なイラストをイラストレーターで描く、ライブペイントツールとライブペイント選択ツールを使用してイラストを製作する。
10回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
11回目	ロゴマークのデザイン、仮想の店舗等のコンセプトを考え、ラフスケッチを描いてCI、VIをイラストレーターにて制作する。
12回目	制作したラフスケッチをスキャナーにてスキャンして、イラストレーターで清書する。
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	イラストレーターはwebだけでなく、広告やポスター、名刺など色々なもの制作に使用するソフトです。基礎をしっかりと学び活用していけるように努力をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	Web Design Basic II (Web Design Basic)	必修 選択	年次	1	担当教員	島村紀博
学科・コース		授業 形態	総時間 (単位)	()	開講区分	後期
【授業の学習内容】 WEB制作に必要なイラストレーター、フォトショップで基礎的なパーツの作り方や、イラストレーター、フォトショップを使用してチラシや名刺の制作、写真の補正等の応用も学習する。						
【到達目標】 webの制作時に必要となるイラストレーターの操作を中心に、名刺や広告等を印刷物として入稿できるようになる。						

授業計画・内容	
1回目	名刺の制作、前回制作したCI,VIを使用して名刺のデザインを行う、印刷を出来るようにトリムマークから制作して縦組み、横組みの名刺のレイアウトを考える。
2回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
3回目	広告のデザイン、写真を配置する、広告のレイアウトを考える。まずはPhotoshopにて配置する写真の切り抜きや加工を行う。
4回目	広告のデザイン、基本的な文字の組み方を覚え、前回加工した写真をレイアウトして広告のデザインを行う。
5回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
6回目	本の見開きページのレイアウトを考える。用意したパーツを使用して段組設定等を覚えて見開きページの作り方を覚える。
7回目	見開きページのレイアウトデザインの続き途中段階のチェック
8回目	見開きページのレイアウトデザインの提出と校正
9回目	グループワーク、三人一組でFSMをPRするグッズの制作、個人で企画案を3案提出する。
10回目	グループワーク、FSMグッズの制作。企画書の提出、9案の中から制作するグッズを三案選んで担当分けをして制作。
11回目	グループワーク、FSMグッズの制作。制作期間と途中経過のチェック
12回目	グループワーク、FSMグッズの制作。最終校正と課題の提出。
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	イラストレーターはwebだけでなく、広告やポスター、名刺など色々なもの制作に使用するソフトです。基礎をしつかりと学び活用していけるように努力をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	音楽業界知識 I	選択 必修	選択 必修	年次	1	担当教員	高田 雄貴
	(MUSIC BUSINESS KNOWLEDE)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	火曜 1/2時限目
【授業の学習内容】 下記内容について、必須の能力の習得と、その能力を発揮するためのマーケットの関係を実務を通じて身につける為に構成する [1] 音楽業界へ進む上で、最低限必要とされる基礎知識を学習・習得する [2] 音楽ビジネスの企業で勤務する際に必要な、ビジネススキルの基礎知識や一般的な事務実務の基本を学習する [3] 最新の音楽業界の動向や、一般的なメディアの取り扱いなどを検証分析することで、音楽ビジネスにおけるマーケティングの基本を学習する <講師プロフィール> 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会所属のキョードー東京在籍中より、主業務先は主要放送局(フジテレビ、テレビ朝日、日本テレビ等のテレビ局や新規開局FM局のイベントや音楽番組の制作に関わる。令和元年現在、イベント制作会社ビーハイブ代表。							
【到達目標】 エンターテインメント業界での音楽ビジネスにおける基礎能力である、トータルコミュニケーション力についての基礎知識を方法論を修得 <具体的な目標> [1] 音楽業界への就職した際に、先輩業界人達とスムーズにコミュニケーションを取る為に必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職した際に、音楽業界人としてだけでなく一般社会人との業務において必要な基礎知識や実務の流れを構築する [3] 音楽業界への就職後に必要となる、業界人としての目線で流行やトレンドを読むセンスを身につける							

授業計画・内容	
1回目	音楽ビジネスの仕組みを知る [演習課題:様々な音楽事業社を調査する]
2回目	売れてるってどう言う事 [演習課題:ヒットチャート(オリコン)を調査する]
3回目	5月の音楽業界と全国展開 [演習課題:ガントチャートについて知る]
4回目	CDはどのような流れでマーケットに出るのか [演習課題:一般社団法人 日本レコード協会の資料を検証する]
5回目	音楽ビジネスにおける発送術の基本 [演習課題:ビジネス文書の送り方]
6回目	制作会議の進め方 [演習課題:会議の種類について検証する]
7回目	平成のエンターテインメント業界史を振り返る [演習課題:音楽評論家のレポートから]
8回目	AIDMAの法則とプロモーション [演習課題:新商品の告知販売の関連性]
9回目	年間計画とタイムマネジメント [演習課題:ガントチャートについて知る]
10回目	音楽フェスティバルについて知る [演習課題:今年開催の音楽フェスの調査リスト化]
11回目	海外のエンターテインメント(シルクドソレイユ)の研究 [演習課題:テーマパークを調査する]
12回目	音楽ビジネスの収益モデル [演習課題:様々な音楽関連商品の関連性と分析]
13回目	ターゲットを分析する(女性向け雑誌のマッピングから見る) [演習課題:雑誌協会について調査する]
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、エンターテインメント業界への興味が不可欠です。さらに流行、芸能ニュース、等について予習が必要です。 (目標②)各自の趣味趣向だけにとらわれず、広くエンターテインメントビジネスについて関わりを持つ心がけが必要です。 (目標③)自動車運転免許取得に際し、実際に動かすだけではなく法規が必要なのと同じく、演習前には講義で学習した理論の復習が必要です。 (目標④)各講義の内容は関連性を持っていますので、講義の復習が必要です。
評価方法	実習に必要な理論を定期試験(1回実施)にて知識到達評価を行う。さらに小テストにて基礎スキルの評価を行う。 [1] 小テスト(評価割合 40%) [2] 定期試験 ※筆記試験(評価割合 60%) の割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅 力:音楽エンターテインメント業界において将来的に勤務する為には、音楽エンターテインメント業界のビジネスモデルだけではなく、一般社会人と共通するビジネスマナーも必要となります。そのような情報やスキルを知る事は、将来にとっても大きなモチベーションとなります。この学習を通じてエンターテインメントに即時対応できる情報屋台応力を身につける事で、実務に着いた際にも自信を持って業務に当たる事が出来るようになるでしょう。授業計画:音楽エンターテインメント業界に必要な理論(知識)は、日々の積み重ねです。インターン等の実習に参加しても大丈夫なように、前半の授業から常にタイムリーかつ、リアルな情報提供を行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書: 教 材: インターネット端末「ipad」Apple社製 参考書: Musicman エフ・ビー・コミュニケーションズ株式会社 / 『よくわかる音楽著作権ビジネス 基礎編』5th Edition リットーミュージック 他	

科目名 (英)	音楽業界知識Ⅱ	選択 必修	選択 必修	年次	1	担当教員	高田 雄貴
	(MUSIC BUSINESS KNOWLEDE)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	火曜 1/2時限目
【授業の学習内容】 下記内容について、必須の能力の習得と、その能力を発揮するためのマーケットの関係を実務を通じて身につける為に構成する [1] 音楽業界へ進む上で、最低限必要とされる基礎知識を学習・習得する [2] 音楽ビジネスの企業で勤務する際に必要な、ビジネススキルの基礎知識や一般的な事務実務の基本を学習する [3] 最新の音楽業界の動向や、一般的なメディアの取り扱いなどを検証分析することで、音楽ビジネスにおけるマーケティングの基本を学習する <講師プロフィール> 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会所属のキョードー東京在籍中より、主業務先は主要放送局(フジテレビ、テレビ朝日、日本テレビ等のテレビ局や新規開局FM局のイベントや音楽番組の制作に関わる。令和元年現在、イベント制作会社ビーハイブ代表。							
【到達目標】 エンタテインメント業界での音楽ビジネスにおける基礎能力である、トータルコミュニケーション力についての基礎知識と方法論を修得 <具体的な目標> [1] 音楽業界への就職した際に、先輩業界人達とスムーズにコミュニケーションを取る為に必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職した際に、音楽業界人としてだけでなく一般社会人との業務において必要な基礎知識や実務の流れを構築する [3] 音楽業界への就職後に必要となる、業界人としての目線で流行やトレンドを読むセンスを身につける							

授業計画・内容	
1回目	演劇の世界(ロングランミュージカル) [演習課題:劇団四季とブロードウェイ]
2回目	レコード業界のビジネスモデル [演習課題:パッケージビジネスから配信への動きと関連産業進出]
3回目	マーケットの変遷(東京中心から地元主義) [演習課題:エリアプロモーションと音楽フェスの全国への広がり]
4回目	クチコミプロモーションからSNSへ [演習課題:ネットでの口コミの拡散、専門家の意見よりもレビュアーを検証]
5回目	ファンクラブビジネスについて知る [演習課題:著作権隣接権の管理と新しいビジネスモデル]
6回目	イベントと保険 [演習課題:損害保険による損出の事前回避]
7回目	様々なプロモーションについて考える [演習課題:4大広告メディアから、ネットメディアへ]
8回目	アーティストという職業について知る(声優編) [演習課題:アーティストの才能をビジネス化するには]
9回目	アーティストという職業について知る(YOUTUBER編) [演習課題:新しい形のアーティストとそのビジネスモデル]
10回目	著作権について考える [演習課題:権利ビジネスを成功させる基本について考える]
11回目	仕事のできない人は「5W1H」がわかっていない [演習課題:発想をスマートに伝えるには準備が必要]
12回目	今さら聞けないメールの作法、宛名の書き方 [演習課題:近頃のチームから、距離を超えたプロジェクトワークの基本スキル]
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、エンタテインメント業界への興味が不可欠です。さらに流行、芸能ニュース、等について予習が必要です。 (目標②)各自の趣味趣向だけにとらわれず、広くエンタテインメントビジネスについて関わりを持つ心がけが必要です。 (目標③)自動車運転免許取得に際し、実際に動かすだけではなく法規が必要なのと同じく、演習前には講義で学習した理論の復習が必要です。 (目標④)各講義の内容は関連性を持っていますので、講義の復習が必要です。
評価方法	実習に必要な理論を定期試験(1回実施)にて知識到達評価を行う。さらに小テストにて基礎スキルの評価を行う。 [1] 小テスト(評価割合 40%) [2] 定期試験 ※筆記試験(評価割合 60%) の割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅力:音楽エンタテインメント業界において将来的に勤務する為には、音楽エンタテインメント業界のビジネスモデルだけではなく、一般社会人と共通するビジネスマナーも必要となります。そのような情報やスキルを知る事は、将来にとっても大きなモチベーションとなります。この学習を通じてエンタテインメントに即時対応できる情報屋台応力を身につける事で、実務に着いた際にも自信を持って業務に当たる事が出来るようになるでしょう。授業計画:音楽エンタテインメント業界に必要な理論(知識)は、日々の積み重ねです。インターン等の実習に参加しても大丈夫なように、前半の授業から常にタイムリーかつ、リアルな情報提供を行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書: 教材: インターネット端末「ipad」Apple社製 参考書: Musicman エフ・ピー・コミュニケーションズ株式会社 / 『よくわかる音楽著作権ビジネス 基礎編』5th Edition リットーミュージック 他	

科目名 (英)	音楽史 I (Music History)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	金子秀樹
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
				曜日・時限	月曜3限		
【授業の学習内容】 教科書「ロック&ポップス史 邦楽編」「ロック&ポップス史 洋楽編」を使用し、音楽のルーツやジャンルを学び、様々なアーティストに対応出来る知識を身につけます。 <講師プロフィール> ※ブルーノートフクオカにサウンドチーフとして就任、その後独立しフリーランスでPAとレコーディングの音響技師。楽曲制作を行なっています。学校が所有する楽器や持ち込み可能な楽器に関しては実物を使用して実施します。実物の使用が困難な楽器に関しては資料音源や資料動画を使用して実施します							
【到達目標】 劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	日本のポップスの誕生とアメリカのロックンロールの誕生
2回目	イギリスのロック革命と日本のGSブーム
3回目	日本のGS、エレキブームと西洋のフォークからロックへの動き
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	アメリカのサイケブームと日本のフォークブーム
6回目	日本の本格ロック誕生と、海外の内省的思考
7回目	海外のロックの巨大化と日本のロック
8回目	日本のニューミュージック誕生と海外のソウルミュージック黄金期
9回目	海外のマイルド&ポップ化と日本のニューミュージック
10回目	西洋のパンク誕生、日本の歌謡曲とロックの融合
11回目	海外のスーパースター時代と日本のニューウェーブ
12回目	ミュージカルで使用される楽曲の解説①（歌手、演奏者に関することや当時の音楽シーン等）
13回目	ミュージカルで使用される楽曲の解説②（歌手、演奏者に関することや当時の音楽シーン等）
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	授業で取り上げた内容に自分から興味を持ってYouTube等で掘り下げて行くことで、更に知識は増えて行きます。
評価方法	●出席率 (30%) ●授業態度 (30%) ●確認テスト (40%)
受講生への メッセージ	様々な音楽やアーティストを知っていることは、この業界では強みになります。いろんな音楽を好きになってください。
【使用教科書・教材・参考書】 ロック&ポップス史 邦楽編、ロック&ポップス史 洋楽編	

科目名 (英)	音楽史Ⅱ (Music History)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	金子秀樹
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】 教科書「ロック&ポップス史 邦楽編」「ロック&ポップス史 洋楽編」を使用し、音楽のルーツやジャンルを学び、様々なアーティストに対応出来る知識を身につけます。 <講師プロフィール> ※ブルーノートフクオカにサウンドチーフとして就任、その後独立しフリーランスでPAとレコーディングの音響技師。楽曲制作を行なっています。学校が所有する楽器や持ち込み可能な楽器に関しては実物を使用して実施します。実物の使用が困難な楽器に関しては資料音源や資料動画を使用して実施します							
【到達目標】 劇場を利用する際のマナー・約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	日本のロックの大衆化、アメリカではMTVの時代
2回目	世界情勢を見つめるロックと、日本のバンドブーム
3回目	日本のバンドブームと海外インディーズシーンの革命
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	海外ロック史上最大の下克上と日本のオルタナティブ思考
6回目	海外ヒップホップの到来と、日本のテクノ、クラブミュージック
7回目	海外のクラブミュージックと、和製R&Bの誕生
8回目	和製R&Bと、海外はセレブ時代へ
9回目	2000年代の海外ロックシーンと日本のポップミュージック
10回目	WeAreFSMで使用される楽曲の解説①（歌い手や演奏者に関することや当時の音楽シーン等）
11回目	WeAreFSMで使用される楽曲の解説②（歌い手や演奏者に関することや当時の音楽シーン等）
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	授業で取り上げた内容に自分から興味を持ってYouTube等で掘り下げて行くことで、更に知識は増えて行きます。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●出席率 (30%) ●授業態度 (30%) ●確認テスト (40%)
受講生への メッセージ	様々な音楽やアーティストを知っていることは、この業界では強みになります。いろんな音楽を好きになってください。
【使用教科書・教材・参考書】 ロック&ポップス史 邦楽編、ロック&ポップス史 洋楽編	

科目名 (英)	舞台ベーシック I (Stage Basic)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	水戸 裕
学科・コース	舞台制作&ステージデザイナーコース	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 ()	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日・3～5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に付ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に付けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。</p> <p>我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に付ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。</p> <p>前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に付ける ・ミュージカルの成功を前期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする 							

授業計画・内容	
1回目	舞台の基礎知識①～ガイダンス・舞台全般知識・入学式の進行と美術を確認する
2回目	舞台の基礎知識②～舞台機構・舞台名称などの舞台知識
3回目	舞台の基礎知識③～寸法、図面、タイムスケジュール
4回目	舞台の基礎知識④～木工製作、木材知識、工具知識
5回目	基礎製作 I ①～学園祭対応製作、木工作品製作
6回目	基礎製作 I ②～学園祭対応製作、木工作品製作
7回目	基礎製作 I ③～学園祭対応製作、木工作品製作
8回目	基礎製作 I ④～学園祭対応製作、木工作品製作
9回目	基礎製作 II ①～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
10回目	基礎製作 II ②～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
11回目	基礎製作 II ③～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
12回目	基礎製作 II ④～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に付けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	舞台ベーシックII (Stage Basic)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	水戸 裕
学科・コース	舞台制作&ステージデザイナーコース	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 ()	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日・3～5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に着ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。</p> <p>我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。</p> <p>後期の最後に外部ホールで行われるWe are FSM 卒業進級制作は、1年間の集約されたものとなり、総括になる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に着ける ・We are FSM 卒業進級制作の成功を後期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする 							

授業計画・内容	
1回目	基礎製作IV①～小道具製作(発泡スチロール造形)
2回目	基礎製作IV②～小道具製作(発泡スチロール造形)
3回目	基礎製作IV③～小道具製作(発泡スチロール造形)
4回目	基礎製作IV④～小道具製作(発泡スチロール造形)
5回目	基礎製作IV⑤～小道具製作(発泡スチロール造形)
6回目	基礎製作IV⑥～小道具製作(発泡スチロール造形)
7回目	応用製作①～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
8回目	応用製作②～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
9回目	応用製作③～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
10回目	応用製作④～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
11回目	応用製作⑤～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
12回目	応用製作⑥～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に着けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	舞台基礎 I (Stage Basic)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	水戸 裕
学科・コース	コンサート企画制作コース	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 ()	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日・1限&2限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に付ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に付けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。</p> <p>我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に付ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。</p> <p>前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に付ける ・ミュージカルの成功を前期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする 							

授業計画・内容	
1回目	舞台の基礎知識①～ガイダンス・舞台全般知識・入学式の進行と美術を確認する
2回目	舞台の基礎知識②～舞台機構・舞台名称などの舞台知識
3回目	舞台の基礎知識③～寸法、図面、タイムスケジュール
4回目	舞台の基礎知識④～木工製作、木材知識、工具知識
5回目	基礎製作 I ①～学園祭対応製作、木工作品製作
6回目	基礎製作 I ②～学園祭対応製作、木工作品製作
7回目	基礎製作 I ③～学園祭対応製作、木工作品製作
8回目	基礎製作 I ④～学園祭対応製作、木工作品製作
9回目	基礎製作 II ①～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
10回目	基礎製作 II ②～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
11回目	基礎製作 II ③～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
12回目	基礎製作 II ④～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学 習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に付けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	舞台基礎Ⅱ (Stage Basic)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	水戸 裕
学科・コース	コンサート企画制作コース	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 ()	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日・1限&2限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に付ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に付けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。</p> <p>我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に付ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。</p> <p>後期の最後に外部ホールで行われるWe are FSM 卒業進級制作は、1年間の集約されたものとなり、総括になる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に付ける ・We are FSM 卒業進級制作の成功を後期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする 							

授業計画・内容	
1回目	基礎製作Ⅳ①～小道具製作(発泡スチロール造形)
2回目	基礎製作Ⅳ②～小道具製作(発泡スチロール造形)
3回目	基礎製作Ⅳ③～小道具製作(発泡スチロール造形)
4回目	基礎製作Ⅳ④～小道具製作(発泡スチロール造形)
5回目	基礎製作Ⅳ⑤～小道具製作(発泡スチロール造形)
6回目	基礎製作Ⅳ⑥～小道具製作(発泡スチロール造形)
7回目	応用製作①～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
8回目	応用製作②～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
9回目	応用製作③～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
10回目	応用製作④～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
11回目	応用製作⑤～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
12回目	応用製作⑥～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に付けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	イベント照明ベーシック I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	岡田 一志
	(Event Lighting Basic)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
学科・コース	スーパーエンターテイメント科・商業音楽科(照明専攻者)					曜日・時限	木曜1～2限
【授業の学習内容】 照明の基本を教科書を使い学んでいき、照明の楽しさを伝える。また、イベントに向けて8Fの仕込みの練習をする。1年次の学内イベントを安全に行えるよう仕込み時の安全対策、学内イベントに対して基本的な作業と照明機器(ムービング他含めて)を学ぶ。 ※演劇、バレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。第29回日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。							
【到達目標】 教科書で学んだことを使い8Fの仕込みがスムーズにできるようにしていく。一人一人がイベントを通して、安全に仕込むことができる、基礎的なオペレーションができるようにする。 <具体的な目標> ①仕込み時の安全対策ができる ②照明機器全般を理解することができる ③カラーフィルター番号の習得および色の表現について理解できる							

授業計画・内容	
1回目	照明機材について
2回目	照明のケーブルとコネクタについて
3回目	カラーフィルターを覚えよう
4回目	照明の仕込みをしてみよう 基礎編
5回目	照明の知識アップ 教科書を使います
6回目	照明の仕込みをしてみよう 基礎編
7回目	照明の知識アップ 教科書を使います
8回目	照明の仕込みをしてみよう 応用編
9回目	照明の知識アップ 教科書を使います
10回目	仕込み図を書けるように
11回目	仕込みのスピードアップと仕込み図の読み取り方の勉強
12回目	仕込み図を書けるように
13回目	仕込みのスピードアップと仕込み図の読み取り方の勉強
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	焦らず、ゆっくと頑張ってください
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	イベント照明ベーシックⅡ	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	岡田 一志
	(Event Lighting Basic)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・商業音楽科(照明専攻者)					曜日・時限	木曜1～2限
【授業の学習内容】 イベントを通して教科書で学んだことを使い体に覚えさせ、簡単なオペレーションの練習を行なっていく。1年次の学内イベントを安全に行えるよう仕込み時の安全対策、学内イベントに対して基本的な作業と照明機器(ムービング他含めて)を学ぶ。 ※演劇、バレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。第29回日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。えるよう仕込み時の安全対策、学内イベントに対して基本的な作業と照明機器(ムービング他含めて)を学ぶ。							
【到達目標】 一人一人がイベントを通して、仕込みや簡単なオペレーションができるようにしていく。一人一人がイベントを通して、安全に仕込むことができる、基礎的なオペレーションができるようにする。 <具体的な目標> ①仕込み時の安全対策ができる ②照明機器全般を理解することができる ③カラーフィルター番号の習得および色の表現について理解できる							

授業計画・内容	
1回目	イベントを通した振り返りでのレベルアップ
2回目	仕込み図を書けるように
3回目	仕込みのスピードアップと仕込み図の読み取り方の勉強
4回目	イベントを通して実践練習 ①ステージライティング応用技法
5回目	イベントを通して実践練習 ②ステージライティング応用技法
6回目	イベントを通して実践練習 ③ステージライティング応用技法
7回目	イベントを通して実践練習 ④ステージライティング応用技法
8回目	イベントを通して実践練習 ⑤ステージライティング応用技法
9回目	イベントを通して実践練習 ⑥ステージライティング応用技法
10回目	イベントを通して実践練習 ⑦ステージライティング応用技法
11回目	イベントを通して実践練習 ⑧ステージライティング応用技法
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	焦らず、ゆっくりと頑張ってください
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	照明概論 I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	田坂章文
	(Lighting Concept)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・商業音楽科(照明専攻者)					曜日・時限	火曜5・6限 木曜 5・6限
【授業の学習内容】							
<p>照明舞台機構を知り、用法を学び基礎的知識を習得する。照明・舞台の基礎的用語を学び、使い方を理解し、図面を読み込むこと何よりケガなく安全に作業ができることを第一に安全マナー・機材の取り扱い方、安全作業の基礎知識から舞台機構・舞台照明設備の用語及び知識の習得を目的とする。講師作成の仕込み図どおりに脚立を使用しながら照明仕込みが行うことができるようになる。</p> <p>※実務経験者：照明実務キャリア40年、九州を中心に芝居・ミュージカル舞台、日本舞踊、パレエなどを中心に照明家として様々なジャンルに携わり、九州の照明業界をリードする。</p>							
【到達目標】							
<p>照明家に必要な基礎知識を学び、照明機器と照明操作のシステム、照明・舞台機構の基礎的知識・用語を習得する。ミュージカル公演の現場に向けて必要とされる知識・技術を学ぶ。</p> <p style="text-align: center;"><具体的な目標></p> <p style="text-align: right;">①舞台機構用語・舞台照明用語(機材用語等)を習得する ②舞台機構と舞台照 ③</p>							
<p>明設備について理解する 照明機器と照明操作のシステムについて理解する</p>							

授業計画・内容	
1回目	舞台機構用語・舞台照明用語(機材用語等)①
2回目	舞台機構用語・舞台照明用語(機材用語等)②
3回目	舞台機構用語・舞台照明用語(機材用語等)③
4回目	舞台照明設備について①
5回目	舞台照明設備について②
6回目	照明機器と照明操作のシステム①
7回目	照明機器と照明操作のシステム②
8回目	照明機器と照明操作のシステム③
9回目	照明家としての基礎知識
10回目	ミュージカル公演会場の舞台機構・仕込み図について
11回目	ミュージカル公演照明プランプレゼンテーション①
12回目	ミュージカル公演照明プランプレゼンテーション②
13回目	ミュージカル公演照明プラン修正およびホール入り前の心構えについて
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学 習	
評価方法	<p>○実技テスト : 60%</p> <p style="text-align: right;">○筆記テスト : 40%</p> <p style="text-align: center;">○出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます</p>
受講生への メッセージ	<p>様々なジャンルが氾濫する中、照明家として一貫した考え方を持っていれば何にでも対応できるという自分のスタンスを軸に、ちょっとしたアイデアが大きな進歩につながります。まず自分が楽しくなくてはならないがそこに行き着くには数多くの現場に関わることが大切です。基本照明の美しさへの拘りを育て、「優しさや思いやり」から発展する経験が照明に対しての取り組む姿勢に影響を与えます。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	照明概論Ⅱ (Lighting Concept)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	田坂章文
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・商業音楽科(照明専攻者)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜5・6限 木曜 5・6限
【授業の学習内容】 舞台機構用語・舞台照明用語(機材用語等)を習得し、舞台機構・舞台照明設備について理解し、進級制作展に向けて使用するホールのシステムを理解し、照明プランをプランニングする。 ※実務経験者: 照明実務キャリア40年、九州を中心に芝居・ミュージカル舞台、日本舞踊、バレエなどを中心に照明家として様々なジャンルに携わり、九州の照明業界をリードする。							
【到達目標】 前期で学んだ基礎をもとに後期は応用を学ぶ。照明家に必要な基礎知識を学ぶとともに進級制作展のプラン作成にいかす。 的な目標> <ul style="list-style-type: none"> ①舞台機構用語・舞台照明用語(機材用語等)を習得する ②舞台機構と舞台照明設備について理解する ③進級制作展の照明プランを作成する <div style="text-align: right;"><具体</div>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション(前期の振り返りと後期の取り組み方について)
2回目	舞台照明設備について(中級)
3回目	舞台照明設備について(中級)
4回目	照明機器と照明操作のシステム①
5回目	照明機器と照明操作のシステム②
6回目	照明機器と照明操作のシステム③
7回目	照明機器と照明操作のシステム④
8回目	照明家としての応用知識①
9回目	照明家としての応用知識②
10回目	進級展ホールのシステム・機構について
11回目	進級制作展プランニングプレゼンテーション①
12回目	進級制作展プランニングプレゼンテーション②
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	○実技テスト : 60% <div style="text-align: right;">○筆記テスト : 40%</div> ○出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	様々なジャンルが氾濫する中、照明家として一貫した考え方を持っていれば何にでも対応できるという自分のスタンスを軸に、ちょっとしたアイデアが大きな進歩につながります。まず自分が楽しくなくてはならないがそこに行き着くには数多くの現場に関わる事が大切です。基本照明の美しさへの拘りを育て、「優しさや思いやり」から発展する経験が照明に対しての取り組む姿勢に影響を与えます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	照明基礎 I (Lighting Basic)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	岡田 一志
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・商業音楽科(照明専攻者)	授業 形態	講義 & 実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	通年
						曜日・時限	水曜日 1.2限
【授業の学習内容】 必要な業界用語や照明の基礎的知識を中心に照明器具・周辺機器・光の方向性・光のコントロール・ライティングシステム・光の色について詳細に学ぶ。 ※演劇、バレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。第29回日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。							
【到達目標】 <具体的な目標> <ol style="list-style-type: none"> ①照明器具の特性と光の特徴について習得する ②ライティングシステムと光の色について習得する ③ホールの機構・照明について実習を通して習得する 							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション(前期内容について)
2回目	ステージライティングのジャンルについて(コンサートライティングと演劇の舞台照明)
3回目	照明器具と周辺機器①(パースライト・プロファイルスポットライト・フレネルレンズライト・平凸レンズライト他)
4回目	照明器具と周辺機器②(フォロースポットライト・エフェクト機器・スモークマシン・特殊効果他)
5回目	光の方向による表現①(バックライト・サイドライト・トップライト)
6回目	光の方向による表現②(ウォッシュライト・ステージサイドスポットライト・フットライト・バックフットライト・フロントサイドライト他)
7回目	光の点灯と光を消す(カットイン・フェードイン・カットアウト・フェードアウト・クロスフェード・カットチェンジ)
8回目	ライティングシステムと調光操作卓①(ライティングシステムの基本)
9回目	ライティングシステムと調光操作卓②(調光操作卓の種類と機能)
10回目	色の表現とカラーフィルター①(色の種類・選択・表現の技法)
11回目	色の表現とカラーフィルター②(ホリゾン・シーンの色の決め方)
12回目	ホール実習①(ミュージカルに向けてホールの機構について)
13回目	ホール実習②(ミュージカルに向けてホールの照明について)
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	
評価方法	○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	照明基礎Ⅱ (Lighting Basic)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	岡田 一志
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・商業音楽科(照明専攻者)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	通年
						曜日・時限	水曜日1.2限
【授業の学習内容】 ムービングライトシステム・LEDの特徴・仮設システム・ライティングデザインの考え方を学ぶ。 ※演劇、パレエ、ダンス等を 中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。第29回日本照明家協会賞にノミ ネットされ奨励賞受賞。							
【到達目標】 <具体的な目標> ①ムービングライトシステムとLEDの特徴・ステージライティングについて習得する ②仮設の舞台照明設備の理解ができ ている ③ライティングデザインの仕上げとデータ作りの習得ができている							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション(前期の振り返りと後期の取り組み方について)
2回目	ムービングライトシステム①(ムービングライトの種類・光のコントロール・動き)
3回目	ムービングライトシステム②(ムービングライトのコントロール)
4回目	ムービングライトシステム③(ムービングライトのプログラム・シミュレーションソフトの活用)
5回目	LEDの特徴とステージライティング①(LEDの特徴・舞台照明器具)
6回目	LEDの特徴とステージライティング②(LEDと映像他)
7回目	仮設の舞台照明設備①(仮設のライティングシステム)
8回目	仮設の舞台照明設備②(機器・システムの持ち込み、劇場・ホールの舞台照明設備)
9回目	ライティングデザインの考え方①(ステージセッティング・仕込み図とフェーダー表)
10回目	ライティングデザインの考え方②(仕込みのバリエーション)
11回目	ライティングデザインの仕上げとデータ作り①(コンサートの構成とライティング)
12回目	ライティングデザインの仕上げとデータ作り②(プランニングとデータ作成)
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に 基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ムービングベーシック I (Moving Lighting Basic)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	麻生圭輔
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・商業音楽科(照明専攻者)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日1~4限
【授業の学習内容】 ムービングライト、LED機器を含む照明機材の基本的な操作方法、接続方法、機材の基本的な構造を知る。 ※ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける							
【到達目標】 <具体的な目標> <ul style="list-style-type: none"> ①応用プログラミングとビジュアライザの連携について理解できている ②機材の一括操作の設定作業ができている ③機材のメンテナンスおよびネットワークの知識が習得できている 							

授業計画・内容		
1回目	機材の基本構造1	使用する機材の基本構造を知る
2回目	機材の基本構造2	機材の内部構造について
3回目	機材の基本構造3	各種モードの切り替え
4回目	操作卓の基本的な使用方法1	基本的なキューの作成
5回目	操作卓の基本的な使用方法2	操作卓の初期設定
6回目	操作卓の基本的な使用方法3	HTPとLTP
7回目	操作卓の基本的な使用方法4	ディマーの制御
8回目	機材の接続方法1	操作ケーブルと電源ケーブル
9回目	機材の接続方法2	DMX規格とイーサネットについて
10回目	電源容量1	電源容量の計算
11回目	電源容量2	ケーブルとコネクタの構造
12回目	仕込みの基本1	仕込み手順と安全確認
13回目	仕込みの基本2	ケーブル処理
14回目	ミュージカル演習	
15回目	ミュージカル演習	
準備学習 時間外学 習		
評価方法	○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきま す	
受講生への メッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		

科目名 (英)	ムービングベーシックⅡ (Moving Lighting Basic)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	麻生圭輔
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・商業音楽科(照明専攻者)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜1～4限
【授業の学習内容】 ムービングライト、LED機器を含めた照明機材の基本的な操作方法、接続方法、機材の基本的な構造を知る。 ※ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける							
【到達目標】 <具体的な目標> <ul style="list-style-type: none"> ①応用プログラミングとビジュアライザの連携について理解できている ②機材の一括操作の設定作業ができている ③機材のメンテナンスおよびネットワークの知識が習得できている 							

授業計画・内容	
1回目	操作卓の基本的な使用方法1 DMXアドレスとパッチ
2回目	操作卓の基本的な使用方法2 キューの実行とタイムの調整
3回目	操作卓の基本的な使用方法3 パレットの作成
4回目	操作卓の基本的な使用方法4 エフェクトエンジン
5回目	機材の接続方法1 DMXアドレスと2進数
6回目	機材の接続方法2 スプリッタボックスと信号のアイソレーション
7回目	機材の接続方法3 調光ユニット
8回目	電源知識1 電圧、電流、電力の基本
9回目	電源知識2 テスターによる測定方法
10回目	光源知識1 発光原理と波長成分、色温度
11回目	光源知識2 カラーミックスの原理、CMYとRGB
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきま す
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライティングベーシック I (Lighting Basic)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	田坂章文
学科・コース	スーパーエンターテイメント科・商業音楽科(照明専攻者)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	通年
						曜日・時限	火曜 5・6限
【授業の学習内容】 照明舞台機構を知り、用法を学びイベント・催事をいかにして成功に導くかを学ぶ。基礎的な光を持つ四つの役割、照明の三原則から学び、何よりケガなく安全に作業ができることを第一に安全マナー・機材の取り扱い方、安全作業の基礎知識から舞台機構・舞台照明設備の用語及び知識の習得を目的とする。講師作成の仕込み図どおりに脚立を使用しながら照明仕込みが行うことができるようになる。 ※実務経験者：照明実務キャリア40年、九州を中心に芝居・ミュージカル舞台、日本舞踊、パレエなどを中心に照明家として様々なジャンルに携わり、九州の照明業界をリードする。							
【到達目標】 照明機材を自由に使いこなし、舞台を盛り上げるための照明技術を体得する。							
構用語・舞台照明用語(機材用語等)を習得する ②照明の三つの原則、光を持つ特性、光源とレンズの関係など説明ができる ③仕込み図どおりに灯体を吊り込むことができる							
<具体的な目標> ①舞台機							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション①安全マナー・安全作業について
2回目	オリエンテーション②舞台機構・機材・灯体の名称を知る
3回目	オリエンテーション③機材・灯体の名称を知り特性をいかす
4回目	照明に関する実作業①舞台用語と吊り込み
5回目	照明に関する実作業②吊り込みと回路取り
6回目	照明に関する実作業③照明卓打ち込み
7回目	照明に関する実作業④照明卓打ち込み
8回目	照明に関する実作業⑤工具の名称・コードメンテナンス
9回目	照明に関する実作業⑥仕込み図の書き方
10回目	身に付けた技術をどう実践するか、催物に合わせたプランの作り方①音楽(バンド)
11回目	身に付けた技術をどう実践するか、催物に合わせたプランの作り方②音楽(ヴォーカル)
12回目	身に付けた技術をどう実践するか、催物に合わせたプランの作り方③ダンス
13回目	身に付けた技術をどう実践するか、催物に合わせたプランの作り方④芝居
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学 習	○事前の照明プラン作成、仕込み図作成
評価方法	○実技テスト : 60% ○筆記テスト : 40% ○出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	様々なジャンルが氾濫する中、照明家として一貫した考え方を持っていれば何にでも対応できるという自分のスタンスを軸に、ちょっとしたアイデアが大きな進歩につながります。まず自分が楽しくなくてはならないがそこに行き着くには数多くの現場に関わる事が大切です。基本照明の美しさへの拘りを育て、「優しさや思いやり」から発展する経験が照明に対しての取り組む姿勢に影響を与えます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライティングベーシックⅡ (Lighting Basic)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	田坂章文
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・商業音楽科(照明専攻者)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	通年
						曜日・時限	火曜 5・6限
【授業の学習内容】 照明舞台機構を知り、用法を学び催事をいかにして成功に導くかを学ぶ。様々なジャンルの催事に合わせた照明プランを作成、仕込み図を毎週作成し、実習教室にあった正確な仕込み図をもとに安全な吊り込み作業を行うことができる。照明プラン作り→仕込み→打ち込み・実施のサイクルを繰り返すことで作業のスピードアップをはかり、各学生の照明に対するアイデア作り、経験値を増やし意識を高める。 ※実務経験者：照明実務キャリア40年、九州を中心に芝居・ミュージカル舞台、日本舞踊、バレエなどを中心に照明家として様々なジャンルに携わり、九州の照明業界をリードする。							
【到達目標】 照明機材の特性を理解し、なおかつ自由に使いこなし、舞台を盛り上げるための照明技術とプランを体得する。							
体的な目標>							
①照明機材の特性を正確に理解し、使いこなせること ②正確に仕込み図を作成することができる ③イベントのジャンルにあわせた照明プランを作成することができる							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション①前期の振り返りと後期の取り組みについて
2回目	照明機材の特性と使い方の理解①
3回目	照明機材の特性と使い方の理解②
4回目	照明機材の特性と使い方の理解③
5回目	仕込み図の書き方(復習)
6回目	催物に合わせたプランの作り方①音楽(バンド)
7回目	催物に合わせたプランの作り方②音楽(洋楽)
8回目	催物に合わせたプランの作り方③音楽(J-POP)
9回目	催物に合わせたプランの作り方④ダンス
10回目	催物に合わせたプランの作り方⑤ダンス
11回目	催物に合わせたプランの作り方⑥芝居
12回目	催物に合わせたプランの作り方⑦芝居
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	○事前の照明プラン作成、仕込み図作成
評価方法	○実技テスト : 60% ○筆記テスト : 40% ○出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	様々なジャンルが氾濫する中、照明家として一貫した考え方を持っていれば何にでも対応できるという自分のスタンスを軸に、ちょっとしたアイデアが大きな進歩につながります。まず自分が楽しくなくてはならないがそこに行き着くには数多くの現場に関わる事が大切です。基本照明の美しさへの拘りを育て、「優しさや思いやり」から発展する経験が照明に対しての取り組む姿勢に影響を与えます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	イベント企画Basic I (Event Planning Basic)	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員	横山 綾子
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科・コンサート企画制作・マネージャー・舞台	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜・3限
【授業の学習内容】							
<p>イベントの企画立案・制作する際に必要なスタッフの仕事内容や企画の立て方、打ち合わせ方法、プレゼンテーションのやり方などを学ぶ。前期では主に①コミュニケーション能力を高める②現場にて対応できる基礎知識を身につける③プレゼンテーション能力を高めるの3つを柱に講義を行います。</p> <p><講師プロフィール>九州最大の夏フェス“Number Shot”や“Circle”“Sky Jumboree”の舞台監督を務め、有名アーティストが出演するエフエムの公開録音イベント、博多駅イルミネーション点灯式、福岡市のイベントなどを創り上げる</p>							
【到達目標】							
<p>この授業内容を身につけることにより、研修や現場にてより必要とされる人材になることができる。 1年時より意識させることでより業界に必要とされる知識を身につける。</p>							

授業計画・内容	
1回目	「自己紹介」 自分の意見や言葉で伝える・言葉の選び方、声の大きさ、セルフプロデュースを意識する
2回目	「イベントができるまで」 資料づくりの大切さ、全体をイメージすることを理解する
3回目	「各セクションの仕事」 制作・マネジメント・運営の仕事の内容を理解する
4回目	「テクニカルの仕事」 他のセクションの仕事内容を理解することで全体を把握することができる
5回目	「ステージの基礎」 図面や資料の見方を身につける
6回目	「学園祭をイメージしてみる」 本番までの完成形を想像してみる・イベントの全体を把握する能力を身につける
7回目	「イベントを通して自分の考え方を誰かに伝える」 個人的な感想から、全体を見れるように促してゆく
8回目	「外の現場に出るための心得」 実践を想定して、必要な事柄を習得してゆく、また、自己アピール法も身につける
9回目	「リハーサルに必要な知識」 場ミリ・タイムキープ・進行表・Qsheetなど必要な資料の見方や現場での自分の動きをシュミレーションする
10回目	「お芝居について」 コンサートとは違う現場の内容を理解する・いろんな現場があることを理解する
11回目	「コンサート以外の仕事」 自分が身につける知識がコンサート以外にも生かされることを理解し、就職の幅を意識する
12回目	「HOMIについて」 結団式を経験し、HOMIについての理解を深める・仕事の内容も大事だが、何を伝えるためにやっているのかを理解する
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	講義だけでは絶対にスキルは身につけません。外の現場に積極的に出て、スキルアップを目指して行きます。 *実学教育
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	コンサート制作は決まったテキストやこれを覚えておけば必ずできる！！といった職種ではなく、普段からの気遣いやコミュニケーションなど、生活に直結したことが結局、仕事に繋がってゆきます。挨拶や言葉遣い、電話の掛け方、メールの送り方など社会人として必要なスキルを身につけながら、専門知識を身につけましょう。一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
実際に使用したコンサートでの資料など(横山が現場で使用したもの)を授業でも使用していきます。	

科目名 (英)	イベント企画Basic II (Event Planning Basic)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	横山 綾子
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科・コンサート企画制作・マネージャー・舞台	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】							
<p>イベントの企画立案・制作する際に必要なスタッフの仕事内容や企画の立て方、打ち合わせ方法、プレゼンテーションのやり方などを学ぶ 後期ではより業界の仕事の内容を細かく分類し理解していくことにより、将来の自分の就職の方向性を固めていく</p> <p><講師プロフィール>九州最大の夏フェス“Number Shot”や“Circle”“Sky Jumboree”の舞台監督を務め、有名アーティストが出演するエフエムの公開録音イベント、博多駅イルミネーション点灯式、福岡市のイベンなどを創り上げる</p>							
【到達目標】							
<p>この授業内容を身につけることにより、研修や現場にてより必要とされる人材となります。 1年時より意識させることでより業界に必要とされる人材をしっかりと育成してゆきます。</p>							

授業計画・内容	
1回目	「音楽の歴史 カノンコードを使って」 楽曲は感覚ではなくデータをもとに作成されています。その知識を知ることでより音楽を知ることができます。
2回目	「楽器の知識」 実際に楽器がさわれなくても知っておくことが大事。知らなくて良い知識なんてありません。
3回目	「ビジネスマナー」 メール、電話対応、Zoomなど対面ではなく打ち合わせすることが多い業界です。言葉使いや顔の表情を意識しましょう。
4回目	「プレゼンしてみよう」 頭の中にある企画を実際に文字にして相手にわかりやすく説明することができるようになることが大切です。
5回目	「プレゼンしてみよう」 頭の中にある企画を実際に言葉にして相手に伝えることができるようになります。
6回目	「演出の楽しさを体験する」 制作は時には演出にも携わります。演出は難しいようで実は面白いのです。その楽しさを体験してみましょう。
7回目	「図面を描いてみよう」 PLOTや全体図イベントにおいて図面を読み解くことや時には書くことが必要になります。今のうちから慣れておきましょう。
8回目	「HOM直前:現場に入る前にもう一度おさらい」 ミュージカルはコンサートとは全く違うイベントです。その違いを理解し今から本番のイベーじしておくことが大切です。
9回目	「HOM本番終わっての感想および来年に向けての未来会議」 反省はいりません。何を感じた、それで今後どうしたらより良いものになるかが大切です。
10回目	「We are!に向けて自分たちのやってみたいことを考える」 1年間の集大成。自分たちで考えイベントまでに組み立てができるかやってみます。
11回目	「2年生になる前に仕事のこと、自分のこと、将来のことについて考える」 来年は就職、今一度仕事のこと自分のことを考える時間にしましょう。
12回目	「We are本番終わっての感想および来年に向けての未来会議」 反省はいりません。何を感じた、それで今後どうしたらより良いものになるかが大切です。
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	講義だけでは絶対にスキルは身につけません。外の現場に積極的に出て、スキルアップを目指して行きます。 *実学教育
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	コンサート制作は決まったテキストやこれを覚えておけば必ずできる！！といった職種ではなく、普段からの気遣いやコミュニケーションなど生活に直結したことが結局、仕事に繋がってゆきます。挨拶や言葉遣い、電話の掛け方、メールの送り方など社会人として必要なスキルを身につけながら、専門知識を養ってゆけば良いと思います。一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
実際に使用したコンサートでの資料など(横山が現場で使用したもの)を授業でも使用していきます。	

科目名 (英)	カメラワークベーシック I (Camera work basic I)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	石田尚之
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・商業音楽科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
				曜日・時限	月曜 前期1.2限		
【授業の学習内容】 映像制作ハンドブックの内容を全て理解する事が重要です。 映像制作専門用語を理解し、本講義終了時には全て説明できるようになる。 映像作品を制作する上で必要な機材を選択し、全ての機材を使いこなす技術を習得します。 <講師プロフィール> ※実務経験：1985年4月～1994年12月まで(株)映像ボックス勤務。1995年1月 石田撮影事務所設立。各種TV番組、CM、ドキュメンタリー映画等を撮影。							
【到達目標】 各自が撮影機材の性能を理解し、撮影内容に合わせた機材選択、セッティング技術を習得する。 ミュージカル『Hospital Of Miracle』をマルチカメラ収録する技術を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	① 使用機材説明
2回目	② 三脚の調整方法
3回目	③ カメラ各種スイッチ類説明
4回目	④ 画角・絞りと被写界深度
5回目	⑤ 色温度について
6回目	⑥ ホワイトバランス調整
7回目	⑦ タイムコード説明
8回目	⑧ 画面サイズ説明
9回目	⑨ 映像制作の流れ
10回目	⑩ ズーム・パン・ティルト説明
11回目	⑪ カメラ使用実習
12回目	⑫ 音声機材説明
13回目	⑬ マルチカメラシステム セッティング実習
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	卒業制作は学校で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	この世の中で起きていること全てが、映像制作のヒントになります。 世界動向や各自の身の回りで起きていることを、常に把握してください。
【使用教科書・教材・参考書】 映像制作ハンドブック	

科目名 (英)	カメラワークベーシックⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	石田尚之
	(Camera work basicⅡ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・商業音楽科					曜日・時限	月曜 前期1.2限
【授業の学習内容】 映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている実例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。 <講師プロフィール> ※実務経験：1985年4月～1994年12月まで(株)映像ボックス勤務。1995年1月 石田撮影事務所設立。各種TV番組、CM、ドキュメンタリー映画等を撮影。							
【到達目標】 各自が撮影機材の性能を理解し、撮影内容に合わせた機材選択、セッティング技術を習得する。 ミュージカル『Hospital Of Miracle』をマルチカメラ収録する技術を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	前期復習 質疑応答
2回目	マルチカメラシステムセッティング実習
3回目	カムコーダー使用実習
4回目	屋外撮影実習
5回目	ポケットシネマカメラ使用実習
6回目	ジンバル セッティング実習
7回目	ズーミング実習
8回目	パン・ティルト実習
9回目	ミュージカル作品研究
10回目	カメラ練習①
11回目	カメラ練習②
12回目	カメラテスト
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	卒業制作は学校で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	この世の中で起きていること全てが、映像制作のヒントになります。 世界動向や各自の身の周りで起きていることを常に把握することが必要です。
【使用教科書・教材・参考書】 映像制作ハンドブック	

科目名 (英)	映像制作Basic I (Video Production Basic I)	必修 選択	選択必修	年次	1.2	担当教員	白瀬隆之
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・商業音楽科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜/4、5限
【授業の学習内容】 映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている事例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。 <講師プロフィール> ※実務経験：CM編集、MV制作、VP映像編集を行っており、現在は広告代理店で勤務しながらディレクションからプロモーションも行う。							
【到達目標】 学生がそれぞれに、作りたいイメージしているものを一つの作品ができるようになる。様々な動画工程を学びながら、自分の得意不徳を見極め、将来の目標を見出せるような環境を作っていく。□ <input type="checkbox"/>							

授業計画・内容	
1回目	映像の基礎知識①
2回目	映像理論①（映像構成の仕組み）
3回目	映像理論②（4コマ漫画を描いて、ストーリーの作り方を学ぶ）
4回目	映像理論③（映画の構成分析）
5回目	映像理論④（オリジナルのシナリオ作成）
6回目	映像企画①（企画、コンセプトの考え方）
7回目	映像企画②（字コンテ・絵コンテの書き方）
8回目	映像制作①（チーム編成をし、作りたいものを決める）
9回目	映像制作②（企画、コンセプトを考える）
10回目	映像制作③（絵コンテづくり・撮影準備）
11回目	映像制作④（撮影）
12回目	映像制作⑤（編集）
13回目	映像制作⑥（編集～完成）
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	連続性のある授業なので、欠席しないように心がけてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	映像制作Basic II (Video Production Basic II)	必修 選択	選択必修	年次	1.2	担当教員	白瀬 隆
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・商業音楽科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜/4、5限
【授業の学習内容】 映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている事例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。 <講師プロフィール> ※実務経験：CM編集、MV制作、VP映像編集を行っており、							
【到達目標】 劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	映像制作(チーム編成をし、作りたいものを決める)
2回目	映像制作(企画、コンセプトを考える)
3回目	映像制作(絵コンテづくり・撮影準備)
4回目	映像制作(撮影)
5回目	映像制作(編集)
6回目	映像制作(編集～完成)
7回目	映像制作(企画、コンセプトを考える)
8回目	映像制作(絵コンテづくり・撮影準備)
9回目	映像制作(撮影)
10回目	映像制作(編集)
11回目	映像制作(編集)
12回目	映像制作(編集～完成)
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	連続性のある授業なので、欠席しないように心がけてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	映像編集ベーシックⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	田北 志織
	(Video Editing Basic Ⅱ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・商業音楽科					曜日・時限	水曜、3・4時限目

【授業の学習内容】

映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている事例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。
 <講師プロフィール>
 CM・TV番組・VPなどのエディターを行い、現在は福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校で勤務。

【到達目標】

映像制作を「仕事」として関わっていく者として、技術は元より、心構え等の仕事として映像を作れる人材になる。
 <具体的な目標>
 目標① Adobe Premire Pro の基本編集が習得できる。
 目標② Adobe After Effects の基本編集が習得できる。
 目標③ 映像制作者としてのスキルと考え方を身につける。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 生徒と担当教員の自己紹介・授業の目的、評価基準の説明、到達目標の確認。(映像制作における「編集」の役割を知る)
2回目	(目標①)Adobe Premire Pro の初期設定ができる
3回目	(目標③)プロジェクトデータの作り方を学んで構築出来る
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク①
6回目	(目標①)Adobe Premire Pro の初期設定の復讐と基本編集及びショートカットキーを習得出来る②(タイムライン編集+エフェクト)
7回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク②(Adobe After Effects を使用して制作された物を中心とする)
8回目	(目標②)Adobe After Effects の初期設定ができる
9回目	(目標③)プロジェクトデータに「Adobe After Effects」のデータを追加して構築出来る
10回目	(目標②)Adobe After Effects の初期設定の復讐と基本編集及びショートカットキーを習得出来る①(基本加工①)
11回目	(目標②)Adobe After Effects の初期設定の復讐と基本編集及びショートカットキーを習得出来る②(基本加工②)
12回目	(目標①)Adobe Premire Pro の初期設定の復讐と基本編集及びショートカットキーを習得出来る③(タイムライン編集+エフェクト+音編集①)
13回目	(目標①)Adobe Premire Pro の初期設定の復讐と基本編集及びショートカットキーを習得出来る③(タイムライン編集+エフェクト+音編集②)
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業

準備学習
時間外学習

卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。
 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。

評価方法

- 出席率 30%
- 受講態度 30%
- 【到達目標に対する達成度】 40%

受講生への
メッセージ

映像制作に欠かせない「編集」を学ぶ授業です。編集ソフトの技能習得は元より、チームで制作するのに欠かせないコミュニケーションやデータ管理スキル、個人のセンスや感性もとても大切です。日頃からアンテナを立てて生活して、授業で学んだ事を復習・反復学習する為に体調管理には気をつけて、欠席しないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

科目名 (英)	映像編集ベーシックⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	田北 志織
	(Video Editing Basic Ⅱ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・商業音楽科					曜日・時限	水曜、3・4時限目

【授業の学習内容】

映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている実例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。

<講師プロフィール>

CM・TV番組・VPなどのエディターを行い、現在は福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校で勤務。

【到達目標】

映像制作を「仕事」として関わっていく者として、技術は元より、心構え等の仕事として映像を作れる人材になる。

<具体的な目標>

- 目標① Adobe Premire Pro の基本編集が習得できる。
- 目標② Adobe After Effects の基本編集が習得できる。
- 目標③ 映像制作者としてのスキルと考え方を身につける。

授業計画・内容

1回目	(目標③)夏季課題発表
2回目	(目標①)Adobe Premire Pro の初期設定の復習と基本編集及びショートカットキーを習得出来る④(タイムライン編集+エフェクト+音編集)
3回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク③(Adobe After Effects を使用して制作された物を中心とする)
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	(目標②)Adobe After Effects の初期設定の復習と基本編集及びショートカットキーを習得出来る④(基本加工④)
6回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク④(卒業進級制作について考える)
7回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことが出来る。①
8回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことが出来る。②
9回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことが出来る。③
10回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことが出来る。④
11回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことが出来る。⑤
12回目	作品発表&講評
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	映像制作に欠かせない「編集」を学ぶ授業です。編集ソフトの技能習得は元より、チームで制作するのに欠かせないコミュニケーションやデータ管理スキル、個人のセンスや感性もとても大切です。日頃からアンテナを立てて生活して、授業で学んだ事を復習・反復学習する為に体調管理には気をつけて、欠席しないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	レコーディングベーシック I (Recording Basic I)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	森脇 正太郎
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・エンターテイメント科(レコーディング専攻者)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜(3,4限)
【授業の学習内容】 レコーディング技術を学ぶとともに、音や楽器に関する様々な知識を知り、より良い音を再現できる技術を学びます。							
<講師プロフィール> イナズマ戦隊、ばってん少女隊などのライブレコーディングでエンジニアを務める。福岡のテレビ局で音響効果、MAエンジニアとしても活躍。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響&ライブレコーディングを行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 様々な音響機器の使用方法を理解した上で、ミュージシャン自身で楽曲を録音・編集出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	レコーディングスタジオの使用方法について その1 (電源の入れ方やミキサーの使い方など)
2回目	レコーディングスタジオの使用方法について その2 (実際にマイクを立てて録音)
3回目	レコーディングスタジオの使用方法について その3 (録音した音源の編集)
4回目	楽器のレコーディング その1 (ドラム)
5回目	楽器のレコーディング その2 (キーボード、ベース)
6回目	楽器のレコーディング その3 (ボーカル、ギター)
7回目	楽器のレコーディング その4 (その他)
8回目	楽曲のミックスダウン (今まで録音したものの編集)
9回目	半田ごてを使用したケーブル作り
10回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その1
11回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その2
12回目	楽曲のミックスダウン (今まで録音したものの編集)
13回目	実技テスト
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学 習	Pro Tools 知識
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	ミュージシャンもレコーディング知識を学び、多方面で活躍できるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	レコーディングベーシックⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	森脇 正太郎
	(Recording Basic Ⅱ)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデューサー科・スーパー・エンターテイメント科(レコーディング専攻者)						
【授業の学習内容】							
レコーディング技術を学ぶとともに、音や楽器に関する様々な知識を知り、より良い音を再現できる技術を学びます。							
<講師プロフィール> イナズマ戦隊、ぱってん少女隊などのライブレコーディングでエンジニアを務める。福岡のテレビ局で音響効果、MAエンジニアとしても活躍。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響&ライブレコーディングを行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】							
様々な音響機器の使用方法を理解した上で、ミュージシャン自身で楽曲を録音・編集出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その1
2回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その2
3回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その3
4回目	楽曲のミックスダウン(今まで録音したものの編集)
5回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その1
6回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その2
7回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その3
8回目	楽曲のミックスダウン(今まで録音したものの編集)
9回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その1
10回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その2
11回目	楽曲のミックスダウン(今まで録音したものの編集)
12回目	実技テスト
13回目	We are FSM 卒業進級制作展 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作展 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作展 本番
準備学習 時間外学 習	Pro Tools 知識
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	ミュージシャンもレコーディング知識を学び、多方面で活躍できるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名(英)	レコーディングセオリー I (Recording Theory I)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	濱本真澄
学科・コース	音楽プロデューサー科・スーパーエンターテイメント科(レコーディング専攻者)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日 2限
【授業の学習内容】 あらゆる録音形態を駆使したレコーディング実習を通して、音楽制作・スタジオエンジニアの実務応用技術を習得します。 <講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。							
【到達目標】 レコーディングスタジオで使用される機材(SSLコンソール、マイクロフォン、アウトボード類)に慣れ、使用出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	スタジオ作業の流れ
2回目	コンソールの基本知識①
3回目	コンソールの基本知識②
4回目	マイク基本知識①
5回目	マイク基本知識②
6回目	ステレオマイキング
7回目	エフェクター(EQ)
8回目	エフェクター(Comp)
9回目	エフェクター(Gate)
10回目	エフェクター(リバープ)
11回目	エフェクター(ディレイ)
12回目	エフェクター(モジュレーション)
13回目	エフェクター(モジュレーション)
14回目	9月特別講義
15回目	9月特別講義
準備学習 時間外学習	Pro Tools 知識。
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	レコーディングを行うための基礎知識から学びます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名(英)	レコーディングセオリー II (Recording Theory II)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	濱本真澄
学科・コース	音楽プロデューサー科・スーパーエンターテインメント科(レコーディング専攻者)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日 2限
<p>【授業の学習内容】 あらゆる録音形態を駆使したレコーディング実習を通して、音楽制作・スタジオエンジニアの実務応用技術を習得します。</p> <p><講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。</p>							
<p>【到達目標】 レコーディングスタジオで使用される機材(SSLコンソール、マイクロフォン、アウトボード類)に慣れ、使用出来るようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	Protools基本① Protoolsとコンソール等のつながり
2回目	Protools基本② レコーディング1
3回目	Protools基本③ レコーディング2
4回目	Protools基本④ エディット1
5回目	Protools基本⑤ エディット2
6回目	Protools基本⑥ Plug-In Effect1
7回目	Protools基本⑦ Plug-In Effect2
8回目	Protools基本⑧ ミックス1
9回目	Protools基本⑨ ミックス2
10回目	素材を使っのミックス①
11回目	素材を使っのミックス②
12回目	年間まとめ 実技テスト
13回目	We are FSM 卒業進級制作
14回目	We are FSM 卒業進級制作
15回目	We are FSM 卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	Pro Tools 知識。
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	レコーディングを行うための基礎知識から学びます。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p>	

科目名(英)	レコーディングセオリー I (Recording Theory I)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	濱本真澄
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日 2限
<p>【授業の学習内容】 あらゆる録音形態を駆使したレコーディング実習を通して、音楽制作・スタジオエンジニアの実務応用技術を習得します。</p> <p><講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。</p>							
<p>【到達目標】 レコーディングスタジオで使用される機材(SSLコンソール、マイクロフォン、アウトボード類)に慣れ、使用出来るようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	スタジオ作業の流れ
2回目	コンソールの基本知識①
3回目	コンソールの基本知識②
4回目	マイク基本知識①
5回目	マイク基本知識②
6回目	ステレオマイキング
7回目	エフェクター(EQ)
8回目	エフェクター(Comp)
9回目	エフェクター(Gate)
10回目	エフェクター(リバーブ)
11回目	エフェクター(ディレイ)
12回目	エフェクター(モジュレーション)
13回目	エフェクター(モジュレーション)
14回目	9月特別講義
15回目	9月特別講義
準備学習 時間外学習	Pro Tools 知識。
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	レコーディングを行うための基礎知識から学びます。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p>	

科目名(英)	レコーディングセオリーⅡ (Recording TheoryⅡ)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	濱本真澄
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日 2限
<p>【授業の学習内容】 あらゆる録音形態を駆使したレコーディング実習を通して、音楽制作・スタジオエンジニアの実務応用技術を習得します。</p> <p><講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。</p>							
<p>【到達目標】 レコーディングスタジオで使用される機材(SSLコンソール、マイクロフォン、アウトボード類)に慣れ、使用出来るようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	Protools基本① Protoolsとコンソール等のつながり
2回目	Protools基本② レコーディング1
3回目	Protools基本③ レコーディング2
4回目	Protools基本④ エディット1
5回目	Protools基本⑤ エディット2
6回目	Protools基本⑥ Plug-In Effect1
7回目	Protools基本⑦ Plug-In Effect2
8回目	Protools基本⑧ ミックス1
9回目	Protools基本⑨ ミックス2
10回目	素材を使っのミックス①
11回目	素材を使っのミックス②
12回目	年間まとめ 実技テスト
13回目	We are FSM 卒業進級制作
14回目	We are FSM 卒業進級制作
15回目	We are FSM 卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	Pro Tools 知識。
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	レコーディングを行うための基礎知識から学びます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ミュージックセオリー II	選択 必修	必修	年次	1	担当教員	株式会社国際エジュケーションズ
	(Music Theory II)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	
学科・コース	音楽プロデューサー科・スーパー・エンターテインメント科(アーティスト・作曲専攻者)						
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 コード理論を学ぶにあたって、楽曲分析や作曲など創作に必要な知識を得る。							

授業計画・内容	
1回目	<マイナースケール> マイナースケールの仕組み、5度圏を用いてナチュラルマイナーの説明
2回目	<マイナースケール> ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの説明
3回目	<近親調> 各調の関係を楽譜を用いて知る
4回目	<移調> 5線を用いて移調をできるようになる
5回目	<奏法> 省略記号、奏法記号、装飾記号を知る
6回目	確認テスト
7回目	<トライアド> コードの概念とトライアドの構造について知る
8回目	<7thコード> トライアドの知識を踏まえ7thコードに発展させる
9回目	<dim7と7thコードの復習> トライアドと7thコードの響きの違いを曲を用いて知る。dimコードの構造と響き
10回目	<その他のコード> add9,sus4,6thコードについて知る
11回目	期末予備テスト
12回目	期末テスト
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	コードについてのプリントで宿題がです。
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	コードについて学ぶことは全ての演奏者にとって大切なことです。頑張りましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 ミュージックセオリー教科書、ワークブック、プリント	

科目名 (英)	ミュージックセオリーⅢ	選択 必修	必修	年次	2	担当教員	株式会社国際エジュケーションズ
	(Music TheoryⅢ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデューサー科・スーパー・エンターテイメント科(アーティスト・作曲専攻者)						
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 メジャーダイアニックコードからマイナーダイアニックコードまでと、マイナーキーにおけるケーデンスまで。							

授業計画・内容	
1回目	<メジャーダイアニックコード>ダイアニックコードについて、コードネームとディグリーネームを書けるようにする
2回目	<メジャーダイアニックコードの機能>各機能の意味を知る、主要和音。代理和音について
3回目	<ケーデンス>終止形、ドミナントモーション、ⅡⅤ、セカンダリードミナント、偽終始について
4回目	<転回形>転回形の表記方法 ト音記号を用いた簡単なヴォイスिंग
5回目	<ヴォイスिंग、複合拍子>ケーデンスを実際に5線紙に書いてみる、8分の6拍子について詳しく学ぶ
6回目	中間テスト
7回目	<マイナーダイアニックコード>マイナーダイアニックコードの仕組み
8回目	<マイナーダイアニックコード>ハーモニックマイナー、メロディックマイナーのダイアニック
9回目	<マイナーダイアニックコードの機能>マイナーコードが持つ機能について知る
10回目	<ヴォイスिंग>マイナーキーにおけるケーデンスについて知る
11回目	<スコアリーディング>楽譜と音源を用いて後半の総復習
12回目	予備テスト
13回目	期末テスト
14回目	ミュージカル演習 リハ
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学 習	基本的になし
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	どんどん難かしくなりますが、一緒に頑張りましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 ミュージックセオリー教科書、ワークブック、プリント	

科目名 (英)	ミュージックセオリーⅣ	選択 必修	必修	年次	2	担当教員	株式会社国際エジュケーションズ
	(Music TheoryⅣ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデューサー科・スーパー・エンターテインメント科(アーティスト・作曲専攻者)						
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 テンションの入るコード・ノンダイアトニックコードの入るコード進行の分析などが行えるようになる コード進行とスケールの関係を理解する							

授業計画・内容	
1回目	<ノンコードトーン>ノンコードトーン(経過音、刺繍音、掛留音、先取音、逸音)
2回目	<テンション>テンションの種類、コード使用可能テンション
3回目	<テンションリゾルブ>テンションの解決法、Omitの意味
4回目	<アベイラブルノートスケール>コードトーン、テンション、阿保井戸ノートについて、スケールの使い方について
5回目	<その他のスケール>マイナーのアベイラブルの紹介、ドミナントスケール、その他のスケール
6回目	中間テスト
7回目	<代理コード>メジャー、マイナーのダイアトニックコードの代理コードを中心にダイアトニック外の代理コードも知る
8回目	<クリシェ、バッシング、定番コードパターン>クリシェ、バッシングコードの手法を学び、コードパターンを発展させる
9回目	<転調>転調のパターンを知り、実践する
10回目	<アナライズ>楽譜を用い、総復習を行う
11回目	予備テスト
12回目	期末テスト
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	基本的になし
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	2年間の集大成です、頑張りましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】 ミュージックセオリー教科書、ワークブック、プリント	

科目名 (英)	イヤートレーニングⅡ (Ear TrainingⅡ)	選択 必修	必修	年次	1	担当教員	株式会社国際エジュケーションズ
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・エンターテイメント科(アーティスト・作曲専攻者)						
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 コードを聞きとる力、メロディを書きとる力を養い、実践に生かすこと。							

授業計画・内容	
1回目	<マイナースケール> リズム総復習、マイナーメロディの視唱、音程ドリル、メジャー、マイナーの聞き分け
2回目	<マイナースケール> リズム、3連譜の導入、メロディ復習C～Gまで、Cマイナースケールのメロディ視唱、コードC,F,Gの聞き分け
3回目	<近親調> リズムC,F,Gコード付け導入、後付け、メロディC～Aまでの臨時記号後付け、マイナースケールのメロディ視唱、音程ドリル
4回目	<移調>リズム 16分8分16分の導入、メロディC～Aまで臨時記号後付け、音程ドリル復習
5回目	<奏法> リズム符点8分16分の導入、タイの導入、後付け、メロディC～Bまで臨時記号後付け、音程ドリル復習
6回目	<中間テスト>
7回目	<コード> リズム復習、メロディ低音部の書きとり、音程ドリル復習メジャーマイナーの聞き分け
8回目	<コード4和音> リズム8分の6拍子、8分16分16分の導入、低音部の書きとり、音程ドリル復習
9回目	<Dim7と7thコード復習> リズム16分休符の導入、8分の6拍子、16、16、8分の導入、2声メロディ聞きとり
10回目	<その他のコード> 復習リズム打ち8分の6拍子、3連譜の導入、2声メロディ、音程ドリル復習
11回目	<期末テスト予備>
12回目	<期末テスト>
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	特にはなし
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	慣れるとどんどんできます、お楽しみに！
【使用教科書・教材・参考書】 プリント	

科目名 (英)	イヤートレーニングⅢ (Ear TrainingⅢ)	選択必修	選択必修	年次	2	担当教員	株式会社国際エジュケーションズ
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース		音楽プロデュース科・スーパー・エンターテイメント科(アーティスト・作曲専攻者)					
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 Et I、IIをふまえて2声メロディ、ハーモニー、1、3、4、5、6、7、8、度音程、コード進行、タイ、臨時記号付きなどより難易度が高い聴きとり、書きとりをできるようにすること。							

授業計画・内容	
1回目	リズム4分の4、4分の3拍子の聴きとり、8分の6拍子のリズム打ち。メロディ1オクターブと2声メロディ書きとり。
2回目	リズム打ち8分の6拍子、メロディは1オクターブ+低音B、Cmの聴きとり、2声ハーモニーの導入、3度音程のハーモニー練習、I IV Vの進行
3回目	リズム4分の4、4分の3のタイ付き、8分の6書きとり、2声ハーモニーと3度の音程、I IV Vの進行その②
4回目	リズム4分の4、4分の3に16分音符の導入、メロディは1オクターブ+低音A、Amでのメロディ聴きとり、トライトーンハーモニーの練習
5回目	リズム4分の4、4分の3に16分音符、タイの導入、メロディは2オクターブ+低音A、Amでのメロディ聴きとり、2声ハーモニーの練習
6回目	中間テスト
7回目	リズム4分の4、4分の3、8分の6、メロディはKeyF、2声。ハーモニーの復習、コードII V Iの聴きとり
8回目	8分の6、タイ付きリズム導入、メロディはKeyF、2声メロディ、ハーモニー復習
9回目	リズムはそれぞれにタイと符点付き、メロディは16分音符を導入、2声ハーモニーはオクターブとユニゾンの練習
10回目	タイ付きリズム書きとり、2声ハーモニーの復習
11回目	総合復習
12回目	期末テスト予備
13回目	期末テスト
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	基本的になし
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	より専門的なお勉強です。基礎をしっかり学びましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 プリント	

科目名 (英)	イヤートレーニングⅣ	選択 必修	選択 必修	年次	2	担当教員	株式会社国際エジュケーションズ
	(Ear TrainingⅣ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデューサー科・スーパー・エンターテイメント科(アーティスト・作曲専攻者)						
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 スコアをみた段階で歌えたり、コード進行を考えたり、自分の音楽に対して有効な基礎を生集大成。							

授業計画・内容	
1回目	リズム 4分の4、4分の3、8分の6拍子復習、メロディはKEY=G。8分の6メロディ視唱、2声メロディは16分3連譜導入
2回目	リズム4分の4、4分の3、8分4分8分の導入、この週から8分の6はメロディ問題と統合、2声メロディ、ハーモニー復習、コード聞き分け
3回目	リズム4分の4、4分の3、メロディ聞き分け、視唱、コードⅡⅤⅠの聞き分け
4回目	リズム4分の4、4分の3、16分、符点8分の導入、8分の6メロディ聞きとり、2声ハーモニー復習、コードⅥを含む聞き分け
5回目	リズム4分の4、復習、4分の3、16分8分の6メロディ聞き分け、視唱、KEY=Gの聞き取り、コードⅡⅤⅠ聞き分け
6回目	中間テスト
7回目	タイ付きリズム導入、2拍程度の短いフレーズで8分の6拍子、KEY=Fメロディ、2声メロディ復習、2声ハーモニー復習
8回目	リズム4分の4、4分の3、符点4分8分の導入、16分8分の6復習、視唱、KEY=F復習、オクターブとユニゾンのハーモニー練習
9回目	スコアリーディング
10回目	総合復習
11回目	予備テスト
12回目	テスト
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	基本的になし
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	2年間の集大成です。プロへの道としてしっかり学びましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】 プリント	

科目名 (英)	DTM	必修 選択	必修 選択	年次	1年後期	担当教員	向野 友規
	(DTM)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデューサー科・プロミュージシャン科・スーパー・エンターテイメント科					曜日・時限	月1限・2限・火2限

【授業の学習内容】

楽曲制作を行う為に必要なLogic Proの操作方法を学びます。

<実務者経験>

「もち浜ストア」テーマソング、アニメーション劇伴、テレビCM曲、アーティストへの楽曲提供など。トラックメイカーとして活動中。

【到達目標】

- 上半期を通して簡単なオリジナル曲を作ることが目標です。最後の授業ではオリジナル曲をみんなの前で発表してもらいます。
- 編集ウィンドウを理解出来るようになる
- コピー&ペーストなどのLogicの基本操作を理解できるようになる
- オーディオインターフェイスを使用、レコーディングできるようになる
- MIDIでのレコーディングができるようになる

授業計画・内容	
1回目	■プロジェクトの立ち上げ、保存 ■バウンス
2回目	■MIDIとオーディオについて ■オーディオインターフェース、MIDIキーボードでのレコーディング
3回目	■基本的な操作方法を学びながら、ソフトウェア音源とオーディオを組み合わせた短い曲を作る (1/2)
4回目	■基本的な操作方法を学びながら、ソフトウェア音源とオーディオを組み合わせた短い曲を作る (2/2)
5回目	■データの送受信(AirDrop、ギガファイル便) ■パラアウト
6回目	■Logicの詳細なウィンドウなど ■コントロールバーとディスプレイのカスタマイズ ■トラックスタック
7回目	■キーコマンドの変更方法 ■ソロツール、ミュートツールなど
8回目	■Logic付属のインストゥルメントについて ■即戦力になる音源の紹介 ■テンプレートの作り方
9回目	■エフェクト初級① イコライザー
10回目	■エフェクト初級② リバーブ、ディレイ
11回目	■エフェクト初級③ コンプレッサー
12回目	■シンセサイザーの基本について理解できる(1/2) ■基本の波形の種類、音色の違いについて
13回目	■サンプリング (Sampler & Quick Sampler) や逆再生など、オーディオに関するテクニックを用いてトラック制作
14回目	■音色変化が効果的なエフェクトやエフェクトのオートメーションを使用しトラック制作
15回目	■サイドチェーン(サイドチェーンコンプ、ボコーダー)を使用しトラック制作
準備学習 時間外学習	DAWは音楽を皆さんのやりたい音楽を形にするためのツールです。そのために音楽の3大要素である「メロディ」「リズム」「ハーモニー」を他の授業でしっかりと学んでください。また、DAW=楽器です。毎日触らないと腕が落ちてしまうので、自宅でも毎日触る時間を作ってください。
評価方法	■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に制作する作品の完成度 ■受講態度(主に出席・遅刻など)
受講生への メッセージ	スポーツでいうと基礎体力を作るための「筋トレ」や「走り込み」に当たるフェーズです。ここで勉強したことは、これから先自分がやりたい音楽の制作に必ず役立てくれるので、一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
Macbook.Logic Pro X	

科目名 (英)	DAWオペレーション I (DAW Operation I)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	Yuzen
学科・コース	音楽プロデューサー科・スーパーエンターテインメント科(アーティスト・作曲専攻者)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜1限
【授業の学習内容】 最先端のサウンド作り出すための、リズムトラック制作・エフェクトを使った音色加工を学びます。							
<講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 エフェクターの種類と使用法を学ぶ							

授業計画・内容	
1回目	モジュレーション系 エフェクター 「コーラス」について
2回目	モジュレーション系 エフェクター 「フェイザー」について
3回目	モジュレーション系 エフェクター 「フランジャー」について
4回目	モジュレーション系 エフェクター 「トレモロ」について
5回目	コンプレッサーについて①
6回目	コンプレッサーについて②
7回目	コンプレッサーについて③
8回目	リミッター/マキシマイザー/エキサイター/エンハンサー①
9回目	リミッター/マキシマイザー/エキサイター/エンハンサー②
10回目	ピッチ系エフェクトについて①
11回目	ピッチ系エフェクトについて②
12回目	ピッチの修正について
13回目	課題制作
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	課題曲の音源、譜面等の事前確認をしておく事
評価方法	各授業内で行う実技チェック(ミニテスト)の期間中の平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	DAWオペレーションⅡ (DAW Operation II)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	Yuzen
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーエンターテイメント科(アーティスト・作曲専攻者)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜1限
【授業の学習内容】 最先端のサウンド作り出すための、リズムトラック制作・エフェクトを使った音色加工を学びます。							
<講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 エフェクターの種類と使用法を学ぶ							

授業計画・内容	
1回目	効果的なサンプル音源の使用について①
2回目	効果的なサンプル音源の使用について②
3回目	効果的なサンプル音源の使用について③
4回目	Logicのミキサー機能を有効に使う①
5回目	Logicのミキサー機能を有効に使う②
6回目	プラグインエフェクト①
7回目	プラグインエフェクト②
8回目	プラグインエフェクト③
9回目	リファレンスを用いて、楽曲のミキシングとエフェクト処理①
10回目	リファレンスを用いて、楽曲のミキシングとエフェクト処理②
11回目	リファレンスを用いて、楽曲のミキシングとエフェクト処理③
12回目	リファレンスを用いて、楽曲のミキシングとエフェクト処理④
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	課題曲の音源、譜面等の事前確認しておく事
評価方法	各授業内で行う実技チェック(ミニテスト)の期間中の平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	DAWオペレーションⅢ (DAW OperationⅢ)	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	Yuzen
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーエンターテインメント科(アーティスト・作曲専攻者)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 最先端のサウンド作り出すための、リズムトラック制作・エフェクトを使った音色加工を学びます。							
<講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 年代・ジャンル別のヒット曲を分析する力を養い、時代に即したトラックの作成や音色加工方法を学びます。							

授業計画・内容	
1回目	リズムトラックとサウンド傾向・楽曲分析①「課題曲はその時のチャートによります」
2回目	リズムトラックとサウンド傾向・楽曲分析②「課題曲はその時のチャートによります」
3回目	リズムトラックとサウンド傾向・楽曲分析③「課題曲はその時のチャートによります」
4回目	リズムトラックとサウンド傾向・楽曲分析④「課題曲はその時のチャートによります」
5回目	リズムトラックとサウンド傾向・楽曲分析⑤「課題曲はその時のチャートによります」
6回目	ヒット曲をリファレンスとして楽曲制作とミックスを行ってみる①
7回目	ヒット曲をリファレンスとして楽曲制作とミックスを行ってみる②
8回目	ヒット曲をリファレンスとして楽曲制作とミックスを行ってみる③
9回目	ヒット曲をリファレンスとして楽曲制作とミックスを行ってみる④
10回目	シンセ系のサウンドを研究する①
11回目	シンセ系のサウンドを研究する②
12回目	シンセ系のサウンドを研究する③
13回目	課題制作
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	各授業内で行う実技チェック(ミニテスト)の期間中の平均評価
評価方法	各授業内で行う実技チェック(ミニテスト)の期間中の平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	DAWオペレーションⅣ (DAW OperationⅣ)	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	Yuzen
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーエンターテインメント科(アーティスト・作曲専攻者)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 最先端のサウンド作り出すための、リズムトラック制作・エフェクトを使った音色加工を学びます。							
<講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 年代・ジャンル別のヒット曲を分析する力を養い、時代に即したトラックの作成や音色加工方法を学びます。							

授業計画・内容	
1回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する①
2回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する②
3回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する③
4回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する④
5回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する⑤
6回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する⑥
7回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる①
8回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる②
9回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる③
10回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる④
11回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる⑤
12回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる⑥
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	課題曲の音源、譜面等の事前確認しておく事
評価方法	各授業内で行う実技チェック(ミニテスト)の期間中の平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	メロディーメイキング I	必修 選択	必修 選択	年次	1年前期	担当教員	小山 哲平
	(Melody Making I)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・エンターテインメント科(アーティスト・作曲専攻)						

【授業の学習内容】

メロディの役割や作曲におけるメロディラインの作り方を学びます。各ジャンルでの違いや、コードやスケールとの兼ね合いも合わせて学習します。

<実務者経験>

テレビCM・ドラマ・お芝居などの楽曲制作、吹奏楽コンクールや様々なコンサートで依頼を受け作曲し演奏を行っている。

【到達目標】

コードやスケールとの兼ね合いを理解し、ディスコードなくメロディが作れる。又、そのジャンルにおけるメロディの特徴を作品に組み込むことができる。

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認、音楽の三大要素を理解し、作ったメロディをLogic上に打ち込めるようになる
2回目	調とメロディの役割を理解し、調とあったメロディを作れるようになる
3回目	コードとメロディの関係を理解し、コードに沿ったメロディが作れるようになる(メジャー)
4回目	コードとメロディの関係を理解し、コードに沿ったメロディが作れるようになる(マイナー)
5回目	音源・音色選びについて、Apple Loopを使って作曲する
6回目	一曲を通しての構成を理解し、メロディが作れるようになる
7回目	歌物とinst物の違いを理解し、音域通りのメロディが作れるようになる(歌物)
8回目	オリコンチャート上位の楽曲を聴き、メロディの動きを分析する
9回目	オリコンチャート上位の楽曲を聴き、メロディの動きを分析する
10回目	分析をふまえ、耳に残るメロディの動きと構成を考える
11回目	8bit音源を使っの楽曲制作(耳コピー)
12回目	作詞について 実技テスト
13回目	テストを終えて、後期への課題の明確化と実践
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	楽曲制作をしながら講義の復習を積極的におこなってください。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に行う作品の完成度 ■受講態度(主に出席・遅刻など)
受講生への メッセージ	メロディは作曲をするにあたって最も大切な要素と言っても過言ではありません。耳に残るメロディを目指し、作れるように学習しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
Macbook.Logic Pro X メモを取れる準備をお願いします。又、保存用のHDDやUSBメモリも持参してください。	

科目名 (英)	メロディーメイキングⅡ	必修 選択	必修 選択	年次	1年後期	担当教員	小山 哲平
	(Melody Making Ⅱ)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーエンターテイメント科(アーティスト・作曲専攻者)						
【授業の学習内容】							
メロディーの役割や作曲におけるメロディラインの作り方を学びます。後期では各楽器についての知識を得て、より高度で演奏する楽器や声に沿ったメロディを作れるように学習します。							
<実務者経験> テレビCM・ドラマ・お芝居などの楽曲制作、吹奏楽コンクールや様々なコンサートで依頼を受け作曲し演奏を行っている。							
【到達目標】							
各楽器や声の音域や可能な動きに沿ったメロディを作れるようになる。又、裏メロディを作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認、楽器知識①(その他) 移調楽器、奏法など
2回目	楽器知識②(弦楽器)
3回目	楽器知識③(木管)
4回目	楽器知識④(打楽器)
5回目	楽器知識⑤(金管)
6回目	楽器知識⑥(スコア読解) ※打ち込み
7回目	楽器知識⑦(まとめテスト)
8回目	裏メロディの作り方①(あかとんぼ)
9回目	裏メロディの作り方②(ふるさと)
10回目	メロディ・コードの聴き取り、調の性格について 実技テスト
11回目	BGM制作について①(ゲーム音楽の試聴会)
12回目	BGM制作について②(楽器の特性を生かしたメロディ作り) ブレスタイミング アーティキレーションについて
13回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	楽曲制作をしながら講義の復習を積極的におこなってください。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に行う作品の完成度 ■受講態度(主に出席・遅刻など)
受講生への メッセージ	様々な楽器について知り、触れることはかけがえのない経験と知識となります。積極的に取り組んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	
Macbook.Logic Pro X メモを取れる準備をお願いします。又、保存用のHDDやUSBメモリも持参してください。	

科目名 (英)	楽器演奏基礎 I (Piano)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	田中 華愛
	(Basic Instrumental Technique)	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・エンターテインメント科(アーティスト・作曲専攻者)						
【授業の学習内容】							
<p>ヒット曲にも多い基本のコード進行を使い、アレンジやリズムパターンのレパートリーも増やしていきます。Logicを使いながら、作曲やアレンジに必要なコードの基礎やピアノの役割をしっかりと学びます。この1年間で作曲、アレンジに必要な引き出しを増やします。</p> <p>(講師プロフィール) アーティストの楽曲アレンジやバンドサポート、又CMロゴサウンドや校歌のアレンジ作成、ピアノのBGM演奏など様々なシーンで活躍している講師が、作曲やアレンジに必要なコードやフレーズなどを基礎から教えます。</p>							
【到達目標】							
<p>曲やメロディーをより引き立てるヴォイシングを使うことが出来る 基本のコード進行の中でも更にオリジナリティーのコードアレンジをすることが出来る。 効果的にピアノの音色やフレーズを取り入れることができる。 サンプリングフレーズを作ることが出来る。</p>							

授業計画・内容	
1回目	ダイアトニックスケールと3和音のダイアトニックコードを習得できる。メジャーコードとマイナーコードを理解できる。
2回目	key=Cの3コードを転回形で演奏できる。音符の長さや拍子を理解しリズム伴奏できる。
3回目	3コードを使って楽曲に伴奏スタイルを打ち込むことができる。また楽譜を読み書きすることができる。
4回目	【3コード+1】の進行で流行りの曲を演奏できる。4156進行key=C
5回目	【3コード+1】4156進行を使い、key=Fとkey=Gで伴奏を作ることができる。
6回目	【3コード+1】1564進行と162(4)5進行をkey=B♭とkey=Dで転回形を取り入れて8ビートで伴奏できる。
7回目	【3コード+1】※課題→6451進行を使い決められたサイズの楽曲を作ることができる。及び提出。
8回目	【6254進行】あらゆるヒット曲に多用される6254進行を理解し、key=E♭の第一転回形スタートで8ビートの両手伴奏ができる。
9回目	【6254進行】6254進行をkey=Aの第二転回形スタートで16ビートのバックアップができる。
10回目	【6254進行】6254進行をkey=Eの3連符のハネのリズムで伴奏し、課題曲に合ったヴォイシングを作ることができる。
11回目	4和音のダイアトニックコードで7thコードを習得することができる。
12回目	【4321進行】4和音のヴォイシングの作り方と両手でのハーモニーを習得することができる
13回目	テスト筆記&実技
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	ヒットランキング上位に入った楽曲のコードを使いながら学んでいきます。 また、好きなジャンルだけでなく、ジャンルは問わず幅広く音楽を聴いてください。 学んだことは自分で使うこと！
評価方法	筆記と実技とアレンジ音源提出
受講生への メッセージ	ピアノの授業は1年間しかありません。作曲をする上で鍵盤は必須となりますので、頑張って1年間続けましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
Logicが入ったPCと五線譜は毎回持ってきてください。	

科目名 (英)	楽器演奏基礎 II (Piano)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	田中 華愛
	(Basic Instrumental Technique)	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・エンターテインメント科(アーティスト・作曲専攻者)						
【授業の学習内容】 後期は引き続きヒット曲の参考曲を使用し、ピアノ以外の音色も取り入れながら、さらに自分らしいアレンジができるような伴奏スタイルとハーモニーアレンジを身につけます。 (講師プロフィール) アーティストの楽曲アレンジやバンドサポート、又CMロゴサウンドや校歌のアレンジ作成、ピアノのBGM演奏など様々なシーンで活躍している講師が、作曲やアレンジに必要なコードやフレーズなどを基礎から教えます。							
【到達目標】 曲やメロディーをより引き立てる伴奏パターンやアレンジをすることが出来る。 効果的にピアノの音色やフレーズを取り入れることができる。 ピアノ以外の鍵盤の音色やその楽器に合ったフレーズを作ることが出来る。 テンションノートも取り入れることができる。							

授業計画・内容	
1回目	【456進行】add、sus、dimなどを理解できる。また指定曲にaddやsusを使いシンコペーションで演奏することができる
2回目	【456進行】オルガンの音色で音を繋ぐ奏法や、グリスなどの様々な奏法を習得できる
3回目	【カノンコード】key-Cでカノンコードを習得することができる
4回目	【カノンコード】分数コードを理解できる。トニックペダルやクリシェを理解し演奏することができる
5回目	【カノンコード課題】stringsで伸ばした音やピッチカートのフレーズを作ることができる→課題提出
6回目	ペンタトニックやマイナーペンタトニックスケールを使いシンセでリフを作ることができる
7回目	【Just the two of us進行】key=Cで基本的な進行とヴォイシングを身に付けることができる
8回目	【Just the two of us進行】key=E bで課題曲に合ったヴォイシングとバックアップができる
9回目	【Just the two of us進行】同じ曲サイズで違うアレンジを作ることができる
10回目	独立した旋律でカルテットのハーモニーを作ることができる
11回目	テストと楽曲提出
12回目	授業振り返り
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	音楽の聴き方が変わって来たと思います。 後期はピアノ以外の音色も取り入れて、その楽器に合う伴奏パターンやハーモニーのアレンジなども扱っていきますので、普段から音楽を聴く際に耳を鍛えておいて下さい。
評価方法	アレンジ音源提出
受講生への メッセージ	いよいよ後期になりました。他人と比べる前にしっかり【自分】を活かして、自分にしかできない楽曲を世界に届けていけるよう、後期も学ぶことの楽しさを忘れずに！！ 曲を作るのは0から物を作ること。いつでも多様な材料を出せるように引き出しを沢山準備しておきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 PCと五線譜は毎回持ってきてください。	

科目名 (英)	楽器演奏基礎Ⅲ (DJ)	必修 選択	選択必修	年次	1.2.3	担当教員	Jammy
	(Basic Instrumental TechniqueⅢ)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・エンターテイメント科(アーティスト・作曲専攻者)						
【授業の学習内容】 現場での即戦力となる知識と技術を身につけ、【アーティスト】としての活動に力を入れていく。							
<p><講師プロフィール>国内外でのDJ・オリジナル曲リリースはもちろん、NBAバスケットボールやラグビーでのスポーツDJやCROSSFMでのレギュラーなど活動は多岐にわたる。また、オーガナイザーとしても活動しており、科学館やお寺などでイベントを行い必ず成功させるトータルプロデュースもしている。DJ配信サポートやDJ派遣も担当中。</p>							
【到達目標】 機材に触れ、DJとしての基礎技術を身につける。また、音楽のジャンルについての知識を手に入れる。							

授業計画・内容	
1回目	DJで使う楽曲について・楽曲ダウンロード
2回目	機材に慣れる(機材名称の説明・CUEポイントやBPMのお話・簡単な操作)
3回目	機材に慣れる(ヘッドホンを使ってキック合わせの練習・フェードインやフェードアウトで曲を繋いでみる練習)
4回目	機材に慣れる(ヘッドホンを使ってキック合わせの練習・フェードインやフェードアウトで曲を繋いでみる練習)
5回目	機材に慣れる(楽曲ダウンロード・カットインやカットアウトの練習)
6回目	MIX講座(基本的なMIXの技術を学ぶ・音楽のジャンルのお話)
7回目	MIX講座(基本的なMIXの技術を学ぶ・曲の構成について知る)
8回目	MIX講座(基本的なMIXの技術を学ぶ・曲の構成について知る)
9回目	MIX講座(基本的なMIXの技術・課題曲からランダムに選んでMIX練習)
10回目	MIX講座(基本的なMIXの技術を学ぶ・FXを使ったMIX)
11回目	MIX講座(基本的なMIXの技術を学ぶ・FX・イコライザーを両方使ったMIX)
12回目	シチュエーションを決めて30分MIXを作る
13回目	シチュエーションを決めて30分MIXを作る
14回目	9月特別講義
15回目	9月特別講義
準備学習 時間外学 習	とにかく毎日音楽に触れてみてください。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】30%
受講生への メッセージ	憧れのステージに立っているDJもしっかりと地道な努力をしています。一緒に頑張りましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
Rekordbox(フリーダウンロードソフト)	

科目名 (英)	楽器演奏基礎IV (DJ) (Basic Instrumental TechniqueIV)	必修 選択	選択必修	年次	1.2.3	担当教員	Jammy
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・エンターテイメント科(アーティスト・作曲専攻者)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日3限
【授業の学習内容】 現場での即戦力となる知識と技術を身につけ、【アーティスト】としての活動に力を入れていく。							
<講師プロフィール>国内外でのDJ・オリジナル曲リリースはもちろん、NBAバスケットボールでのスポーツDJやCROSSFMでのレギュラーなど活動は多岐にわたる。また、オーガナイザーとしても活動しており、科学館やお寺などでイベントを行い必ず成功させるトータルプロデュースもしている。DJ配信サポートやDJ派遣も担当中。							
【到達目標】 自身のスタイルを確立させ、フォーカスして自己プロモーション力と配信能力・DJとしての知識を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	前期の復習と課題MIXの添削及び見直し・クラブDJのお話
2回目	シチュエーションを決めたMIX作成・Mixcloudでのアカウント作成
3回目	シチュエーションを決めたMIX作成・録音・ジャケット作成
4回目	シチュエーションを決めたMIX作成・録音・アップロード
5回目	R&B・HIPHOPのMIXトレーニング(クラブDJデビュー前トレーニング)
6回目	Latin・LowbeatのMIXトレーニング(クラブDJデビュー前トレーニング)
7回目	POP・KPOPのMIXトレーニング(クラブDJデビュー前トレーニング)
8回目	HOUSE・EDMのMIXトレーニング(クラブDJデビュー前トレーニング)
9回目	Transitionを使ったMIXテクニック(クラブDJデビュー前トレーニング)
10回目	各ジャンルから3つスタイルを選びスリースタイルDJmixをつくる(クラブDJデビュー前トレーニング)
11回目	各ジャンルから3つスタイルを選びスリースタイルDJmixをつくる(クラブDJデビュー前トレーニング)
12回目	各ジャンルから3つスタイルを選びスリースタイルDJmixをつくる(クラブDJデビュー前トレーニング)
13回目	We are FSM 卒業進級制作
14回目	We are FSM 卒業進級制作
15回目	We are FSM 卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	いつでも現場に出れるように、日々音楽のジャンルについてや雰囲気での選曲ができるようにイメージトレーニングが必要になります。
評価方法	■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】30%
受講生への メッセージ	後半は頑張り次第でどんどん現場活動が多くなります。しっかり出席しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Rekordbox	

科目名 (英)	楽曲分析 I	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	松下一弘 講義内容により講師が変更になる場合があります。
	(Music Analysis I)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	プロミュージシャン科・音楽プロデュース科・スーパー・エンターテイメント科					曜日・時限	火曜日5限 / 金曜日 5限
【授業の学習内容】							
<p>楽曲知識と音楽を聴き分ける力を養うとともに様々な音楽のハーモニー・メロディー・楽曲構成などを分析しながら学びます。 歴史に残る音楽作品やアーティスト、その制作に携わるサポートミュージシャンやそこで使われた技術やアイデアなども紹介します。 ※取り扱うアーティストや楽曲はその時代に合わせた形に変更する場合があります。 ※実務者経験:このクラスでは音楽業界で活躍し、各ジャンルの演奏や歌唱に関しての専門性を持つ講師を招いて開講されます。 代表講師:松下一弘 福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、 クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。</p>							
【到達目標】							
<p>ジャンルごとの覚えておきたいハーモニーの特性・フレーズ・テクニックの習得やリズム感を養う。 有名な楽曲やアーティストを知る事により音楽的な感性を広げる</p>							

授業計画・内容	
1回目	Classic Rockスタイル ①「レジェンドアーティスト①」 参考アーティスト:Led Zeppelin
2回目	Classic Rockスタイル ②「レジェンドアーティスト②」 参考アーティスト:Deep Purple
3回目	Classic Rockスタイル ③「レジェンドアーティスト②」 参考アーティスト:Jimi Hendrix
4回目	Classic Rockスタイル ④「アメリカンロックスタイル」 参考アーティスト:AC/DC,Aerosmith
5回目	Classic Rockスタイル ⑤「アメリカンロックスタイル」 参考アーティスト:Bon Jovi,Journey
6回目	Bluesスタイル ①「シカゴブルース」参考アーティスト:Muddy Waters Koko Tyler
7回目	Bluesスタイル ②「3大ブルースキング①」参考アーティスト:B.B.King,Albert King,Freddie King
8回目	Bluesスタイル ③「テキサスブルース①」参考アーティスト:Albert Collins,Stevie Ray Vaughan
9回目	R&B/Soulスタイル ①「James Brown」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイル、ライブとのアレンジ変更点を学ぶ
10回目	R&B/Soulスタイル ②「Stevie Wonder」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
11回目	R&B/Soulスタイル ③「Marvin Gaye」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
12回目	R&B/Soulスタイル ④「Curtis Mayfield」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
13回目	ミュージカル演習 リハーサル
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	課題曲の音源、譜面等の事前確認をしておく事
評価方法	授業態度 参考楽曲等による習得度の確認
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】	
iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	楽曲分析 Ⅱ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	松下一弘 <small>講義内容により講師が変更になる場合があります。</small>
	(Music Analysis II)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	プロミュージシャン科・音楽プロデューサー科・スーパーエリターメント科					曜日・時限	火曜日5限 / 金曜日 5限
【授業の学習内容】							
<p>楽曲知識と音楽を聴き分ける力を養うとともに様々な音楽のハーモニー・メロディー・楽曲構成などを分析しながら学びます。 歴史に残る音楽作品やアーティスト、その制作に携わるサポートミュージシャンやそこで使われた技術やアイデアなども紹介します。 ※取り扱うアーティストや楽曲はその時代に合わせた形で変更する場合があります。 ※実務者経験:このクラスでは音楽業界で活躍し、各ジャンルの演奏や歌唱に関しての専門性を持つ講師を招いて開講されます。 代表講師:松下一弘 福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、 クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。</p>							
【到達目標】							
<p>ジャンルごとの覚えておきたいハーモニーの特性・フレーズ・テクニックの習得やリズム感を養う。 有名な楽曲やアーティストを知る事により音楽的な感性を広げる</p>							

授業計画・内容	
1回目	Popsスタイル ① 「The Police/Sting」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
2回目	Popsスタイル ② 「Eric Clapton」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
3回目	Popsスタイル ③ 「Carpenters」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
4回目	Popsスタイル ④ 「Michael Jackson」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
5回目	Popsスタイル ⑤ 「Prince」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
6回目	レジェンドアーティストを知る① Rolling Stones
7回目	レジェンドアーティストを知る② Bob Dylan
8回目	レジェンドアーティストを知る③ The Beatles
9回目	レジェンドアーティストを知る④ Aretha Franklin
10回目	レジェンドアーティストを知る⑤ Janis Joplin
11回目	レジェンドアーティストを知る⑥ Bob Marley
12回目	レジェンドアーティストを知る⑦ EW&F
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	課題曲の音源、譜面等の事前確認しておく事
評価方法	毎回の授業内で行う実技チェックの平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】	
iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	楽曲分析 Ⅲ	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	松下一弘 <small>講義内容により講師が変更になる場合があります。</small>
	(Music AnalysisⅢ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	プロミュージシャン科・音楽プロデューサー科・スーパー・エンターテイメント科						
【授業の学習内容】							
<p>楽曲知識と音楽を聴き分ける力を養うとともに様々な音楽のハーモニー・メロディー・楽曲構成などを分析しながら学びます。 歴史に残る音楽作品やアーティスト、その制作に携わるサポートミュージシャンやそこで使われた技術やアイデアなども紹介します。 ※取り扱うアーティストや楽曲はその時代に合わせた形で変更する場合があります。 ※実務者経験:このクラスでは音楽業界で活躍し、各ジャンルの演奏や歌唱に関しての専門性を持つ講師を招いて開講されます。 代表講師:松下一弘 福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、 クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。</p>							
【到達目標】							
<p>ジャンルごとの覚えておきたいハーモニーの特性・フレーズ・テクニックの習得やリズム感を養う。 有名な楽曲やアーティストを知る事により音楽的な感性を広げる</p>							

授業計画・内容	
1回目	Funk & Dance Musicスタイル ① 「Nile Rodgers」プロデューサー・参加楽曲より歌唱・演奏スタイルを学ぶ①
2回目	Funk & Dance Musicスタイル ② 「Nile Rodgers」プロデューサー・参加楽曲より歌唱・演奏スタイルを学ぶ②
3回目	Funk & Dance Musicスタイル ③ 「Tower of Power」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
4回目	Funk & Dance Musicスタイル ④ 「Maceo Parker」の楽曲よりFunk/ダンスミュージックのビート・フィールを学ぶ
5回目	Funk & Dance Musicスタイル ⑤ 「Lettuce」の楽曲よりモダンなダンスミュージックのビート・フィールを学ぶ
6回目	現代のヒットアーティストとルーツミュージック関係性 ① 「Bruno Mars」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
7回目	現代のヒットアーティストとルーツミュージック関係性 ② 「John Mayer」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
8回目	現代のヒットアーティストとルーツミュージック関係性 ③ 「Alicia Keys」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
9回目	HR&HMスタイル ① 「Black Sabbath」の楽曲よりパフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
10回目	HR&HMスタイル ② 「Metallica」「Pantera」の楽曲よりパフォーマンス・サウンドメイク・演奏スタイルを学ぶ
11回目	HR&HMスタイル ③の楽曲よりパフォーマンス・サウンドメイク・演奏スタイルを学ぶ
12回目	AORスタイル ① 「Toto」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
13回目	AORスタイル ② 「Boz Scaggs」「Gino Vannelli」「Steely Dan」の楽曲より歌唱・パフォーマンス・演奏スタイルを学ぶ
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学 習	各授業内で行う実技チェック(ミニテスト)の期間中の平均評価
評価方法	毎回の授業内で行う実技チェックの平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】	
iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	楽曲分析 IV	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	松下一弘 <small>講義内容により講師が変更になる場合があります。</small>
	(Music AnalysisIV)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	プロミュージシャン科・音楽プロデューサー科・スーパー・エンターテイメント科					曜日・時限	火曜日5限 / 金曜日 5限
【授業の学習内容】							
<p>楽曲知識と音楽を聴き分ける力を養うとともに様々な音楽のハーモニー・メロディー・楽曲構成などを分析しながら学びます。 歴史に残る音楽作品やアーティスト、その制作に携わるサポートミュージシャンやそこで使われた技術やアイデアなども紹介します。 ※取り扱うアーティストや楽曲はその時代に合わせた形で変更する場合があります。 ※実務者経験:このクラスでは音楽業界で活躍し、各ジャンルの演奏や歌唱に関しての専門性を持つ講師を招いて開講されます。 代表講師:松下一弘 福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、 クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。</p>							
【到達目標】							
<p>ジャンルごとの覚えておきたいハーモニーの特性・フレーズ・テクニックの習得やリズム感を養う。 有名な楽曲やアーティストを知る事により音楽的な感性を広げる</p>							

授業計画・内容	
1回目	現代のヒットアーティストとルーツミュージック関係性 ④ 「その時代のヒットチャートTop40より選曲」
2回目	現代のヒットアーティストとルーツミュージック関係性 ⑤ 「その時代のヒットチャートTop40より選曲」
3回目	現代のヒットアーティストとルーツミュージック関係性 ⑥ 「その時代のヒットチャートTop40より選曲」
4回目	Bluesスタイルの復習とアイデア①
5回目	Bluesスタイルの復習とアイデア②
6回目	Jazzスタイル ① My Funny Valentine/ Sarah Vaughn Ver
7回目	Jazzスタイル ② My Funny Valentine/ Sarah Vaughn Ver
8回目	PopsスタイルとJazzミュージックの融合「Norah Jones /Don't Know Why」を参考にフォームやリハーモナイズの研究
9回目	R&BスタイルとJazzミュージックの融合「Lidisi/Autumn Leaves」を参考にフォームやリハーモナイズの研究
10回目	R&BスタイルとJazzミュージックの融合「Robert Glasper」①
11回目	R&BスタイルとJazzミュージックの融合「Robert Glasper」②
12回目	R&BスタイルとJazzミュージックの融合「Robert Glasper」③
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	課題曲の音源、譜面等の事前確認しておく事
評価方法	毎回の授業内で行う実技チェックの平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】	
iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	ベースラインコンセプト1	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	丹羽肇
	(Bassline Concepts I)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年 前期
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	木曜 4限

【授業の学習内容】

音楽の3要素であるメロディ・リズム・ハーモニーに対する感性、知識、技能を深めるため五線上の音符やリズム譜に親しむ。ベースを専門分野とするために楽器の各部の知識、音が出る仕組み、メンテナンスの基礎を学習する。ベースラインを構築する為に必要なリズムトレーニング(8ビート系)を学習しリズム譜読み、書き取りを学習する。将来のDTM等の制作時の要求に応えるため読み取った教材のリズムをクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。ベースラインを構築する為に必要なコード(3和音、属7)のコードトーンを学習する。ベースラインを構築する為に必要なメジャースケール、ナチュラルマイナースケールを学習する。ベースラインを構築しアンサンブル中で演奏する為に必要な音楽性を身につけるために楽曲を用いてAメロ・Bメロ・サビ等曲の構成を書きとる方法を学習する。ベースラインに彩りを加えるために必要な経過音の知識・センスを学習する。

【到達目標】

自分の楽器をきちんとした状態で維持できるようになる。カウント、小節数を数えながら楽曲を聴けるようになる。Aメロ・Bメロ・サビ等の楽曲の構成について理解できるようになる。4小節単位・8小節単位の感覚が身につく。コード譜を見てルート音を弾きながら所要に経過音を挿入できるようになる。主に8ビートについて楽曲毎のベースラインの違い、ドラムとのコンビネーションを聞き取れるようになる。将来のDTM等の制作時の要求に応えるため教材にそったベースラインをクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。

授業計画・内容

1回目	エレクトリックベース各部の名称、音が出る仕組みを説明できる。楽器の簡単な健康チェックができる。12個の音の場所が説明できる。
2回目	Cメジャースケールが複数の場所で弾ける。コード譜の8分音符のルート弾きができる① 8ビートのリズムが読める①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
3回目	Cナチュラルマイナースケールが複数の場所で弾ける。コード譜の8分音符のルート弾きができる② 8ビートのリズムが読める②読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
4回目	Cメジャースケールを用いたスケール練習① コード譜の8分音符のルート+5度弾きができる① 8ビートのリズムが読める③読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
5回目	Cメジャースケールを用いたスケール練習② コード譜の8分音符のルート+5度弾きができる② 8ビートのリズムが読める④読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
6回目	Cメジャースケールを用いたスケール練習③ コード譜の8分音符の1+5+7度弾きができる① 8ビートのリズムが読める⑤読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
7回目	Cメジャースケールを用いたスケール練習④ コード譜の8分音符の1+5+7度弾きができる② 8ビートのリズムが読める⑥読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
8回目	Aナチュラルマイナースケールを用いたスケール練習① コード譜の8分音符の1+3+5度弾きができる① 8ビートのリズムが読める⑦読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
9回目	Aナチュラルマイナースケールを用いたスケール練習② コード譜の8分音符の1+3+5度弾きができる② 8ビートのリズムが読める⑧読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
10回目	Aマイナーペンタニックスケールとブルーノートを用いたスケール(ブルーススケール)の練習① コード譜の1+3+5+7弾きができる。8ビートのリズム譜が書き取れる①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
11回目	Aマイナーペンタニックスケールとブルーノートを用いたスケール(ブルーススケール)の練習② コード譜の1+3+5+7弾きができる。8ビートのリズム譜が書き取れる②読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
12回目	Aマイナーペンタニックスケールとブルーノートを用いたスケール(ブルーススケール)の練習③ コード譜のルート弾きをしながら経過音を挿入できる。8ビートのリズム譜が書き取れる③ 読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。到達度確認
13回目	まとめ
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習

準備学習
時間外学習

基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。

評価方法

“授業へ取り組む姿勢(60%)
各課題曲での目標の達成度、実戦度(20%)
自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(20%)”□

受講生への
メッセージ

国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽のノリ(グルーブ)について学び、習得していきます。それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。楽しみましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。
テキスト(4~8小節程度のエクササイズを2種類)。
その他、資料配布。

科目名 (英)	ベースラインコンセプトⅡ (Bassline Concepts II)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	丹羽肇
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年 後期
						曜日・時限	木曜 4限
【授業の学習内容】							
音楽の3要素であるメロディ・リズム・ハーモニーに対する感性、知識、技能を深めるため五線上の音符やリズム譜に親しむ。ベースラインを構築するために必要なリズムトレーニング(16ビート系、3連系)を学習しリズム譜読み、書き取りを学習する。ベースラインを構築するために必要なコード(4和音、属7)のコードトーンを学習する。ベースライン、フィルイン等を構築するために必要なアイオニアン・ドリアン・フリジアン・フリジアンメジャー・リディアン・ミクソリディアン・エオリアン・ロクリアの各スケールを学習する。ベースラインを構築しアンサンブル中で演奏するために必要な音楽性を身につけるために楽曲を用いてAメロ・Bメロ・サビ等曲の構成及びルート音を書きとる方法を学習する。ベースラインに彩りを加えるために必要な経過音の知識・用いる場合の条件等を学習する。重要なコード進行の1つであるツー・ファイブ・ワンについて学習する。将来のDTM等の制作時の要求に応えるため学習した内容ををクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。							
【到達目標】							
カウント、小節数を数えながら楽曲を聴けるようになる。Aメロ・Bメロ・サビ等の楽曲の構成について理解できるようになる。ルート音が聞き取れるようになる。4小節単位・8小節単位の感覚が身につく、リピート、ダル・セーニョ、ダ・カーポ等の譜面の進行も読める。コード譜を見てルート音、3度、5度、7度の音を組み合わせ弾きながら要所に経過音を挿入できるようになる。8ビートに加えて16ビート、3連系について楽曲毎のベースラインの違い、ドラムとのコンビネーションを聞き取れるようになる。メジャー及びマイナーキーのツー・ファイブ・ワンのコード進行のスケール及びアルペジオが弾けるようになる。以上の内容を基に各習得段階に応じた任意の楽曲に沿ってベースラインを作成し将来のDTM等の制作時の要求に応えるためクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。							

授業計画・内容	
1回目	ドリアンスケールの練習① ルート音聞き取り練習① 16ビートのリズムが読める①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
2回目	ドリアンスケールの練習② ルート音聞き取り練習② 16ビートのリズムが読める②読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
3回目	フリジアンスケールの練習 ルート音、構成の聞き取り練習① 16ビートのリズムが読める③読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
4回目	フリジアンメジャースケールの練習 ルート音、構成の聞き取り練習② 16ビートのリズムが読める④読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
5回目	リディアンスケールの練習 ルート音、構成を基に要所のフレーズも加えた簡易的なベース譜の作成練習① 3連系のリズムが読める①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
6回目	ミクソリディアンスケールの練習① ルート音、構成を基に要所のフレーズも加えた簡易的なベース譜の作成練習② 3連系のリズムが読める②読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
7回目	ミクソリディアンスケールの練習② ルート音、構成を基に要所のフレーズも加えた簡易的なベース譜の作成練習③ 16ビートのリズムが書き取れる①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
8回目	エオリアンスケールの練習 ルート音、構成を基に要所のフレーズも加えた簡易的なベース譜の作成練習④ 16ビートのリズムが書き取れる②読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
9回目	ロクリアンスケールの練習 メジャーキーのツー・ファイブ・ワンのスケールの練習 16ビートのリズムが書き取れる③読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
10回目	各種スケール総合練習① メジャーキーのツー・ファイブ・ワンのアルペジオ練習 16ビートのリズムが書き取れる④読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
11回目	各種スケール総合練習② マイナーキーのツー・ファイブ・ワンのスケール練習 3連系のリズムが書き取れる①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
12回目	ダイアトニックスケール及びアルペジオの総合練習 メジャーキー・マイナーキーのツー・ファイブ・ワンの総合練習 到達度確認
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	〚授業へ取り組む姿勢(60%) 各課題曲での目標の達成度、実戦度(20%) 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(20%)〚
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽のノリ(グルーブ)について学び、習得していきます。それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4~8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	ベースラインコンセプトⅢ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	丹羽肇
	(Bassline Concepts Ⅲ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年 前期
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	木曜 3限

【授業の学習内容】

1年次同名授業で習得したダイアトニックスケール及びメジャー、マイナーキーのツー・ファイブ・ワンにおけるスケール及びアルペジオを用いて様々な曲に対応したベースラインを構築・アレンジする方法を実際の曲などから簡易的なベース譜の作成練習を通して学習する。コード進行の基礎となるダイアトニックコードおよび付帯するセカンダリドミナント・リレイテッドⅡm7を暗記して簡易的なベース譜の作成効率を上げる。ディミニッシュコードのコードトーンとスケールと使用法を学習する。オルタードスケールと使用法を学習する。オリジナル曲に対してベースラインを構築する方法を学習する。将来のDTM等の制作時の要求に応えるため構築したベースラインをクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。

(講師プロフィール)

2010年11月、ダズルバ「THE SONG OF STRINGS」発表2012年2月知多出身音楽祭に「ダズルバ」ユニット「ザ・イン・ザ・ベースライン」で出演

【到達目標】

メジャーキーのダイアトニックコード及び付帯するセカンダリドミナント・リレイテッドⅡm7をベースの指板を用いて表にまとめて書けるようになる。ダイアトニックコードのアルペジオ及びメジャー、マイナーキーのツー・ファイブ・ワンのアルペジオが弾ける。曲のコード進行においてルート音、3度、5度、7度等を使用してベースラインを構築できる。構築したベースラインを演奏しながら効果的に経過音を挿入できる。曲のキーに対応したブルーススケールを用いてフィルイン及びベースソロがとれる。曲のコード進行に沿ったスケールを弾ける。以上の内容を基に各習得段階に応じた任意の楽曲に沿ってベースライン・フィルイン等を作成し将来のDTM等の制作時の要求に応えるためクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。

授業計画・内容	
1回目	メジャーキーのダイアトニックコード及びセカンダリドミナント、リレイテッドⅡm7をまとめた表が書ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
2回目	アイオニアン、ドリアン、フリジアン、フリジアンメジャー、リディアン、ミクソリディアン、エオリアン、ロクリアンの各スケールが弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
3回目	メジャー、マイナーキーのツー・ファイブ・ワンのスケール及びアルペジオが弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
4回目	既存の曲の譜面を見てルート音が弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
5回目	既存の曲の譜面を見てルート音+5度が弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
6回目	既存の曲の譜面を見てルート音+3度+5度が弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
7回目	既存の曲の譜面を見てルート音+3度+5度+7度が弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
8回目	既存の曲の譜面を見てアヴェイラブル・ノート・スケールが弾ける①与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
9回目	既存の曲の譜面を見てアヴェイラブル・ノート・スケールが弾ける②与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
10回目	既存の曲の譜面を見てアヴェイラブル・ノート・スケールが弾ける③与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
11回目	既存の曲の譜面を見てマイナーペンタトニックスケールとブルーノートを用いてソロが取れる①与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
12回目	既存の曲の譜面を見てマイナーペンタトニックスケールとブルーノートを用いてソロが取れる② 与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。到達度確認
13回目	まとめ
14回目	9月特別講義
15回目	9月特別講義
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	“授業へ取り組む姿勢(60%) 各課題曲での目標の達成度、実戦度(20%) 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(20%)”□
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽のノリ(グルーブ)について学び、習得していきます。それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4~8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	ベースラインコンセプトⅣ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	丹羽肇
	(Bassline Concepts Ⅳ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年 後期
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	木曜 3限
【授業の学習内容】							
<p>既存の曲、オリジナル曲を聴いてキーを特定する方法を学習する。そのキーでのコード進行をまとめた表を書く方法を学習する。またベース、ドラムの基本的なパターンを聞き取る練習をする。ルート音を聞き取る練習をする。聞き取ったルート音をコード進行をまとめた表に照らしてコードネームを類推し、確認する練習をする。それらを基にベースラインを構築する方法を学習する。ディミニッシュやオルタードスケールについて学習する。リハーモナイズの基本を学習する。将来のDTM等の制作時の要求に応えるため学習した内容ををクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。</p> <p>(講師プロフィール)</p> <p>2010年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演。2014年横浜シブシブフェスティバルに出演。2015年大阪高槻シブシブフェスティバルに出演。2016年に...</p>							
【到達目標】							
<p>ベース音からその曲のキーを確定できる。そのキーでのコード進行をまとめた表を書ける。曲の構成要素を聞き取ることができる。構成要素ごとのベースとドラムのパターンを聞き取れる。ルート音とコード進行をまとめた表からコードを確定できる。コード進行からベースラインを構築することができる。簡単なリハーモナイズができる。以上の内容を基に各習得段階に応じた任意の楽曲に沿ってベースライン・フィルイン等を作成し将来のDTM等の制作時の要求に応えるためクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。</p>							

授業計画・内容	
1回目	曲のキーを使ってあるベースの音から類推し、確認して確定できる。そのキーにおけるダイアトニックコード及びセクスタッドミナフド、クワイアッドⅡm7をまとめた表が書ける。曲のキーを使ってあるベースの音から類推し、確認して確定できる。そのキーにおけるダイアトニックコード及びセクスタッドミナフド、クワイアッドⅡm7をまとめた表が書ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
2回目	曲を聴きイントロ、Aメロ・Bメロ・サビ等の曲の構成要素を書き取れる。ベースとドラムを聴き基本的なパターンを聞き取れる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
3回目	曲のコード音聞き取ることで、そのコード音から曲のキーにおけるダイアトニックコード及びセクスタッドミナフド、クワイアッドⅡm7をまとめた表を用いてコードを類推し確認できる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
4回目	確定したコード進行と聞き取った基本的なパターンから音使いの規則性を探し、曲の構成毎にまとめることができる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
5回目	作成した簡易的なベース譜を見ながらベースを演奏することができる。オリジナルのフィルイン等を聞き取り譜面にすることができる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
6回目	ディミニッシュコードのアルペジオとスケールを弾くことができる。パッシングディミニッシュの用法について説明できる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
7回目	オルタードスケールを弾くことができる。オルタードスケールの用法について説明できる。フリジアンメジャースケールとの違いを説明できる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
8回目	課題曲(唱歌等)のコード進行をアレンジし、メロディを阻害しないような別のコード進行を考えられる①与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
9回目	課題曲(唱歌等)のコード進行をアレンジし、メロディを阻害しないような別のコード進行を考えられる②与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
10回目	オリジナル曲に対してダイアトニックコード及びセクスタッドミナフド、クワイアッドⅡm7をまとめた表を基に与えられたリズムパターンの上でベースラインを構築する①与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
11回目	オリジナル曲に対してダイアトニックコード及びセクスタッドミナフド、クワイアッドⅡm7をまとめた表を基に与えられたリズムパターンの上でベースラインを構築する②与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
12回目	オリジナル曲に対してダイアトニックコード及びセクスタッドミナフド、クワイアッドⅡm7をまとめた表を基に与えられたリズムパターンの上でベースライン、フィルインを構成する。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。到達度確認
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	授業へ取り組む姿勢(60%) 各課題曲での目標の達成度、実戦度(20%) 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(20%) <input type="checkbox"/>
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽のノリ(グループ)について学び、習得していきます。それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に活用できるようにしていく授業です。楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4~8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	グループアナライズ I	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	松下一弘
	(Groove Analyze I)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年 前期
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	木曜 3限

【授業の学習内容】

世の中に多種あるジャンルや音楽スタイルのグルーブ(ノリ)を分析(アナライズ)し、自分の表現する音楽に応用できる力を養います。教材からは、国内外のレジェンドベーシストの紹介と研究・サウンドメイク・コード・スケール・グループ・テクニックが学べます。ベーシスト(広くはミュージシャンとして)に必要なリズム(グループ)と、音楽知識と技術を習得する授業です。(講師プロフィール)福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。それらスタイルや 楽曲に合わせて、コントラバスとエレキベースを使い分けている。

【到達目標】

①コードネームから構成される音が理解できるようになる。②世の中の音楽を聴いてリズムのスタイル(Rock,Jazz,Funkといったジャンルと8beat,16beatといったリズムの細かさ)を判別できるようになる。③歴史的・世界的に有名なベーシストたちを知ること。④その特徴となる奏法技術やグループを経験・習得する。⑤演奏する楽器の種類(プレジジョンベースやジャズベースなど)のコントロールや、エフェクターの知識と操作を学ぶ。

授業計画・内容

1回目	Donald" Duck" Dunn Cコード1発・6thへ繋ぐスライドテクニック・ブルーススタイルグループ。
2回目	Donald" Duck" Dunn C7コード1発・テンポ速めの8beat。
3回目	Adam Clayton Rock 8beatスタイル。コードチェンジのとき、少し下の音からスライドさせるグループ。
4回目	Adam Clayton Rock 8beatスタイル。左手で休符。休符でノリを作る。ピック弾き。
5回目	指板ポジション把握テキスト・エレキベースの指板にあるすべての音の位置を理解把握する① メジャースケール
6回目	指板ポジション把握テキスト・エレキベースの指板にあるすべての音の位置を理解把握する② ストレッチポジション
7回目	指板ポジション把握テキスト・エレキベースの指板にあるすべての音の位置を理解把握する③ 音使いとグループの関係
8回目	Tom Hamilton(Aero Smith) 8beatロックンロール。開放弦を混じえたライン。左手と右手のコンビネーション。
9回目	Tom Hamilton(Aero Smith) シャッフルビート。ブルースロックのウォーキングベース。メトロノームと合わせられる技術。
10回目	Robert" Kool" Bell ディスコグループ。16分音符を混じえた定番リズム。音の止め方。ミュート。音価コントロール。
11回目	Robert" Kool" Bell ディスコ風ライン。マンネリ化したベースラインにアイデアを。マイナーペンタトニックスケール。
12回目	グループとサウンドメイク(音色)、技術の関係。①
13回目	まとめ
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習

準備学習
時間外学習

基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。

評価方法

”授業へ取り組む姿勢(60%)
各課題曲での目標の達成度、実戦度(20%)
自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(20%)”□

受講生への
メッセージ

国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽のノリ(グループ)について学び、習得していきます。それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。楽しみましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。
テキスト(4~8小節程度のエクササイズを2種類)。
その他、資料配布。

科目名 (英)	グループアナライズⅡ (Groove AnalyzeⅡ)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	松下一弘
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年 後期
						曜日・時限	木曜 3限
【授業の学習内容】 世の中に多種あるジャンルや音楽スタイルのグルーブ(ノリ)を分析(アナライズ)し、自分の表現する音楽に応用できる力を養います。教材からは、国内外のレジェンドベーシストの紹介と研究・サウンドメイク・コード・スケール・グループ・テクニックが学べます。ベーシスト(広くはミュージシャンとして)に必要なリズム(グルーブ)と、音楽知識と技術を習得する授業です。 (講師プロフィール)福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。それらスタイルや 楽曲に合わせて、コントラバスとエレキベースを使い分けている。							
【到達目標】 ①コードネームから構成される音が理解できるようになる。②世の中の音楽を聴いてリズムのスタイル(Rock,Jazz,Funkといったジャンルと8beat,16beatといったリズムの細かさ)を判別できるようになる。③歴史的・世界的に有名なベーシストたちを知ること。④その特徴となる奏法技術やグルーブを経験・習得する。⑤演奏する楽器の種類(プレジジョンベースやジャズベースなど)のコントロールや、エフェクターの知識と操作を学ぶ。							

授業計画・内容	
1回目	Roscoe Beck ファンキーなR&Bグループ。ドラムとのコンビネーション。休符・16分音符の引っ掛け。
2回目	Roscoe Beck 4beat風ブルース。
3回目	Darryl Jones Cm1発コードリフ。メディアムテンポの16th。
4回目	Darryl Jones ブルース系シャッフルパターン。ブルース12小節コード進行の確認。
5回目	サウンドメイクとグルーブの関係。エフェクター操作・知識。プリアンプ・EQ・コンプ①
6回目	サウンドメイクとグルーブの関係。エフェクター操作・知識。プリアンプ・EQ・コンプ②
7回目	サウンドメイクとグルーブの関係。エフェクター操作・知識。プリアンプ・EQ・コンプ③
8回目	Paul McCartney ロックンロールリフ。Day Tripper。
9回目	Paul McCartney ロックブルースリフ。I Saw Her Standing There
10回目	グルーブとサウンドメイク(音色)、技術の関係。②
11回目	Tommy Shannon 7th系シャッフルビート。
12回目	Tommy Shannon 8beatファンクブルース。
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	〃授業へ取り組む姿勢(60%) 各課題曲での目標の達成度、実戦度(20%) 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(20%)〃□
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽のノリ(グルーブ)について学び、習得していきます。それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4～8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	グループアナライズⅢ (Groove AnalyzeⅢ)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	松下一弘
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年 前期
						曜日・時限	木曜 4限

【授業の学習内容】

世の中に多種あるジャンルや音楽スタイルのグルーブ(ノリ)を分析(アナライズ)し、自分の表現する音楽に応用できる力を養います。教材からは、国内外のレジェンドベーシストの紹介と研究・サウンドメイク・コード・スケール・グループ・テクニックが学べます。ベーシスト(広くはミュージシャンとして)に必要なリズム(グループ)と、音楽知識と技術を習得する授業です。(講師プロフィール)福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。それらスタイルや 楽曲に合わせて、コントラバスとエレキベースを使い分けている。

【到達目標】

①コードネームから構成される音が理解できるようになる。②世の中の音楽を聴いてリズムのスタイル(Rock,Jazz,Funkといったジャンルと8beat,16beatといったリズムの細かさ)を判別できるようになる。③歴史的・世界的に有名なベーシストたちを知ること。④その特徴となる奏法技術やグループを経験・習得する。⑤演奏する楽器の種類(プレジジョンベースやジャズベースなど)のコントロールや、エフェクターの知識と操作を学ぶ。

授業計画・内容

1回目	Anthony Jackson ピック弾きでハーフタイムシャッフル。正確なオルタネイトピッキングとグループ。
2回目	Anthony Jackson ラテンブラジルグループ。音価コントロール。2拍目と4拍目のスルド。
3回目	Chuck Rainey ダブルストップ奏法。ワンフィンガー奏法でのソウル・ファンク・R&Bグループ。
4回目	Chuck Rainey 高速オクターブフレーズ。ポジションシフト。R&Bスタイル。
5回目	特殊テクニックとグループをかけ合わせる①ハーモニクス
6回目	Jaco Pastorius ベースソロ曲「Portrait Of Tracy」
7回目	Jaco Pastorius 16thファンクスタイル。ゴーストノートでノリを作る。
8回目	スラップテクニック復習。サウンドメイク。定番16thファンクグループ。
9回目	Marcus Miller 16thファンクスタイルDmのグループ。マイナーペンタトニックスケールの定番フィル。
10回目	Marcus Miller Smooth Jazzスタイル。ハーフタイムシャッフルグループ。
11回目	Louis Johnson ダブルストップ使用スラップグループ。Musicman①
12回目	Louis Johnson ダブルストップ使用スラップグループ。Musicman②
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番

準備学習
時間外学習

基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。

評価方法

“授業へ取り組む姿勢(60%)
各課題曲での目標の達成度、実戦度(20%)
自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(20%)”□

受講生への
メッセージ

国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽のノリ(グループ)について学び、習得していきます。それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。楽しみましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。
テキスト(4~8小節程度のエクササイズを2種類)。
その他、資料配布。

科目名 (英)	グループアナライズⅣ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	松下一弘
	(Groove AnalyzeⅣ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年 後期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	木曜 4限
【授業の学習内容】							
<p>世の中に多種あるジャンルや音楽スタイルのグルーヴ(ノリ)を分析(アナライズ)し、自分の表現する音楽に応用できる力を養います。教材からは、国内外のレジェンドベーシストの紹介と研究・サウンドメイク・コード・スケール・グループ・テクニックが学べます。ベーシスト(広くはミュージシャンとして)に必要なリズム(グループ)と、音楽知識と技術を習得する授業です。</p> <p>(講師プロフィール)福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。それらスタイルや 楽曲に合わせ、コントラバスとエレキベースを使い分けている。</p>							
【到達目標】							
<p>①コードネームから構成される音が理解できるようになる。②世の中の音楽を聴いてリズムのスタイル(Rock,Jazz,Funkといったジャンルと8beat,16beatといったリズムの細かさ)を判別できるようになる。③歴史的・世界的に有名なベーシストたちを知ること。④その特徴となる奏法技術やグループを経験・習得する。⑤演奏する楽器の種類(プレジジョンベースやジャズベースなど)のコントロールや、エフェクターの知識と操作を学ぶ。</p>							

授業計画・内容	
1回目	James Jemarson モータウン・ソウルR&Bグループ。プレジジョンベース・フラットワウンド。楽器とグループの関係。
2回目	James Jemarson モータウングループ②16th シンコペーションのグループ。
3回目	Willie Weeks ソウル・モータウン。マイナーペンタトニックスケールの定番曲・ベースライン。
4回目	Willie Weeks メロウなリズムミクナライン。複雑なシンコペーション・レイキング。
5回目	サウンドメイクとグループの関係。エフェクター操作・知識。プリアンプ・EQ・コンプ①
6回目	サウンドメイクとグループの関係。エフェクター操作・知識。プリアンプ・EQ・コンプ②
7回目	サウンドメイクとグループの関係。エフェクター操作・知識。プリアンプ・EQ・コンプ③
8回目	Sting ハーモニクス入りレゲエライン。
9回目	Sting 呼吸するレゲエグループ。Englishman in new york
10回目	Ray Brown ジャズ4beatグループ。Med Swing。スウィングとは。
11回目	Ray Brown ジャズBossa Nova。
12回目	Juan Formell ラテン。トウンバオ・アフロ・キューバンのグループ。
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	“授業へ取り組む姿勢(60%) 各課題曲での目標の達成度、実戦度(20%) 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(20%)”□
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽のノリ(グループ)について学び、習得していきます。それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4~8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	グループメイク I (Groove Making I)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	伊藤公了
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年次 前期
						曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 様々な楽曲の核となる「グルーヴ」、「リズムパターン」の習得を目的とし、テキスト、及び参考楽曲による基本的なドラムパターンスタイル、リズムスタイルの分析と習得。その中でドラマーとして必要なテクニック、表現方法などを身につけさせる。 (講師プロフィール) スタジオミュージシャンとして九州はじめ全国でレコーディング、ライブサポートをしている。 また、(株)KISS・MUSICのチーフプロデューサーとしても活動している。							
【到達目標】 ポピュラーミュージックにおいて必要なグルーヴの中で代表的な「8beat」、「16Beat」、「Shuffle Beat」においてそれぞれのBPM120を目標とする。 基本的なドラム譜面の読み書き							

授業計画・内容	
1回目	基本となるリズム(4分音符、8分音符等)の考え方 譜面の読み方
2回目	8BeatのBasicパターン BPM=60~90 (High 120)
3回目	8BeatのAdvanceパターン BPM=90~120 (High 140)
4回目	8分音符のシンクペーションを使ったパターン、リズムキープ方法 左足でのテンポキープ
5回目	3連符の説明、リズム感の習得
6回目	Shuffle Beatの説明、右手のダウンアップ奏法の習得
7回目	Shuffle BeatのBasicパターン BPM=90 (High 120)
8回目	Shuffle BeatのAdvanceパターン BPM=120 (High 140) ブルースシャッフルの習得
9回目	3連符系のFill In、及び2拍3連の説明
10回目	2拍3連の習得、2拍3連を使ったパターンやFill In
11回目	16分音符の説明、16BeatのBasicパターン BPM=60~90 (High 120)
12回目	16BeatのAdvanceパターンとFill In BPM=90~120 (High 140)
13回目	期末テスト
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	BPMに合わせて正確な4分音符、8分音符、3連符、16分音符の理解とスティックコントロール 体の重心の安定と4wayインディペンデンスの確立 テキスト及び授業内容の復習
評価方法	12週目に行う実技テスト(50%) 各授業内で行うミニ実技テスト(20%) 動画撮影と譜面製作(30%)
受講生への メッセージ	ドラムの演奏において必要不可欠なパターンなど みなさんが聴いている楽曲はもちろん、様々な音楽が演奏できるようになるためのクラスです。 ドラムキッドでの演奏ですのでリアルなサウンドメイクや表現方法を習得してください。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書: Drum Groove Making 1: 滋慶出版	

科目名 (英)	グループメイクⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	伊藤公了
	(Groove Making Ⅱ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年次 後期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 様々な楽曲の核となる「グルーブ」、「リズムパターン」の習得を目的とし、テキスト、及び参考楽曲による基本的なドラムパターンスタイル、リズムスタイルの分析と習得。その中でドラマーとして必要なテクニック、表現方法などを身につけさせる。 (講師プロフィール) スタジオミュージシャンとして九州はじめ全国でレコーディング、ライブサポートをしている。 また、(株)KISS・MUSICのチーフプロデューサーとしても活動している。							
【到達目標】 ポピュラーミュージックにおいて必要なグルーブの中で代表的な「8beat」、「16Beat」、「Shuffle Beat」をさらに発展させたグルーブの習得 「Halftime Shuffle」BPM=70、「6/8拍子」BPM=60、「12/8拍子」BPM=75 パーカッションの基本的な演奏方法							

授業計画・内容	
1回目	16Beatにおけるゴーストノートについて(4つのストローク(Tap,Down,Up,Full)の確認と習得)
2回目	ゴーストノートを使ったパターン、Fill In BPM=75 (High 90)
3回目	Halftime ShuffleのBasicパターン BPM=60 (High 75)
4回目	Halftime ShuffleのAdvanceパターンとFill In BPM=70 (Hgh 85)
5回目	Halftime Shuffleと4拍3連
6回目	6/8拍子について カウンティング、基本的なリーディング
7回目	6/8拍子のパターン、Fill In BPM=60 (High 75)
8回目	12/8拍子について カウンティング、リーディング
9回目	12/8拍子のパターン、Fill in BPM=75 (High 90)
10回目	Percussion Cajon
11回目	Percussion Conga,Bongo
12回目	Percussion Shaker,Tambalineなど
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	BPMに合わせて正確な4分音符、8分音符、3連符、16分音符の理解とスティックコントロール、裏クリックでのリズムトレーニング 体の重心の安定と4wayインディペンデンスの確立 テキスト及び授業内容の復習
評価方法	12週目に行う実技テスト(50%) 各授業内で行うミニ実技テスト(20%) 動画撮影と譜面製作(30%)
受講生への メッセージ	“前期に引き続きドラムの演奏において必要不可欠なパターンなど みなさんが聴いている楽曲はもちろん、様々な音楽が演奏できるように なるためのクラスです。 後半ではパーカッションなども演奏できるようにしましょう。”
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:The Drummer Handbook Drum Groove Making 1、2:滋慶出版	

科目名 (英)	グループメイクⅢ (Groove Making Ⅲ)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	伊藤公了
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年次 前期
				曜日・時限	木曜4限		
【授業の学習内容】 様々な楽曲の核となる「グルーヴ」、「リズムパターン」の習得を目的とし、テキスト、及び参考楽曲による基本的なドラムパターンスタイル、リズムスタイルの分析と習得。その中でドラマーとして必要なテクニック、表現方法などを身につけさせる。 (講師プロフィール) スタジオミュージシャンとして九州はじめ全国でレコーディング、ライブサポートをしている。 また、(株)KISS・MUSICのチーフプロデューサーとしても活動している。							
【到達目標】 ポピュラーミュージックだけではなく、JAZZやLATINなど幅広いグルーヴの習得 Bossa Nova BPM=120、Samba BPM=105、4Beat Swin BPM=120、Reggae BPM=90 基本的なドラム譜面の読み書き ラテンパーカッションの奏法の習得							

授業計画・内容	
1回目	Bossa Noveについての説明
2回目	Bossa Nova Basicパターン BPM=110 (High 140)
3回目	Bossa Nova Advanceパターン BPM=120 (High 140)
4回目	Sambaについて説明 Samba Kickの練習法
5回目	Samba Basicパターン BPM=90 (High 105)
6回目	Samba Advanceパターン BPM=105 (High 120)
7回目	4Beat Swing についての説明
8回目	4beat Swing Basicパターン BPM=90 (High 120)
9回目	4Beat Swing Advanceパターン BPM=120
10回目	4Beat Swingでの4way インディペンデンス
11回目	Reggae についての説明
12回目	Reggae Basicパターン BPM=70 (High 85)
13回目	期末テスト
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	BPMに合わせて正確な4分音符、8分音符、3連符、16分音符の理解とスティックコントロール 体の重心の安定と4wayインディペンデンスの確立 テキスト及び授業内容の復習
評価方法	12週目に行う実技テスト(50%) 各授業内で行うミニ実技テスト(20%) 動画撮影と譜面製作(30%)”
受講生への メッセージ	”今までに習得したグルーヴ以外の様々な演奏スタイルを習得してさらに幅広い技術、知識を身につけるクラスです。 まずは色々な音楽に触れてください。”
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:The Drummer Handbook Drum Groove Making 1、2:滋慶出版	

科目名 (英)	グループメイクIV (Groove Making IV)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	伊藤公了
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年次 後期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 様々な楽曲の核となる「グルーブ」、「リズムパターン」の習得を目的とし、テキスト、及び参考楽曲による基本的なドラムパターンスタイル、リズムスタイルの分析と習得。その中でドラマーとして必要なテクニック、表現方法などを身につけさせる。 (講師プロフィール) スタジオミュージシャンとして九州はじめ全国でレコーディング、ライブサポートをしている。 また、(株)KISS・MUSICのチーフプロデューサーとしても活動している。							
【到達目標】 ポピュラーミュージックにおける代表的なグルーブに加え JAZZやLATINなどさらにジャンル、スタイルを広げたグルーブの習得 また、Odd Meter(変拍子)やポリリズム、リニアパターンでのグルーブの構築。 SPDなどサンプリングパッドの使い方、アナログとデジタルの混合パターンなどの習得							

授業計画・内容	
1回目	Aflo Cubanについて説明
2回目	Afro Cuban Basicパターン BPM=60 (High 85)
3回目	Afro Cuban Advance 6/8パターン BPM=60 (High 75)
4回目	ポリリズムを使ったBasicパターン BPM=90 (High 120)
5回目	ポリリズム Advanceパターン BPM=120 (High 135)
6回目	メトリック モジュレーション Basicパターン
7回目	メトリック モジュレーション Advanceパターン
8回目	サンプリングパッドの使い方
9回目	サンプリングパッドとアコースティックドラムとの混合パターン
10回目	リニアパターン Basic
11回目	Odd Meterの説明とカウンティング
12回目	5/8拍子、7/8拍子のBasicパターンとFill In BPM=120 (High 135)
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	“BPMに合わせて正確な4分音符、8分音符、3連符、16分音符の理解とスティックコントロール 体の重心の安定と4wayインディペンデンスの確立 テキスト及び授業内容の復習”
評価方法	12週目に行う実技テスト(50%) 各授業内で行うミニ実技テスト(20%) 動画撮影と譜面製作(30%)
受講生への メッセージ	前期に引き続きドラムの演奏において必要不可欠なパターンなど みなさんが聴いている楽曲はもちろん、様々な音楽が演奏できるようになるためのクラスです。 後半では リズムの変形パターンや変拍子も演奏できるようにしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:The Drummer Handbook Drum Groove Making 1、2:滋慶出版 Drum Groove Making 2:滋慶出版	

科目名 (英)	メロディックコンセプト I (Melodic Concepts I)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	山口涼也
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年次 前期
						曜日・時限	木曜 3限
【授業の学習内容】 現代音楽におけるリードギターのフレージング、メロディの作り方、インプロビゼーションをオリジナルテキストを使用し習得する。 (講師プロフィール) 20歳で全国のギターコンテストにて準グランプリを獲得し、その後はJazzClubを中心にプロフェッショナルとして活動							
【到達目標】 メジャースケール、マイナースケール、ペンタニックスケール、ブルーススケールを使用し様々なコード進行でのソロを作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	6弦ルートのメジャー、マイナーペンタニックスケール
2回目	5弦ルートのメジャー、マイナーペンタニックスケール
3回目	5,6弦ルートのペンタニックスケールの復習、両サイドへの派生
4回目	ペンタニックスケールの派生、ブルーススケール、ブルーノート
5回目	ペンタニック、ブルーススケールを使用したリックの実演
6回目	メジャースケール1(5,6弦 人差し指、中指スタート)
7回目	メジャースケール2(5,6弦 小指スタート)
8回目	メジャースケール3(3 Note Per String、複合パターン)
9回目	ナチュラルマイナースケール1(5,6弦 人差し指、中指スタート)
10回目	ナチュラルマイナースケール2(5,6弦 小指スタート)
11回目	ナチュラルマイナースケール3(3 Note Per String、複合パターン)
12回目	中間テスト
13回目	まとめ
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	予習。与えたテキストを使用し復習。
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	様々なジャンルの楽曲でメロディやソロを作れるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルPDFテキスト、iReal Pro、YouTube、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	メロディックコンセプト II	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	山口涼也
	(Melodic Concepts II)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年次 後期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	木曜 3限
【授業の学習内容】 現代音楽におけるリードギターのフレージング、メロディの作り方、インプロビゼーションをオリジナルテキストを使用し習得する。 (講師プロフィール) 20歳で全国のギターコンテストにて準グランプリを獲得し、その後はJazzClubを中心にプロフェッショナルとして活動							
【到達目標】 メジャースケール、マイナースケール、ペンタトニックスケール、ブルーススケールを使用し様々なコード進行でのソロを作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	メジャートライアド
2回目	マイナートライアド
3回目	オーギュメント、ディミニッシュトライアド
4回目	4音のコードアルペジオ導入
5回目	M7アルペジオ
6回目	7アルペジオ
7回目	m7アルペジオ
8回目	m7b5アルペジオ
9回目	dim7アルペジオ
10回目	代理のアルペジオ
11回目	3,4和音のコードトーンアルペジオを使用したフレージング
12回目	後期テスト
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	予習。与えたテキストを使用し復習。
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	様々なジャンルの楽曲でメロディやソロを作れるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルPDFテキスト、iReal Pro、YouTube、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	メロディックコンセプト III (Harmonic Concept III)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	山口涼也
授業 形態		講義/演習		総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年次 前期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	木曜 4限
【授業の学習内容】 メジャースケールから派生する各種スケールを学ぶ。 メロディラインの作り方、ギターソロの作り方。 (講師プロフィール) 20歳で全国のギターコンテストにて準グランプリを獲得し、その後はJazzClubを中心にプロフェッショナルとして活動							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞ+A11:L16れのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	Major Mode Scaleの導入と使用方法、Ionian Scale(IM7)
2回目	Aeolian Scale(VIm7)
3回目	Dorian Scale(IIIm7)
4回目	Mixolydian Scale(V7)
5回目	Lydian Scale(IVM7)
6回目	Phrygian Scale(IIIIm7)
7回目	Locrian Scale(VIIIm7b5)
8回目	IIIm7-V7進行を用いてのソロ構築 (Dorian,Mixolydian)
9回目	IIIm7-V7進行を用いてのソロ構築 (Dorian,Mixolydian)
10回目	Jazz Blues進行でのソロ構築(Mixolydian,Dorian)
11回目	IM7-bIIIm7進行でのソロ構築(Ionian,Lydian)
12回目	中間テスト
13回目	まとめ
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	予習。与えたテキストを使用し復習。
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	スケールの理解やメロディワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。 この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルPDFテキスト、iReal Pro、YouTube、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	メロディックコンセプト IV	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	山口涼也
	Melodic Concepts IV	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年次 後期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	木曜 4限
【授業の学習内容】 メロディックマイナースケールとハーモニックマイナースケールから派生する各種スケールやシンメトリカルスケールを学ぶ。 メロディラインの作り方、ギターソロの作り方。 (講師プロフィール) 20歳で全国のギターコンテストにて準グランプリを獲得し、その後はJazzClubを中心にプロフェッショナルとして活動							
【到達目標】 メロディックマイナーモードとハーモニックマイナーモードスケールの中から使用頻度が高いスケールを指板上のすべての位置で把握し代表的なJazz Standard進行でアドリブが出来るようになる。 転調があるコード進行上でメロディラインやソロを作成できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	Melodic Minor Mode導入、Melodic Minor Scale
2回目	Altered Scale
3回目	Lydian b7 Scale
4回目	Locrian 9 Scale
5回目	Harmonic Minor Mode導入、Harmonic Minor Scale
6回目	Hmp5 ↓ Scale
7回目	Half Whole Diminished ScaleとWhole Half Diminished Scale
8回目	Whole Tone Scale
9回目	Jazz Standardsでのソロ構築1 Autumn Leaves
10回目	Jazz Standardsでのソロ構築2 The Days of Wine and Roses
11回目	Jazz Standardsでのソロ構築3 Stella by starlight
12回目	期末テスト
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	予習。与えたテキストを使用し復習。
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	スケールの理解やメロディワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。 この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルPDFテキスト、iReal Pro、YouTube、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	ハーモニックコンセプトⅠ (Harmonic Concept I)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	山野修作
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年次 前期
						曜日・時限	火曜 2限
【授業の学習内容】 音楽を作る・表現する上で欠かせないハーモニーを、基礎から実際のギターという楽器で演奏するところまで学びます。 様々なジャンルのスタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得する。バックিং・作曲及びアレンジに 必要なコードの仕組みやダイアトニックコード等を理解し、それを構成する様々なコードフォームを習得しリズムのアイデアも加え応用する。 (講師プロフィール) これまでにNYのミュージシャンと2枚のリーダーアルバムを制作、九州のみならず全国的に活動を行うJazzプレイヤー							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞれのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	指板上の音名・ポジション
2回目	オクターブの位置関係、ルートだけコード進行を追う
3回目	パワーコードの仕組み、ルートの位置と5thの位置関係
4回目	パワーコードで楽曲を演奏
5回目	インターバル、メジャーとマイナーの違い
6回目	トライアドの仕組み1
7回目	トライアドの仕組み2
8回目	3コードの理解
9回目	3コードで楽曲演奏
10回目	コードの機能(ファンクション)、代理コード
11回目	3和音のダイアトニックコード
12回目	中間テスト
13回目	まとめ
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	三和音の理解・ダイアトニックコードの配列を覚える・指板上の音名の把握・オクターブの位置の把握 時間外学習
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	ハーモニーの理解やコードワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。 この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 I-real pro、ギタリストハンドブック(クリス・ジャーガンセン)	

科目名 (英)	ハーモニックコンセプト II (Harmonic Concept II)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	山野修作
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科・プロミュージシャン科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年次 後期
						曜日・時限	火曜 2限
【授業の学習内容】 音楽を作る・表現する上で欠かせないハーモニーを、基礎から実際のギターという楽器で演奏するところまで学びます。 様々なジャンルのスタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得する。バックিং・作曲及びアレンジに 必要なコードの仕組みやダイアトニックコード等を理解し、それを構成する様々なコードフォームを習得しリズムのアイ デアも加え応用する。 (講師プロフィール) これまでにNYのミュージシャンと2枚のリーダーアルバムを制作、九州のみならず全国的に活動を行うJazzプレーヤー							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞれのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期の復習、3和音のダイアトニックコード
2回目	4和音・7thコードの理解1
3回目	4和音・7thコードの理解2
4回目	4和音のダイアトニックコード
5回目	楽曲演奏
6回目	その他のコード(sus・6th・add9など)
7回目	楽曲演奏
8回目	ナチュラルマイナーのダイアトニックコード
9回目	平行調など
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	三和音の理解・ダイアトニックコードの配列を覚える・指板上の音名の把握・オクターブの位置の把握
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	ハーモニーの理解やコードワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギ ターに対して必要な ことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 I-real pro、ギタリストハンドブック(クリス・ジャーガンセン)	

科目名 (英)	ハーモニックコンセプトⅢ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	山野修作
	(Harmonic Concept III)		授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)		30 (2)
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	火曜 1限
【授業の学習内容】 音楽を作る・表現する上で欠かせないハーモニーを、基礎から実際のギターという楽器で演奏するところまで学びます。 様々なジャンルのスタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得する。バックイング・作曲及びアレンジに 必要なコードの仕組みやダイアトニックコード等を理解し、それを構成する様々なコードフォームを習得しリズムのアイデアも加え応用する。 (講師プロフィール) これまでにNYのミュージシャンと2枚のリーダーアルバムを制作、九州のみならず全国的に活動を行うJazzプレイヤー							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞれのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	4和音・7thコードの理解
2回目	4和音のダイアトニックコード
3回目	4和音のマイナーダイアトニックコード
4回目	カッティングパターン1
5回目	カッティングパターン2
6回目	アルペジオ奏法
7回目	コード進行に沿ったバックイング 1
8回目	コード進行に沿ったバックイング 2
9回目	ナチュラルテンションコード
10回目	オルタードテンションコード
11回目	コード進行に沿ったバックイング 3
12回目	中間テスト
13回目	まとめ
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	三和音の理解・ダイアトニックコードの配列を覚える・指板上の音名の把握・オクターブの位置の把握
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	ハーモニーの理解やコードワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 I-real pro、ギタリストハンドブック(クリス・ジャーガンセン)	

科目名 (英)	ハーモニックコンセプトⅣ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	山野修作
	(Harmonic ConceptⅣ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年次 前期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	火曜 1限
【授業の学習内容】 音楽を作る・表現する上で欠かせないハーモニーを、基礎から実際のギターという楽器で演奏するところまで学びます。 様々なジャンルのスタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得する。バックিং・作曲及びアレンジに 必要なコードの仕組みやダイアトニックコード等を理解し、それを構成する様々なコードフォームを習得しリズムのアイディアも加え応用する。 (講師プロフィール) これまでにNYのミュージシャンと2枚のリーダーアルバムを制作、九州のみならず全国的に活動を行うJazzプレーヤー							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞれのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	R&Bスタイル
2回目	Funkスタイル
3回目	ボサノヴァ・ラテン スタイル
4回目	ブルーススタイル
5回目	ブルーススタイル2
6回目	ジャズスタイル
7回目	ソロギタースタイル1
8回目	ソロギタースタイル2
9回目	ソロギタースタイル3
10回目	楽曲演奏
11回目	まとめ
12回目	期末テスト
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	三和音の理解・ダイアトニックコードの配列を覚える・指板上の音名の把握・オクターブの位置の把握
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	ハーモニーの理解やコードワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 I-real pro、ギタリストハンドブック(クリス・ジャーガンセン)	

科目名 (英)	コントロールセオリー I (Control Theory I)	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	星山哲也
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	1年次 前期
						曜日・時限	金曜1限
【授業の学習内容】							
<p>①ルーディメンツをドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。 (講師プロフィール) メジャーアーティストのレコーディング・ライブサポートを行う他、ミュージカルライオンキングでのパーカッション演奏、ベースドラムに関する教則DVDを販売するなど国内屈指のテクニシャンとして知られている。</p>							
【到達目標】							
①それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールを身につける。							

授業計画・内容	
1回目	グリップ&フォーム、フィンガーコントロール
2回目	フットワーク
3回目	アクセレーションコントロール16分音符 3種類
4回目	アクセレーションコントロール3連符 2種類
5回目	ダブルストロークロール
6回目	5.7.9.11.13ストロークロール
7回目	バズ、バズ5、バズ7
8回目	シングルパラディドル
9回目	ダブルパラディドル、トリプルパラディドル
10回目	フラム、フラムアクセント16分&3連符
11回目	フラムパラディドル
12回目	フラムタップ、ラタマキュー
13回目	期末テスト
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外 学習	理想的な達成レベル・全てのエクササイズを習得し更に自分のアイデアを加え実践応用出来る事。 標準的な達成レベル・全てのエクササイズを習得する事。
評価方法	期末試験(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	ドラミングを豊かにするために必要な技術を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
コントロールセオリーテキスト	

科目名 (英)	コントロールセオリーⅡ	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	星山哲也
	(Control TheoryⅡ)	授業形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年次 後期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科					曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】							
<p>①ルーディメンツを通してドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。連符感をやしない楽曲やソロでの自由度を身につける。</p> <p>②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。</p> <p>③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。楽曲の中での自由度を広げて欲しい。 (講師プロフィール)</p> <p>メジャーアーティストのレコーディング・ライブサポートを行う他、ミュージカルライオンキングでのパーカッション演奏、ベースドラムに関する教則DVDを販売するなど国内屈指のテクニシャンとして知られている。</p>							
【到達目標】							
①それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールと連符感を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	ラフ、4.5ストロークラフ
2回目	ドラッグ、シングルドラッグ、ダブルドラッグ
3回目	ドラッグパラディドルNo.1.2
4回目	ラタマキュー、シングルラタマキュー、ダブルラタマキュー、トリプルラタマキュー
5回目	ルーディメンツ小テスト
6回目	チェンジアップ
7回目	2拍3連、カウント、コンビネーション
8回目	4拍3連、カウント、コンビネーション
9回目	3拍4連、カウント、コンビネーション
10回目	3拍4連on4/4
11回目	5拍4連、カウント、コンビネーション・7拍フレーズの紹介
12回目	期末テスト
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	理想的な達成レベル・全てのエクササイズを習得し更に自分のアイデアを加え実践応用出来る事。 標準的な達成レベル・全てのエクササイズを習得する事。
評価方法	12週目に行う実技テスト(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	ドラミングを豊かにするために必要な技術を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
コントロールセオリーテキスト	

科目名 (英)	コントロールセオリーⅢ	選択 必修	選択必修	年次	2	担当教員	星山哲也
	(Control TheoryⅢ)			総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年次 前期
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業形態	講義/演習			曜日・時限	金曜1限
【授業の学習内容】							
<p>①ルーディメンツのドラムセットへのオーケストレーション。ポリリズムのドラムセットへの応用。各ルーディメンツのマーチングとしての応用。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。 楽曲の中での自由度を更に広げて欲しい。 (講師プロフィール) メジャーアーティストのレコーディング・ライブサポートを行う他、ミュージカルライオンキングでのパーカッション演奏、ベースドラムに関する教則DVDを販売するなど国内屈指のテクニシャンとして知られている。</p>							
【到達目標】							
①それぞれのエクササイズを丁寧に練習しハイレベルなドラミングに挑戦する。							

授業計画・内容	
1回目	シングルストロークコンビネーション、オールアメリカンドラマーNo.1
2回目	ダブルストロークコンビネーション・オールアメリカンドラマーNo.2
3回目	シングルパラディドルコンビネーション、オールアメリカンドラマーNo.3
4回目	ダブルストロークコンビネーション、オールアメリカンドラマーNo.4
5回目	トリプルパラディドルコンビネーション、オールアメリカンドラマーNo.5
6回目	ダブルパラディドルバリエーション・オールアメリカンドラマーNo.6
7回目	トリプルパラディドルバリエーション、オールアメリカンドラマーNo.7
8回目	フラムダブルパラディドルバリエーション、オールアメリカンドラマーNo.8
9回目	フラムトリプルパラディドルバリエーション、オールアメリカンドラマーNo.9
10回目	2拍3連応用、オールアメリカンドラマーNo.10
11回目	2拍3連メトリックモジュレーション、オールアメリカンドラマー復習
12回目	4拍3連応用、オールアメリカンドラマーNo.11
13回目	期末テスト
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外 学習	理想的な達成レベル・全てのエクササイズを習得し更に自分のアイデアを加え実践応用出来る事。 標準的な達成レベル・全てのエクササイズを習得する事。
評価方法	期末試験(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	ドラミングを豊かにするために必要な技術を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
コントロールセオリーテキスト・All American Drummerテキスト	

科目名 (英)	コントロールセオリーⅣ (Control TheoryⅣ)	選択必修	選択必修	年次	2	担当教員	星山哲也
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科	授業形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	2年次 後期
						曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】							
<p>①ルーディメンツのドラムセットへのオーケストレーション。ポリリズムのドラムセットへの応用。 各ルーディメンツのマーチングとしての応用。オスティナートやリニアドラミングの習得。ダブルベースドラミングの習得。</p> <p>②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。</p> <p>③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。楽曲の中で自由度を更に広げて欲しい。 (講師プロフィール)</p> <p>メジャーアーティストのレコーディング・ライブサポートを行う他、ミュージカルライオンキングでのパーカッション演奏、ベースドラムに関する教則DVDを販売するなど国内屈指のテクニシャンとして知られている。</p>							
【到達目標】							
①それぞれのエクササイズを丁寧に練習しハイレベルなドラミングに挑戦する。							

授業計画・内容	
1回目	3拍4連応用、オールアメリカンドラマーNo.13
2回目	ハイブリッドルーディメンツの紹介、オールアメリカンドラマーNo.14
3回目	サンバオスティナート、オールアメリカンドラマーNo.15
4回目	サンバオスティナートオールアメリカンドラマーNo.16
5回目	サンバオスティナート・オールアメリカンドラマーNo.17
6回目	クラーベオスティナート・オールアメリカンドラマーNo.18
7回目	クラーベオスティナート・オールアメリカンドラマーNo.19
8回目	クラーベオスティナート・オールアメリカンドラマーNo.20
9回目	リニアエクササイズ・オールアメリカンドラマー復習
10回目	リニアエクササイズ・クレイジーアーミー
11回目	リニア応用・ダブルベースドラミング
12回目	期末テスト
13回目	ミュージカル演習ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	理想的な達成レベル・全てのエクササイズを習得し更に自分のアイデアを加え実践応用出来る事。 標準的な達成レベル・全てのエクササイズを習得する事。
評価方法	12週目に行う実技テスト(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	ドラミングを豊かにするために必要な技術を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
コントロールセオリーテキスト・All American Drummerテキスト	

科目名 (英)	プレイングテクニック I	選択 必修	必修選択	年次	1	担当教員	北山幸恵
	Playing Techniques I	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	1年次 前期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科						
【授業の学習内容】 1年を通していろいろなスタンダード音楽を学ぶ。 音楽的テクニックの向上や感性を伸ばす。 指の故障がない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続する。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。							
1年間キーボードという楽器を通していろいろなスタンダード音楽を理解し、音楽的感性の役に立てる。							

授業計画・内容	
1回目	指の故障がない様、ストレッチエクササイズの仕方を指導。
2回目	ダイアトニックコードの仕組みを理解する。
3回目	基本的な譜面の書き方を指導しコードの仕組みを理解させる。
4回目	一段譜を用いてコードを弾き分ける。
5回目	音程の違いを理解し五線紙に完成させる。
6回目	全音符から16符音符までを聴き分け、五線紙に完成させる。
7回目	ソロピアノ曲を指導する。
8回目	ダイナミックレンジを意識し、強・中・弱音を身につける。
9回目	表現力を意識し、コードの特性を理解する。
10回目	デュオのバックイングについて理解する。
11回目	今までの総合復習。
12回目	小テスト
13回目	期末テスト
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	宿題が出た時は、できる範囲でいいので挑戦してみてください。
評価方法	12週目に行う実技テスト(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	コードの性質を理解する事により、1年間で曲を幅広く学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ポピュラーのすべて、ハノン、クラシック集、プリント等	

科目名 (英)	プレイングテクニックⅡ	選択 必修	必修選択	年次	1	担当教員	北山幸恵
	Playing Techniques Ⅱ	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	1年次 後期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科						
【授業の学習内容】							
<p>1年を通していろいろなスタンダード音楽を学ぶ。 音楽的テクニックの向上や感性を伸ばす。 指の故障がない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続する。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。</p>							
【到達目標】							
1年間キーボードという楽器を通していろいろなスタンダード音楽を理解し、音楽的感性の役に立てる。							

授業計画・内容	
1回目	夏休み期間の課題を発表。
2回目	今までの復習テスト、理解できなかった箇所を確認する。
3回目	ペナトニックを理解する。
4回目	ブルーノートとブルーススケールを理解する。
5回目	ブルーススケールを使ったフレーズを耳コピーして役に立てる。
6回目	ブルースを理解する。
7回目	独奏でブルースソロを完成させる。
8回目	ソロピアノ曲を指導する。
9回目	指導した曲を発表する。
10回目	今までの総合復習①
11回目	今までの総合復習②□
12回目	実技テスト
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	復習をできれば、たくさん行う事で理解力の向上がより期待できると思います。
評価方法	12週目に行う実技テスト(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	授業以外、プライベートでいろいろな曲を研究してみましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
ポピュラーのすべて、ハノン、クラシック集、スタンダードジャズ集、プリント等	

科目名 (英)	プレイングテクニックⅢ	選択 必修	必修選択	年次	2	担当教員	北山幸恵
	PlayingTechniquesⅢ	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30	開講区分	2年次 前期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科				2	曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 ソロピアニストにとって必要なテクニック、表現力の向上、対応力を身につける。 指の故障のない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。							
【到達目標】 テクニックや表現も含め、人の前で心打つ演奏、独奏を目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	指の故障がない様、全部のキーでストレッチエクササイズを行う。
2回目	ダイナミックレンジを意識し、強・中・弱音を身につける。
3回目	ダイナミックマークの付いた楽譜を用いて指定されたとおりに実践する。
4回目	曲を完成する。
5回目	スタッカートとテヌートの違いを理解し弾き分ける。
6回目	音を採譜し、五線紙上に完成させる。
7回目	コードの特性を理解し、いろいろなパターンでリハーモナイズを行う。
8回目	ソロピアノ曲を指導する。
9回目	指導した曲を発表する。
10回目	初見力を充実させ初心者への指導できる様、指導する。
11回目	今までの総合復習
12回目	実技テスト
13回目	期末テスト
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	人の前で、心打つ演奏する事をこの1年間で意識する。
評価方法	12週目に行う実技テスト(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	心打つ演奏とは何なのかを自らよく、この1年間考えてください。
【使用教科書・教材・参考書】 スタンダード曲集、ハノン、クラシック集、スタンダードジャズ集、プリント等	

科目名 (英)	プレイングテクニックⅣ	選択 必修	必修選択	年次	2	担当教員	北山幸恵
	Playing TechniquesⅣ	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30	開講区分	2年次 後期
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科				2	曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 ソロピアニストにとって必要なテクニック、表現力の向上、対応力を身につける。 指の故障のない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。							
【到達目標】 テクニックや表現も含め、人の前で心打つ演奏、独奏がたくさんできる事を目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	夏休み期間の課題を発表。
2回目	今までの復習テスト、理解できなかった箇所を確認する。
3回目	ロングトーンアルペジオのエクササイズを指導。
4回目	ジャンルによるバックイングを理解する。
5回目	ジャンルによるバックイングを実践する。
6回目	ボーカルとのデュオの実践を希望する。
7回目	ソロピアノ曲を指導。
8回目	指導した曲を発表。
9回目	初心者指導の実習を希望する。
10回目	今までの総合復習①
11回目	今までの総合復習②□
12回目	実技テスト
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	授業以外、プライベートでいろいろな曲の研究を希望します。
評価方法	12週目に行う実技テスト(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	できれば人の前で発表できる曲をたくさん集めて暗譜する事を希望します。
【使用教科書・教材・参考書】 スタンダード曲集、ハノン、クラシック曲集、プリント等	

科目名 (英)	ディクシオン I (Diction I)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	井戸川誠
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日2限目
【授業の学習内容】 洋楽の名曲を使用し、言葉を明確に伝え、音を正確に歌う技術を学びます。 <small>【基礎的な練習】母音、字音の発音練習 早口言葉 【課題曲】リエゾン、音節の区切り方、アクセントなど、英語の楽曲を使用し、言葉とリズムを正確に歌うテクニックを実践していきます。 (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター 池東信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカリストスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。</small>							
【到達目標】 英語を恐れず歌えるようになる。 英語の子音、母音を理解し、歌で実践できるようになる。 子音でリズムを明確に再現し、母音のポジションをコントロールしてピッチを明確に歌えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	まずは楽しく歌ってみよう！ 課題曲①Beatles「Hard days night」□
2回目	まずは楽しく歌ってみよう！ 課題曲①Beatles「Hard days night」□
3回目	簡単な子音にチャレンジ(th, f, v) 課題曲②Elvis Presley「Can't help falling in love with you」 □
4回目	簡単な母音にチャレンジ(a, e, i, ou, u) 課題曲②Elvis Presley「Can't help falling in love with you」 □
5回目	日本語にない子音にチャレンジ(l, r) 課題曲③Cyndi Lauper「Time after time」
6回目	日本語にない母音にチャレンジ(æ, ʌ, ə, ɔ) 課題曲③Cyndi Lauper「Time after time」
7回目	発音ミニテスト
8回目	テストの全体的なフィードバック、苦手発音の洗い出し 課題曲④Boys town gang「Can't take my eyes off you」□
9回目	苦手発音を強化しましょう 課題曲④Boys town gang「Can't take my eyes off you」□
10回目	ロックをカッコよく 課題曲⑤Bon Jovi 「You give love a bad name」
11回目	ロックをカッコよく 課題曲⑤Bon Jovi 「You give love a bad name」
12回目	テスト課題曲 Gloria Estefan「Conga」 練習
13回目	テスト Gloria Estefan「Conga」
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	発音の宿題。課題曲の練習□
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	英語の発音を名曲を通してマスターしていきます。 事」で楽しんで克服していきましょう！ 世界を目指すヴォーカリストになりましょう！ 今まで英語が苦手だった人も、「知らなかったことを知る事」練習する
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ディクシオン II (Diction II)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	井戸川 誠
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日2限目
【授業の学習内容】 前期よりさらに発音の難易度が上がります。TH、LR、リエゾンなど苦手な部分にフォーカスして練習していきます。 <small>【基礎的な練習】母音、子音の発音練習 早口言葉 【課題曲】有名な英語の楽曲(スタンダード)を使用します。 (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター 池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。</small>							
【到達目標】 英語の発音を恥ずかしながら歌えるようになる。 英語の子音、母音を理解し、歌で実践できるようになる。 子音でリズムを明確に再現し、母音のポジションをコントロールしてピッチを明確に歌えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期の発音の復習、苦手な発音の確認 課題曲①Little Eva「Locomotion」□
2回目	苦手に発音に気を付けて課題曲に挑戦してみよう 課題曲①Little Eva「Locomotion」□□
3回目	リエゾン強化週 課題曲②Earth wind & Fire「September」□
4回目	リエゾン強化週2 課題曲②Earth wind & Fire「September」□
5回目	TH強化週 課題曲③Aerosmith 「I don't wanna miss a thing」□
6回目	TH強化週2 課題曲③Aerosmith 「I don't wanna miss a thing」□
7回目	発音ミニテスト □
8回目	LR強化週 課題曲④Last Christmas□
9回目	LR強化週 課題曲④Last Christmas□
10回目	現在地を確認しましょう。これまで練習した曲の中から歌唱
11回目	テスト課題曲 Aerosmith「Walk this way」練習
12回目	テスト Aerosmith「Walk this way」
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	発音の宿題。課題曲の練習□
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	自分の得意な発音、苦手な発音がそろそろ分かってくる頃だと思います。 たびに、夢に近づいていることを忘れずに！！ 引き続き楽しんでいきましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】	

苦手なものが見つかる

科目名 (英)	ディクシオンⅢ (DictionⅢ)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	THE SOULMATICs
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日2限目
【授業の学習内容】 1年生の時に学んだ発音を歌のテクニックとしてさらに強化し、それぞれの学生の苦手な発音に着目して強化していきます。							
【到達目標】 英語の歌に対する苦手意識を克服する。子音、母音の発音記号を理解し、課題曲の歌のスタイルに合わせて使い分けられるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	バラードをゆっくりはっきりしっかりと歌おう！課題曲①Roberta Flack 「Killing me softly」□
2回目	バラードをゆっくりはっきりしっかりと歌おう！パート2 課題曲①Roberta Flack 「Killing me softly」□
3回目	できてそうで出来てない子音を強化 課題曲②No doubt 「Don't speak」□
4回目	できてそうで出来てない子音を強化 パート2 課題曲②No doubt 「Don't speak」
5回目	リズムを歌おう 課題曲③Carole King 「You've got a friend」
6回目	リズムを歌おう パート2 課題曲③Carole King 「You've got a friend」□
7回目	発音小テスト
8回目	NY風、バラードをゆっくりはっきりしっかりと！課題曲④Eric Carmen「All by myself」□
9回目	NY風、バラードをゆっくりはっきりしっかりと！パート2課題曲④Eric Carmen「All by myself」□
10回目	かっこよく発音しましょう 課題曲⑤Michael Jackson「Man in the mirror」□
11回目	かっこよく発音しましょう パート2 課題曲⑤Michael Jackson「Man in the mirror」□
12回目	テスト(自由曲)の歌唱
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	発音の宿題 課題曲の練習□
評価方法	実技テスト(提示された課題曲に対して、正しい発音で歌唱できているか評価する) 出席率□
受講生への メッセージ	得意なものを伸ばすという意味でも 弱点の克服という意味でも 英語の発音のテクニックは皆さんの歌の将来を大きく関わってきます。 予習、復習をしっかりとやって、着実に積み上げていきましょう。 □
【使用教科書・教材・参考書】 発音練習用プリント、歌詞	

科目名 (英)	ディクシオン IV (DictionIV)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	THE SOULMATIC S
学科・コース	スーパー・eエンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日2限目
【授業の学習内容】							
前期同様、英語の課題曲を用いてさらに明確で確実な発音を目指していきます。							
引き続きリエゾン、音節の区切り方、アクセントなど、英語をかつこよく歌うためのテクニックを実践し、呼吸や発声も学生のレベルに合わせてアドバイスしていきます。							
色々な年代のスタンダードな曲を課題曲/アンサンブルの授業の楽曲を課題曲にします。							
〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディ							
【到達目標】							
発音の原則を理解し、様々な楽曲で効果的に使えるようになる。							
前期より自由に、大きくダイナミックに発音できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	難曲を完璧に発音しましょう！課題曲①Michael Bolton「How am I sponse to live without you」□
2回目	難曲を完璧に発音しましょう！パート2 課題曲①Michael Bolton「How am I sponse to live without you」□
3回目	リズム！リエゾン！リズム！リエゾン！課題曲②Taylor Swift「You belong with me」□
4回目	リズム！リエゾン！リズム！リエゾン！パート2 課題曲②Taylor Swift「You belong with me」□
5回目	ロックに！かつこよく 課題曲③Avril Lavine「Complicated」□
6回目	ロックに！かつこよく パート2課題曲③Avril Lavine「Complicated」□
7回目	名曲をかつこよく歌いましょう！課題曲④Robbie Williams「Angels」□
8回目	名曲をかつこよく歌いましょう！パート2 課題曲④Robbie Williams「Angels」□
9回目	Rを仕上げましょう！課題曲⑤P!nk 「Raise your glass」□
10回目	Rを仕上げましょう！パート2 課題曲⑤P!nk 「Raise your glass」□
11回目	テスト 今年度、この授業で歌った楽曲の中から1曲発表□
12回目	Sowcase、We areにおいて必要な楽曲の発音をチェック
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	発音の宿題 課題曲の練習□
評価方法	実技テスト(提示された課題曲に対して、正しい発音で歌唱できているか評価する) 出席率□
受講生への メッセージ	発音に関して言えることは以下の2つです！！ ◎覚えればできる ◎練習すればできる 可能性に蓋をせず、着実に前に進んでいきま しょう！□
【使用教科書・教材・参考書】	
発音練習用プリント、歌詞	

科目名 (英)	ヴォイストレーニング I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	井戸川誠・田中将貴
	(VoiceTraining I)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)					曜日・時限	月曜日1限目・2限目

【授業の学習内容】

①Chestレジスター内もしくは少しMiddleレジスターに入るくらいのエリアで歌い、安心と安定を作る。
 ②それぞれの声の特性を知り、それに則したトレーニングをする。
 ③Headレジスターをじっくり作っていく。
 (講師プロフィール)
 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ、年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアフロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池本信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカリスト、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。

【到達目標】

- ①自分の声と向き合う習慣を持つ。
- ②このトレーニングで行う3つのスケールを覚えて、歌うことができる。(5ノート、オクターブ、オクターブ&ハーフ)
- ③楽曲練習にボーカライゼーションを取り入れる習慣を持つ。
- ④ステージ経験をjする。

授業計画・内容	
1回目	【どんな授業?】 言葉を構成する要素には子音と母音があり、歌う際はこれのコンビネーションを使う。このクラスではそれらを分解し、スケール練習に入れることで、歌う下地を作る。自己紹介好きなアーティストを教えてくださいがなぜ好きなのか、どういうところをお手本にしたいのかまで聞く。こちらの到達目標も話し共有する。→トレーニング方法の講義、実演。(Liproll、Mum) 次回1コーラス歌ってみよう。
2回目	自分の好きな曲を歌ってみよう!!これを通してそれぞれの声の特徴を知っています。3つのトレーニング用スケールのレクチャー。ピアノで弾けるように。
3回目	始めはオの母音を中心にトレーニングをし、口を縦に開ける基礎を作る。課題曲①を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらおう。ボーカライゼーションも。
4回目	オの母音をまず復習し、アの母音にも応用するように口を開ける。課題曲①をセクションを跨いで歌唱。
5回目	ウの母音をレクチャー&実演。オとアのトレーニングおさらいと経過観察。課題曲①を1コーラス歌唱してみよう。
6回目	イの母音をレクチャー&実演。オとアとウのトレーニングおさらいと経過観察。課題曲②を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらおう。
7回目	エの母音をレクチャー&実演。オとアとウとイのトレーニングおさらいと経過観察。課題曲②をセクションを跨いで歌唱。
8回目	全ての基本的な母音の口の開け方と共鳴をリラックスした状態でどこからどこまで歌えるのかを知る。課題曲②を1コーラス歌唱してみよう。
9回目	全ての基本的な母音の口の開け方と共鳴をリラックスした状態でどこからどこまで歌えるのかを知る②。課題曲③を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらおう。
10回目	3つのスケールをピアノで弾けるかをチェック。エクササイズ。課題曲③をセクションを跨いで歌唱。
11回目	質疑&応答。エクササイズ。課題曲③を1コーラス歌唱してみよう。
12回目	課題曲①～③の中から1曲を選曲し、ステージで歌唱する。
13回目	振り返りとトレーニング。
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	スケールの理解の為の反復。エクササイズを体現するための反復。
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	常に今のMyBestを録音しよう!!完璧じゃなくていい。後で聞いたときにきっと過去も今も誇れると思いますよ!!練習をする事で自分の事を知ろう!!経験を重ねることで成長しますので、その経験を重ねる努力をしよう。
【使用教科書・教材・参考書】	
ipad	

科目名 (英)	ヴォイストレーニングⅡ (VoiceTraining Ⅱ)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	井戸川誠・田中将貴
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜日1限目・2限目
【授業の学習内容】							
<p>①Chestレジスター～Middleレジスターに入り、そのエリアで歌い、安心と安定を作る。 ②それぞれの声の特性を知り、それに則したトレーニングをする。 ③Headレジスターへの行き来をエクササイズに取り入れる。 (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアボロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池来信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカリストスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。</p>							
【到達目標】							
<p>①自分の声と向き合う習慣を持つ。 ②このトレーニングで行う3つのスケールをゆっくりでも弾きながら、歌うことができる。(5ノート、オクターブ、オクターブ&ハーフ) ③楽曲練習にボーカライゼーションを取り入れる習慣を持つ。 ④ステージ経験を積み重ねる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	前期を通して自分の声と向き合ってきた気づいたことをシェアしあってみよう!! 3タイプに分ける。課題曲④を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらう。
2回目	LightChest、PullChest、Flipの3タイプのどれに属するかを診て、エクササイズを処方する。(個人をみるアプローチ) 課題曲④をセクションを跨いで歌唱。
3回目	それぞれのエクササイズへのアプローチを聴きながらアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲④を1コーラス歌唱してみよう。
4回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑤を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらう。
5回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑤をセクションを跨いで歌唱。
6回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑤を1コーラス歌唱してみよう。
7回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑥を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらう。
8回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑥をセクションを跨いで歌唱。
9回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑥を1コーラス歌唱してみよう。
10回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。教室内リハ(曲を選んで歌唱)
11回目	後期の課題曲の中から1曲を選曲し、ステージで歌唱する。
12回目	振り返りとトレーニング。
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	自分に処方されたトレーニングを練習し、向き合う時間と歌の練習。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	今までのMyBestの積み重ね、聞いてみましたか? 時に過去の自分の歌から今の自分へのヒントが見つかることがありますよ。沢山の歌の思い出を作ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	

ipad



科目名 (英)	ヴォイストレーニングⅢ (Voice training Ⅲ)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	柴田峰志・上田彩
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日1限目・2限目
【授業の学習内容】 ①シンガーにとって必要なヴォイストレーニングの基礎知識やノウハウを、実践を交えながら教えていく。また練習経過を丁寧に観察し、細やかなフィードバックや更なる練習法の提示、その後再度経過観察、を繰り返しながら声の基礎作りのサポートをする。②発声トレーニング(①)で学んだことを活かし歌唱の中で実践出来るようにレクチャーする。 (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカルクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 声の基礎が固まり、様々な課題曲を自信を持って歌いこなすことが出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	【発声】1年生の復習・呼吸・低音・表情筋の強化 【歌唱】共通Bridge over troubled water (Simon&Garfunkel/LeannRimes)発音・コツ・1番を歌ってみよう
2回目	【発声】呼吸・低音・表情筋の徹底トレーニング 【歌唱】共通Bridge over troubled water (Simon&Garfunkel/LeannRimes)復習・1曲通して歌ってみよう
3回目	【発声】ソルフェージュ・イーストレッチ・裏声 【歌唱】Bridge over troubled water (Simon&Garfunkel/LeannRimes)ミニ発表会・1人ずつ前で歌ってみよう
4回目	【発声】呼吸・低音・表情筋・イーストレッチの徹底トレーニング 【歌唱】男Fly me to the moon (FrankSinatra) 女Top of the world (Carpenters)※以下進行は1曲目同様
5回目	【発声】ソルフェージュ・スタッカート・メミマム 【歌唱】男Fly me to the moon (FrankSinatra) 女Top of the world (Carpenters)
6回目	【発声】クラシック発声・ロングトーン 【歌唱】男Fly me to the moon (FrankSinatra) 女Top of the world (Carpenters)
7回目	【発声】まとめの小テスト 【歌唱】男Your song (EltonJohn) 女The climb (MileyCyrus)
8回目	【発声】1対1での細かいチェックとフィードバック 【歌唱】男Your song (EltonJohn) 女The climb (MileyCyrus)
9回目	【発声】前回からの経過チェック 【歌唱】男Your song (EltonJohn) 女The climb (MileyCyrus)
10回目	【発声】呼吸・低音・表情筋の徹底トレーニング 【歌唱】男Love me tender (ElvisPresley) 女So far away (CaroleKing)※今回のみ仕上げ2週間です
11回目	【発声】スタッカート・メミマム・ソルフェージュ・ロングトーン・クラシック発声の徹底トレーニング 【歌唱】男Love me tender (ElvisPresley) 女So far away (CaroleKing)
12回目	曲決定・勘所のチェック・衣装の打ち合わせ・発表会のリハーサル
13回目	全体発表会(1人1曲・課題曲の中から選曲しステージで歌ってみよう)
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	人前で楽しく自信を持って歌えるように全力でサポートします！いっぱい練習して来てください！
【使用教科書・教材・参考書】 歌詞カード・ノート・筆記用具・録音機器	

科目名 (英)	ヴォイストレーニングⅣ (Voice training Ⅳ)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	柴田峰志・上田彩
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜日1限目・2限目
【授業の学習内容】 ①シンガーとして必要なヴォイストレーニングの基礎知識やノウハウを、実践を交えながら教えていく。また練習経過を丁寧に観察し、細やかなフィードバックや更なる練習法の提示、その後再度経過観察、を繰り返しながら声の基礎作りのサポートをする。②発声トレーニング(①)で学んだことを活かし歌唱の中で実践出来るようにレクチャーする。 (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカルクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 声の基礎が固まり、様々な課題曲を自信を持って歌いこなすことが出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	【発声】前期の復習・個々の経過チェック 【歌唱】男She (ElvisCostello) 女Rainydays and mondays (Carpenters)発音・コツ・1番を歌ってみよう
2回目	【発声】呼吸・低音・イーストレッチ強化 【歌唱】男She (ElvisCostello) 女Rainydays and mondays (Carpenters)復習・1曲通して歌ってみよう
3回目	【発声】ソルフェージュ・クラシックボイス・裏声強化 【歌唱】男She (ElvisCostello) 女Rainydays and mondays (Carpenters)ミニ発表会・1人ずつ前で歌ってみよう
4回目	【発声】表情筋・ソルフェージュ・イーストレッチ強化 【歌唱】男Can you feel the love tonight(EltonJohn) 女Milion reasons(LadyGaga)※以下進行は1曲目同様
5回目	【発声】1対1での細かいチェックとフィードバック 【歌唱】男Can you feel the love tonight(EltonJohn) 女Milion reasons(LadyGaga)
6回目	【発声】前回からの経過チェック 【歌唱】男Can you feel the love tonight(EltonJohn) 女Milion reasons(LadyGaga)
7回目	【発声】呼吸・低音・表情筋・ソルフェージュテスト 【歌唱】男Home(MichealBuble) 女Killing me softly(RobertaFlack)
8回目	【発声】スタッカート・メミマム・クラシックボイステスト 【歌唱】男Home(MichealBuble) 女Killing me softly(RobertaFlack)
9回目	【発声】イーストレッチ・裏声テスト 【歌唱】男Home(MichealBuble) 女Killing me softly(RobertaFlack)
10回目	【発声】1年間のまとめ・質疑応答 【歌唱】男Home(MichealBuble) 女Killing me softly(RobertaFlack) 後期発表会の曲決め
11回目	勤所のチェック・衣装の打ち合わせ・発表会のリハーサル
12回目	全体発表会(1人1曲・課題曲の中から選曲しステージで歌ってみよう)
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	人前で楽しく自信を持って歌えるように全力でサポートします！いっぱい練習して来てください！
【使用教科書・教材・参考書】 歌詞カード・ノート・筆記用具・録音機器	

科目名 (英)	ヴォーカルテクニク (Vocal Technique)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	権藤勝
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日1限目
【授業の学習内容】 譜面や図を用いてのリズム、リズムパターンの解説とリズムトラックを用いてグループワークトレーニング 譜面を用いてのさまざまなスケールの解説と歌唱実践、トラックを用いてのグループワークトレーニング リズムとメロディーを合わせたインプロビゼーションの解説と実践、課題曲や小節フレーズでのダイナミックスのトレーニング (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーレコーディングは五木ひろしから平井堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボカススクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 リズム、リズムパターンのバリエーションを理解して歌えるようになろう♪ スケールを歌いこなせるようになろう♪ リズムとメロディーを用いてさまざまなリズムパターンとシンプルなコード進行の中で歌えるようになろう♪ ダイナミックスをコントロールして歌えるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	さまざまなテクニクを知り、可能性を見つけよう
2回目	リズムとリズムパターンを聴き取れるようになろう
3回目	リズムとリズムパターンを体感して再現できるようになろう
4回目	3種類のスケールを聴き取れるようになろう
5回目	3種類のスケールを歌えるようになろう
6回目	リズムパターンの中でリズムを駆使してスケールを歌えるようになろう
7回目	小テスト
8回目	3和音の聴き取りと機能が理解できるようになろう
9回目	シンプルなコード進行の中でリズムとメロディーを用いて歌ってみよう
10回目	2種類のダイナミックスを聴き取れるようになろう
11回目	2種類のダイナミックスを再現できるようになろう
12回目	リズムとメロディーとダイナミックスを用いてシンプルなコード進行の中で歌ってみよう
13回目	評価週
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	課題曲視聴、分析、歌唱 音源トラックでの歌唱試行 譜面、図解の熟読
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	テクニクを知り、習得することで、みなさんのヴォーカル力は進化していくでしょう♪ より自由に、より楽しく、より感動的に歌える、本格派と一緒に目指しましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 譜面 図表 リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルテクニック (Vocal Technique)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	権藤勝
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 金曜日1限目
【授業の学習内容】 課題曲や小節フレーズでの音色のトレーニング、音色とダイナミクスを合わせたインプロビゼーションの解説と実践 和音の機能解説と聴感トレーニング、課題曲を用いての歌詞のアナライズ (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカリストスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 音色をコントロールして歌えるようになろう♪ 音色とダイナミクスを合わせて音楽的に歌えるようになろう♪ リズムとメロディーを用いてさまざまなリズムパターンと複雑なコード進行の中で歌えるようになろう♪ 歌唱の理解と自由解釈を通して、感情と歌唱表現を一致させて歌えるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	3種類の音色を聴き取れるようになろう
2回目	3種類の音色を再現できるようになろう
3回目	ダイナミクスと音色を聴き取れるようになろう
4回目	ダイナミクスと音色を同時に再現できるようになろう
5回目	自由に歌ってみよう
6回目	小テスト
7回目	複雑な3和音を聴き取れるようになろう
8回目	複雑な3和音の中でリズムとメロディーをコントロールして歌えるようになろう
9回目	歌詞の世界観を味わい深く理解できるようになろう
10回目	歌詞を解釈して自身の感情や歌唱表現と繋ぎ合わせられるようになろう
11回目	自由に表現して歌ってみよう
12回目	評価週
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	課題曲視聴、分析、歌唱 音源トラックでの歌唱試行 譜面、図解の熟読
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	テクニックを知り、習得することで、みなさんのヴォーカル力は進化していくでしょう♪ より自由に、より楽しく、より感動的に歌える、本格派と一緒に目指しましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 譜面 図表 リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルテクニク	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	権藤勝
	(Vocal Technique)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)					曜日・時限	金曜日2限目
【授業の学習内容】 譜面や図を用いてのリズム、リズムパターンの解説とリズムトラックを用いてグループワークトレーニング、譜面を用いてのさまざまなスケールの解説と歌唱実践、トラックを用いてのグループワークトレーニング、リズムとメロディーを合わせたインプロビゼーションの解説と実践 課題曲や小節フレーズでのダイナミクスのトレーニング <small>(講師プロフィール)</small> 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボカスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 リズム、リズムパターンのバリエーションを理解して歌えるようになろう♪ スケールを歌いこなせるようになろう♪ リズムとメロディーを用いてさまざまなリズムパターンとシンプルなコード進行の中で歌えるようになろう♪ ダイナミクスをコントロールして歌えるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	さまざまなテクニクを知り、可能性を広げよう
2回目	リズムとリズムパターン聴き取り、その主なジャンルが理解できるようになろう
3回目	リズムとリズムパターンを体感して再現できるようになろう
4回目	6種類のスケールを聴き取れるようになろう
5回目	6種類のスケールを歌えるようになろう
6回目	リズムパターンの中でリズムを駆使してスケールを歌いこなそう
7回目	小テスト
8回目	4和音の聴き取りと機能が理解できるようになろう
9回目	シンプルなコード進行の中でリズムとメロディーを用いて歌いこなせるようになろう
10回目	4種類のダイナミクスを聴き取れるようになろう
11回目	4種類のダイナミクスを再現できるようになろう
12回目	リズムとメロディーとダイナミクスを用いてシンプルなコード進行の中で歌いこなそう
13回目	評価週
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	課題曲視聴、分析、歌唱 音源トラックでの歌唱試演 譜面、図解の熟読
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	テクニクを知り、習得することで、みなさんのヴォーカル力は進化していくでしょう♪ より自由に、より楽しく、より感動的に歌える、本格派と一緒に目指しましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 譜面 図表 リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルテクニック (Vocal Technique)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	権藤勝
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・プロミュージシャン科(ヴォーカル)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 金曜日2限目
【授業の学習内容】 課題曲や小節フレーズでの音色のトレーニング、音色とダイナミクスを合わせたインプロビゼーションの解説と実践 和音の機能解説と聴感トレーニング、課題曲を用いての歌詞のアナライズ (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカリストスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 音色をコントロールして歌えるようになろう♪ 音色とダイナミクスを合わせて音楽的に歌えるようになろう♪ リズムとメロディーを用いてさまざまなリズムパターンと複雑なコード進行の中で歌えるようになろう♪ 歌唱の理解と自由解釈を通して、感情と歌唱表現を一致させて歌えるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	5種類の音色を聴き取れるようになろう
2回目	5種類の音色を再現できるようになろう
3回目	ダイナミクスと音色を聴き取れるようになろう
4回目	ダイナミクスと音色を同時に再現できるようになろう
5回目	ダイナミクスと音色を自由に歌いこなそう
6回目	小テスト
7回目	複雑な4和音を聴き取れるようになろう
8回目	複雑な4和音の中でリズムとメロディーをコントロールして歌いこなそう
9回目	歌詞の世界観を味わい深く理解できるようになろう
10回目	歌詞を解釈して自身の感情や歌唱表現と繋ぎ合わせられるようになろう
11回目	自由に表現して歌えるようになろう
12回目	評価週
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	課題曲視聴、分析、歌唱 音源トラックでの歌唱試行 譜面、図解の熟読
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	テクニックを知り、習得することで、みなさんのヴォーカル力は進化していくでしょう♪ より自由に、より楽しく、より感動的に歌える、本格派と一緒に目指しましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 譜面 図表 リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	PAクリエイション I	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	奥 功二
	PA Creation I	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	水曜2、3限
【授業の学習内容】 ミュージカル Hospital Of Miracleにおいて、音響チームのタスクはとて広範囲です。 まずは作品を理解する事が重要で、そのためには過去の本番映像を観て台本を読み込んでいきます。 実際に使用する機材の仕組み・操作方法などを学び、現場を想定したリハーサルを各種行いながら 音響感・テクニク・センスなど、ミュージカル音響のスキルを身につけます。 <講師プロフィール> ※ 実務者経験・ヤマハのレコーディングスタジオ、U2(ユーツー)のハウスエンジニアとして活躍。椎名林檎やGO!GO!1788、The LOVEなどアーティストの音源制作に携わる。スタジオワークだけでなく、独特の感性からミュージカル、お芝居などのPAエンジニア等も精力的に行う。現在は広島市の株式会社ハーツコーポレーションでチーフプランナーとして活躍。							
【到達目標】 Hospital Of Miracleの台本・演出を深く理解する。 各種使用機材の仕組み・操作ができる。 図面や回線表が理解できる。 舞台進行に沿ったスムーズなステージワーク、演出家の意向に沿ったオペレーションができる。 2023年1月の本番大成功を目指す。							

授業計画・内容	
1回目	BAND MIXは面白い！①
2回目	BAND MIXは面白い！②
3回目	CUE BOX ってすげーな！
4回目	一回全部仕込んでみよう！
5回目	本番へ向けて！稽古場に潜入。
6回目	本番へ向けて！稽古に参加。①
7回目	本番へ向けて！稽古に参加。②
8回目	本番終えて。あの感動をもう一度。
9回目	ProToolsって素晴らしい！①
10回目	ProToolsって素晴らしい！②
11回目	We are FSMを迎え撃て！①
12回目	We are FSMを迎え撃て！②
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外 学習	PA関連の他の講義もしっかり受講して身につけてください。 テレビ・ラジオ番組やドラマ・映画など、見聞きするすべてのものから音や演出のテクニクを学び取る事ができます。 普段からその意識を持ち、技術を向上させましょう。 舞台・照明・映像・マッピング・運営など、すべてのセクションに興味を持ってください。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	誰かにやらされるイベントではなく、成功への意思を持って自ら臨むイベントとなってくれるように、僕は最善を尽くします。 まずはこのイベントにとどっぷりはまってみてください。おのずと未来は拓けてきます。一生懸命やる事はカッコいいぞ。 自分のため、チームのため、お客さんのために、精一杯頑張ろう。
【使用教科書・教材・参考書】	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ミュージカルプロジェクト (Musical project)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	奥 功二
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
【授業の学習内容】						曜日・時限	
<p>ミュージカル Hospital Of Miracleにおいて、音響チームのタスクはとて広範囲です。 まず「作品を理解する事が重要で、そのためには過去の本番映像を観て台本を読み込んでいきます。 実際に使用する機材の仕組み・操作方法などを学び、現場を想定したリハーサルを各種行いながら 音響感・テクニク・センスなど、ミュージカル音響のスキルを身につけます。 <講師プロフィール> ※ 実務者経験・ヤマハのレコーディングスタジオ、U2(ユーツー)のハウスエンジニアとして活躍。椎名林檎やGO!GO!1788、The LOVEなどアーティストの音源制作に携わる。スタジオワークだけでなく、独特の感性からミュージカル、お芝居などのPAエンジニア等も精力的に行う。現在は広島市の株式会社ハーツコーポレーションでチーフプランナーとして活躍。</p>							
【到達目標】							
Hospital Of Miracleの台本・演出を深く理解する。 各種使用機材の仕組み・操作ができる。 図面や回線表が理解できる。 舞台進行に沿ったスムーズなステージワーク、演出家の意向に沿ったオペレーションができる。 2023年1月の本番大成功を目指す。							

授業計画・内容	
1回目	BAND MIXは面白い！①
2回目	BAND MIXは面白い！②
3回目	BAND MIXは面白い！③
4回目	CUE BOXってなに？クリアカムってなに？
5回目	担当セクションを決めよう。ステージ・ワイヤレスケア・検聴・バンドオペ・ワイヤレスオペ・タタキ・マニピュレーター・配信.....どれも重要！
6回目	キャストに感動！稽古に参加。①
7回目	キャストに感動！稽古に参加。②
8回目	全部仕込んでみよう！①丁寧に！
9回目	全部仕込んでみよう！②確実に！
10回目	本番通りにリハーサル！
11回目	本番成功に向けて！準備①
12回目	本番成功に向けて！準備②
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	PA関連の他の講義もしっかり受講して身につけてください。 テレビ・ラジオ番組やドラマ・映画など、見聞きするすべてのものから音や演出のテクニクを学び取る事ができます。 普段からその意識を持ち、技術を向上させましょう。 舞台・照明・映像・マッピング・運営など、すべてのセクションに興味を持ってください。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	誰かにやらされるイベントではなく、成功への意思を持って自ら臨むイベントとなってくれるように、僕は最善を尽くします。 まずはこのイベントにどっぷりはまってみてください。おのずと未来は拓けてきます。一生懸命やる事はカッコいいぞ。 自分のため、チームのため、お客さんのために、精一杯頑張ろう。
【使用教科書・教材・参考書】	
Hospital Of Miracle 台本	

科目名 (英)	舞台アドバンス I (Stage Advance)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	水戸 裕
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・舞台制作&ステージデザイナー	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 ()	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日・3～5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に付ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に付けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。</p> <p>我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に付ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。</p> <p>前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に付ける ・ミュージカルの成功を前期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする ・2年生としてより深く考察し、協力し合い、リーダーシップを発揮できるようにする 							

授業計画・内容	
1回目	舞台の基礎知識①～ガイダンス・舞台全般知識・入学式の進行と美術を確認する
2回目	舞台の基礎知識②～舞台機構・舞台名称などの舞台知識
3回目	舞台の基礎知識③～寸法、図面、タイムスケジュール
4回目	舞台の基礎知識④～木工製作、木材知識、工具知識
5回目	基礎製作 I ①～学園祭対応製作、木工作品製作
6回目	基礎製作 I ②～学園祭対応製作、木工作品製作
7回目	基礎製作 I ③～学園祭対応製作、木工作品製作
8回目	基礎製作 I ④～学園祭対応製作、木工作品製作
9回目	基礎製作 II ①～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
10回目	基礎製作 II ②～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
11回目	基礎製作 II ③～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
12回目	基礎製作 II ④～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学 習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に付けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	舞台アドバンスⅡ (Stage Advance)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	水戸 裕
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・舞台制作&ステージデザイナー	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 ()	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日・3～5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に付ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に付けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。</p> <p>我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に付ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。</p> <p>後期の最後に外部ホールで行われるWe are FSM 卒業進級制作は、1年間の集約されたものとなり、総括になる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に付ける ・We are FSM 卒業進級制作の成功を後期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする ・2年生としてより深く考察し、協力し合い、リーダーシップを発揮できるようにする 							

授業計画・内容	
1回目	基礎製作Ⅳ①～小道具製作(発泡スチロール造形)
2回目	基礎製作Ⅳ②～小道具製作(発泡スチロール造形)
3回目	基礎製作Ⅳ③～小道具製作(発泡スチロール造形)
4回目	基礎製作Ⅳ④～小道具製作(発泡スチロール造形)
5回目	基礎製作Ⅳ⑤～小道具製作(発泡スチロール造形)
6回目	基礎製作Ⅳ⑥～小道具製作(発泡スチロール造形)
7回目	応用製作①～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
8回目	応用製作②～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
9回目	応用製作③～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
10回目	応用製作④～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
11回目	応用製作⑤～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
12回目	応用製作⑥～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に付けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	PAテクニック I (PA Technic I)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	西岡幹浩
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
				曜日・時限	水曜4、5時限		
<p>【授業の学習内容】</p> <p>PAエンジニアとして一般的に使用するケーブルの種類マイクの名前種類、機材の名前扱い方を覚え、基本的な機材の組み方繋ぎ方など初歩的な知識を身につける。</p> <p><講師プロフィール></p> <p>※ 実務者経験:熊本を中心にNumberShotやAso Rock Festivalなど九州各地のイベント・フェス等にフリーのエンジニアとして参加。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>一般的に扱われるマイク、機材の名前を覚え初歩的なアナログ卓を単独で繋ぎこみできるようにする。</p>							

授業計画・内容	
1回目	自己紹介 ケーブル巻き練習
2回目	マイク種類 ダイナミック コンデンサー ファンタム電源の話
3回目	ケーブル種類 マイクケーブル SPケーブルの違い
4回目	マイクスタンド扱い方
5回目	DI説明
6回目	マルチケーブルの種類 名称 マルチケーブルの巻き方
7回目	電源の説明
8回目	GEQ パラメトリックの違い
9回目	ミキサーつまみ種類
10回目	ブリ ポストの説明
11回目	アナログ卓のリバーブの繋げ方
12回目	チューニングのやり方
13回目	インサート コンプ ゲートの説明
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	PAテクニックⅡ (PA Technic II)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	西岡幹浩
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
				曜日・時限	水曜4、5時限		
<p>【授業の学習内容】</p> <p>PAエンジニアとして一般的に使用するケーブルの種類マイクの名前種類、機材の名前扱い方を覚え、基本的な機材の組み方繋ぎ方など初歩的な知識を身につける。</p> <p><講師プロフィール></p> <p>※ 実務者経験:熊本を中心にNumberShotやAso Rock Festivalなど九州各地のイベント・フェス等にフリーのエンジニアとして参加。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	メンテナンス ケーブル作り ハンダ作業
2回目	PS15システムの説明
3回目	VRXシステムの説明
4回目	位相の聴き比べ
5回目	RIOデジチェーン リダントの説明
6回目	回線表 見方
7回目	WLの設定の説明
8回目	マトリックス バスアウトの説明
9回目	バンド資料を見て回線表作成
10回目	チューニング ハウスとモニター
11回目	モニ卓の説明
12回目	チャンデバの説明ネットワークの説明
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	PAテクニックIV	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	旦花 斉
	(PA TechnicIV)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (8)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	水曜日1限目～4限目
【授業の学習内容】 基本、実習を駆使して、実務の中で経験してきた事案に対して、受講生自身が体験し、考察や問題解決に取り組んでもらう。 実習をやりながら、技術はもとより、相手への気遣い、読解力、状況の判断力、物の大切さ、仕事がいける有り難さ、返事、挨拶の大切さを教えていき、笑顔を忘れず、良好な人間関係を築く事での成功を自ら色々な実習を通して体験し、理解してもらおう。 <講師プロフィール> 旦花 斉 ※ 実務者経験:2016年よりこれまでの株式会社STAFFから独立し、さらなる人と人との繋がりや音の創造の為に、株式会社TANGAを立ち上げる。 Circle、阿蘇ロックフェスティバル、音恵、NumberShot、SkyJamboree、ROCKだぜ、東京ガールズコレクションなどの大型コンサートイベントの音響を手掛ける。							
【到達目標】 本校学生が、自分自身のやりたいことを見つけ、それに向かって活動していく中で授業等で身につけたスキルを生かして、進みたい道を選ぶようになることと共に、社会人となった時に基本をしっかりと身につけて人生を謳歌していただく事。							

授業計画・内容	
1回目	PAの歴史と変遷、これからの音響 / 電気知識全般 電源の話、テスターの使い方
2回目	ケーブル作成、コネクタの種類、配線を理解する-①
3回目	ケーブル作成、コネクタの種類、配線を理解する-②
4回目	機材の運び方、積み込み方、スタッキングの仕方、仕込み方、バラシ方
5回目	機材のメンテナンス-① 興味のある機材をバラバラにしてみる。
6回目	機材のメンテナンス-② いろんな機材の役目と使用方法を掘り下げてみる。
7回目	現場の一日の流れを理解して、やるべき手順が考察できるようになる。
8回目	PCソフトの紹介。音源の編集（音の延長や切り取り）、図面作成ソフト、音場測定ソフトなどなど。
9回目	音を出す-① ジャンルに合わせて、各楽器の色々な音を作ってみる
10回目	音を出す-② 色々なディレイやリバーブ等エフェクト音を作ってみる
11回目	音を出す-③ コンプを使ってバランスの良い音を作ってみる
12回目	アーティスト系コースを含めたライブ形式での1日の流れを確認すると共に限られた時間での音作りに挑戦する-①(事前準備)
13回目	アーティスト系コースを含めたライブ形式での1日の流れを確認すると共に限られた時間での音作りに挑戦する-②(本番)
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ●できる限り、いろんなジャンルの音楽を聴く事 ●本校が協力の各研修に参加すること。 ●時間があれば自習等で復習を行い、わからない部分を明確にして授業時等で質問してもらおう
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ●「情けは人の為ならず」
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:PA入門(小瀬高夫+須藤浩) / 図でわかるPAの基本(半澤公一) 参考書:スグに使えるEQレシピ(角智行) / スグに使えるディレイ&リバーブレシピ(安齋直宗) / スグに使えるコンプレシピ(早乙女正雄)	

科目名 (英)	PAテクニックIV (PA TechnicIV)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	旦花 斉
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (8)	開講区分	後期
				曜日・時限	水曜日1限目～4限目		
【授業の学習内容】 基本、実習を駆使して、実務の中で経験してきた事案に対して、受講生自身が体験し、考察や問題解決に取り組んでもらう。 実習をやりながら、技術はもとより、相手への気遣い、読解力、状況の判断力、物の大切さ、仕事がいただける有り難さ、返事、挨拶の大切さを教えていき、笑顔を忘れず、良好な人間関係を築く事での成功を自ら色々な実習を通して体験し、理解してもらおう。 <講師プロフィール> 旦花 斉 ※ 実務者経験:2016年よりこれまでの株式会社STAFFから独立し、さらなる人と人との繋がりと言の創造の為に、株式会社TANGAを立ち上げる。 Circle、阿蘇ロックフェスティバル、音恵、NumberShot、SkyJamboree、ROCKだぜ、東京ガールズコレクションなどの大型コンサートイベントの音響を手掛ける。							
【到達目標】 本校学生が、自分自身のやりたいことを見つけ、それに向かって活動していく中で授業等で身につけたスキルを生かして、進みたい道を選べるようになることと共に、社会人となった時に基本をしっかりとし身につけて人生を謳歌していただく事。							

授業計画・内容	
1回目	ライブハウスにて実習(主に生ピアノについて学習する)
2回目	ワイヤレスの知識 周波数プランの作成 アンテナの調整、運用の実際、必要であれば汗対策
3回目	信号の流れ ① MicやDIの役割と種類。ミキサーまでの信号の流れ
4回目	信号の流れ ② ミキサー内の様々なBusLineを考える、また、BusLineの役割
5回目	信号の流れ ③-1 ミキサー内の信号の流れ(レベルのとり方)
6回目	信号の流れ ③-2 ミキサー内の信号の流れ(CUE、VCA、etc)
7回目	信号の流れ ④-1 ミキサーよりスピーカーへの信号の流れ(チャンネルディバイディングやスピーカープロセッサーを使う)
8回目	信号の流れ ④-2 ミキサーよりスピーカーへの信号の流れ(スピーカーのインピーダンスを理解する)
9回目	信号の流れ ⑤ シリーズ配線、パラ配線、インサート配線の確認 (次回授業の準備も含む)
10回目	アーティスト系コースを含めたライブ形式での1日の流れを確認すると共に限られた時間での音作りに挑戦する
11回目	信号の流れ ⑥ ノイズをなくす、若しくは、軽減する。トラブル回避
12回目	信号の流れ ⑦ 音の位相を理解する(マイク、スピーカー、ケーブルetc)(音は空気の振動)
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	<ul style="list-style-type: none"> ●できる限り、いろんなジャンルの音楽を聴く事 ●本校が協力の各研修に参加すること。 ●時間があれば自習等で復習を行い、わからない部分を明確にして授業時等で質問してもらおう
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	「情けは人の為ならず」
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:PA入門(小瀬高夫+須藤浩) / 図でわかるPAの基本(半澤公一) 参考書:スグに使えるEQレシピ(角智行) / スグに使えるディレイ&リバーブレシピ(安齋直宗) / スグに使えるコンプレッソ(早乙女正雄)	

科目名 (英)	PAアドバンス I (Public Address Advance)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	金子秀樹
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
				曜日・時限	金曜1・2限		
【授業の学習内容】 イベントホールにて、より複雑なPAの技術を学び、即戦力となるオペレーション技術を身につけます。 また、各種イベントに合ったPAプラン、コンソールの設定を学びます。 <講師プロフィール> ※ブルーノートフクオカにサウンドチーフとして就任、その後独立しフリーランスでPAとレコーディングの音響技師。 楽曲制作を行なっています。学校が所有する楽器や持ち込み可能な楽器に関しては実物を使用して実施します。 実物の使用が困難な楽器に関しては資料音源や資料動画を使用して実施します							
【到達目標】 催事の内容に合った機材の選択やプランが行なえ、オペレーションやトラブル対応も習得。							

授業計画・内容	
1回目	コンソールの基本設定 電源、システムの構成、結線と注意点
2回目	基本操作① シーンメモリー、ファイリングとスナップショット
3回目	基本操作② アウトプットの種類と役割、アサインとパッチベイ (パラメトリックイコライザー、クワフィックイコライザー含む)
4回目	基本操作③ インput画面の各種操作、アサインとパッチベイ
5回目	基本操作④ プラグインのパッチと操作
6回目	基本操作⑤ バーチャルサウンドチェック ProToolsの結線と使用法
7回目	音作り① ドラムセット マイクアレンジ、ベーシックな音とジャンルによる音作りの違い
8回目	音作り② ベース、ギター、鍵盤系のベーシックな音作り
9回目	音作り③ ボーカル、コーラスのベーシックな音作りとマージンの取り方
10回目	トータルプランニングとアウトプットの応用① MATRIXの応用
11回目	トータルプランニングとアウトプットの応用② AUXとMATRIXの併用
12回目	ミュージカル素材を使用して演習、プランニング
13回目	前期のまとめと総合演習
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	授業外のイベント参加や自習をより多く行なうことで技術や知識に加えて経験も増えて行きます。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	技術や知識はもちろんですが、コミュニケーションも大切にしながら一緒に授業を作っていきます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	PAアドバンスⅡ (Public Address Advance)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	金子秀樹
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜1・2限
【授業の学習内容】 イベントホールにて、より複雑なPAの技術を学び、即戦力となるオペレーション技術を身につけます。 また、各種イベントに合ったPAプラン、コンソールの設定を学びます。 <講師プロフィール> ※ブルーノートフクオカにサウンドチーフとして就任、その後独立しフリーランスでPAとレコーディングの音響技師。 楽曲制作を行なっています。学校が所有する楽器や持ち込み可能な楽器に関しては実物を使用して実施します。 実物の使用が困難な楽器に関しては資料音源や資料動画を使用して実施します							
【到達目標】 催事の内容に合った機材の選択やプランが行なえ、オペレーションやトラブル対応も習得。							

授業計画・内容	
1回目	ゼロからのPAプランニングとサウンドメイク①
2回目	ゼロからのPAプランニングとサウンドメイク②
3回目	VSC① ProToolsの編集と応用
4回目	VSC② バンドミックス ロック、ポップス系
5回目	VSC③ バンドミックス ファンク、ダンスミュージック系
6回目	VSC④ バンドミックス アコースティック、ジャズ、民族系
7回目	VSC⑤ ボーカルミックス 主旋律とコーラスのバランス
8回目	VSC⑥ トータルミックス (シーンメモリーリコール含む)
9回目	WeAre対策 プランニング、サウンド分析等
10回目	WeAre対策 プランニング、サウンド分析等
11回目	WeAre対策 プランニング、サウンド分析、データ作成等
12回目	WeAre対策 問題点改善、質疑応答
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	授業外のイベント参加や自習をより多く行なうことで技術や知識に加えて経験も増えて行きます。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	技術や知識はもちろんですが、コミュニケーションも大切にしながら一緒に授業を作っていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	配信技術 I (Broadcast technology I)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	森脇正太郎
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 2・3限
【授業の学習内容】 配信におけるサウンドと映像の基礎知識を身につけ、生ライブの運営のみならず配信ライブの運営にも携われる技術を身につける。							
【到達目標】 ライブイベント等の収録配信・ライブ配信を行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	配信の基礎知識(オンデマンドとライブ)、OBSの導入と使用方法
2回目	簡単な配信ライブのセッティング(Roland VR-50HD mk II の使用方法①)
3回目	クロップとクロマキー合成(Roland VR-51HD mk II の使用方法②)
4回目	簡単な配信ライブの本番運営
5回目	中規模な配信ライブのシステム構築(ATEM Studio使用法、オーディオインターフェースの使用法)
6回目	配信ライブにおけるサウンドミックス①(ライブサウンドの考え方と知識、エフェクター処理)
7回目	配信ライブにおけるサウンドミックス②(マスタリングとラウドネス値)
8回目	中規模な配信ライブのシステム構築と本番運営①
9回目	中規模な配信ライブのシステム構築と本番運営②
10回目	ライブにおけるカメラワーク①(ライブ配信におけるカメラワークの考え方と知識、カメラの基本操作)
11回目	ライブにおけるカメラワーク②(フォーカス、色合い、明るさの調整、ズームとパン)
12回目	中規模な配信ライブの収録と配信①
13回目	中規模な配信ライブの収録と配信②
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	予習・復習 PC操作
評価方法	期末テスト
受講生への メッセージ	コロナ禍における新しいライブイベントの形である、配信ライブを皆さんでも行えるように、しっかりと知識と技術を身につけましょう
【使用教科書・教材・参考書】 パソコン	

科目名 (英)	配信技術 I (Broadcast technology II)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	森脇正太郎
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
				曜日・時限	金曜 2・3限		
【授業の学習内容】 配信におけるサウンドと映像の基礎知識を身につけ、生ライブの運営のみならず配信ライブの運営にも携われる技術を身につける。							
【到達目標】 ライブイベント等の収録配信・ライブ配信を行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	収録配信の基礎知識
2回目	収録配信を含むライブ配信のシステム構築
3回目	レイテンシーとリップシンク
4回目	ワイプを使った映像配信① システムの構築と設定
5回目	ワイプを使った映像配信② ゲーム実況におけるシステムの構築
6回目	ワイプを使った映像配信③ eSports大会におけるシステムの構築
7回目	収録配信における映像と音の編集①
8回目	収録配信における映像と音の編集②
9回目	さまざまなイベントを想定したライブ配信システムの構築①
10回目	さまざまなイベントを想定したライブ配信システムの構築②
11回目	さまざまなイベントを想定したライブ配信システムの構築と運営①
12回目	さまざまなイベントを想定したライブ配信システムの構築と運営②
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	予習・復習 PC操作
評価方法	期末テスト
受講生への メッセージ	コロナ禍における新しいライブイベントの形である、配信ライブを皆さんでも行えるように、しっかりと知識と技術を身につけましょう
【使用教科書・教材・参考書】 パソコン	

科目名 (英)	SR技術 I (Sound Reinforcement Technology I)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	西岡幹浩
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (8)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜 2～5時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>PAエンジニアとして初歩的な機材の組み方繋ぎ方など技術知識を身につける。特に卒業してから即戦力として活躍できるようステージマンとしての知識を身につける。</p> <p><講師プロフィール></p> <p>※実務者経験:熊本を中心にNumberShotやAso Rock Festivalなど九州各地のイベント・フェス等にフリーのエンジニアとして参加。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>卒業してから即戦力となる知識技術を身につける。ステージ周りの仕込み等海鮮票を見て理解できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	一年生の復習
2回目	ワイヤレスシステムの説明チャンネルプランの調べ方扱い方
3回目	アナログ卓仕込み NL4の説明 アナログインサートのつなぎ方
4回目	アナログ卓仕込み 電源 マルチケーブルの取り扱い
5回目	デジタル伝送の説明
6回目	RIOの設定のやり方
7回目	アナログデジタル2機仕込み
8回目	デジタル卓仕込み ヤマハ AVIDの設定の違い
9回目	ケーブル作り 修理 ハンダ作業
10回目	スピーカー分解スピーカーネットワークの説明
11回目	ネットワークIPアドレスの説明 WIFIを使って卓の操作
12回目	デジタルミキサーを使ってPS15システムの仕込み設定
13回目	チャンデバの設定 デイレイスピーカーの設定
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	SR技術Ⅱ (Sound Reinforcement TechnologyⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	西岡幹浩
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (8)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜 2～5時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>PAエンジニアとして初歩的な機材の組み方繋ぎ方など技術知識を身につける。特に卒業してから即戦力として活躍できるようステージマンとしての知識を身につける。</p> <p><講師プロフィール></p> <p>※実務者経験:熊本を中心にNumberShotやAso Rock Festivalなど九州各地のイベント・フェス等にフリーのエンジニアとして参加。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>一般的に扱われるマイク、機材の名前を覚え初歩的なアナログ卓を単独で繋ぎこみできるようにする。学校のある機材の知識は十分理解できるようにする</p>							

授業計画・内容	
1回目	メンテナンス ケーブル作り ハンダ作業
2回目	Drマルチを使って仕込みの練習。2つのバンドの転換練習
3回目	PCを使って回線表作成
4回目	PCを使って卓のデータ作成
5回目	WLの設定 イヤモニの設定
6回目	smaartを使ってプロセッサの役割を見る
7回目	smaartを使ってチューニング 自分の声がどの帯域化を知る
8回目	ディレイスピーカー仕込み設定
9回目	チューニング ハウスとモニター
10回目	イベント回線表を自分で考え卓データを作る
11回目	protoolsを使ってモニ卓の練習
12回目	ミュージカルシステムチェック仕込みの練習
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです。なかなか機材に触る時間が少ないのでなるべくみんなに触って欲しい
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	映像制作 I (Video Production I)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	白瀬隆之
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜2、3限
【授業の学習内容】 映像の企画・コンセプトの考えから、コンテンツ制作までを行う。多種多様な映像が溢れている中で、それぞれのメディアに合わせたコンテンツの考え、表現方法を学び、イメージしているものを映像として表現する力を養う。シナリオの作り方、企画の精度を上げるテクニックを学び、時には優れた映像の構成を分解し、映像を図として捉える。これからの時代に即した、映像表現の力を付けていく。							
【到達目標】 映像制作のコンセプトの考えかたから、絵コンテ、スケジューリング、撮影、編集を行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	映像の基礎知識①
2回目	映像理論①(映像構成の仕組み)
3回目	映像理論②(4コマ漫画を描いて、ストーリーの作り方を学ぶ)
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	映像理論④(オリジナルのシナリオ作成)
6回目	映像企画①(企画、コンセプトの考え方)
7回目	映像企画②(字コンテ・絵コンテの書き方)
8回目	映像制作①(チーム編成をし、作りたいものを決める)
9回目	映像制作②(企画、コンセプトを考える)
10回目	映像制作③(絵コンテづくり・撮影準備)
11回目	映像制作④(撮影)
12回目	映像制作⑤(編集)
13回目	映像制作⑥(編集～完成)
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学 習	
評価方法	出席 【 50% 】 授業態度 【 50% 】
受講生への メッセージ	連続性のある授業なので、欠席しないように心がけてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	映像制作Ⅱ (Video ProductionⅡ)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	白瀬隆之
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜2、3限
【授業の学習内容】 映像の企画・コンセプトの考え方から、コンテンツ制作までを行う。多種多様な映像が溢れている中で、それぞれのメディアに合わせたコンテンツの考え方、表現方法を学び、イメージしているものを映像として表現する力を養う。シナリオの作り方、企画の精度を上げるテクニックを学び、時には優れた映像の構成を分解し、映像を図として捉える。これからの時代に即した、映像表現の力を付けていく。□ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>							
【到達目標】 映像制作のコンセプトの考えかたから、絵コンテ、スケジューリング、撮影、編集を行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	映像制作(チーム編成をし、作りたいものを決める)
2回目	映像制作(企画、コンセプトを考える)
3回目	映像制作(絵コンテづくり・撮影準備)
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	映像制作(編集)
6回目	映像制作(編集～完成)
7回目	映像制作(企画、コンセプトを考える)
8回目	映像制作(絵コンテづくり・撮影準備)
9回目	映像制作(撮影)
10回目	映像制作(編集)
11回目	映像制作(編集～完成)
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席 【50%】 授業態度 【50%】
受講生への メッセージ	連続性のある授業なので、欠席しないように心がけてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	映像編集アドバンス I	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	田北 志織
	(Video Editing Advance I)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	水曜、5時限目

【授業の学習内容】

映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている事例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。

<講師プロフィール>

CM・TV番組・VPなどのエディターを行い、現在は福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校で勤務。

【到達目標】

映像制作を「仕事」として関わっていく者として、技術は元より、心構え等の仕事として映像を作れる人材になる。

<具体的な目標>

- 目標① Adobe Premire Pro の基本編集が習得できる。
- 目標② Adobe After Effects の基本編集が習得できる。
- 目標③ 映像制作者としてのスキルと考え方を身につける。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 生徒と担当教員の自己紹介・授業の目的、評価基準の説明、到達目標の確認。(映像制作における「編集」の役割を知る)
2回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。①(基本)
3回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。②(エフェクト)
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。③(アニメーション)
6回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。④(テキスト)
7回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク②
8回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。⑤(エフェクト)
9回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。⑥(エフェクト)
10回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク③
11回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。⑦(合成)
12回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。⑧(音)
13回目	作品発表
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	映像制作に欠かせない「編集」を学ぶ授業です。編集ソフトの技能習得は元より、チームで制作するのに欠かせないコミュニケーションやデータ管理スキル、個人のセンスや感性もとても大切です。日頃からアンテナを立てて生活して、授業で学んだ事を復習・反復学習する為に体調管理には気をつけて、欠席しないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	映像編集アドバンスⅡ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	田北 志織
	(Video Editing AdvanceⅡ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	水曜、5時限目

【授業の学習内容】

映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている実例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。

<講師プロフィール>

CM・TV番組・VPなどのエディターを行い、現在は福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校で勤務。

【到達目標】

映像制作を「仕事」として関わっていく者として、技術は元より、心構え等の仕事として映像を作れる人材になる。

<具体的な目標>

- 目標① Adobe Premire Pro の基本編集が習得できる。
- 目標② Adobe After Effects の基本編集が習得できる。
- 目標③ 映像制作者としてのスキルと考え方を身につける。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 生徒と担当教員の自己紹介・授業の目的、評価基準の説明、到達目標の確認。(映像制作における「編集」の役割を知る)
2回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。(応用)
3回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。(応用)
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。(応用)
6回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。(応用)
7回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことができる。①
8回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことができる。②
9回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことができる。③
10回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことができる。④
11回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことができる。⑤
12回目	作品発表&講評
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	映像制作に欠かせない「編集」を学ぶ授業です。編集ソフトの技能習得は元より、チームで制作するのに欠かせないコミュニケーションやデータ管理スキル、個人のセンスや感性もとても大切です。日頃からアンテナを立てて生活して、授業で学んだ事を復習・反復学習する為に体調管理には気をつけて、欠席しないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	映像編集ベーシックⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	田北 志織
	(Video Editing Basic II)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	水曜、3・4時限目
【授業の学習内容】							
映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている事例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。 <講師プロフィール> CM・TV番組・VPなどのエディターを行い、現在は福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校で勤務。							
【到達目標】							
映像制作を「仕事」として関わっていく者として、技術は元より、心構え等の仕事として映像を作れる人材になる。 <具体的な目標> 目標① Adobe Premire Pro の基本編集が習得できる。 目標② Adobe After Effects の基本編集が習得できる。 目標③ 映像制作者としてのスキルと考え方を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション 生徒と担当教員の自己紹介・授業の目的、評価基準の説明、到達目標の確認。(映像制作における「編集」の役割を知る)
2回目	(目標①)Adobe Premire Pro の初期設定ができる
3回目	(目標③)プロジェクトデータの作り方を学んで構築出来る
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク①
6回目	(目標①)Adobe Premire Pro の初期設定の復習と基本編集及びショートカットキーを習得出来る②(タイムライン編集+エフェクト)
7回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク②(Adobe After Effects を使用して制作された物を中心とする)
8回目	(目標②)Adobe After Effects の初期設定ができる
9回目	(目標③)プロジェクトデータに「Adobe After Effects」のデータを追加して構築出来る
10回目	(目標②)Adobe After Effects の初期設定の復習と基本編集及びショートカットキーを習得出来る①(基本加工①)
11回目	(目標②)Adobe After Effects の初期設定の復習と基本編集及びショートカットキーを習得出来る②(基本加工②)
12回目	(目標①)Adobe Premire Pro の初期設定の復習と基本編集及びショートカットキーを習得出来る③(タイムライン編集+エフェクト+音編集①)
13回目	(目標①)Adobe Premire Pro の初期設定の復習と基本編集及びショートカットキーを習得出来る③(タイムライン編集+エフェクト+音編集②)
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	映像制作に欠かせない「編集」を学ぶ授業です。編集ソフトの技能習得は元より、チームで制作するのに欠かせないコミュニケーションやデータ管理スキル、個人のセンスや感性もとても大切です。日頃からアンテナを立てて生活して、授業で学んだ事を復習・反復学習する為に体調管理には気をつけて、欠席しないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	映像編集ベーシックⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	田北 志織
	(Video Editing Basic Ⅱ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	水曜、3・4時限目

【授業の学習内容】

映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている実例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。

<講師プロフィール>

CM・TV番組・VPなどのエディターを行い、現在は福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校で勤務。

【到達目標】

映像制作を「仕事」として関わっていく者として、技術は元より、心構え等の仕事として映像を作れる人材になる。

<具体的な目標>

- 目標① Adobe Premire Pro の基本編集が習得できる。
- 目標② Adobe After Effects の基本編集が習得できる。
- 目標③ 映像制作者としてのスキルと考え方を身につける。

授業計画・内容

1回目	(目標③)夏季課題発表
2回目	(目標①)Adobe Premire Pro の初期設定の復習と基本編集及びショートカットキーを習得出来る④(タイムライン編集+エフェクト+音編集)
3回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク③(Adobe After Effects を使用して制作された物を中心とする)
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	(目標②)Adobe After Effects の初期設定の復習と基本編集及びショートカットキーを習得出来る④(基本加工④)
6回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク④(卒業進級制作について考える)
7回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことが出来る。①
8回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことが出来る。②
9回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことが出来る。③
10回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことが出来る。④
11回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことが出来る。⑤
12回目	作品発表&講評
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	映像制作に欠かせない「編集」を学ぶ授業です。編集ソフトの技能習得は元より、チームで制作するのに欠かせないコミュニケーションやデータ管理スキル、個人のセンスや感性もとても大切です。日頃からアンテナを立てて生活して、授業で学んだ事を復習・反復学習する為に体調管理には気をつけて、欠席しないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	映像編集アドバンス I (Video Editing Advance I)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	田北 志織
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜、5時限目
【授業の学習内容】							
映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている実例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。 <講師プロフィール> CM・TV番組・VPなどのエディターを行い、現在は福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校で勤務。							
【到達目標】							
映像制作を「仕事」として関わっていく者として、技術は元より、心構え等の仕事として映像を作れる人材になる。 (具体的な目標) 目標① Adobe Premire Pro の基本編集が習得できる。 目標② Adobe After Effects の基本編集が習得できる。 目標③ 映像制作者としてのスキルと考え方を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション 生徒と担当教員の自己紹介・授業の目的、評価基準の説明、到達目標の確認。(映像制作における「編集」の役割を知る)
2回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。①(基本)
3回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。②(エフェクト)
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。③(アニメーション)
6回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。④(テキスト)
7回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク②
8回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。⑤(エフェクト)
9回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。⑥(エフェクト)
10回目	(目標③)映像作品に触れるディスカッション・グループワーク③
11回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。⑦(合成)
12回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。⑧(音)
13回目	作品発表
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	映像制作に欠かせない「編集」を学ぶ授業です。編集ソフトの技能習得は元より、チームで制作するのに欠かせないコミュニケーションやデータ管理スキル、個人のセンスや感性もとても大切です。日頃からアンテナを立てて生活して、授業で学んだ事を復習・反復学習する為に体調管理には気をつけて、欠席しないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	映像編集アドバンスⅡ	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	田北 志織
	(Video Editing AdvanceⅡ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	水曜、5時限目

【授業の学習内容】

映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている実例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。

<講師プロフィール>

CM・TV番組・VPなどのエディターを行い、現在は福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校で勤務。

【到達目標】

映像制作を「仕事」として関わっていく者として、技術は元より、心構え等の仕事として映像を作れる人材になる。

<具体的な目標>

- 目標① Adobe Premire Pro の基本編集が習得できる。
- 目標② Adobe After Effects の基本編集が習得できる。
- 目標③ 映像制作者としてのスキルと考え方を身につける。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 生徒と担当教員の自己紹介・授業の目的、評価基準の説明、到達目標の確認。(映像制作における「編集」の役割を知る)
2回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。(応用)
3回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。(応用)
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。(応用)
6回目	(目標①&②)実習課題・Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して編集における自己問題の解決を行うことができる。(応用)
7回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことができる。①
8回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことができる。②
9回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことができる。③
10回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことができる。④
11回目	(目標①&②)Adobe Premire Pro とAdobe After Effects とを使用して卒業進級制作を制作し、編集における自己問題の解決を行うことができる。⑤
12回目	作品発表&講評
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	映像制作に欠かせない「編集」を学ぶ授業です。編集ソフトの技能習得は元より、チームで制作するのに欠かせないコミュニケーションやデータ管理スキル、個人のセンスや感性もとても大切です。日頃からアンテナを立てて生活して、授業で学んだ事を復習・反復学習する為に体調管理には気をつけて、欠席しないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	カメラワークアドバンスⅡ (Camera Work Advance I)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	石田尚之
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜 前期3.4限
【授業の学習内容】 各自が映像作品を企画・制作し、各種機材を使用して映像素材収録から編集までの技術を修得する。 またインターネット映像配信を行なうためのシステム構築技術を修得する。 <講師プロフィール> ※実務経験：1985年4月～1994年12月まで(株)映像ボックス勤務。1995年1月 石田撮影事務所設立。各種TV番組、CM、ドキュメンタリー映画等を撮影。							
【到達目標】 映像制作ハンドブックの内容を全て理解することが必要です。 映像作品を企画し、各種機材を使用して映像素材の収録から編集までを行い、その作品を完成させます。							

授業計画・内容	
1回目	カメラ各種スイッチ類復習
2回目	画角・絞りと被写界深度復習
3回目	色温度復習
4回目	屋外撮影実習
5回目	音声収録実習
6回目	映像作品企画制作①
7回目	映像作品提出 プレゼンテーション
8回目	映像作品企画制作②
9回目	映像作品提出 プレゼンテーション
10回目	屋外撮影実習
11回目	映像作品企画制作 3
12回目	映像作品提出 プレゼンテーション
13回目	屋外撮影実習
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	卒業制作は学校で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	この世の中で起きていること全てが、映像制作のヒントになります。 世界動向や各自の身の周りで起きていることを常に把握する必要があります。
【使用教科書・教材・参考書】 映像制作ハンドブック	

科目名 (英)	カメラワークアドバンスⅡ (Camera Work AdvanceⅡ)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	石田尚之
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
				曜日・時限	月曜 前期3.4限		
【授業の学習内容】 映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている事例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。 <講師プロフィール> ※実務経験：1985年4月～1994年12月まで(株)映像ボックス勤務。1995年1月 石田撮影事務所設立。各種TV番組、CM、ドキュメンタリー映画等を撮影。							
【到達目標】 CM、VP、番組制作など様々なジャンルの編集技術を習得する。 Adobe Premiere Pro・Adobe Photoshop・Adobe Illustrator・Adobe After Effectsなどのソフトの習得する。							

授業計画・内容	
1回目	前期復習 質疑応答
2回目	映像作品企画制作④
3回目	映像作品提出 プレゼンテーション
4回目	屋外撮影実習
5回目	映像作品企画制作⑤
6回目	映像作品提出 プレゼンテーション
7回目	映像作品企画制作⑥
8回目	映像作品提出 プレゼンテーション
9回目	映像作品企画制作⑦
10回目	映像作品提出 プレゼンテーション
11回目	映像作品企画制作⑧
12回目	映像作品提出 プレゼンテーション
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	卒業制作は学校で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	この世の中で起きていること全てが、映像制作のヒントになります。 世界動向や各自の身の周りで起きていることを常に把握することが必要です。
【使用教科書・教材・参考書】 映像制作ハンドブック	

科目名 (英)	イメージクリエイション I (Image Creation I)	選択 必修	選択 必修	年次	1, 2	担当教員	田北志織
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	45 (3)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜・3,4,5限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>模擬実習ゲームです。実践形式で行い、世の中がどのようなスキームで流れているのかを身をもって体験するモノです。クライアントの立場になり、制作会社の各役割の立場にもなる事で、それぞれの立場で何を求められているか、何を考えなければいけないのか、立場による発言の違いなどを、チームで学んでいきます。</p> <p><講師プロフィール> CM・TV番組・VPなどのエディターを行い、現在は福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校で勤務。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>PDCAサイクルの様な、思考が養える循環体験型の学習を2年通して習得。 それぞれの役割をすべてこなした場合、相手の気持ちを理解したり先読みしたりできる事で対応能力が養う。</p>							

授業計画・内容	
1回目	映像演出方法について、その実現の仕方
2回目	スタッフワークの流れについて①(作品の生み出し方、スタッフワークについて、それを受けてグループに分かれて企画立案)
3回目	スタッフワークの流れについて②(プレゼンテーション、好評、制作)
4回目	スタッフワークの流れについて③(CM完成最後のコマで発表会、好評、反省会)
5回目	作品制作①(コンペ方式でお題を提示)グループワークでも個人でも可
6回目	作品制作②
7回目	作品制作③
8回目	作品制作①(完成好評、コンペ)
9回目	アーティストライブ制作①(企画を立案)
10回目	アーティストライブ制作②(プレゼンテーション)
11回目	アーティストライブ制作③
12回目	アーティストライブ制作④
13回目	アーティストライブ制作⑤(アーティストライブ本番)
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席 【 30% 】 授業態度 【 30% 】 実技テスト 【 40% 】
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
特になし	

科目名 (英)	イメージクリエイションⅡ (Image CreationⅡ)	選択 必修	選択 必修	年次	1, 2	担当教員	田北志織
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	45 (3)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜・3,4,5限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>模擬実習ゲームです。実践形式で行い、世の中がどのようなスキームで流れているのかを身をもって体験するモノです。クライアントの立場になり、制作会社の各役割の立場にもなる事で、それぞれの立場で何を求められているか、何を考えなければいけないのか、立場による発言の違いなどを、チームで学んでいきます。</p> <p><講師プロフィール> CM・TV番組・VPなどのエディターを行い、現在は福岡スクールオブミュージック&ダンス専門学校で勤務。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>PDCAサイクルの様な、思考が養える循環体験型の学習を2年通して習得。 それぞれの役割をすべてこなした場合、相手の気持ちを理解したり先読みしたりできる事で対応能力が養う。</p>							

授業計画・内容	
1回目	逆プレゼン企画①仕事をゲットする流れ(外部に仕掛ける、仕事を取りに行く)
2回目	逆プレゼン企画②(企画立案)
3回目	逆プレゼン企画③(模擬プレゼンテーション、好評、アタックアポ?)
4回目	逆プレゼン企画④(結果報告)
5回目	MV制作①
6回目	MV制作②
7回目	MV制作③
8回目	MV制作④
9回目	MV制作⑤
10回目	MV制作⑥
11回目	作品発表会、振り返り
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席 【 30% 】 授業態度 【 30% 】 実技テスト 【 40% 】
受講生への メッセージ	バーチャルスタジオを使用した番組制作を通して、スタジオ技術(カメラ・スイッチャー・ミキサー、V/E、クロマキー合成、照明など)、スタジオ制作(プロデュース、企画、ディレクションなど)自分自身がどの分野を楽しいと感じたか、また学びたいと思ったか、目指すべき方向性をしっかりと見極めて下さい
【使用教科書・教材・参考書】	
特になし	

科目名 (英)	ヴァーチャルコンテンツ制作 I	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	安田 裕治
	(Virtual Contents I)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーエンターテイメント科					曜日・時限	火曜・4,5限

【授業の学習内容】

映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている実例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。

<講師プロフィール>

実務者経験: パーチャルスタジオ、オーグメント・リアリティ等の最先端技術を使い、テレビ番組の制作にCGを絡めた新しい技術を組み込んでいるシステムインテグレーター。「ニュースステーション」「選挙ステーション」を初め「PRIDE」「熱闘甲子園」「すぼると!」他、多数の番組のパーチャルセットを担当。

【到達目標】

劇場を利用する際のマナー・約束事を理解して、作業が出来るようになる。
安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。
専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。

授業計画・内容

1回目	映像業界の仕事紹介: テレビ業界を例に映像業界の仕事を説明
2回目	3分間自己PR: 3分間±15秒以内という時間制限の中で自分をPR、尺を決めて表現する技術の習得を目指す
3回目	他己紹介PV制作: 2人1組でお互いをプロデュースしてパートナーのプロモーション映像を制作、他人をプロモーションする楽しさを知る
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	他己紹介PV制作: 撮影
6回目	他己紹介PV制作: 編集①
7回目	他己紹介PV制作: 編集②
8回目	他己紹介PV制作: 作品発表、お互いの映像を見ながら良かった点、直すべきポイントなどを考察する
9回目	パーチャルスタジオセットアップ基本講習①: 電源の立ち上げから撮影準備までを習得
10回目	パーチャルスタジオセットアップ基本講習②: 電源の立ち上げから撮影準備までをグループ分けして実践
11回目	パーチャルスタジオセットアップ基本講習③: スタジオカメラ調整の基礎・クロマキー調整の習得
12回目	パーチャルスタジオセットアップ基本講習④: 背景CGセットアップ基礎、番組制作背景の制作
13回目	学期末テスト
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業

準備学習
時間外学習

卒業制作はがっく王で学んだことの集大成です。
卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。

評価方法

- 出席率 50%
- 【到達目標に対する達成度】 50%

受講生への
メッセージ

映像制作は普段から見る景色やイベントをいかに人に伝わりやすいように纏めることが出来るか意識することが上達への近道です。自分自身が楽しいと思えることが大切で、楽しさが人に伝わるように自由な発想を大切に下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

特になし

科目名 (英)	ヴァーチャルコンテンツ制作Ⅱ	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	安田 裕治
	(Virtual ContentsⅡ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	火曜・4,5限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている実例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。</p> <p><講師プロフィール></p> <p>実務者経験:バーチャルスタジオ、オーグメント・リアリティ等の最先端技術を使い、テレビ番組の制作にCGを絡めた新しい技術を組み込んでいるシステムインテグレーター。「ニュースステーション」「選挙ステーション」を初め「PRIDE」「熱闘甲子園」「すぽると!」他、多数の番組のバーチャルセットを担当。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>TV制作に関係するスタッフワークの基礎から、グリーンバックを使用してのリアルタイム合成の技術を習得する。また、モーションキャプチャーを使用するなど日々変化する映像業界の最先端技術も習得。</p>							

授業計画・内容	
1回目	バーチャルスタジオセットアップ基本講習:グループに分かれてバーチャルスタジオセットアップを復習
2回目	バーチャルスタジオ番組企画①:番組タイトルとコーナー企画を考案
3回目	バーチャルスタジオ番組企画②:コーナー企画考案と役割分担を決める
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	バーチャルスタジオ番組企画⑤:コーナー企画②撮影
6回目	バーチャルスタジオ番組企画⑥:コーナー企画③撮影
7回目	バーチャルスタジオ番組企画⑦:コーナー企画編集
8回目	バーチャルスタジオ番組企画⑧:バーチャルスタジオ番組MC撮影口
9回目	バーチャルスタジオ番組企画⑨:バーチャルスタジオ番組MC撮影
10回目	バーチャルスタジオ番組企画⑩:番組編集完パケ仕上げ
11回目	作品鑑賞会
12回目	学期末テスト
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	卒業制作はがっく王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	バーチャルスタジオを使用した番組制作を通して、スタジオ技術(カメラ・スイッチャー・ミキサー、V/E、クロマキー合成、照明など)、スタジオ制作(プロデュース、企画、ディレクションなど)自分自身がどの分野を楽しいと感じたか、また学びたいと思ったか、目指すべき方向性をしっかりと見極めて下さい
【使用教科書・教材・参考書】	
特になし	

科目名 (英)	ヴァーチャルコンテンツⅢ	選択 必修	選択必修	年次	2	担当教員	安田 裕治
	(Virtual ContentsⅢ)	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	火曜・2,3限
【授業の学習内容】 映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている事例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等ではだけでは分からない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。 <講師プロフィール> 実務者経験:バーチャルスタジオ、オーグメント・リアリティ等の最先端技術を使い、テレビ番組の制作にCGを絡めた新しい技術を組み込んでいるシステムインテグレーター。「ニュースステーション」「選挙ステーション」を初め「PRIDE」「熱闘甲子園」「すぽると!」他、多数の番組のバーチャルセットを担当。							
【到達目標】 TV制作に関係するスタッフワークの基礎から、グリーンバックを使用してのリアルタイム合成の技術を習得する。 また、モーションキャプチャーを使用するなど日々変化する映像業界の最先端技術も習得。							

授業計画・内容	
1回目	バーチャルスタジオセットアップ基本講習:グループに分かれてバーチャルスタジオセットアップを復習
2回目	バーチャルスタジオ番組企画①:番組タイトルとコーナー企画を考案
3回目	バーチャルスタジオ番組企画②:コーナー企画考案と役割分担を決める
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	バーチャルスタジオ番組企画⑤:コーナー企画②撮影
6回目	バーチャルスタジオ番組企画⑥:コーナー企画③撮影
7回目	バーチャルスタジオ番組企画⑦:コーナー企画編集
8回目	バーチャルスタジオ番組企画⑧:バーチャルスタジオ番組MC撮影口
9回目	バーチャルスタジオ番組企画⑨:バーチャルスタジオ番組MC撮影
10回目	バーチャルスタジオ番組企画⑩:番組編集完パケ仕上げ
11回目	プロジェクションマッピング①
12回目	プロジェクションマッピング②
13回目	学期末テスト
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	卒業制作はがっこ王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	バーチャルスタジオを使用した番組制作を通して、スタジオ技術(カメラ・スイッチャー・ミキサー、V/E、クロマキー合成、照明など)、スタジオ制作(プロデュース、企画、ディレクションなど)自分自身がどの分野を楽しいと感じたか、また学びたいと思ったか、目指すべき方向性をしっかりと見極めて下さい
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	ヴァーチャルコンテンツⅣ	選択必修	選択必修	年次	2	担当教員	安田 裕治
	(Virtual ContentsⅣ)	授業形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	火曜・2,3限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>映像制作の特に編集に特化した授業を行います。編集作業や素材管理、進行、他部署との連携など実際の現場で行われている事例を元に、実践で使える技術を習得します。参考書、テキスト等では分らない「仕事」として映像に関わる者としての心構えも学びます。</p> <p><講師プロフィール></p> <p>実務者経験:バーチャルスタジオ、オーグメント・リアリティ等の最先端技術を使い、テレビ番組の制作にCGを絡めた新しい技術を組み込んでいるシステムインテグレーター。「ニュースステーション」「選挙ステーション」を初め「PRIDE」「熱闘甲子園」「すぼると!」他、多数の番組のバーチャルセットを担当。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>TV制作に関係するスタッフワークの基礎から、グリーンバックを使用してのリアルタイム合成の技術を習得する。また、モーションキャプチャーを使用するなど日々変化する映像業界の最先端技術も習得。</p>							

授業計画・内容	
1回目	VR,ARの概念
2回目	VR作品制作①
3回目	VR作品制作②
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	バーチャルスタジオ番組企画①:番組タイトルとコーナー企画を考案
6回目	バーチャルスタジオ番組企画②:コーナー企画考案と役割分担を決める
7回目	バーチャルスタジオ番組企画④:コーナー企画①撮影
8回目	バーチャルスタジオ番組企画⑤:コーナー企画②撮影
9回目	バーチャルスタジオ番組企画⑥:コーナー企画編集
10回目	バーチャルスタジオ番組企画⑦:バーチャルスタジオ番組MC撮影口
11回目	バーチャルスタジオ番組企画⑧:バーチャルスタジオ番組MC撮影
12回目	学期末テスト
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	卒業制作はがっく王で学んだことの集大成です。 卒業制作を始めるまでに各自がいろいろなテーマに取り組み、様々なジャンルの映像制作を経験する必要があります。
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	バーチャルスタジオを使用した番組制作を通して、スタジオ技術(カメラ・スイッチャー・ミキサー、V/E、クロマキー合成、照明など)、スタジオ制作(プロデュース、企画、ディレクションなど)自分自身がどの分野を楽しんでいるか、また学びたいと思ったか、目指すべき方向性をしっかりと見極めて下さい
【使用教科書・教材・参考書】	
特になし	

科目名 (英)	ライティングアドバンス I (Lighting Advance)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	岡田 一志
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
				曜日・時限	火曜2～4限		
【授業の学習内容】 1年次に学習した内容を復習し、1年次の基礎学習から応用した内容の授業を行う。また、イベントを通して実践的な練習を行ない個人のレベルアップを図ることを目的とする。 ※演劇、バレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。第29回日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。							
【到達目標】 一人一人がイベントを通して、オペレーションできるようにする。 <具体的な目標> ①学内イベントのオペレーションを円滑に行うことができる ②カラーフィルター知識をすべて習得する ③仕込み図を正確に読みこなし、かつ仕込みのスピードを早く行える							

授業計画・内容	
1回目	仕込み図を見てケーブルの長さとお数を出してみよう
2回目	仕込み図を見てフェーダー表とパレット表を作ってみよう
3回目	仕込み図を実際考えてみよう。
4回目	チャレキャンの共通仕込みを考えてみよう
5回目	仕込みのスピードアップ
6回目	仕込みのスピードアップ
7回目	仕込みのスピードアップ
8回目	カラーフィルターの番号を覚える
9回目	照明の人物への当たり方やフェーダー操作の練習
10回目	照明の人物への当たり方やフェーダー操作の練習
11回目	仕込みのスピードアップと仕込み図の読み取り方の勉強
12回目	仕込みのスピードアップと仕込み図の読み取り方の勉強
13回目	仕込みのスピードアップと仕込み図の読み取り方の勉強
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	
評価方法	○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	もう一度振り返り、就職する前にわからないことを解決しておきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライティングアドバンスⅡ	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	岡田 一志
	(Lighting Advance)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	火曜2～4限
【授業の学習内容】 イベントを通して実践的な練習を行なう。 ※演劇、パレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。第29回日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。							
【到達目標】 一人一人がイベントを通して、より高度なオペレーションできるようにする。ステージライティングの基礎から応用についての技法を学ぶ。 <具体的な目標> ①卒業進級制作展の照明システムとデザインプランニングができる ②作業のスピードアップ ③卒業進級制作展の照明部門を円滑に進めることができる							

授業計画・内容	
1回目	イベントを通して振り返りでのレベルアップ
2回目	仕込みのスピードアップと仕込み図の読み取り方の勉強
3回目	仕込みのスピードアップと仕込み図の読み取り方の勉強
4回目	イベントを通して実践練習 ①ステージライティング応用技法
5回目	イベントを通して実践練習 ②ステージライティング応用技法
6回目	イベントを通して実践練習 ③ステージライティング応用技法
7回目	イベントを通して実践練習 ④ステージライティング応用技法
8回目	イベントを通して実践練習 ⑤ステージライティング応用技法
9回目	イベントを通して実践練習 ⑥ステージライティング応用技法
10回目	イベントを通して実践練習 ⑦ステージライティング応用技法
11回目	イベントを通して実践練習 ⑧ステージライティング応用技法
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。
受講生への メッセージ	もう一度振り返り、就職する前にわからないことを解決しておきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライティングワークショップ I (Lighting Workshop)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	高橋 剛	
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテインメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期	
							曜日・時限	木曜1～4限
【授業の学習内容】								
<p>すでに学習した基礎を活かし、前期は舞台照明を中心としたミュージカルや芝居のプラン→下準備→設営施工→プログラム→本番オペレート→撤去に至るまでの一連の流れを実習の中で学んでゆく。また、即戦力が必要とされるスキルとマナー及び現場力の向上と、時代に合った照明知識とテクニックを身につける。また、制作活動におけるグループ活動や指揮能力・説明能力の向上を図る。 ※実務経験 コンサート・イベント照明に照明プランナーとして数多くの現場経験を持つ。有名アーティストとの現場経験も豊富。日本照明家協会1級を持ち、日本照明家協会優秀賞を受賞する。</p>								
【到達目標】								
<p>前期の集大成であるFSMミュージカル「ホスピタル・オブ・ミラクル」福岡市民会館大ホールでの現場実習の成功を到達目標とし、必要なスキル・テクニックが備わっている。具体的な内容としては、①施工撤去時の安全対策と正しい道具の使用できる。②様々なフォーカスが出来る。③照明仕込図を理解し機材準備・回路取りが出来る④機材の仕様を理解しDMX信号の引き回し・回線図の作成・卓へのパッチが出来る⑤照明用3Dソフトウェアをセットアップ出来る⑥VECTORWORKSを使って仕込図を作成できる。⑦ピンスポットの正しい使い方と本番オペレートができる⑧台本を理解しキューの作成が出来る⑨照明卓のプログラミングを理解した上で作業が出来る⑩自主性を持ってミュージカル公演の準備ができる。</p>								

授業計画・内容	
1回目	目標① 安全対策ヘルメット・安全帯を着用出来る。工具やロープ正しく使用できる。電源の種類が正しく説明できる。電圧を測ることができる。
2回目	目標② タッパ調整や地明かり・ブッチ・トップ・バック・幕前のフォーカスを取ることができる。
3回目	目標③ HOMの仕込図を分解し機材出し・ケーブル出しができる。回路数・必要な直電源数・容量を割り出せる。機材表を作成できる。UNIT表を作成できる。
4回目	目標④ 機材の仕様を説明できる。仕込図上でDMX信号の引き回しを考える事ができる。DMX回線表が作成できる。各照明卓のパッチができる。
5回目	目標④ DMX回線表が作成できる。HOGのパッチができる。MA3のパッチができる。PERALのパッチができる。
6回目	目標⑤ ライトコンパースのセットアップができる。器具の配置・パッチができる。卓を繋げてチェックができる。
7回目	目標⑤ MA3Dのセットアップができる。器具の配置・パッチができる。卓を繋げてチェックができる。
8回目	目標⑥ VectorWorksの縮尺・用紙設定ができる。シンボルを作成できる。仕込図を作成できる。
9回目	目標⑦ ピンスポットの構造を理解する。正確な操作ができる。ピンキューを作る事ができる。
10回目	目標⑧ 台本を照明用にタブ付けできる。シーンから演出を読み解くことができる。台本に照明キューを入れることができる。
11回目	目標⑨ 照明卓のプログラミングを理解できる。
12回目	目標⑩ ミュージカルの準備 担当セクションを決め、各自で必要な情報・作業を考える。
13回目	目標⑩ ミュージカルの準備各自で担当セクションの仕上げと確認をする。
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	目標①安全作業の基本P18～25、P63～67脚立作業・仕込みからシュート作業、P74～83予習に有効。目標②舞台・テレビジョン照明P29～61。目標③HOM2019仕込図及び舞台・テレビジョン照明P74-3ユニット表。目標④舞台・テレビジョン照明P50～57パッチング。目標⑤ウィンドウズPCの基本操作を予習しておく。目標⑥MACの基本操作を予習しておく。手書きの仕込図を考えておく。目標⑦舞台・テレビジョン照明P49～50フォアロースポット目標⑧舞台・テレビジョン照明P29～34。目標⑨舞台・テレビジョン照明P129～146照明操作のシステム
評価方法	各目標ごとに確認テストを実施。定期テストにて知識(レポート形式)、実習の中で技能について到達評価を行う。 ●小テスト(30%) ●定期テスト(30%) ●実習技能(40%)の割合で評価を行う。
受講生への メッセージ	コースの魅力:ミュージカル舞台に目標を定めていますが、将来コンサート・イベント等の照明家を目指す学生にとって、最も必要な内容を抜粋して学習していきます。基礎から高度な照明知識・技術を習得し実践することで、照明の魅力を感じてもらえる内容となっています。 授業計画:大劇場で行われる学校ミュージカルの本番実習に向けて、プロレベルに近い講義が計画されていますので、欠席をしないように体調管理を含め気をつけてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
<p>教科書:公益社団法人 日本照明家協会 発行 ●舞台・テレビジョン照明(妹尾河童) ●電源の基礎知識 参考書:公益社団法人 日本照明家協会 発行 ●舞台スタジオ・屋外における【安全作業の基本】</p>	

科目名 (英)	ライティングワークショップⅡ (Lighting Workshop)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	高橋 剛	
学科・コース	商業音楽科・スーパー・eエンターテインメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期	
							曜日・時限	木曜1～4限
【授業の学習内容】								
後期も基本的な流れは一緒になるが、バンドライブ・ダンス・コンサートなどを中心とした内容になります。卒業制作展で使用予定の大型ライブハウス Zepp福岡をベースに、プラン→下準備→設営施工→プログラム→本番オペレート→撤去に至るまでの一連の流れを実習の中で学んでゆく。前期の実習活動の成果を元に卒業制作及び実社会への最終的なスキルとテクニクを更に磨いてゆく。平行して、新型照明卓MA3新ソフトウェアをセッティング～プログラミングまで学習する。※実務経験 コンサート・イベント照明に照明プランナーとして数多くの現場経験を持つ。有名アーティストとの現場経験も豊富。日本照明家協会1級を持ち、日本照明家協会優秀賞を受賞する。								
【到達目標】								
卒業制作展『WE ARE FSM』現場実習の成功を到達目標とし、必要なスキル・テクニクが備わっている。具体的な内容としては、①大型ライブ・イベントホールの施工撤去時の安全対策と正しい作業手順が理解できる。②仮設ステージでのフォーカスができる。③照明仕込図を理解し機材準備・回路取りができる④機材の仕様を理解しDMX信号の引き回し・回路図の作成・卓へのパッチができる⑤照明用3Dソフトウェアをセットアップ出来る⑥ピンスポットの正しい使い方と本番オペレートができる⑦演出に対する照明の準備ができる。⑧台本を理解しキューの作成ができる⑨照明卓のプログラミングを理解した上で作業ができる⑩自主性を持ってミュージカル公演の準備ができる。								

授業計画・内容	
1回目	目標① トラスの昇降に伴う安全管理ができる。イントレ・レイヤーなどの高所作業が安全にできる。
2回目	目標② トラスのタッパ調整ができる。オブジェなどのセットに対しての照明の当て方を考えることができる。
3回目	目標③ 大型イベントの照明プランを理解した上で、機材の準備・回路の引き回しができる。
4回目	目標③ 照明施工の説明を大勢の前でできる。
5回目	目標④ 複雑なDMXシステムの構築と光ファイバーなどを使った送信システムの理解ができる。
6回目	目標⑤ WAF@Zeppのライトコンパースのセットアップができる。器具の配置・パッチができる。卓を繋げてチェックし、適正なパレットを作成できる。
7回目	目標⑤ WAF@ZeppのMA3Dのセットアップができる。器具の配置・パッチができる。卓を繋げてチェックし、適正なパレットを作成できる。
8回目	目標⑥ Zeppのピンスポット「ロバート・ジュリエット」の操作ができる。大型フォロースポットのセッティングができる。
9回目	目標⑦ Zeppの機材・持ち込み機材等を把握し、各演出内容に合わせた照明プランの準備と構成ができる。
10回目	目標⑧ 照明プログラミング① 各担当の演目のプログラム・ピンフォローの段取りができる。
11回目	目標⑨ 照明プログラミング② 各担当の演目のプログラム・ピンフォローの段取りができ、制作展への準備を完成させる。
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	前期に提示した内容を基礎とし、さらなる技術の向上を目指す為、各自で内容に適した教科書の準備学習を望みます。
評価方法	各目標ごとに確認テストを実施。定期テストにて知識(レポート形式)、実習の中で技能について到達評価を行う。 ●小テスト(30%) ●定期テスト(30%) ●実習技能(40%)の割合で評価を行う。
受講生への メッセージ	コースの魅力: 将来コンサート・イベント等の照明家・およびスタッフを目指す学生にとって、最も必要な内容を抜粋し、より高度な照明知識・技術を習得し実践することで、プロの世界でも通用する内容となっています。 授業計画: 大規模イベント会場の本番実習に向けて、プロレベルに近い講義が計画されていますので、欠席をしないように体調管理含め気をつけてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: ●舞台・テレビジョン照明(妹尾河童) ●電源の基礎知識 参考書: ●舞台スタジオ・屋外における【安全作業の基本】●コンサートライティング入門舞台技術入門シリーズ/加藤憲治	

科目名 (英)	ムービングアドバンス I (Moving Lighting Advance)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	麻生圭輔
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜1～3限
【授業の学習内容】 ムービングライトを含めた照明機材の操作及びメンテナンス全般 ※ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける							
【到達目標】 <具体的な目標> ①応用プログラミングとビジュアライザの連携について理解できている ②機材の一括操作の設定作業ができている ③機材のメンテナンスおよびネットワークの知識が習得できている							

授業計画・内容		
1回目	応用プログラミング1	キューの作成、実行、修正等の応用操作
2回目	応用プログラミング2	パレットの編集
3回目	応用プログラミング3	スナップショット機能
4回目	ビジュアライザの連携1	ビジュアライザを用いたキューの確認、プログラミング
5回目	ビジュアライザの連携2	ビジュアライザ上の機材レイアウト
6回目	機材の一括操作の設定1	ムービングライト、LED、一般照明の一括操作
7回目	機材の一括操作の設定2	アドレス、ユニバースの設定
8回目	機材の一括操作の設定3	グループパレットの編集
9回目	機材のメンテナンス1	ケーブル修理等のメンテナンス、テスターの使用法
10回目	機材のメンテナンス2	基本的な工具の使い方、圧着ペンチ等
11回目	機材のメンテナンス3	ハンダ付け作業の基本
12回目	ネットワークの構築1	IPアドレスの管理等
13回目	ネットワークの構築2	ワイヤレスリモート
14回目	ミュージカル演習	
15回目	ミュージカル演習	
準備学習 時間外学 習		
評価方法	○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきま す	
受講生への メッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		

科目名 (英)	ムービングアドバンスⅡ	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	麻生圭輔
	(Moving Lighting Advance)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	月曜1～3限
【授業の学習内容】 ムービングライトを含めた照明機材の操作及びメンテナンス全般 ※ムービングライトを駆使したオペレーターは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける							
【到達目標】 <具体的な目標> ①応用プログラミングとビジュアライザの連携について理解できている ②機材の一括操作の設定作業ができている ③機材のメンテナンスおよびネットワークの知識が 習得できている							

授業計画・内容	
1回目	機材のメンテナンス1 機材の分解整備、クリーニング
2回目	機材のメンテナンス2 ムービングライトのゴボ交換
3回目	ネットワーク構築1 IPアドレスを用いたプロトコルの使用方法
4回目	ネットワーク構築2 PCのアドレス管理
5回目	PC関連の操作の基本1 ソフトウェアのインストール等
6回目	PC関連の操作の基本2 フィクスチャーデータの管理
7回目	PC関連の操作の基本3 ショーファイルの管理
8回目	ゴボネタの自作1 デザイン
9回目	ゴボネタの自作2 作成
10回目	応用プログラミング1 ページの切り替え、編集
11回目	応用プログラミング2 フィクスチャーファイルの新規作成
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ムービングワークショップ I・II	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	麻生圭輔
	(Moving Lighting Basic)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	月曜日1・2限
【授業の学習内容】 ムービングライト、LED機器の基本的な操作方法、接続方法、機材の基本的な構造を知る。 ※ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける							
【到達目標】 <具体的な目標> <ul style="list-style-type: none"> ①ムービングライトの基本構造が理解できている ②操作卓の基本的な使用方法が習得できている ③機材の接続方法が習得できている 							

授業計画・内容	
1回目	機材の基本構造1 使用する機材の基本構造を知る
2回目	機材の基本構造2 機材の内部構造の紹介
3回目	機材の基本構造3 各種モード切替について
4回目	操作卓の基本的な使用方法1 基本的なキューの作成
5回目	操作卓の基本的な使用方法2 操作卓の初期設定
6回目	操作卓の基本的な使用方法3 HTPとLTP
7回目	操作卓の基本的な使用方法4 デイマーの制御
8回目	機材の接続方法1 操作ケーブルについて
9回目	機材の接続方法2 DMX規格について
10回目	電源容量1 電源容量の計算
11回目	電源容量2 ケーブルとコネクタ
12回目	仕込みの基本1 仕込み手順と安全確認
13回目	仕込みの基本2 ケーブル処理
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学 習	
評価方法	○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に 基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ムービングワークショップⅢ・Ⅳ	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	麻生圭輔
	(Moving Lighting Basic)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科					曜日・時限	月曜日1・2限
【授業の学習内容】 ムービングライト、LED機器の基本的な操作方法、接続方法、機材の基本的な構造を知る。 ※ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける							
【到達目標】 <具体的な目標> ①操作卓の基本的な使用方法の応用レベルが習得できている ②機材の接続方法の応用レベルが習得できている ③電源知識・光源知識の応用レベルが習得できている							

授業計画・内容		
1回目	操作卓の基本的な使用方法1	DMXアドレスとパッチ
2回目	操作卓の基本的な使用方法2	キューの実行とタイム調整
3回目	操作卓の基本的な使用方法3	パレットの作成
4回目	操作卓の基本的な使用方法4	エフェクトエンジン
5回目	機材の接続方法1	DMXアドレスと2進数
6回目	機材の接続方法2	スプリッタBOXとアイソレーション
7回目	機材の接続方法3	調光ユニット
8回目	機材の接続方法4	チェーン接続
9回目	電源知識1	電圧、電流、電力の基本
10回目	電源知識2	テスターによる測定方法
11回目	光源知識1	発光原理と波長成分
12回目	光源知識2	カラーミックスについて、CMYとRGB
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル	
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル	
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番	
準備学習 時間外 学習		
評価方法	○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に 基づきます	
受講生への メッセージ		
【使用教科書・教材・参考書】		

科目名 (英)	イベント照明アドバンス I (Event Lighting Advance)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	高橋 剛
学科・コース	商業音楽科照明ライティングコース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日1～4限
【授業の学習内容】 1年次に学習した内容を復習し、音楽イベントに対するライティングデザインの基本的な考え方からプランニングまでを詳細にわたり学ぶ。イベントは照明セクションの他に音響・舞台・進行他のセクションと協力しながら行うので各セクションの役割も理解する。前期の終わりはミュージカルの楽曲デザインを行う。 ※実務経験 コンサート・イベント照明に照明プランナーとして数多くの現場経験を持つ。有名アーティストとの現場経験も豊富。日本照明家協会1級を持ち、日本照明家協会優秀賞を受賞する。							
【到達目標】 <具体的な目標> ①ライティングデザインの基本的考え方を習得する ②各セクションと協力しながらイベントを進行できる ③ミュージカル楽曲のデザインプランができる							

授業計画・内容	
1回目	イベントにおける各セクションの理解する(打合せの重要性)
2回目	ライティングデザインについて①
3回目	ライティングデザインについて②
4回目	ライティングデザインについて③
5回目	ライティングデザインについて④
6回目	仕込み図・フェーダー表の作成の考え方①
7回目	仕込み図・フェーダー表の作成の考え方②
8回目	作業進行について(仕込み作業・プログラミング・リハーサル・本番)①
9回目	作業進行について(仕込み作業・プログラミング・リハーサル・本番)②
10回目	ミュージカル楽曲ライティングデザイン①
11回目	ミュージカル楽曲ライティングデザイン②
12回目	ミュージカル楽曲ライティングデザイン③
13回目	ミュージカル演習 照明システムと仕込み図について
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	
評価方法	○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に 基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	イベント照明アドバンスⅡ (Event Lighting Advance)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	高橋 剛
学科・コース	商業音楽科照明ライティングコース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日1～4限
【授業の学習内容】 2年間の集大成、卒業進級制作展に向けて照明プラン作成可能とする能力を身に付ける。後期は基礎から応用編へと学び、照明家としてのコミュニケーション能力の向上も図る。※実務経験 コンサート・イベント照明に照明プランナーとして数多くの現場経験を持つ。有名アーティストとの現場経験も豊富。日本照明家協会1級を持ち、日本照明家協会優秀賞を受賞する。							
【到達目標】 <具体的な目標> ①仕込みのバリエーション、照明操作のシステムとプログラムの応用を習得する ②照明家として求められるコミュニケーション能力 ③卒業進級制作展のデザインプランができる							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション(前期の振り返りと後期の取り組み方について)
2回目	仕込みのバリエーション①
3回目	仕込みのバリエーション②
4回目	仕込みのバリエーション③
5回目	照明操作のシステムとプログラム①
6回目	照明操作のシステムとプログラム②
7回目	照明操作のシステムとプログラム③
8回目	卒業進級制作展チームミーティング(打合せ・コミュニケーション技法)
9回目	卒業進級制作展ライティングデザイン①
10回目	卒業進級制作展ライティングデザイン②
11回目	卒業進級制作展ライティングデザイン③
12回目	We are FSM 卒業進級制作 照明確認とシミュレーション作業
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%(課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	舞台機構・電気知識 I	選択必修	選択必修	年次	1	担当教員	山田 晴美
	(Stage mechanism Electric Knowledge II)	授業形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・スーパーeエンターテインメント科					曜日・時限	月曜5限
【授業の学習内容】 主たる業務の現場となる、劇場(ホール)の構造と名称および設備について必要な知識を習得する。 併せて、音響・照明・舞台という全ての部門の連携についても学ぶ。 <講師プロフィール> 実務者経験:ステージオフィスヤマダ代表、コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、博多駅スタジオのシステム担当、ユニバーシアード福岡大会コミュニティラジオシステム担当の他、九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わっている。							
【到達目標】 下見・打合せに際して、劇場スタッフおよび各舞台スタッフとの円滑なコミュニケーションができるようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期講義の概要
2回目	劇場の構造 舞台機構①
3回目	劇場の構造 舞台機構②
4回目	劇場の構造 舞台機構③
5回目	劇場の構造 照明設備①
6回目	劇場の構造 照明設備②
7回目	劇場の構造 照明設備③
8回目	劇場の構造 音響設備①
9回目	劇場の構造 音響設備②
10回目	劇場の構造 音響設備③
11回目	前期講義のまとめ
12回目	前期評価
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。 各種メディア(4K-TV、インターネット等)での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	取組姿勢 : 20%(学習に対する取組姿勢) 課題 : 50%(課題提出、提出期限の厳守) 習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 PA照明舞台用語辞典(i-Pad) 公立文化施設 舞台技術ハンドブック(プリントにて配布) その他、必要に応じて 資料プリントを講師より配布して行う。	

科目名 (英)	舞台機構・電気知識Ⅱ (Stage mechanism Electric KnowledgeⅡ)	選択必修	選択必修	年次	1	担当教員	山田 晴美
		授業形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース		商業音楽科・スーパーeエンターテイメント科		曜日・時限	月曜5限		
【授業の学習内容】 主たる業務の現場となる、劇場(ホール)の構造と名称および設備について必要な知識を習得する。 特に9月に予定されているミュージカルへ向けて、音響スタッフとして劇場での作業が円滑に行えるように学習する。 ミュージカル対策としてワイヤレスマイクの運用に必要な知識を習得する。 <講師プロフィール> ※ 実務者経験: ステージオフィスヤマダ代表。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、博多駅スタジオのシステム担当、ユニバーシアード福岡大会コミュニティラジオシステム担当の他、九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わっている。							
【到達目標】 劇場を利用する際のマナー約束事を理解して、作業が出来るようになる。 安全面に最大限の注意を払い、自分のみならず、他スタッフ・出演者にも安全な舞台を提供できるようになる。 専門用語での会話をスムーズに行えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	後期講義の概要
2回目	電気について① その歴史、周波数
3回目	電気について② 交流と直流、電圧と電流、消費電力
4回目	電気について③ 直流抵抗、インピーダンス
5回目	直流抵抗について① 直列、並列
6回目	直流抵抗について② 合成抵抗
7回目	直流回路における分圧と分流
8回目	直流回路における、電圧・電流・抵抗に関する 複合計算とその関わり
9回目	電源の方式 単相2線、単相3線、3相4線式
10回目	仮設電源について
11回目	後期 期末テスト
12回目	後期評価
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。 各種メディア(4K-TV、インターネット等)での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	取組姿勢 : 20%(学習に対する取組姿勢) 課題 : 50%(課題提出、提出期限の厳守) 習熟度 : 30%(到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし)に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 PA照明舞台用語辞典(i-Pad) 公立文化施設 舞台技術ハンドブック(プリントにて配布) その他、必要に応じて 資料プリントを講師より配布して行う。	

科目名 (英)	舞台ワークショップ I (Workshop of the stage design I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平山 信子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 6	開講区分	前期
学科・コース		音楽科 舞台制作&ステージデザイナーコース		曜日・時限	月曜、3・4・5限目		

【授業の学習内容】

課題で与えられたテーマに対応したスケッチから立体制作までの一連のプロセス、
アイソメ図あるいはアクソメ図を活用したアイデアスケッチから制作図面の作成_平面図および立面図、
制作図面から1点あるいは2点透視図の完成予想図の作成、最終的に立体モデルおよび空間モデル制作を行う。
※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築
デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。

【到達目標】

固定観念や既存概念にとらわれない無意識の領域に及び創造力を課題のテーマを通して活性化させ、
画一的ではない多様な価値観を前提とした発想のあり方と論理的なプロセスを重視しながら、
平面作品および立体作品における表現が実践的にできるようになる。

授業計画・内容

1回目	1. 「1点透視図法と2点透視図法」 フリーハンドによる基礎演習
2回目	2. 「1点透視図法と2点透視図法」 フリーハンドによる基礎演習 ● 完成と提出
3回目	1. 「立方体の解体と再構築」 アクソメ図によるプロセススケッチ (CAD/Vector Works & Stage Design の授業と連動)
4回目	2. 「立方体の解体と再構築」 アクソメ図によるプロセススケッチ (CAD/Vector Works & Stage Design の授業と連動)
5回目	3. 「立方体の解体と再構築」 プロセススケッチの完成から3面図の作図 (CAD/Vector Works & Stage Design の授業と連動)
6回目	4. 「立方体の解体と再構築」 2方向から2点透視図の下図を作成する
7回目	5. 「立方体の解体と再構築」 ブラッシングによるパースの陰影表現と色彩表現を試みる
8回目	6. 「立方体の解体と再構築」 オブジェ : 立体モデルの制作/模型制作の基礎を学ぶ
9回目	7. 「立方体の解体と再構築」 オブジェ : 立体モデルの制作/模型制作の基礎を学ぶ
10回目	8. 「立方体の解体と再構築」 オブジェ : 立体モデルの制作/模型制作の基礎を学ぶ ● 完成と提出
11回目	1. 「鉛筆デッサン/箱馬と2つの幾何学形態」 観察力と描写力/正確に物体を表現する技法を学ぶ
12回目	2. 「鉛筆デッサン/箱馬と2つの幾何学形態」 観察力と描写力/正確に物体を表現する技法を学ぶ ● 完成と提出
13回目	「水彩画法/面取り石膏像の置かれた静物モチーフ」 モチーフをセッティングする・描く場所を決める・構図を決める・計り棒を使う
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	映画鑑賞・舞台観劇・美術展覧会の鑑賞・音楽や読書など、自分自身を豊かに育むこと。
評価方法	●取組姿勢 : 40点(学習に対する取組姿勢) ○出席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題 : 40点(課題完成度と提出状況) ○合格 : 60点以上で合格 ●成長・成熟 : 20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)

受講生への メッセージ	この授業は、「モノづくり」プロセスの基本を学ぶと同時に、「モノづくり」の楽しさを体感し共有する大切な授業です。 休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 課題プリントあるいは作図プリントの配布。 各課題に対応した参考作品および参考図書の提示と参考資料の配布。	

科目名 (英)	舞台ワークショップ I (Workshop of the stage design I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平山 信子
学科・コース	音楽科 舞台制作&ステージデザイナーコース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 6	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜、3・4・5限目
【授業の学習内容】							
<p>課題で与えられたテーマに対応したスケッチから立体制作までの一連のプロセス、 アイソメ図あるいはアークソメ図を活用したアイデアスケッチから制作図面の作成_平面図および立面図、 制作図面から1点あるいは2点透視図の完成予想図の作成、最終的に立体モデルおよび空間モデル制作を行う。 ※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築 デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。</p>							
【到達目標】							
<p>固定観念や既存概念にとらわれない無意識の領域に及び創造力を課題のテーマを通して活性化させ、 画一的ではない多様な価値観を前提とした発想のあり方と論理的なプロセスを重視しながら、 平面作品および立体作品における表現が実践的にできるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	1. 「水彩画法／面取り石膏像の置かれた静物モチーフ」 鉛筆デッサンと着彩表現
2回目	2. 「水彩画法／面取り石膏像の置かれた静物モチーフ」 鉛筆デッサンと着彩表現
3回目	3. 「水彩画法／面取り石膏像の置かれた静物モチーフ」 鉛筆デッサンと着彩表現
4回目	4. 「水彩画法／面取り石膏像の置かれた静物モチーフ」 鉛筆デッサンと着彩表現 ● 完成と提出
5回目	1. 「階段のプロジェクト」 アイソメ図によるデザイン／アイデアを考える (CAD／Vector Works & Stage Design 2年の授業に連動)
6回目	2. 「階段のプロジェクト」 アイソメ図によるデザイン／アイデアを考える (CAD／Vector Works & Stage Design 2年の授業に連動)
7回目	3. 「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
8回目	4. 「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
9回目	5. 「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
10回目	6. 「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
11回目	7. 「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
12回目	8. 「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする ● 完成と提出
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	映画鑑賞・舞台観劇・美術展覧会の鑑賞・音楽や読書など、自分自身を豊かに育むこと。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度) <ul style="list-style-type: none"> ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ○合格：60点以上で合格

受講生への メッセージ	この授業は、「モノづくり」プロセスの基本を学ぶと同時に、「モノづくり」の楽しさを体感し共有する大切な授業です。 休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 課題プリントあるいは作図プリントの配布。 各課題に対応した参考作品および参考図書の提示と参考資料の配布。	

科目名 (英)	舞台ワークショップ II (Workshop of the stage design II)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平山 信子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 6	開講区分	前期
学科・コース		音楽科 舞台制作&ステージデザイナーコース		曜日・時限	月曜、3・4・5限目		
【授業の学習内容】							
<p>最終課題として、自ら主題を選択し、舞台美術のプランを提案する舞台模型を制作する。 ※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。</p>							
【到達目標】							
<p>固定観念や既存概念にとらわれない無意識の領域に及び創造力を課題のテーマを通して活性化させ、 画一的ではない多様な価値観を前提とした発想のあり方と論理的なプロセスを重視しながら、 平面作品および立体作品における表現が実践的にできるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	1. 「舞台模型 SCALE 1 : 100」 基本空間モデルの制作／参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
2回目	2. 「舞台模型 SCALE 1 : 100」 基本空間モデルの制作／参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
3回目	3. 「舞台模型 SCALE 1 : 100」 基本空間モデルの制作／参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
4回目	4. 「舞台模型 SCALE 1 : 100」 基本空間モデルの制作／参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
5回目	5. 「舞台模型 SCALE 1 : 100」 幕の制作と記述事項の表記／参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
6回目	1. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／構想とアイデア
7回目	2. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／スケッチ：2場
8回目	3. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台平面図：2場
9回目	4. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台立面図：2場
10回目	5. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
11回目	6. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
12回目	7. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
13回目	8. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	映画鑑賞・舞台観劇・美術展覧会の鑑賞・音楽や読書など、自分自身を豊かに育むこと。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度) <ul style="list-style-type: none"> ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ○合格：60点以上で合格

受講生への メッセージ	この授業は、「モノづくり」のプロセスの基本を学ぶと同時に、「モノづくり」の楽しさを体感し共有する大切な授業です。 休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 課題プリントあるいは作図プリントの配布。 各課題に対応した参考作品および参考図書の提示と参考資料の配布。	

科目名 (英)	舞台ワークショップ II (Workshop of the stage design II)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平山 信子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 6	開講区分	後期
学科・コース		音楽科 舞台制作&ステージデザイナーコー		曜日・時限	月曜、3・4・5限目		

【授業の学習内容】

自由課題として、自ら絵画を選択し、2次元絵画の3次元空間への変容プランを実験的な制作をする。

※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。

【到達目標】

固定観念や既存概念にとらわれない無意識の領域に及ぶ創造力を課題のテーマを通して活性化させ、

画一的ではない多様な価値観を前提とした発想のあり方と論理的なプロセスを重視しながら、

提案舞台の空間表現が実践的にできるようになる。また、絵画を題材にした実験的な取り組みから、自ら、可能性の領域を広げることができるようになる。

授業計画・内容

1回目	1. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」	各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作 : 2場
2回目	2. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」	各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作 : 2場
3回目	3. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」	各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作 : 2場
4回目	4. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」	各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作 : 2場
5回目	5. 「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」	舞台空間模型制作 : 2場の完成とデジカメ撮影 ● 完成と提出
6回目	1. 「2次元絵画から3次元空間への創造」	自由課題／形態操作による空間構成の実験的な試み
7回目	2. 「2次元絵画から3次元空間への創造」	自由課題／形態操作による空間構成の実験的な試み
8回目	3. 「2次元絵画から3次元空間への創造」	自由課題／形態操作による空間構成の実験的な試み
9回目	4. 「2次元絵画から3次元空間への創造」	自由課題／形態操作による空間構成の実験的な試み
10回目	5. 「2次元絵画から3次元空間への創造」	自由課題／形態操作による空間構成の実験的な試み
11回目	6. 「2次元絵画から3次元空間への創造」	自由課題／形態操作による空間構成の実験的な試み
12回目	7. 「2次元絵画から3次元空間への創造」	自由課題／形態操作による空間構成の実験的な試み ● 完成と提出
13回目	ミュージカル演習	
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル	
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番	
準備学習 時間外学習	映画鑑賞・舞台観劇・美術展覧会の鑑賞・音楽や読書など、自分自身を豊かに育むこと。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●取組姿勢 : 40点(学習に対する取組姿勢) ●課題 : 40点(課題完成度と提出状況) ●成長・成熟 : 20点(到達目標に対する成長具合や習熟度) 	
	○出 ○合	席 : 別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) 否 : 60点以上で合格

受講生への メッセージ	この授業は、「モノづくり」プロセスの基本を学ぶと同時に、「モノづくり」の楽しさを体感し共有する大切な授業です。 休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 課題プリントあるいは作図プリントの配布。 各課題に対応した参考作品および参考図書の提示と参考資料の配布。	

科目名 (英)	ステージデザイン&CAD I (Stage design & CAD I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平山 信子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	前期
学科・コース		音楽科 舞台制作&ステージデザイナーコース		曜日・時限	月曜、1・2限目		

【授業の学習内容】

いくつかの操作マニュアルのテキスト課題において、CAD/Vector Worksの基本操作および2D&3D機能のシステムを可能な限り短期間で簡単かつ
明解に理解する。舞台ワークショップの授業課題と連動し、授業課題で
完成した作品をCAD/Vector Worksにて、2D図面あるいは3D表現へと、各自が実践的な応用を試みる。
※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。

【到達目標】

CAD/Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。
理解できるようになる。舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を立体
表現や空間表現のシミュレーションスタディとしてイメージを膨らませ、
Vector Worksの理解を促すと同時に、平面図・立面図・透視図による空間表現あるいは写真などを統合したプレゼンテーション表現ができるようになる。
Vector Works・Illustrator・Photoshopの互換性を理解し応用ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	1. 「テーブルセットをつくる」 VWの基本操作_インターフェイス・初期設定・環境設定・2Dツールパレット ● 提出
2回目	2. 「リートフェルトの椅子_R&B」 VWの3Dシステムの理解_3Dツール
3回目	3. 「リートフェルトの椅子_R&B」 3Dモデルのレンダリング表現_演習_透視図法 ● 2方向からのパースの提出
4回目	4. 「リートフェルトの椅子_R&B」 3Dモデルから2D表現へ_3面図の作成とレイアウト(3面図 + アイソメ図 + 記述事項) ● 3面図の提出
5回目	5. 「リートフェルトの椅子_R&B」 レイヤー設定の理解_多面図の作成 ● 多面図の提出
6回目	1. 「立方体の解体と再構築」 立体モデル表現への応用_プロセススケッチの作成 (舞台ワークショップの授業課題と連動)
7回目	2. 「立方体の解体と再構築」 立体モデル表現への応用_3Dモデルからレンダリング表現 (舞台ワークショップの授業課題と連動)
8回目	3. 「立方体の解体と再構築」 立体モデル表現への応用_3Dモデルから3面図の作成 (舞台ワークショップの授業課題と連動)
9回目	4. 「立方体の解体と再構築」 立体モデル表現への応用_プレゼンシートの作成/VectorWorksとPhotoshop & Illustratorとの互換性の理解
10回目	5. 「立方体の解体と再構築」 立体モデル表現への応用_プレゼンシートの作成/3面図+アイソメ図+模型写真+記述事項 ● プレゼンシートの提出
11回目	1. 回転体の課題 「椅子とグラス」 Vector Works の多機能な性格を知る
12回目	2. 回転体の課題 「椅子とグラス」 Vector Works の多機能な性格を知る_プレゼンシートの作成 ● プレゼンシートの提出
13回目	「箱馬の3面図を描く」 配布された2D図面を読み3D入力/3Dデータから3面図を描く ● 3面図の提出
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)

受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustratorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	ステージデザイン&CAD I (Stage design & CAD I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平山 信子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	後期
学科・コース		音楽科 舞台制作&ステージデザイナーコース		曜日・時限	月曜、1・2限目		
【授業の学習内容】							
<p>いくつかの操作マニュアルのテキスト課題において、CAD/Vector Worksの基本操作および2D&3D機能のシステムを可能な限り短期間で簡単かつ明解に理解する。舞台ワークショップの授業課題と連動し、授業課題で完成した作品をCAD/Vector Worksにて、2D図面あるいは3D表現へと、各自が実践的な応用を試みる。 ※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。</p>							
【到達目標】							
<p>CAD/Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できる。表現のシミュレーションスタディとしてイメージを膨らませ、立体表現や空間表現のシミュレーションを同時に行い、平面図・立面図・透視図による空間表現あるいは写真などを統合したプレゼンテーション表現ができるようになる。 Vector Worksの理解を促すと同時に、Illustrator・Photoshopの互換性を理解し応用ができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	1. 「建築平面図の製図_SCALE 1:100」 初期設定・環境設定+レイヤー設定+2Dツール・建築ツール
2回目	2. 「建築平面図の製図_SCALE 1:100」 2Dツールと建築ツールを使い平面図を作成する
3回目	3. 「建築平面図の製図_SCALE 1:100」 2Dツールと建築ツールを使い平面図を作成する
4回目	4. 「建築平面図の製図_SCALE 1:100」 2Dツールと建築ツールを使い平面図を作成する
5回目	5. 「建築平面図の製図_SCALE 1:100」 寸法と表記を記入するノリソースパレットを活用する ● 建築平面図の提出
6回目	1. 「建築図面の3D外観表現_SCALE 1:100」 初期設定・環境設定+レイヤー設定・クラス設定+3Dツールと建築ツール
7回目	2. 「建築図面の3D外観表現_SCALE 1:100」 3Dツールと建築ツールを活用しモデリングをする
8回目	3. 「建築図面の3D外観表現_SCALE 1:100」 3Dツールと建築ツールを活用しモデリングをする
9回目	4. 「建築図面の3D外観表現_SCALE 1:100」 3Dツールと建築ツールを活用しモデリングをする
10回目	5. 「建築図面の3D外観表現_SCALE 1:100」 3Dツールと建築ツールを活用しモデリングをする
11回目	1. 「建築図面と3D表現のプレゼンシートをつくる」 プレゼンシートの素材を取り出し、Photoshopにて適切に加工する
12回目	2. 「建築図面と3D表現のプレゼンシートをつくる」 Illustratorにて加工した素材をレイアウトする ● プレゼンシートの完成と提出
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ○合格：60点以上で合格
受講生への メッセージ	この授業では、CAD/Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustratorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	ステージデザイン&CAD II (Stage design & CAD II)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平山 信子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	前期
学科・コース		音楽科 舞台制作&ステージデザイナーコース		曜日・時限	月曜、1・2限目		

【授業の学習内容】

舞台ワークショップの授業課題と連動し、
プロセニウム舞台の構造図面_2Dや舞台空間_3D表現、
小道具や大道具、あるいは、舞台平面図の作成など、舞台美術プランの表現にCAD/VectorWorksの
実践的な応用を試みる。

※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。

【到達目標】

CAD/Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。
舞台制作と舞台デザインの表現手段として、このツールの多機能な対応力
を理解できるようになる。
立
体表現や空間表現から舞台空間の提案まで、シミュレーションスタディとしてイメージを表現として顕在化させ、
平面図・立面図、さらに、陰影表現や照明効果などRender Worksを活用した透視図による仮想舞台の空間表現ができるようになる。
Vector Works+Render Works・Illustrator・Photoshopの互換性を理解し、レベルの高い応用力を身につける。

授業計画・内容

1回目	1. 「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 と連動)	各自の階段のプロジェクト3Dモデルの入力 (舞台ワークショップの1年後期の授業課題
2回目	2. 「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 と連動)	各自の階段のプロジェクト3Dモデルの入力 (舞台ワークショップの1年後期の授業課題
3回目	3. 「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 と連動)	各自の階段のプロジェクト3Dモデルの入力 (舞台ワークショップの1年後期の授業課題
4回目	4. 「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」	3Dモデルの入力から5面図を作成する
5回目	5. 「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」	3Dモデルの入力からパース表現とアイソメ図を作成する
6回目	6. 「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」	CAD/Render Worksにて陰影表現や照明を活用しメインイメージを作成する
7回目	7. 「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」	Photoshopを活用しメインイメージの背景を作成する
8回目	8. 「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」	Photoshopを活用しメインイメージに挿入する人物シルエットを作成する
9回目	9. 「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」	Photoshopを活用し模型写真を選択・適切に画像加工する
10回目	1. 「階段のプロジェクトのプレゼンシート」	CAD表現からの2D図面と3Dイメージファイルを取り出す
11回目	2. 「階段のプロジェクトのプレゼンシート」	タイトル・コンセプト・メインイメージ・2D図面・3D表現・模型写真・記述事項など
12回目	3. 「階段のプロジェクトのプレゼンシート」	Illustratorの有効なレイアウト機能を活用しプレゼンシートAを作成する
13回目	4. 「階段のプロジェクトのプレゼンシート」 出	Illustratorの有効なレイアウト機能を活用しプレゼンシートBを作成する ● 完成と提出
14回目	9月特別授業	
15回目	9月特別授業	
準備学習 時間外学習	授業外に制作した作品においてもCAD表現を試み応用力と実践力を身につける。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度) 	
	○出 ○合	席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) 否：60点以上で合格

受講生への メッセージ	この授業は舞台ワークショップと連動し、 各自が制作したプロジェクトや提案舞台をCAD／Vector Works+Render Worksにて作成してこそ完結する授業です。 休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナル課題表現の方法と参考作品の資料配布。	

科目名 (英)	ステージデザイン&CAD II (Stage design & CAD II)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平山 信子
学科・コース	音楽科・舞台制作&ステージデザイナーコース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜、1・2限目
【授業の学習内容】							
<p>舞台ワークショップの授業課題と連動し、 プロセニウム舞台の構造図面_2Dや舞台空間_3D表現、 小道具や大道具、あるいは、舞台平面図の作成など、舞台美術プランの表現にCAD/VectorWorksの 実践的な応用を試みる。</p> <p>※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のス タッフとして空間デザインに従事する。</p>							
【到達目標】							
<p>CAD/Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようにな る。 を理解できるようになる。 立 体表現や空間表現から舞台空間の提案まで、シミュレーションスタディとしてイメージを表現として顕在化させ、 平面図・立面図、さらに、陰影表現や照明効果などRender Worksを活用し た透視図による仮想舞台の空間表現ができるようになる。 Vector Works+Render Works・Illustrator・Photoshopの互換性を理解し、レベルの高い応用力を身につける。</p>							

授業計画・内容	
1回目	1.「プロセニウム舞台美術の表現」 舞台美術の基本空間2D図面の表現：平面図と正面図・立面図/参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
2回目	2.「プロセニウム舞台美術の表現」 舞台美術の基本空間2D図面の表現：平面図と正面図・立面図
3回目	3.「プロセニウム舞台美術の表現」 舞台美術の基本空間2D図面の表現：寸法表記と記述事項 ● 完成と提出
4回目	1.「提案舞台美術の表現」 舞台2D図面の表現（舞台ワークショップの授業課題と連動）
5回目	2.「提案舞台美術の表現」 舞台2D図面の表現（舞台ワークショップの授業課題と連動）
6回目	3.「提案舞台美術の表現」 舞台3D空間の表現（舞台ワークショップの授業課題と連動）
7回目	4.「提案舞台美術の表現」 舞台3D空間の表現（舞台ワークショップの授業課題と連動）
8回目	5.「提案舞台美術の表現」 舞台3D空間の表現（舞台ワークショップの授業課題と連動）
9回目	6.「提案舞台美術の表現」 舞台3D/幕の挿入（舞台ワークショップの授業課題と連動）
10回目	7.「提案舞台美術の表現」 舞台の照明と陰影（舞台ワークショップの授業課題と連動）
11回目	8.「提案舞台美術の表現」 プレゼンシートの作成/舞台図面と3D表現+舞台模型写真
12回目	9.「提案舞台美術の表現」 プレゼンシートの作成/舞台図面と3D表現+舞台模型写真 ● 完成と提出
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	授業外に制作した作品においてもCAD表現を試み応用力と実践力を身につける。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度) <ul style="list-style-type: none"> ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ○合格：60点以上で合格

受講生への メッセージ	この授業は舞台ワークショップと連動し、 各自が制作したプロジェクトや提案舞台をCAD／Vector Works+Render Worksにて作成してこそ完結する授業です。 休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナル課題表現の方法と参考作品の資料配布。	

科目名 (英)	Planning Advance I (Planning Advance I)	選択 必修	選択 必修	年次	2	担当教員	高田 雄貴
学科・コース	商業音楽科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜3、4限
【授業の学習内容】 下記内容について、必須の能力の習得と、その能力を発揮するためのマーケットの関係を実務を通じて身につける為に構成する [1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画(プランニング)についての知識を用いて、プランニングの学習を行う [2] 音楽ビジネスの企画(プランニング)学習を通じてマーケットリサーチの学習を行う [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)について学ぶ中から企画実務の基本を学習する ＜講師プロフィール＞ 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会所属のキョードー東京在籍中より、主業務先は主要放送局(フジテレビ、テレビ朝日、日本テレビ等のテレビ局や新規開局FM局のイベントや音楽番組の制作に関わる。現在、イベント制作会社ビーハイブ代表。							
【到達目標】 エンタテインメント業界での音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)についての基礎知識をと方法論を修得 ＜具体的な目標＞ [1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる							

授業計画・内容	
1回目	時間の流れを企画する [演習課題:ガントチャート理論を応用し企画立案を行う]
2回目	企画の基本を確認する [演習課題:企画アイデアシートの使用によるチェック]
3回目	企画の準備作業について [演習課題:企画アウトラインを検証する]
4回目	地域催事の企画立案演習・1 [演習課題:地域で行われている年間催事の調査・レポート]
5回目	地域催事の企画立案演習・2 [演習課題:企画提案の可能性を探る]
6回目	野外フェスティバルの企画立案演習・1 [演習課題:今年度開催される野外音楽フェスティバルの調査]
7回目	野外フェスティバルの企画立案演習・2 [演習課題:昨年度開催実績の調査]
8回目	ビジネスモデルと企画 [演習課題:スポーツビジネスの収益性を探る]
9回目	出演者をキャスティングするには [演習課題:音楽事業者協会と音楽制作者連盟についての調査を行う]
10回目	会場のタイプと仕組み [演習課題:公益社団法人 全国公立文化施設協会についての調査を行う]
11回目	季節型催事の企画立案演習・1 [演習課題:レジャー白書の調査]
12回目	季節型催事の企画立案演習・2 [演習課題:マリンスポーツの研究]
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、エンタテインメント業界への興味が不可欠です。さらに流行、芸能ニュース、等について予習が必要です。 (目標②)各自の趣味趣向だけにとらわれず、広くエンタテインメントビジネスについて関わりを持つ心がけが必要です。 (目標③)自動車運転免許取得に際し、実際に動かすだけではなく法規が必要なのと同じく、演習前には講義で学習した理論の復習が必要です。 (目標④)各講義の内容は関連性を持っていますので、講義の復習が必要です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	魅力: イベントビジネスプランニングにおける企画(プランニング)と制作実施をプロデュースする事は、エンタテインメントビジネス業界を目指す究極目標であり、将来にとっても大きなモチベーションとなります。また、この学習を通じてエンタテインメントマーケットの仕組みや、流れの情報を多く知る事で、実務に着いた際にも自信を持って業務に当たる事が出来るでしょう。そしてその成功を掴む為にも身につけるべき能力の一つです。 授業計画: この授業で身につけた能力を試すものとして、実際のイベントで実習を行います。その必要な理論(知識)は、前半の授業から常に行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: 教材: インターネット端末「ipad」 Apple社製 参考書: Musicman エフ・ビー・コミュニケーションズ株式会社 / 『よくわかる音楽著作権ビジネス 基礎編』5th Edition リットーミュージック 他	

科目名 (英)	Planning Advance II	選択 必修	選択 必修	年次	2	担当教員	高田 雄貴
(Planning Advance II)					
学科・コース	商業音楽科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜3、4限
【授業の学習内容】							
下記内容について、必須の能力の習得と、その能力を発揮するためのマーケットの関係を実務を通じて身につける為に構成する							
[1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画(プランニング)についての知識を用いて、プランニングの学習を行う							
[2] 音楽ビジネスの企画(プランニング)学習を通じてマーケットリサーチの学習を行う							
[3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)について学ぶ中から企画実務の基本を学習する							
<講師プロフィール>							
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会所属のキョードー東京在籍中より、主業務先は主要放送局(フジテレビ、テレビ朝日、日本テレビ等のテレビ局や新規開局FM局のイベントや音楽番組の制作に関わる。現在、イベント制作会社ビーハイブ代表。							
【到達目標】							
エンタテインメント業界での音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画(プランニング)についての基礎知識をと方法論を修得							
<具体的な目標>							
[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる							
[2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる							
[3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる							

授業計画・内容	
1回目	ヒットの仕組みを知る [演習課題:昨年飛び出したヒットの研究]
2回目	フェスティバル受けする出演者を知る [演習課題:アーティストのランキングリスト作成]
3回目	同世代の企画を検証する [演習課題:大学リストの作成]
4回目	全国の大学で開催されているイベント(学園祭)を調査する [演習課題:学園祭イベント一覧調査]
5回目	企画を通すには(プレゼンテーション技術) [演習課題:TEDの研究]
6回目	採用された企画を制作する(会議技法) [演習課題:議事録ドリブン演習]
7回目	採用された企画を制作する(ガントチャートによる作業進行管理技法) [演習課題:夏フェス型イベント調査レポート]
8回目	予算の管理を考える [演習課題:機材使用量の調査研究]
9回目	プロモーションについて検証する(広告と広報) [演習課題:CM好感度調査]
10回目	企画における印刷媒体 [演習課題:新聞協会の研究]
11回目	企画は流行を読むことから始まる [演習課題:SMBCコンサルティングの資料を検証]
12回目	スポーツイベントのビジネスモデルを知る [演習課題:東京オリンピック開催概要の調査]
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	(目標①)前提:この授業を受けるには、エンタテインメント業界への興味が不可欠です。さらに流行、芸能ニュース、等について予習が必要です。 (目標②)各自の趣味趣向だけにとらわれず、広くエンタテインメントビジネスについて関わりを持つ心がけが必要です。 (目標③)自動車運転免許取得に際し、実際に動かすだけではなく法規が必要なのと同じく、演習前には講義で学習した理論の復習が必要です。 (目標④)各講義の内容は関連性を持っていますので、講義の復習が必要です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	魅力: イベントビジネスプランニングにおける企画(プランニング)と制作実施をプロデュースする事は、エンタテインメントビジネス業界を目指す究極目標であり、将来にとっても大きなモチベーションとなります。また、この学習を通じてエンタテインメントマーケットの仕組みや、流れの情報を多く知る事で、実務に着いた際にも自信を持って業務に当たる事が出来るでしょう。そしてその成功を掴む為にも身に付けるべき能力の一つです。 授業計画: この授業で身に付けた能力を試すものとして、実際のイベントで実習を行います。その必要な理論(知識)は、前半の授業から常に行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:	
教材: インターネット端末「ipad」Apple社製	
参考書: Musicman エフ・ビー・コミュニケーションズ株式会社 / 『よくわかる音楽著作権ビジネス 基礎編』5th Edition リットーミュージック 他	

科目名 (英)	Web Design Advance II (Web Design Advance)	必修 選択	年次	2	担当教員	島村紀博
学科・コース		授業 形態	総時間 (単位)	()	開講区分	前期
【授業の学習内容】 web制作に必要なPhotoshopの使用の仕方を学習し、ドリームウィーバーを使用してweb制作の基礎を学び最後にオリジナルでサイトを制作する。						
【到達目標】 web制作に必須となるイラストレーター、photoshopを習得し、基本的なCSSを覚えて初歩的なレスポンシブサイトをテキストエディターにて制作できるようになる						

授業計画・内容	
1回目	photoshopのツールの紹介と、photoshopの基本的な使い方の説明、自分の写真を加工してphotoshopの機能を知る。
2回目	Photoshopの初歩の使い方をサンプル画像を使用して、ツールボックスの説明も兼ねて使用してみる。
3回目	Photoshopの合成課題、画像解像度の理解とペンツールを使用しての合成の基礎を覚える、野菜のパーツを切り抜いて組み合わせサン プルの通りに合成する。
4回目	photoshopの合成課題レイヤーを理解する、レイヤーの描画モード、レイヤースタイル等レイヤーの機能を使用して合成を行う、又グラ デーションの作り方を覚える。
5回目	photoshopの色塗り、ブラシの使い方やレイヤーの描画モード、選択範囲を使用して下絵を元に乗算を使用して着色していく、又カスタ ムブラシの作り方も覚える。
6回目	photoshopのスタンプツール、スタンプツールを使用して画像の画像の修正作業を行う。修正の際に必要な歪みツールや変形ツール を覚える。
7回目	photoshopの影付け、用意した写真に影をつける、パスを引いて選択範囲を読み込み変形ツールを使用して、リアルなガウスのぼかしを 使用して影付けを覚える。
8回目	photoshop合成と色合わせ、見本に合わせて、今までの技術を総合的に使用して合成と色合わせを行う、色合わせは調整レイヤーを使 用して行う。
9回目	photoshopの合成課題、前回の課題に引き続き色合わせと合成課題、今回は更に複雑な合成に挑戦する。その際に効率のよい合成技術 を身に付ける。
10回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
11回目	photoshop商品にロゴマークを入れる、変形ツールや選択範囲を上手く使い商品写真にロゴマークを入れ、商品の色を色相と彩度を利用 して変更する。
12回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学 習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	現在、様々な事をWEBを通して出来るようになっていきます。WEB全般の基礎的な力は就職や実務の際にも必ず必要になって
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	Web Design Advance II (Web Design Advance)	必修 選択	年次	2	担当教員	島村紀博
学科・コース		授業 形態	総時間 (単位)	()	開講区分	後期
【授業の学習内容】						
WEB制作に必要なイラストレーター、フォトショップで基礎的なパーツの作り方や、イラストレーター、フォトショップを使用してチラシや名刺の制作、写真の補正等の応用も学習する。						
【到達目標】						
web制作に必須となるイラストレーター、phtmlshopを習得し、基本的なCSSを覚えて初歩的なレスポンスサイトをテキストエディターにて制作できるようになる						

授業計画・内容	
1回目	インターネットの成り立ちとルール、WEBを制作するにあたって初歩的な知識とドリームウィーバーの使い方の説明
2回目	WEBを制作するにあたってのHTMLとCSSの説明と、ファイルの階層やリンクの考え方。HTMLを使用してリンクを張ってみる。
3回目	CSSを使用してWEBページを作ってみる。CSSの初歩的な1段組レイアウトを制作しながらCSSの基本を覚える。
4回目	CSSを使用して2段組のレイアウトを組み、ヘッダー/フッター/ナビゲーション等、各パーツをCSSにて制作する。
5回目	webの制作、3段組のレイアウトをソースの見本を見ながら制作して、ソースを書き換えて応用できる様にする。
6回目	webの制作、4段組レイアウト、画像のレイアウトを見ながらソースを書いてページを完成させる。CSSの応用
7回目	見本をもとにレスポンスサイトを制作する。レスポンスサイトを制作する際に必要な基礎知識の説明。
8回目	自分で用意できるコンテンツでオリジナルのサイトを制作する。材料集めと、最終的にネットアップする、FTPツールの仕様の仕方。
9回目	自分のサイトの企画書を制作する。企画書で合格したら自分のサイトの制作に入る。
10回目	前回の続きオリジナルサイトの制作
11回目	前回の続きオリジナルサイトの制作、途中段階のチェックと修正
12回目	オリジナルサイトの提出評価
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	現在、様々な事をWEBを通して出来るようになっていきます。WEB全般の基礎的な力は就職や実務の際にも必ず必要になって
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ソリューション開発 I (Solution Development)	必修 選択	必修 必修	年次		担当教員	溝口善也
学科・コース	商業音楽科・コンサート企画制作(2年)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	()	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜・4限、5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的にご記載ください。)</p> <p>FSM生の学習して身に着けた「エンタメカ」×「人間力」をもとにソリューション開発(課題解決方法の開発)を実践的に行っていく授業です。新型コロナウイルス感染拡大により大きく社会が変化していく中で、エンタメ業界の人材として求められる能力も大きく変わってきています。従来のマネジメントやイベント運営方法だけでは立ち行かなくなってくる中で、企業は「自分で考えて行動し問題を解決の提案・実行ができる」人材を求めています。本講座では「エンタメカ」を軸としたプロジェクトの立案や、「人間力」を養うチームビルディングや提案力を身に着けることを目的としています。</p> <p><講師プロフィール> CSR・SDGsプロモーション/NPO協働中間支援/産学協働中間支援地域おこし商品開発/地域おこしプロジェクト企画・運営などと手掛け、「協働を通じて企業CSRの社会的インパクトの最大化」させることを目的した団体、一般社団法人KyodoWorks代表。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>■「養う」などの具体的でないものではなく、〇〇が出来るようになる、という内容でご記入ください。</p> <p>【目標①】自分や仲間の特性を把握し、SDGsを学び社会の中でどのような役割を担っていきたいか把握する。 【目標②】企業の成り立ち、商品・サービスが生まる一連の流れを把握し、マーケティングを行う一連の流れを把握する。 【目標③】WEBマーケティングの基礎と、企画立案ができるようになる。(tiktokアカウントの運用企画) 【目標④】部活を立ち上げプロジェクトの立ち上げとそのプロセスを実践できるようにする。 ※月に一度一か月何を学んだか月報を提出してもらいます。</p>							

授業計画・内容	
1回目	【目標①】仲間を知る(チームメイト同士のエンゲージメントを高める)
2回目	【目標①】自分自身を知る(自分の得意なことや好きなことを再確認する)
3回目	【目標②】企業の存在意義とその成り立ちを知る(企業の成り立ちや存在意義を知ることが企画提案の軸になることを認識する)
4回目	【目標②】企業の存在意義とその成り立ちを知る(企業の成り立ちや存在意義を知ることが企画提案の軸になることを認識する)
5回目	【目標②】企業研究発表(チームごとに事例を紹介。クラス全体で情報を共有する。)
6回目	【目標③】1.ケーススタディで企画を作る①企業課題(ケーススタディを提示し、ターゲットをイメージしながら企画を考える。)TikTokアカウントを想定
7回目	【目標③】2.ケーススタディで企画を作る②企業課題(企画内容を発表し、チーム毎に企画のブラッシュアップを行う。)
8回目	【目標③】3.ケーススタディで企画を作る③企業課題(成果物の発表、総評を行う。)
9回目	【目標④】〇〇部を立ち上げる(プロジェクトを立ち上げる感覚を身に着ける) 例)ジャニーズ研究部、社会貢献部など
10回目	【目標④】〇〇部の活動方針を決める。(企画コンセプト力を身に着ける)
11回目	【目標④】〇〇部の活動内容を決める。(プロジェクトに必要な手段を検討する力を身に着ける)
12回目	【目標④】〇〇部の外部パートナーを探す。(プロジェクトの目的を達成するために必要な人材を探す力を身に着ける)
13回目	【目標④】各部活動の活動方針、内容の発表。(プレゼンテーション力を養う)
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	一か月毎にFSMの授業で学んだことを書面にまとめ提出してもらいます。(社会人で言うところの月報のようなものを想定しています。)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	ソリューション開発と急に言われてもピンと来ないと思います。簡単に言うと「誰かの役に立つことを考えて実行に移す」授業です。前期は自分と仲間、企業、社会について知ることから始まり、自分の興味のあることで仲間を募り、プロジェクトを立ち上げてもらうことを想定しています。皆様とワクワクしながら授業を作り上げていければと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ソリューション開発Ⅱ	必修 選択	選択 必修	年次		担当教員	溝口善也
	(Solution Development)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	()	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・コンサート企画制作(2年)					曜日・時限	水曜・4限、5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>FSM生の学習して身に着けた「エンタメカ」×「人間力」をもとにソリューション開発(課題解決方法の開発)を実践的に行っていく授業です。新型コロナウイルス感染拡大により大きく社会が変化していく中で、エンタメ業界の人材として求められる能力も大きく変わってきています。従来のマネジメントやイベント運営方法だけでは立ち行かなくなってくる中で、企業は「自分で考えて行動し問題を解決の提案・実行ができる」人材を求めています。本講座では「エンタメカ」を軸としたプロジェクトの立案や、「人間力」を養うチームビルディングや提案力を身に付けることを目的としています。</p> <p><講師プロフィール> CSR・SDGsプロモーション/NPO協働中間支援/産学協働中間支援地域おこし商品開発/地域おこしプロジェクト企画・運営などと手掛け、「協働を通じて企業CSRの社会的インパクトの最大化」させることを目的とした団体、一般社団法人KyodoWorks代表。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>■何々が出来るようになる。 ■「養う」などの具体的な出ないものはおやめください。</p> <p>【目標①】プロジェクトを実行に移す。 【目標②】社会人スキルとして必要な社内会議の必要なことを実践・学習。 【目標③】自身のプロジェクトと社会との接点をマッピングする。キャッシュポイントを考察する。 【目標④】活動報告(PDCAサイクルを回す)</p>							

授業計画・内容	
1回目	【目標①】企画書を作る(外部人材を巻き込むための企画書をつくる)
2回目	【目標①】スケジュールを作る 例)○月○日までに●●する
3回目	【目標②】部活動の会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)
4回目	【目標②】部活動の会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)
5回目	【目標②】部活動の会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)
6回目	【目標②】部活動の会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)
7回目	【目標②】部活動の会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)
8回目	【目標③】部活動の分野の市場(好きなことがビジネスになるのか)を調べる。/部活動の会議
9回目	【目標③】部活動の分野と社会課題との接点を調べる。/部活動の会議
10回目	【目標④】活動報告の準備
11回目	【目標④】活動報告の準備
12回目	【目標④】活動報告の本番
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	一か月毎にFSMの授業で学んだことを書面にまとめ提出してもらいます。(社会人で言うところの月報のようなものを想定しています。)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	ソリューション開発と急に言われてもピンと来ないと思います。簡単に言うと「誰かの役に立つことを考えて実行に移す」授業です。前期は自分と仲間、企業、社会について知ることから始まり、自分の興味のあることで仲間を募り、プロジェクトを立ち上げてもらうことを想定しています。皆様とワクワクしながら授業を作り上げていければと思っていますのでどうぞよろしくお願いたします。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ソリューション開発Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次		担当教員	溝口善也
	(Solution Development)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	()	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・コンサート企画制作(4年)					曜日・時限	水曜・4限、5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>FSM生の学習して身に着けた「エンタメカ」×「人間力」をもとにソリューション開発(課題解決方法の開発)を実践的に行っていく授業です。新型コロナウイルス感染拡大により大きく社会が変化していく中で、エンタメ業界の人材として求められる能力も大きく変わってきています。従来のマネジメントやイベント運営方法だけでは立ち行かなくなってくる中で、企業は「自分で考えて行動し問題を解決の提案・実行ができる」人材を求めています。本講座では「エンタメカ」を軸としたビジネスプランの企画・立案や、「人間力」を養うチームビルディングや提案力を身に付けることを目的としています。</p> <p><講師プロフィール> CSR・SDGsプロモーション/NPO協働中間支援/産学協働中間支援地域おこし商品開発/地域おこしプロジェクト企画・運営などと手掛け、「協働を通じて企業CSRの社会的インパクトの最大化」させることを目的とした団体、一般社団法人KyodoWorks代表。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>■何々が出来るようになる。 ■「養う」などの具体的な出ないものはおやめください。</p> <p>【目標①】自分や仲間の特性を把握し、SDGsを学び社会の中でどのような役割を担っていきたいか把握する。 【目標②】WEBマーケティングの基礎と、企画立案ができるようになる。(tiktokアカウントの運用企画) 【目標③】企業提案に向けたビジネスプランを作る。(提案書作成、制作体制の構築) 【目標④】電話営業実践</p>							

授業計画・内容	
1回目	【目標①】仲間を知る(チームメイト同士のエンゲージメントを高める)
2回目	【目標①】自分自身を知る(自分の得意なことや好きなことを再確認する)
3回目	【目標①】SDGs・社会課題を知る(SDGsの概念をはじめ、社会課題が自分の生活にどのように影響しているか認識する)
4回目	【目標②】1.ケーススタディで企画を作る①企業課題(ケーススタディを提示し、ターゲットをイメージしながら企画を考える。)TikTokアカウントを想定
5回目	【目標②】2.ケーススタディで企画を作る②企業課題(企画内容を発表し、チーム毎に企画のブラッシュアップを行う。)
6回目	【目標②】3.ケーススタディで企画を作る③企業課題(成果物の発表、総評を行う。)
7回目	【目標③】市場を分析し、ビジネスプランを作る。(企業用TikTokアカウントの運用代行を想定)
8回目	【目標③】市場を分析し、ビジネスプランを作る。(企業用TikTokアカウントの運用代行を想定)
9回目	【目標③】ビジネスプランを実行に移すための体制を整える。
10回目	【目標③】電話営業用トークスクリプトの作成。
11回目	【目標③】電話営業用リストの作成。
12回目	【目標④】電話営業ロールプレイング
13回目	【目標④】電話営業開始/電話営業リスト追加、トークスクリプト改善
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外 学習	一か月毎にFSMの授業で学んだことを書面にまとめ提出してもらいます。(社会人で言うところの月報のようなものを想定しています。)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	ソリューション開発と急に言われてもピンと来ないと思います。簡単に言う「誰かの役に立つことを考えて実行に移す」授業です。本授業では皆様が考えたビジネスプランを皆様自身が企業に対し営業し、仕事を獲得して行ってまいります。私もワクワクしながら授業を作り上げていければと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ソリューション開発Ⅳ	必修 選択	選択 必修	年次		担当教員	溝口善也
	(Solution Development)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	()	開講区分	前期
学科・コース	商業音楽科・コンサート企画制作(2年)					曜日・時限	水曜・4限、5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>FSM生の学習して身に着けた「エンタメカ」×「人間力」をもとにソリューション開発(課題解決方法の開発)を実践的に行っていく授業です。新型コロナウイルス感染拡大により大きく社会が変化していく中で、エンタメ業界の人材として求められる能力も大きく変わってきています。従来のマネジメントやイベント運営方法だけでは立ち行かなくなってくる中で、企業は「自分で考えて行動し問題を解決の提案・実行ができる」人材を求めています。本講座では「エンタメカ」を軸としたプロジェクトの立案や、「人間力」を養うチームビルディングや提案力を身に付けることを目的としています。</p> <p><講師プロフィール> CSR・SDGsプロモーション/NPO協働中間支援/産学協働中間支援地域おこし商品開発/地域おこしプロジェクト企画・運営など手掛け、「協働を通じて企業CSRの社会的インパクトの最大化」させることを目的した団体、一般社団法人KyodoWorks代表。</p> <p>【到達目標】</p> <p>■何々が出来るようになる。 ■「養う」などの具体的な出ないものはおやめください。</p> <p>【目標①】ビジネスプランを周知するための周知方法を学ぶ。(WEBマーケティング) 【目標②】対面での営業を実践。 【目標③】社会人スキルとして必要な社内会議の必要なことを実践・学習。 【目標④】活動の振り返りと次年度の目標設定(PDCAサイクルを回す)</p>							

授業計画・内容	
1回目	【目標①】WEBマーケティング基礎(SEO対策、MEO対策、SNS等)
2回目	【目標②】提案資料を用いて対面営業のロールプレイング/電話営業、電話営業リスト追加、トークスクリプト改善
3回目	【目標②】提案資料を用いて対面営業のロールプレイング(テスト)/電話営業、電話営業リスト追加、トークスクリプト改善
4回目	【目標③】運営会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)/電話営業、電話営業リスト追加、トークスクリプト改善
5回目	【目標③】運営会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)/電話営業、電話営業リスト追加、トークスクリプト改善
6回目	【目標③】運営会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)/電話営業、電話営業リスト追加、トークスクリプト改善
7回目	【目標③】運営会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)/電話営業、電話営業リスト追加、トークスクリプト改善
8回目	【目標③】運営会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)/電話営業、電話営業リスト追加、トークスクリプト改善
9回目	【目標③】運営会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)/電話営業、電話営業リスト追加、トークスクリプト改善
10回目	【目標③】運営会議(活動の進捗報告、議事録、次週までの活動内容の洗い出し)/電話営業、電話営業リスト追加、トークスクリプト改善
11回目	【目標④】本年度の振り返りと次年度の目標設定
12回目	【目標④】本年度の振り返りと次年度の目標設定発表
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	一か月毎にFSMの授業で学んだことを書面にまとめ提出してもらいます。(社会人で言うところの月報のようなものを想定しています。)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	ソリューション開発と急に言われてもピンと来ないと思います。簡単に言うと「誰かの役に立つことを考えて実行に移す」授業です。本授業では皆様が考えたビジネスプランを皆様自身が企業に対し営業し、仕事を獲得して行ってまいります。私もワクワクしながら授業を作り上げていければと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	マーケティング概論 I (Marketing overview)	必修 選択	年次	1	担当教員	吉松 孝
学科・コース		授業 形態	総時間 (単位)	()	開講区分	曜日・時限
						火曜1限

【授業の学習内容】

世の中の多くのことや現象は「ことば」で説明されている。様々な「ことば」や「理論」「仕組み」を知っておくと、いろいろなことが説明しやすくなり、説得力が生まれる。
「売れる」ことを「どのように続かせるか」を考えることが、本マーケティング講義でのアプローチである。
売れ続ける仕組みを作ることを「ことば」(とどき、図や表)で学ぶ。
理解を深めるために、インプットとアウトプットを繰り返す。
受講者によるパワーポイントを使ったプレゼンテーション(アウトプット)をおこなっていく。(基本的にグループ発表と、その後は、その内容からの会話)

【到達目標】

- ・マーケティングに関して、未来に向けたビジネスの戦略や考え方について、説得力(人になるほど、と思わせる)を持ったプレゼンテーション、発表ができるようになる。
- ・パワーポイントを使って、ビジネスプランを立てられる。
- ・ある特定の国への進出を設定し、授業で学んだ理論やフレームを駆使して、その国の市場の仕組みや構造を理解し、日本から何を作り、何を売れば売れる可能性があるのか、一連の流れを発表できるようになる。
- ・日々の生活の中で、マーケティングに関連した視野を広く持てるようになる。
- ・海外の市場の性質を理解し、説得力を持った発表ができるようになる。
- ・日本にある財やサービスが「海外」に売れるかどうか？どうすれば売れるようになるか？を考える視点や感性を持てるようになる。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス。「困ったことの解決」がマーケティングに繋がる、という視点。暗黙知の言語化の必要性。 発表① 好きなアーティストや、好きな作品について
2回目	(残:発表①) 「マーケティング」とは何か？消費者の「ニーズ」とは何か？「ニーズとウォンツ」について。
3回目	消費者の「ニーズ」とは何か？ 発表② a) ニーズがあるのに、製品化されていないものは何か？ b) ニーズがないのに、なぜか製品化されている(あるいは、機能として存在している)感じのものは何か？
4回目	(残:発表②) ニーズに対応した製品とは何か？ 市民が「欲しい」と考えるものは何か？
5回目	発表③ 自分の海外旅行や興味・関心のある海外の国について調べて発表(PEST分析の考え方)
6回目	(残:発表③) 財(製品)とサービス ①最寄品 ②買回品 ③専門品 ④非探索品
7回目	海外の市場研究・・・PEST分析 発表④ 身近で「これって、マーケティング戦略だなあ」と思えることを考えて、具体的事例を挙げて発表。
8回目	(残:発表④) 日本と海外の越境:かつての成功例(海外→日本、マクドナルド、タピオカミルクティー、マリトッツォ、ミスタービーフン 日本→海外、カップヌードル、回転寿司、牛丼チェーン)
9回目	身近なマーケティングの例とことば:端数価格、威光価格、ロック・イン。マーケティングの4つのP 発表⑤ 日本のこれを売ったら海外に売れるのではないかと海外のこれを日本で売ったら売れるのではないかと？についての発表
10回目	(残:発表⑤) 4つのPのうちのPrice戦略(フリー戦略、おとり効果)、STP分析(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)
11回目	ポジショニングとポジショニング・マップの例 発表⑥ 興味のある業界や製品を挙げ、ポジショニング・マップを作成して発表。
12回目	(残:発表⑥) SWOT分析(強み、弱み、機会、脅威)、パッケージ戦略
13回目	振り返り。後期に向けての予告、示唆。
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	特に指定する課題などはないが、日常生活の中で日本の「会社」は売れるために、何をやっているか・・・？ いつもの生活の中で「考えて」「整理する」ことが重要となる。 たとえば、新製品、値下げ、割引券、試食、広告などに興味を持ち、自分の言葉やパワーポイントで表現できるようにしてほしい。 常に、街で「人気の店」「話題になっている店、会社、ブランド」の、人気の「仕組み」を考察し、売れている「理由」を考えてほしい。 その中で、常日頃から、自身が将来目指す業界で「自分は、こういうことを市場に送り込みたい」というものを具体的に表現できるイメージ、持ってほしい。
評価方法	■出席率 40% ■受講態度(プレゼンテーションへの参加。プレゼンテーションでの表現熱意、創造性、到達目標に対する達成度を含む) 60%
受講生への メッセージ	暗黙知とは、「経験や勘にもとづいて使っているものの、簡単に言葉では説明できない知識」のことを言います。 たとえば、「自転車の乗り方」があります。乗れる人は簡単にできそうですが、その方法を、他の人にことばで説明しようとするのは、案外、難しいものです。このような、暗黙知をことばにしていこうと、マーケティングの勉強では大切なこととなります。 講義で紹介するのは、一般的なマーケティングの事例などになります。 したがって、みなさんが、今後の就職先として検討されている「音楽業界」をイメージして、「自分だったら何が出来るか?」「自分だったらどう動くことができるか?」をイメージしながら参加していただきたいと考えます。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書は指定しない。受講にあたっての推薦書として、「業界地図」(会社四季報、2022年版)を挙げておく。	

科目名 (英)	マーケティング概論Ⅱ (Marketing overview)	必修 選択	年次	1	担当教員	吉松 孝
学科・コース		授業 形態	総時間 (単位)	()	開講区分 曜日・時限	火曜1限

【授業の学習内容】

後期は、前期で学んだマーケティングの知識を、参加者が目指す音楽業界へと結び付けていくプロセスである。後期では、新しいマーケティング知識を出現させ、インプットしながら、前期で得た知識やそれ以外の見識を発表に結び付けていく。「売れる」ことを「どのように続けるか」を考えることが、本講義でのアプローチである。売れ続ける仕組みを作ることを「ことば」(ときどき、図や表)で学ぶ。理解を深めるために・インプットとアウトプットを繰り返す。
 ・受講者によるパワーポイントを使ったプレゼンテーション(アウトプット)をおこなっていく。(基本的にグループ発表と、その後は、その内容からの会話)アウトプットすることで、自分の考えをまとめる。

【到達目標】

- ・前期よりも、よりクリエイティブなプレゼンテーションができるようになる。
- ・マーケティングに関して、視覚的な効果などを使いながら、ビジネスプランや分析など、未来に向けた戦略や考え方について、説得力を持ったプレゼンテーション、発表ができるようになる。パワーポイントなどのソフト(パソコンやタブレット)を使って、ビジネスプランを立てられる。
- ・ある特定の国への進出を設定し、授業で学んだ理論やフレームを駆使して、その国の市場の仕組みや構造を理解し、日本から何をやり、何を売れば売れる可能性があるのか、一連の流れを発表できるようにする。
- ・視野を広く持てるようになる。また、海外の市場の性質を理解し、説得力を持った発表ができるようになる。
- ・日本にある財やサービスが「海外」に売れるかどうか。どうすれば売れるようになるかを考える視点や感性を持てるようになる。

授業計画・内容	
1回目	マーケティングの4つのP。SWOT分析(強み、弱み、機会、脅威) 発表① ある一人(一組)のアーティストを取り上げ、そのマーケティングの特徴を4つのP、もしくはSWOT分析に基づいて説明する。
2回目	(残:発表①) お客さん(消費者)の気持ちを考える。「流行のメカニズム」(バンドワゴン効果、同調欲求、群集心理)
3回目	パッケージ戦略と色(カラー)。消費者の知覚(視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚)。 発表② 音楽業界や一般の生活にかかわらず、パッケージが優れていると感じるものを貼り、「どうすぐれているか」。
4回目	(残:発表②) お客さんの気持ちを考える…アンカリング効果、ウインザー効果、デイドロ効果、ツァイガルニク効果などの用語解説と実例
5回目	お金の感じ方の違いと心理会計。フレーミング効果。製品ライフサイクル。財の分類(私的財、コモンプール財、クラブ財、公共財)。
6回目	ブルーオーシャン戦略とレッド・オーシャン。 発表③ 今後携わろうとする業界で、どんな「ブルーオーシャン」が成立すると考えられるかについて発表。
7回目	(残:発表③) ナッジとその事例。コンビニエンスストアのコロナ禍の戦略と事例。ビッグデータ(マーケティング・リサーチ)とヒストグラム。
8回目	日本のビジネスデザイン(キッコーマンの醤油、東芝の電気釜、ソニーのウォークマン、日清のカップヌードル、中食産業etc) レジのPOSシステムについて。 発表④ 自分が興味がある製品は、なぜ、成功したかを発表。
9回目	(残:発表④) メディアの歴史とプロモーション(インターネットとプロモーション、メディアと文化) 市場製品マトリックス(市場浸透、市場開拓、製品開発、多角化)、戦略的なマネジメント
10回目	競争地位による戦略(リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャー)。 ファイブフォース分析(業界内競争、新規参入、売り手、買い手、代替品)、戦略的なマネジメント
11回目	マズローの欲求5段階説(自己実現の欲求、承認欲求、社会的欲求、安全の欲求、生理的欲求) 発表⑤ 最終発表(これまでに習得したマーケティングの考え方を使い、自分の興味分野を説明する)
12回目	(残:発表⑤) 前後期の振り返り、総括、マーケティングスキルをどう活かすか。
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	課題などは設定しないが、日常生活の中で、日本の「会社」は売れるために何をやっているかを考える習慣を持ってほしい。生活の中で「考えて」「整理する」ことが重要となる。たとえば、新製品、値下げ、割引券、試食、広告などに興味を持って、自分の言葉やパワーポイントで表現できるようにしてほしい。街で「人気の店」「話題になっている店、会社、ブランド」の、人気の「仕組み」を考察し、売れている「理由」を考えてほしい。その中で、常日頃から、自分自身が将来目指す業界で、自分は、こういうことを市場に送り込みたい」というものを具体的に表現できるイメージを持ってほしい。
評価方法	■出席率 40% ■受講態度(プレゼンテーションへの参加。プレゼンテーションでの表現熱意、創造性、到達目標に対する達成度を含む) 60%
受講生への メッセージ	前期の授業でどのくらいの手ごたえを得たでしょうか？ 後期でも、一般的なマーケティングの事例(日本の会社がどういふふうな戦略を取っているかなど)に加え、さらに進んだマーケティングのフレームワークや考え方を紹介します。 したがって、みなさんが、今後の就職先として検討している「業界」をイメージして、「自分だったら何が出来るか?」「自分だったらどういふ動きができるか?」をイメージしながら参加し、積極的に発表し、クラスメイトに皆さんの考え方や知識を共有していただきたいと思います。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書は指定しない。受講にあたっての推薦書として、「業界地図」(会社四季報、2022年版)を挙げておく。	

科目名 (英)	コンサート制作 I (Concert Production)	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	瀬口照国
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・商業音楽科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日 5限
【授業の学習内容】 音楽業界の特にコンサートに関する基本を身につけてもらいたいための内容を中心に行う。 また今業界が求める人間像とはなど人としての基本的な考えを伝えていく。 また会場及び現場での実習及び予算・プロモーションなども大枠を理解してもらう。 <講師プロフィール> コンサート制作のプロフェッショナル。数々の日本トップクラスアーティストのコンサートを担当、現在では福岡を中心に九州一円でコンサートのイベント・スポーツなどさまざまな企画・制作・運営するプロモーター、株式会社BASE CAMPの代表を務める。							
【到達目標】 ■ 社会人として、業界人としての考え方や自分で考えることが出来る。 ■ イベントの組み立て及び実施をすることが出来る。							

授業計画・内容	
1回目	自己紹介で興味のあることをこちらが把握。 自分をアピールすることができるかなど。
2回目	コンサートができるまでの仕組みと各会社の役割の把握
3回目	コンサートに関しての予算の把握。予算主制作のための説明
4回目	コンサートに関しての予算の制作と実際の経費との比較
5回目	コンサートにおけるエアプロモーターの役割(実際の公演の手配書を使用しての内容把握)
6回目	BASE CAMPの女性社員をゲストに今まで経験してきた全国制作の内容の説明。
7回目	コンサート他チケットに関しての仕組み。 ゲストにチケット業界の人を入れて実施
8回目	イベントを企画及び実施するために必要なことの把握
9回目	会場での研修。 マリンメッセの会場見学(会場の中の仕組みなど)
10回目	ライブ及びコンサート会場とエアプロモーターや制作会社との関係
11回目	HOMIに関しての役割、そのセクションの内容説明
12回目	前期公演のまとめ、フリーディスカッション。
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	コンサート会場の下見や実際の公演での雰囲気味わう。 売れているものにはそれなりの理由があり、好き嫌いは別として経験すること。
評価方法	■ 出席率 30% ■ 受講態度 30% ■ 【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	社会人になるまでに、いろんなものに興味を持つ必要があります。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	コンサート制作Ⅱ (Concert Production)	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	瀬口照国
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・商業音楽科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日 5限
【授業の学習内容】 夏休み含め、現場での経験を多く積ませる。 <講師プロフィール> コンサート制作のプロフェッショナル。数々の日本トップクラスアーティストのコンサートを担当、現在では福岡を中心に九州一円でコンサート・イベント・スポーツなどさまざまな企画・制作・運営するプロモーター、株式会社BASE CAMPの代表を務める。							
【到達目標】 ■ イベントの組み立て及び実施をすることが出来る。 ■ 社会貢献ミュージカル及び卒業進級制作展で行動・経験をし、社会に出てからの必要とされる人材になる。							

授業計画・内容	
1回目	夏休み期間のエンタメに関して経験したこと、感動したこともなどの発表
2回目	ライブハウスのイベント制作に関して生徒に考えさせる。企画を作る
3回目	HOMのチケット関係、スポンサー関係他しんちゅ句儒教の確認とその指導
4回目	音楽フェスの今後の見通しに関して(今年の状況他)
5回目	HOMIに関して現場の手配書他資料制作に関して
6回目	ライブハウスイベントの発売、プロモーションのスケジュール制作
7回目	ゲストを招いての音楽番組に関してと今後の音楽プロモーションに関して
8回目	HOMIに関しての発表(チームにて)
9回目	We are FSM プロモーションほか確認
10回目	We are FSM プロモーションほか確認
11回目	We are FSM の現場に関しての確認ほか
12回目	一年の総括。 個人発表。
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	コンサート現場に多く参加させたい。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	経験をすること、(情報、分析、戦略、実施までを経験)を中心に恐れず行動してほしい。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	音楽ビジネス概論 I (実践ビジネス基礎)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 関口 陽介
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科4年制(昼間部2)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴	経営管理学修士(MBA)。ディズニー・ジャパンやキッザニアを含む、7社のグローバル企業で30年を超えるキャリア。					
授業の学習 内容	2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテイメントビジネスへの影響は計り知れないインパクトとなった。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日の話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、確立された理論に加えて、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。					
到達目標	講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	本講義のガイダンス。講師のキャリア紹介	配布資料の復習と、レポート提出
2		講義・演習	ビジネスの基本、マーケティングの全体像を理解する	配布資料の復習と、レポート提出
3		講義・演習	マーケティングの基礎 STPを事例から理解する	配布資料の復習と、レポート提出
4		講義・演習	費用対効果の高い、戦略的広報を理解する	配布資料の復習と、レポート提出
5		講義・演習	日本を代表するテーマパークのビジネスモデルを学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
6		講義・演習	今日のテーマである、SDGsについて理解する	配布資料の復習と、レポート提出
7		講義・演習	飲食ビジネスに関し、全体構造と利益モデルを理解する	配布資料の復習と、レポート提出
8		講義・演習	著名アパレルブランドを事例に、物販ビジネスを理解する	配布資料の復習と、レポート提出
9		講義・演習	情報化社会を生き抜くための"メディアリテラシー"を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
10		講義・演習	戦略的な情報発信手段である、広報(PR)を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
11		講義・演習	著名エンタメ・パフォーマンス企業のビジネスモデルを学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
12		講義・演習	これまでの授業のまとめ、質問、最終課題の説明	配布資料の復習と、レポート提出
13		講義・演習	提示された課題に関するレポート	配布資料の復習と、レポート提出
14		講義・演習	イベント・実践を通して、ビジネス知識の運用方法を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して、ビジネス知識の運用方法を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
準備学習 時間外学習			講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる、または、次回講義で質問する習慣を身に付ける	
【使用教科書・教材・参考書】				
使用教材は、講義ごとに教員が準備したPPTを使用する。				

科目名	音楽ビジネス概論Ⅱ (実践ビジネス基礎)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 関口 陽介
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科4年制(昼間部2)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴	経営管理学修士(MBA)。ディズニー・ジャパンやキッザニアを含む、7社のグローバル企業で30年を超えるキャリア。					
授業の学習 内容	2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテイメントビジネスへの影響は計り知れないインパクトとなった。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日の話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、確立された理論に加えて、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。					
到達目標	講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	デジタルマーケティングの最新のトレンドを学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
2		講義・演習	ウェブサイトの開発と運用の基礎を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
3		講義・演習	情報発信手段として、SNSの重要性と活用手法を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
4		講義・演習	課題解決型思考『デザイン思考』を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
5		講義・演習	考え方の枠組み『ビジネス・フレームワーク』を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
6		講義・演習	”現代の起業”を事例と合わせて学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
7		講義・演習	課題探索型思考『アート思考』を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
8		講義・演習	ビジネスで勝つための”競争戦略”を事例を通して学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
9		講義・演習	集客のための広告実務と、広告代理店の機能を理解する	配布資料の復習と、レポート提出
10		講義・演習	グローバル人材とは。具体的な活動事例から学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
11		講義・演習	Society5.0 をテーマに未来社会を展望し、理解する	配布資料の復習と、レポート提出
12		講義・演習	これまでの授業のまとめ、質問、最終課題の説明	配布資料の復習と、レポート提出
13		講義・演習	提示された課題に関するレポート	配布資料の復習と、レポート提出
14		講義・演習	イベント・実践を通して、ビジネス知識の運用方法を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して、ビジネス知識の運用方法を学ぶ	配布資料の復習と、レポート提出
準備学習 時間外学習			講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる、または、次回講義で質問する習慣を身に付ける	
【使用教科書・教材・参考書】				
使用教材は、講義ごとに教員が準備したPPTを使用する。				

科目名 (英)	音響・楽器知識Ⅱ (Knowledge of PA and musical instruments)	必修 選択	年次	2	担当教員	大隈 佑典	
学科・コース		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	()	開講区分 曜日・時限	後期 水曜、1・2・3・4時限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) イベント業界に携わる人間として最低限必要な音響と楽器の知識の習得する。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>■何々が出来るようになる。 ■「養う」などの具体的な出ないものはおやめください。</p> <p>簡易的な音響と楽器の組み立て、オペレーションが一人で出来るようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	音響基礎知識
2回目	電気信号の流れ、各機材名称
3回目	MIC,MIXER,AMP,SPEAKERの簡易システムの組み立て、配線 1
4回目	MIC,MIXER,AMP,SPEAKERの簡易システムの組み立て、配線 2
5回目	AUXILIARYの説明、接続方法
6回目	MONITOR SPEAKERの説明、接続方法
7回目	EQUALIZERの種類
8回目	EFFECTORの取り扱い、接続方法
9回目	CD,MD,PC等の再生機の取り扱い、接続方法
10回目	MICの種類
11回目	総復習
12回目	試験、解答の解説
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	学内外の様々なイベントでの音響エンジニアの行動を観察する
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	音響・楽器知識 I (Knowledge of PA and musical instruments)	必修 選択	年次	2	担当教員	大隈 佑典	
学科・コース		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	()	開講区分 曜日・時限	前期 水曜、1・2・3・4時限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) イベント業界に携わる人間として、最低限必要な音響と楽器の知識の習得する。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>■〇〇が出来るようになる、という内容でご記入ください。 ■「養う」などの具体的でないものはおやめください。</p> <p>簡易的な音響と楽器の組み立て、オペレーションが一人で出来るようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	楽器基礎知識
2回目	ドラムセットの各部名称・構造
3回目	基本的なドラムセットの組み立て 1
4回目	基本的なドラムセットの組み立て 2
5回目	1タム仕様のドラムセットの組み立て
6回目	キーボードの各部名称・構造
7回目	キーボードの組み立て、配線
8回目	2段式キーボードの組み立て、配線
9回目	ギターアンプ、ベースアンプの各部名称・構造
10回目	ギターアンプ、ベースアンプの組み立て、配線
11回目	総復習
12回目	試験、解答の解説
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学 習	学内外の様々なイベントで使われている楽器を覚えておく。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	企画・制作をする上で知っているとう位になる知識です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	アーティストディレクションⅠ・Ⅱ (Artist DirectionⅠ・Ⅱ)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	戸田 清章
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデュース科(レコーディング専攻者)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	火曜日2.3限
【授業の学習内容】 広く音楽をプロデュースする事を視点に置き、レコーディングについて学ぶ。主に企業からの課題制作を中心に、レコーディング、MIXを学びながら、業界の実際の制作方法を知る。発注者の意図をくみ取り、自主的に作業を進めてゆき、リーダーシップを学ぶ <講師プロフィール>サウンドプロデューサー レコーディング&ミキシングエンジニア S.O.L.D. Sound Lab 代表 AI、安室奈美恵、ももいろクローバーZなど数々の有名アーティストのレコーディングを行っている。ゲーム音楽、映画音楽制作にも携わる。							
【到達目標】 音楽プロデューサーとして、音楽を制作する視点を養いながら、実際の作業方法も身を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	業界知識①
3回目	業界知識②
4回目	業界知識③
5回目	ヴォーカルレコーディング・アドバンス①
6回目	ヴォーカルレコーディング・アドバンス②
7回目	ヴォーカルレコーディング・アドバンス③
8回目	ヴォーカルレコーディング MIX・アドバンス
9回目	バンドレコーディング・アドバンス①
10回目	バンドレコーディング・アドバンス②
11回目	バンドレコーディング・アドバンス③
12回目	バンドレコーディング MIX・アドバンス
13回目	バンドレコーディング MIX・アドバンス
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	ブイプロダクション、課題制作
評価方法	レコーディング技能
受講生への メッセージ	企業課題制作を通して、プロの制作現場を学びます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	アーティストディレクションⅢ・Ⅳ (Artist DirectionⅢ・Ⅳ)	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	戸田 清章
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデュース科(レコーディング専攻者)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	火曜日2.3限
<p>【授業の学習内容】 広く音楽をプロデュースする事を視点に置き、レコーディングについて学ぶ。主に企業からの課題制作を中心に、レコーディング、MIXを学びながら、業界の実際の制作方法を知る。発注者の意図をくみ取り、自主的に作業を進めてゆき、リーダーシップを学ぶ</p> <p><講師プロフィール>サウンドプロデューサー レコーディング&ミキシングエンジニア S.O.L.D. Sound Lab 代表 AI、安室奈美恵、ももいろクローバーZなど数々の有名アーティストのレコーディングを行っている。ゲーム音楽、映画音楽制作にも携わる。</p>							
<p>【到達目標】 音楽プロデューサーとして、自らチームを牽引し課題制作が出来るようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	企業課題制作 MIX①
3回目	企業課題制作 MIX②
4回目	企業課題制作 MIX③
5回目	企業課題制作 MIX④
6回目	企業課題制作 MIX⑤
7回目	作品制作 レコーディング①
8回目	作品制作 レコーディング②
9回目	作品制作 レコーディング③
10回目	作品制作 レコーディング④
11回目	作品制作 MIX①
12回目	実技テスト
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	ブイプロダクション、課題制作
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	企業課題制作を通して、プロの制作現場を学びます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名(英)	レコーディングゼミ I (Recording Seminar I)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	濱本 真澄
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデュース科(レコーディング専攻者)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	90 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日 2.3.4限
<p>【授業の学習内容】 作曲・編曲コースの楽曲のレコーディングおよびミックス。制作を通してアレンジャーとエンジニアのコミュニケーションを学ぶ。</p> <p><講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。</p>							
<p>【到達目標】 主にプリプロダクション制作課題・卒業制作等の作品を完成させることが出来る。 楽曲制作を通して、ミュージシャンなど他学科の学生とも交流をはかり、コミュニケーション能力を高める事が出来る。 スケジュール管理、役割分担などチームワークとリーダーシップ能力を高める事が出来る。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリジナル楽曲①ベーシックレコーディング
2回目	オリジナル楽曲①ダビング
3回目	オリジナル楽曲①ミックス
4回目	オリジナル楽曲②ベーシックレコーディング
5回目	オリジナル楽曲②ダビング
6回目	オリジナル楽曲②ミックス
7回目	オリジナル楽曲③ベーシックレコーディング
8回目	オリジナル楽曲③ダビング
9回目	オリジナル楽曲③ミックス
10回目	オリジナル楽曲④ベーシックレコーディング
11回目	オリジナル楽曲④ダビング
12回目	オリジナル楽曲④ミックス
13回目	前期まとめ
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学 習	作曲学生とのプリプロダクション制作
評価方法	作品提出
受講生への メッセージ	グループワークを通して、コミュニケーション、特にスケジュールリングが大切です。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p>	

科目名(英)	レコーディングゼミⅡ (Recording Seminar Ⅱ)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	濱本 真澄
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデューサー科(レコーディング専攻者)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	90 (6)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日 2.3.4限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>作曲・編曲コースの楽曲のレコーディングおよびミックス。制作を通してアレンジャーとエンジニアのコミュニケーションを学ぶ。</p> <p><講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>主にプリプロダクション制作課題・卒業制作等の作品を完成させる事が出来る。</p> <p>楽曲制作を通して、ミュージシャンなど他学科の学生とも交流をはかり、コミュニケーション能力を高める事が出来る。</p> <p>スケジュール管理、役割分担などチームワークとリーダーシップ能力を高める事が出来る。</p>							

授業計画・内容	
1回目	卒業制作楽曲①ベーシックレコーディング
2回目	卒業制作楽曲①ダビング
3回目	卒業制作楽曲①ミックス
4回目	卒業制作楽曲②ベーシックレコーディング
5回目	卒業制作楽曲②ダビング
6回目	卒業制作楽曲②ミックス
7回目	卒業制作楽曲③ベーシックレコーディング
8回目	卒業制作楽曲③ダビング
9回目	卒業制作楽曲③ミックス
10回目	卒業制作楽曲④ベーシックレコーディング
11回目	卒業制作楽曲④ダビング
12回目	卒業制作楽曲④ミックス
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	作曲学生とのプリプロダクション制作
評価方法	作品提出
受講生への メッセージ	グループワークを通して、コミュニケーション、特にスケジュールリングが大切です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名(英)	レコーディングゼミⅢ (Recording Seminar Ⅲ)	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	濱本 真澄
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデュース科(レコーディング専攻者)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	90 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日 3.4.5限
<p>【授業の学習内容】 プロミュージシャン・卒業生等の楽曲をレコーディングおよびミックスして配信音源の完成形まで作り上げる。</p> <p><講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。</p> <p>【到達目標】 アーティストのアルバムを完成させることが出来る。</p>							

授業計画・内容	
1回目	「Made in Japan2」 ミックス
2回目	「Made in Japan2」 ミックス
3回目	「Made in Japan2」 ミックス
4回目	「Made in Japan2」 ミックス
5回目	「Made in Japan2」 ミックス
6回目	「Made in Japan2」 ミックス
7回目	「Made in Japan2」 ミックス
8回目	「Made in Japan2」 ミックス
9回目	「Made in Japan2」 ミックス
10回目	「Made in Japan2」 ミックス
11回目	「Made in Japan2」 マスタリング
12回目	Sora & Reiya Project ブリプロ
13回目	Sora & Reiya Project ブリプロ
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	Pro Tools知識
評価方法	作品提出
受講生への メッセージ	アーティストがアルバムを完成させるまでの、エンジニアの仕事を学びます。コミュニケーション力、ホスピタリティを發揮しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名(英)	レコーディングゼミⅣ (Recording Seminar IV)	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	濱本 真澄
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデュース科(レコーディング専攻者)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	90 (6)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日 3.4.5限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>プロミュージシャン・卒業生等の楽曲をレコーディングおよびミックスして配信音源の完成形まで作り上げる。</p> <p><講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>アーティストのアルバムを完成させることが出来る。</p>							

授業計画・内容	
1回目	Sora & Reiya Project レコーディング
2回目	Sora & Reiya Project レコーディング
3回目	Sora & Reiya Project レコーディング
4回目	Sora & Reiya Project レコーディング
5回目	Sora & Reiya Project レコーディング
6回目	Sora & Reiya Project レコーディング
7回目	Sora & Reiya Project レコーディング
8回目	Sora & Reiya Project レコーディング
9回目	Sora & Reiya Project ミックス
10回目	Sora & Reiya Project ミックス
11回目	Sora & Reiya Project ミックス
12回目	Sora & Reiya Project マスタリング
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	Pro Tools知識
評価方法	作品提出
受講生への メッセージ	アーティストがアルバムを完成させるまでの、エンジニアの仕事学びます。コミュニケーション力、ホスピタリティを發揮しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	サウンドメイキングⅠ・Ⅱ (Sound MakingⅠ・Ⅱ)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	森脇正太郎
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科・音楽プロデュース科(レコーディング専攻者)	授業 形態	講義・実技	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	金曜2,3限
【授業の学習内容】 音楽・効果音・台詞・ナレーション等の音声を、映像に効果的に録音・編集する為の基礎技術を学びます。 ＜講師プロフィール＞ イナズマ戦隊、ぱってん少女隊などのライブレコーディングでエンジニアを務める。福岡のテレビ局で音響効果、MAエンジニアとしても活躍。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響&ライブレコーディングを行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 ProToolsを使用できるようになる。604Studioの使用許可を得る。							

授業計画・内容	
1回目	自己紹介・授業内容説明。
2回目	様々な音響機器について。その1 音響機材 <目標>ケーブルの種類や音が出る仕組みなど、初歩的な音響知識を理解しよう。
3回目	様々な音響機器について。その2 マイクやDI <目標>様々なマイクの種類やアウトボードなどについて、初歩的な音響知識を理解しよう。
4回目	様々な音響機器について。その3 PA <目標>基本的なPA機材を組めるようになろう。機材を組み、音が入力・出力されるまでを理解しよう。
5回目	604 Studio使用方法について。その1 <目標>604スタジオが使用できるように、使用方法を理解しよう。(スタジオ説明)
6回目	ProToolsをさわってみよう。その1 <目標>604スタジオが使用できるように、ProToolsの使い方を学ぼう。エディット、録音。
7回目	ProToolsをさわってみよう。その2 <目標>604スタジオが使用できるように、ProToolsの使い方を学ぼう。インサート、各種設定。
8回目	604 Studio使用方法について。その2 <目標>604スタジオが使用できるように、使用方法を理解しよう。(ProTools)
9回目	604 Studioレコーディング。その1、ボーカル <目標>マイクなどの準備から、実際にボーカル録音に必要なProTools操作を身につける。
10回目	604 Studio使用方法について。その3 <目標>604スタジオが使用できるように、使用方法を理解しよう。(パッチ・音の流れ)
11回目	604 Studioレコーディング。その2、楽器 <目標>604スタジオが使用できるように、実際に録音し使用方法を理解しよう。
12回目	604 Studio使用許可テスト。その1、<目標>604スタジオの使用許可を得よう。
13回目	ミュージカル演習
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学 習	
評価方法	出席日数。授業態度。作品の完成度。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	サウンドメイキングⅢ・Ⅳ (Sound MakingⅢ・Ⅳ)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	森脇正太郎
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデューサー科(レコーディング専攻者)	授業 形態	講義・実技	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	金曜4.5限
【授業の学習内容】 音楽・効果音・台詞・ナレーション等の音声を、映像に効果的に録音・編集する為の基礎技術を学びます。 <講師プロフィール> イナズマ戦隊、ぱってん少女隊などのライブレコーディングでエンジニアを務める。福岡のテレビ局で音響効果、MAエンジニアとしても活躍。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響&ライブレコーディングを行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 録音やミックスダウンなどのスタジオワークや、MAがある程度できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期の復習。
2回目	Wavesプラグインについて。<目標>Waves Goldに入っているプラグインの使用方法を理解する。
3回目	Mixdown。その1 <目標>ProToolsの使い方を思い出し、ミックスしよう。(ポップス)
4回目	Mixdown。その2 <目標>ProToolsの使い方を思い出し、ミックスしよう。周りの友達作品と比べてみて発表しよう。(ポップス)
5回目	ケーブル作成。半田ごて。<目標>ケーブルを作れるようになろう。
6回目	立体音響。<目標>VRやバイノーラル・サラウンドなど立体音響について理解を深めよう。
7回目	MA、音響効果について。その1、収録 <目標>映像に合うように自分自身でアテレコを行い、作品を作ろう。
8回目	MA、音響効果について。その2、音響効果 <目標>映像に合う効果音やBGMを選曲しよう。
9回目	MA、音響効果について。その3、ラウドネス <目標>テレビでO.A出来る音についてしっかり理解しミックスしよう。
10回目	様々なインターフェース接続方法について <目標>スタジオ以外での多チャンネル録音やコンピューターシステムを組めるようになるう。
11回目	今までの復習。
12回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席日数。授業態度。作品の完成度。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	トラックメイク I	必修 選択	必修 選択	年次	1年前期	担当教員	Yuzen
	(Track Make I)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデューサー科・スーパー・eエンターテイメント科						
【授業の学習内容】 音楽の三大要素「リズム、メロディー、ハーモニー」の中の「リズム」を学習し、適切なリズムを自身の楽曲制作に取り入れる。 <実務者経験> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 ・基礎的なリズムをDAW上で再現できるようになる ・各ジャンルごとのリズムパターンを学習し求められるジャンルを適切に制作できるようにする。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	①ドラムの各パーツを覚えて、鳴った音がどのパーツか聴き分けられるようになる ②Logicのピアノロールを使用して、2分音符/4分音符を使って4つ打ちを打ち込めるようになる →参考曲:「夜に駆ける/YOASOBI」のドラムが入力ができるようになる(キック&スネアのみ)
3回目	①Logicのピアノロールを使用して、8分音符/16分音符を使って4つ打ちを打ち込めるようになる ②Logicのピアノロールを使用してベロシティの概念を理解して打ち込んだドラムにベロシティをつけることができる →参考曲:「夜に駆ける/YOASOBI」のドラムが入力ができるようになる(ハイハットのグルーブ)
4回目	①Logicのピアノロールを使用して、8ビートを打ち込めるようになる →参考曲:「ビリー・ジーン/マイケル・ジャクソン」のドラムが入力ができるようになる。 ②Logicのピアノロールを使用して、16ビートを打ち込めるようになる →参考曲:「Pretender/Official髭男dism」のドラムが入力ができるようになる
5回目	①Logicのピアノロールを使用して、シャッフルビートを打ち込めるようになる →参考曲:「盗作/ヨルシカ」のドラムが入力ができるようになる
6回目	①Logicのピアノロールを使用して、8ビートのフィルインを打ち込めるようになる ②Logicのピアノロールを使用して、16ビートのフィルインを打ち込めるようになる ③Logicのピアノロールを使用して、シャッフルビートのフィルインを打ち込めるようになる
7回目	①MIDI鍵盤を使用してリアルタイムにドラムを打ち込めるようになる ②リアルタイムで打ち込んだものに対してクオンタイズをかけてクオンタイズを使えるようになる
8回目	①ダンスビート(4つ打ち)が用いられるジャンルが説明できるようになる。 ②ダンスビートのドラムパターンを分析。打ち込みができるようになる。(1/2) →参考曲:「新宝島/サカナクション」のドラムが入力ができるようになる(ドラム耳コピ)
9回目	①ダンスビート(4つ打ち)が用いられるジャンルが説明できるようになる。 ②ダンスビートのドラムパターンを分析。打ち込みができるようになる。(2/2) →参考曲:「新宝島/サカナクション」のドラムが入力ができるようになる(ドラム耳コピ)
10回目	①ヒップホップビートで使われる機材の説明ができるようになる。 ②ヒップホップのドラムパターンを分析。打ち込みができるようになる。(1/2) →参考曲:「tofubeats/LONELY NIGHTS」のドラムが入力ができるようになる(ドラムの耳コピ)
11回目	①ヒップホップビートで使われる機材の説明ができるようになる。 ②ヒップホップのドラムパターンを分析。打ち込みができるようになる。(2/2) →参考曲:「tofubeats/LONELY NIGHTS」のドラムが入力ができるようになる(ドラムの耳コピ)
12回目	①ロックビートが用いられるジャンルが説明できるようになる。 ②ロック系のドラムパターンを分析。打ち込みができるようになる。(1/2) →参考曲:「ピースサイン/米津玄師」のドラムが入力ができるようになる(ドラムの耳コピ)
13回目	①ロックビートが用いられるジャンルが説明できるようになる。 ②ロック系のドラムパターンを分析。打ち込みができるようになる。(2/2) →参考曲:「ピースサイン/米津玄師」のドラムが入力ができるようになる(ドラムの耳コピ)
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	・Logicのインストール ・各種データダウンロード
評価方法	■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】30%
受講生への メッセージ	現代の音楽はビートのパターンはメロディと同じくらい大事な要素です。リズムを徹底的に追い込みドラム打ち込みを極めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook.Logic Pro X	

科目名 (英)	トラックメイクⅡ (Track MakeⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	1年後期	担当教員	緒方 嶺(yuzen)
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・エンターテイメント科	授業形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金・3限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 前記に学習したリズムを更に発展させて、音色の加工について学習する</p> <p><講師プロフィール> 黒子のパスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ジャンルに合った適切な音色を選択できるようになる 商品にできるドラム音色の加工方法を習得する 							

授業計画・内容	
1回目	生ドラムの音色について(3/10)
2回目	生ドラムの音色について(6/10)
3回目	生ドラムの音色について(10/10)
4回目	生ドラムの音色加工。エフェクターの使い方(3/10)
5回目	生ドラムの音色加工。エフェクターの使い方(6/10)
6回目	生ドラムの音色加工。エフェクターの使い方(10/10)
7回目	ドラムマシンの音色について(3/10)
8回目	ドラムマシンの音色について(6/10)
9回目	ドラムマシンの音色について(10/10)
10回目	ドラムマシンの音色加工。エフェクターの使い方(3/10)
11回目	ドラムマシンの音色加工。エフェクターの使い方(6/10)
12回目	ドラムマシンの音色加工。エフェクターの使い方(10/10)
13回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	・Logicのインストール ・学習用素材のダウンロード
評価方法	■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】30%
受講生への メッセージ	ドラムの音色について学習して自身の楽曲に更に磨きをかけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
Logic Pro X、Battery4	

科目名 (英)	トラックメイクⅢ (Track MakeⅢ)	必修 選択	必修	年次	2、3	担当教員	緒方 嶺(yuzen)
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科	授業形態	対面	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前記
						曜日・時限	金4、5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>Apple Logicを使用しダンスミュージックを主軸とした楽曲制作の手法の習得。ソフトウェアの使用方法、およびシンセサイザーの使用方法。</p> <p><講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>シンセサイザーを用いて各ジャンルごとに適切な音色が作成できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(2/10)・オシレーターについて
3回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(4/10)・フィルターについて
4回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(8/10)・エンベロープについて
5回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(10/10)・LFOについて
6回目	フリーシンセ「Noise Maker」を用いて指定した音色加工ができるようになる(3/10)2OSCシンセサイザーを用いてベース音色を作成
7回目	フリーシンセ「Noise Maker」を用いて指定した音色加工ができるようになる(7/10)2OSCシンセサイザーを用いてリード音色を作成
8回目	フリーシンセ「Noise Maker」を用いて指定した音色加工ができるようになる(10/10)2OSCシンセサイザーを用いてパッド音色を作成
9回目	フリーシンセ「Vital」を用いて指定した音色加工ができるようになる(3/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてベース音色を作成
10回目	フリーシンセ「Vital」を用いて指定した音色加工ができるようになる(7/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてベース音色を作成
11回目	フリーシンセ「Vital」を用いて指定した音色加工ができるようになる(10/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてリード、ブラック音色を作成
12回目	「Serum」を用いて指定した音色加工ができるようになる(5/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてベース音色を作成
13回目	「Serum」を用いて指定した音色加工ができるようになる(10/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてリード音色を作成
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学 習	・NoiseMakerのインストール ・Vitalのインストール ・各種データダウンロード
評価方法	■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】30%
受講生への メッセージ	シンセサイザーは現代の音楽で必ずと言っていいほど使われる楽器になります。正解がない音色をどのように作り出すのか学習しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
Logic Pro X、Noise Maker、Vital、Serum	

科目名 (英)	トラックメイクIV (Track MakeIV)	必修 選択	必修	年次	2, 3	担当教員	緒方 嶺(yuzen)
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・エンターテイメント科	授業形態	対面	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	金4,5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 各ジャンルを選択して課題を制作する</p> <p><講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。</p>							
<p>【到達目標】 自身の設定したジャンルのオリジナルトラックが制作できるようになる</p>							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	各々ジャンルを選択して課題制作
3回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
4回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
5回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
6回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
7回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
8回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
9回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
10回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
11回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
12回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
13回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	・Logicのインストール ・学習用素材のダウンロード
評価方法	■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】30%
受講生への メッセージ	ドラムの音色について学習して自身の楽曲に更に磨きをかけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
Logic Pro X、Battery4	

科目名 (英)	楽曲制作技法 I (Songwriting Techniques)	必修 選択	必修 選択	年次	1年前期	担当教員	野崎 貴潤
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	曜日・時限
【授業の学習内容】 作曲未経験者から作曲初学者を対象に、次年時の作編曲法Basicを履修する前提となる「メロディ作成の基本的作法」「メロディと和声の調和の基礎」を学び、抑揚のあるメロディとメロディを生かす効果的な和音を作れるようになる。 <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 「メロディを作る発想の仕方のコツを身につける」 「抑揚のある魅力的なメロディの作り方を会得する」 「メロディとそのメロディに合う簡単で効果的な和声を組み合わせる事が出来る」							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認 授業概要説明 授業準備説明 作編曲のスキル向上の仕方
2回目	音高による抑揚 全音符課題
3回目	全音符と2分音符のみでのメロディ作成・休符も含めたリズム緩急
4回目	4分音符迄のメロディ作成・密と疎・順次進行と跳躍進行
5回目	8分音符迄のメロディ作成・リズムの反復
6回目	16分音符迄を使った自由なメロディ作成・モチーフと反復を使ったメロディの効果的な構成の仕方を出来るようになる
7回目	起承転結と二部形式・唱歌課題
8回目	内音と外音・どういうコードがメロと合うのか・協和音と不協和音
9回目	外音の使い方①・経過音と刺繍音を使いこなし、変化のあるメロディを作れるようになる
10回目	外音の使い方②・先取音と係留音を使いこなし、意外性のあるメロディを作れるようになる
11回目	外音の使い方③・倚音と逸音を使いこなし、インパクトのあるメロディを作れるようになる
12回目	協和音と不協和音・メロディと和音の関係・既存のメロディにコードを複数パターンつけられる様にする
13回目	前期まとめ・自由課題
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	時間外作成作品を譜面で持参する
評価方法	各演習時の課題作成評価75%・学期末の時間外制作作品提出25% 各講義時の課題、各講義時任意提出の時間外制作作品において、どれだけ抑揚のあるメロディと、それを効果的に生かす和声が付けれられているか、総合評価。
受講生への メッセージ	初心者を脱するための基本的な作曲作法を身につけます
音が出せる鍵盤楽器・五線譜・筆記用具・ヘッドフォン又はイヤフォン	

科目名 (英)	楽曲制作技法Ⅱ (Songwriting Techniques)	必修 選択	必修 選択	年次	1年後期	担当教員	野崎 貴潤
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	曜日・時限
【授業の学習内容】 作曲未経験者から作曲初学者を対象に、次年時の作編曲法Basicを履修する前提となる「メロディ作成の基本的作法」「メロディと和声の調和の基礎」を学び、抑揚のあるメロディとメロディを生かす効果的な和音を作れるようになる。 <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 「メロディを作る発想の仕方のコツを身につける」 「抑揚のある魅力的なメロディの作り方を会得する」 「メロディとそのメロディに合う簡単で効果的な和声を組み合わせる事が出来る」							

授業計画・内容	
1回目	装飾としての外音の使い方・単純なメロディを外音を使って豊かなメロディにアレンジする
2回目	和音の種類・調の意味とTSDの役割・TSDT決め打ちの緩急のあるメロディ作成をする
3回目	ドミナントモーションと7thコード
4回目	四和音上での作曲と注意点
5回目	短音階上での作曲・ナチュラルマイナー
6回目	短音階上での作曲・ハーモニックマイナー
7回目	短音階上での作曲・メロディックマイナー
8回目	キーとは何か？キーの判別
9回目	sus4・sus2コードと解決
10回目	add9の使い方
11回目	6thコードの使い方
12回目	後期まとめ・自由課題
13回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	時間外作成作品を譜面で持参する
評価方法	各演習時の課題作成評価75%・学期末の時間外制作作品提出25% 各講義時の課題、各講義時任意提出の時間外制作作品において、どれだけ抑揚のあるメロディと、それを効果的に生かす和声が付けれられているか、総合評価。
受講生への メッセージ	初心者を脱するための基本的な作曲作法を身につけます
音が出せる鍵盤楽器・五線譜・筆記用具・ヘッドフォン又はイヤフォン	

科目名 (英)	楽曲制作技法Ⅲ (Songwriting Techniques)	必修 選択	必修 選択	年次	2年後期	担当教員	野崎 貴潤
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	水曜日1.2限
【授業の学習内容】 作曲初学者から作曲中級者を対象に、メロディを生かすより効果的で複雑な和音を、複数の選択肢から選び実践出来る様にする。時代に沿った効果的な転調と和音進行、それらの有機的な連結を出来る様になり、単純なメロディ作成だけではなく、転調やより複雑な和音進行前提のメロディ・対旋律を作れる様にする。既存曲のアナライズをする事で、実践的なセオリーの使用法を学ぶ。 <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 部分転調・代理和音を効果的に使える様になる 本格転調をする引き出しを増やし、より多彩な作曲が行える様になる 一つのメロディにつける和音の引き出しを増やし、メロディの表情を和音でコントロール出来る様になる ベースラインも含めた、メロディに対する効果的な対旋律を作れる様になる							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認 授業概要説明 アペイラブルノートスケールの意味・ミクソリディアンの意味とドミナントモーショとの関係
2回目	セカンダリードミナント①・近親調とは何か?・属和音へのセカンダリードミナントIメジャーキーII7
3回目	セカンダリードミナント②・メジャー・マイナーでの下属和音へのセカンダリードミナントI7・ミクソリディアン b6th
4回目	セカンダリードミナント③・平行調との行き来・IメジャーキーIII7・Hmp5
5回目	セカンダリードミナント④・メジャーキーVI7・マイナーキーI7
6回目	セカンダリードミナント⑤・メジャーキーVII7・マイナーキーII7
7回目	IIIm7-V7・IIIm7-5・ツーファイブモーション
8回目	テンション1_ドミナントV9&V b 9&V#9
9回目	テンション2_ドミナントV9sus4&V#11
10回目	テンション3_ドミナントV13sus4&V b 13
11回目	トニック・サブドミナントでのテンション
12回目	トライトーン・サブステイトーション
13回目	前期まとめ・自由課題
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	今週の課題が時間内に終わらなかった場合、次週の演習時間までに仕上げ、更に疑問点をリストアップしてくる
評価方法	各演習時の課題作成評価75%・学期末の時間外制作作品提出25% 各講義時の課題、各講義時任意提出の時間外制作作品において、どれだけ良いメロディと、それを効果的に生かす和声・展開を含めた編曲が出来ているかを総合評価。
受講生への メッセージ	ある程度和声や旋律を作れる人が、更に完成度の高い作品制作が出来るように学習します
DAW・音が出せる鍵盤楽器・五線譜・筆記用具	

科目名 (英)	楽曲制作技法IV	必修 選択	必修 選択	年次	2年後期	担当教員	野崎 貴潤	
	(DAW Operation)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分		
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科						曜日・時限	水曜日1.2限
【授業の学習内容】 作曲初学者から作曲中級者を対象に、メロディを生かすより効果的で複雑な和音を、複数の選択肢から選び実践出来る様にする。時代に沿った効果的な転調と和音進行、それらの有機的な連結を出来る様になり、単純なメロディ作成だけではなく、転調やより複雑な和音進行前提のメロディ・対旋律を作れる様にする。既存曲のアナライズをする事で、実践的なセオリーの使用法を学ぶ。 <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。								
【到達目標】 部分転調・代理和音を効果的に使える様になる 本格転調をする引き出しを増やし、より多彩な作曲が行える様になる 一つのメロディにつける和音の引き出しを増やし、メロディの表情を和音でコントロール出来る様になる ベースラインも含めた、メロディに対する効果的な対旋律を作れる様になる								

授業計画・内容	
1回目	バッシング・ディミニッシュ
2回目	b II9#11_ホールトーンスケール
3回目	ベース・ペダルポイント
4回目	モーダル・インターチェンジ-1
5回目	モーダル・インターチェンジ-2
6回目	モーダル・インターチェンジ-3
7回目	ソプラノ・ペダルポイント
8回目	ライン・クリシェ
9回目	Riffによる作曲実践
10回目	ドミナント転調・ピボットコード転調
11回目	dim7・augの読み替えによる転調
12回目	コモンノート転調・後期まとめ
13回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	今週の課題が時間内に終わらなかった場合、次週の演習時間までに仕上げ、更に疑問点をリストアップしてくる
評価方法	各演習時の課題作成評価75%・学期末の時間外制作作品提出25% 各講義時の課題、各講義時任意提出の時間外制作作品において、どれだけ良いメロディと、それを効果的に生かす和声・展開を含めた編曲が出来ているかを総合評価
受講生への メッセージ	ある程度和声や旋律を作れる人が、更に完成度の高い作品制作が出来るように学習します
DAW・音が出せる鍵盤楽器・五線譜・筆記用具	

科目名 (英)	楽曲制作技法Ⅴ (DAW Operation)	必修 選択	必修 選択	年次	3年後期	担当教員	野崎 貴潤
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	曜日・時限
							火曜日2,3限
【授業の学習内容】 実際のアルバム制作を行うことにより、机上の知識ではなく、実制作に役に立つ経験値を身につける。クライアントありきでは無い、自己発信する機会を設けることにより、自己の根本的な創作センスと技術を再確認する。 <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 三年間の学習成果の総決算として、今迄学習してきた知識・センスを総動員した作編曲・作詞・録音・編集・ミックスダウン・マスタリング・パッケージングをトータルとしてプロデュース出来る能力を身に付ける。コンセプトに則った楽曲制作方法を身に付ける。長期のスケジュールに則った、計画的なディレクションワークを身に付ける。							

授業計画・内容	
1回目	コンセプト固め・チーム編成・スケジュール立案
2回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
3回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
4回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
5回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
6回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
7回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
8回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
9回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
10回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
11回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
12回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
13回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	授業時間内では出来ない制作全般の実施
評価方法	締め切り毎の到達度合いと作品の総合的なクオリティを評価
受講生への メッセージ	音楽家の到達点の一つである「総合作品制作」を実施します。
PC・DAW・その他音楽制作に必要なもの全般	

科目名 (英)	楽曲制作技法VI (DAW Operation)	必修 選択	必修 選択	年次	3年後期	担当教員	野崎 貴潤
学科・コース	音楽プロデュース科・スーパー・エンターテインメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	曜日・時限
							火曜日2,3限
【授業の学習内容】 実際のアルバム制作を行うことにより、机上の知識ではなく、実制作に役に立つ経験値を身につける。クライアントありきでは無い、自己発信する機会を設けることにより、自己の根本的な創作センスと技術を再確認する。 <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 三年間の学習成果の総決算として、今迄学習してきた知識・センスを総動員した作編曲・作詞・録音・編集・ミックスダウン・マスタリング・パッケージングをトータルとしてプロデュース出来る能力を身に付ける。コンセプトに則った楽曲制作方法を身に付ける。長期のスケジュールに則った、計画的なディレクションワークを身に付ける。							

授業計画・内容	
1回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
2回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
3回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
4回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
5回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
6回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
7回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
8回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
9回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
10回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
11回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施
12回目	各チーム毎にスケジュールに則った制作の確認と実施・最終パッケージ提出
13回目	最終作品を持ち寄った試聴会・評価・今後の課題の確認
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	授業時間内では出来ない制作全般の実施
評価方法	締め切り毎の到達度合いと作品の総合的なクオリティを評価
受講生への メッセージ	音楽家の到達点の一つである「総合作品制作」を実施します。
PC・DAW・その他音楽制作に必要なもの全般	

科目名 (英)	作品制作ワークショップ (Creation Seminar)	必修 選択	必修 選択	年次	1.2.3	担当教員	永吉啓嗣
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデュース科・プロミュージシャン科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜4.5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>本授業は学生自ら立案したプロジェクトを題材に作家／アーティストとしてのセルフプロデュース能力を高める為の授業である。プロジェクトの立案／企画／運営→作品制作→発表→検証 が一連の流れとなる。単に「楽曲を作る」のではなく、「その楽曲にどう価値を生むのか」までを現役で活躍する講師と一緒に考え、制作に取り組むことで、自身の業界における作家／アーティストとしての自立像を作っていく。</p> <p>講師プロフィール：株式会社アミューズ所属アーティスト「ASTERISM」のプロデューサー・アレンジャーとして活動しながら、株式会社リブソンのプロデューサーとして福岡でメジャーに向けた新人発掘から音楽制作まで幅広く活躍中。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>アーティスト、クリエイターとしての「音楽を職業にする」ために必要なスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的なクリエイティブ能力 ・戦略的なセルフプロデュース能力 <p>を向上させる。授業の中で自身の楽曲を収益化させることを最大の目標とする。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリジナル楽曲制作／オリエンテーション
2回目	オリジナル楽曲制作／講義：音楽のマネタイズについて
3回目	オリジナル楽曲制作／講義：音楽業界について
4回目	オリジナル楽曲制作／講義：作詞について
5回目	オリジナル楽曲制作／講義：ミックスダウンについて
6回目	オリジナル楽曲制作／講義：ルーツミュージックについて
7回目	オリジナル楽曲制作／講義：ヒット曲の分析法
8回目	オリジナル楽曲制作／講義：プラグインの考え方
9回目	オリジナル楽曲制作／講義：コンペの考え方
10回目	オリジナル楽曲制作／講義：SNS戦略について
11回目	オリジナル楽曲制作／講義：メタバースについて
12回目	オリジナル楽曲制作／講義：サブスクリプションサービスについて
13回目	オリジナル楽曲制作／講義：著作権について
14回目	配信リリースイベント
15回目	配信リリースイベント
準備学習 時間外学 習	
評価方法	半期に最低1曲をアウトプットすることが最低限の評価基準とする
受講生への メッセージ	音楽業界はレーベル一強の時代から完全に個の時代に入っています。アーティストも作家も、狭い偏った知識・技術だけでは仕事になりません。多角的な視点で自らの音楽を分析し、制作し、行動し、しっかりと結果を出すことがとても重要です。皆さんが各々に自分の新たな可能性を見出し、その音楽の世界を広げることを、本授業担当講師は目標にします。一緒に充実した楽しい授業にいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	作品制作ワークショップ (Creation Seminar)	必修 選択	必修 選択	年次	1.2.3	担当教員	永吉啓嗣
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデュース科・プロミュージシャン科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜4.5限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>本授業は学生自ら立案したプロジェクトを題材に作家／アーティストとしてのセルフプロデュース能力を高める為の授業である。プロジェクトの立案／企画／運営→作品制作→発表→検証 が一連の流れとなる。単に「楽曲を作る」のではなく、「その楽曲にどう価値を生むのか」までを現役で活躍する講師と一緒に考え、制作に取り組むことで、自身の業界における作家／アーティストとしての自立像を作っていく。</p> <p>講師プロフィール：株式会社アミューズ所属アーティスト「ASTERISM」のプロデューサー・アレンジャーとして活動しながら、株式会社リブソンのプロデューサーとして福岡でメジャーに向けた新人発掘から音楽制作まで幅広く活躍中。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>アーティスト、クリエイターとしての「音楽を職業にする」ために必要なスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的なクリエイティブ能力 ・戦略的なセルフプロデュース能力 <p>を向上させる。授業の中で自身の楽曲を収益化させることを最大の目標とする。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリジナル楽曲制作／講義：JASRAC/Nextoneについて
2回目	オリジナル楽曲制作／講義：音楽出版社について
3回目	オリジナル楽曲制作／講義：NFTについて
4回目	オリジナル楽曲制作／講義：音響機材について
5回目	オリジナル楽曲制作／講義：セルフレコーディングについて
6回目	オリジナル楽曲制作／講義：コライティングについて
7回目	オリジナル楽曲制作／講義：音響機材について
8回目	オリジナル楽曲制作／講義：EQについて
9回目	オリジナル楽曲制作／講義：コンプレッサーについて
10回目	オリジナル楽曲制作／講義：マスタリングについて
11回目	オリジナル楽曲制作／講義：AIプラグインについて
12回目	オリジナル楽曲制作／講義：確定申告について
13回目	We are FSM 卒業進級制作
14回目	We are FSM 卒業進級制作
15回目	We are FSM 卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	半期に最低1曲をアウトプットすることが最低限の評価基準とする
受講生への メッセージ	音楽業界はレーベル一強の時代から完全に個の時代に入っています。アーティストも作家も、狭い偏った知識・技術だけでは仕事になりません。多角的な視点で自らの音楽を分析し、制作し、行動し、しっかりと結果を出すことがとても重要です。皆さんが各々に自分の新たな可能性を見出し、その音楽の世界を広げることを、本授業担当講師は目標にします。一緒に充実した楽しい授業にいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	編集・ディレクションⅠ・Ⅱ (Editing & Direction)	必修 選択	必修 選択	年次	2.3年後期	担当教員	Yuzen
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科・音楽プロデューサー科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜2.3限
【授業の学習内容】 主にボーカルミックスについて学びます。その他にもボーカルのディレクションや特殊なエフェクトの使い方等も同時に学びます。 <実務者経験> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 ・ボーカルがしっかりと聞こえるようなミックスができるようになること ・製品レベルのミックスが行えるようになること							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	ボーカルディレクションの心構え、ボーカルミックスの考え方について
3回目	ボーカルテイク選出、テイクフォルダの使用方法
4回目	①ピッチ修正(メロダイン使用方法)
5回目	②ピッチ修正(ピッチ修正)
6回目	③ピッチ修正(リズム修正)
7回目	ボーカルに対するコンプレッサーの使用方法①
8回目	ボーカルに対するコンプレッサーの使用方法②
9回目	ボーカルに対するEQの使用方法①
10回目	ボーカルに対するEQの使用方法②
11回目	ボーカルに対するサチュレーションの使用方法①
12回目	ボーカルに対するサチュレーションの使用方法②
13回目	ボーカルに対しての空間系エフェクトの使用方法①
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	エフェクトの種類に対する理解
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】30%
受講生への メッセージ	ボーカルというパートは今も昔も変わらず主役になるパートです。その主役になる部分の音をしっかりと作れるようになり、自身の楽曲のレベルを上げていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook.Logic Pro X メロダイン	

科目名 (英)	編集・ディレクションⅢ・Ⅳ (Editing & Direction)	必修 選択	必修 選択	年次	2.3年後期	担当教員	Yuzen
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜2.3限
【授業の学習内容】 前期で学んだ基本エフェクトを基盤にして、ジャンルごとに沿ったエフェクトを掛けられるようになる。 <実務者経験> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 ジャンルに沿ったボーカルの音作りができるようになる。 特殊なエフェクト(ボコーダー等)が問題なく使用できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	前期のおさらい ボーカルに対する空間系エフェクトの使用②
3回目	ロック系楽曲に対するボーカル処理について①
4回目	ロック系楽曲に対するボーカル処理について②
5回目	ロック系楽曲に対するボーカル処理について③
6回目	ダンス系楽曲に対するボーカル処理について①
7回目	ダンス系楽曲に対するボーカル処理について②
8回目	ダンス系楽曲に対するボーカル処理について③
9回目	バラード系楽曲に対するボーカル処理について①
10回目	バラード系楽曲に対するボーカル処理について②
11回目	バラード系楽曲に対するボーカル処理について③
12回目	テスト実施
13回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	歌モノの自作楽曲準備
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	ジャンルに沿ったボーカルの音作りについて学びます。自作楽曲で実際に“使える”ようなエフェクトを教えたいと考えていますので、今のうちに楽曲は作り貯めておいてください。
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook.Logic Pro X	

科目名 (英)	キャリアデザインワークショップ (Career Desigh Workshop)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	各担任
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 自分が学ぶことと「社会貢献」の連動を理解し、目標意識を高めるためのマインドを身に付けます。							
【到達目標】 1.求められる人物像の理解 2.ITリテラシーの理解 3.日本におけるSDGsの課題点と自分が行える事の実践 4.ホスピタリティーについてを知り・重要性を理解する							

授業計画・内容	
1回目	自身の専攻の職種の理解と学ぶべきことについて
2回目	就職デビュー活動における準備物の確認と週報の記載について
3回目	1週間を振り返りながら、スケジューリングの在り方について
4回目	ITリテラシーについて
5回目	SDGsについて考えてみる、自分自身ができることを資料にまとめてみる
6回目	SDGsと自分出来ることをプレゼンテーション(約2分にまとめる)
7回目	社会貢献について(自分の学ぶことがどのような事で社会に貢献できるのかを考えてみる)
8回目	社会貢献について資料を使いプレゼンテーション
9回目	ホスピタリティーの重要性について
10回目	ホスピタリティーの重要性についてを学ぶワークショップ①
11回目	ホスピタリティーの重要性についてを学ぶワークショップ②
12回目	個別面談と目標の再確認
13回目	企業説明会に向けて礼法指と企業研究の大切さを学ぶ
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外 学習	
評価方法	提出物の内容・提出期日・出席状況
受講生への メッセージ	の実習授業を大切に「質問する・メモをする」など積極的に取り組んでほしいと思います。
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook (iPad)	

科目名 (英)	バンドアンサンブル I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	緒方諒使/宗正恭平/桐明航平 長谷駿輔/矢上竜也/山崎結
	(Band Ensemble I)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科/プロミュージシャン科/ヴォーカルプロフェッショナル/シンガー・ソングライター					曜日・時限	火曜日3限目
【授業の学習内容】 現在のライブシーンで役立つ技術・能力・知識を身につける。 イベント制作・課題曲を通してアンサンブル能力、コミュニケーション能力、ステージマナー、ステージパフォーマンスを学んでいく。 アレンジのアイデアと理解、各パートの演奏技術と知識、デジタル機材の使用法、楽曲や譜面に対する知識を身につける。 (講師プロフィール) 福岡中心にPops/Rock/Jazzなど広いフィールドで活躍するほかにもCM楽曲制・アーティストのサポート(LIVE/レコーディング)、など活動は多岐にわたる							
【到達目標】 楽曲を通してメンバーとコミュニケーションを取り、自分らしい演奏やパフォーマンスができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	課題曲① 授業概要説明。ステージマナーを身につけていこう！機材や楽器の基本的な使い方を覚えよう！
2回目	課題曲① カウントの出し方、曲の締め方のやり方を身につけよう！アンサンブルにおける音量バランスを覚えよう！
3回目	課題曲② 基本的な譜面の読み方を理解して、演奏しよう！
4回目	課題曲② 共通譜面におけるリハーサルマーク、リピート記号や括弧、D・S等の記号の意味を理解し演奏しよう！
5回目	課題曲③ 演奏中にアイコンタクト等、演奏中にコミュニケーションを取ろう！
6回目	課題曲③ 鏡を使い、パフォーマンスを意識した演奏してみよう！
7回目	学園祭に向けて 課題曲より楽曲を仕上げていこう！
8回目	課題曲④ 楽曲のリズムを演奏者全員で共有しFeelの合った演奏をしてみよう①
9回目	課題曲④ 楽曲のリズムを演奏者全員で共有しFeelの合った演奏をしてみよう②
10回目	課題曲⑤ 楽曲における抑揚の付け方、演奏の表現方法を学ぼう①
11回目	課題曲⑤ 楽曲における抑揚の付け方、演奏の表現方法を学ぼう②
12回目	テスト週 本番を想定してリハーサルをしよう！
13回目	テスト週 前期で学んだことを活かし、オリジナルバンドを組んで演奏しよう！
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外 学習	受講前には音源、譜面、歌詞を基に自身が歌唱・演奏する事前練習を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業へ取り組む姿勢(40%) ■ 各課題曲での目標の達成度、実践度(30%) ■ 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(30%)
受講生への メッセージ	失敗を恐れずにたくさんトライして、共に学ぶ仲間と音楽を楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面(歌詞)、各自のMac、iPad(録音や動画撮影用)、各パートの楽器	

科目名 (英)	バンドアンサンブルⅡ	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	緒方諒使/宗正恭平/桐明航平 長谷駿輔/矢上竜也/山崎結
	(Band Ensemble Ⅱ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科・プロミュージシャン科・ヴォーカルプロフェッショナル/シンガー・ソングライター					曜日・時限	火曜日3限目
【授業の学習内容】 現在のライブシーンで役立つ技術・能力・知識を身につける。 イベント制作・課題曲を通してアンサンブル能力、コミュニケーション能力、ステージマナー、ステージパフォーマンスを学んでいく。 アレンジのアイデアと理解、各パートの演奏技術と知識、デジタル機材の使用法、楽曲や譜面に対する知識を身につける。 (講師プロフィール) 福岡中心にPops/Rock/Jazzなど広いフィールドで活躍するほかにもCM楽曲制・アーティストのサポート(LIVE/レコーディング)、など活動は多岐にわたる							
【到達目標】 楽曲を通してメンバーとコミュニケーションを取り、自分らしい演奏やパフォーマンスができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作1
2回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作2
3回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作3
4回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作4
5回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作5
6回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作6
7回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作7
8回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作8
9回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作9
10回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作10
11回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作11
12回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作12
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	受講前には音源、譜面、歌詞を基に自身が歌唱・演奏する事前練習を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業へ取り組む姿勢(40%) ■ 各課題曲での目標の達成度、実践度(30%) ■ 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(30%)
受講生への メッセージ	失敗を恐れずにたくさんトライして、共に学ぶ仲間と音楽を楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面(歌詞)、各自のMac、iPad(録音や動画撮影用)、各パートの楽器	

科目名 (英)	バンドアンサンブルⅢ	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	緒方諒使/宗正恭平/桐明航平 長谷駿輔/矢上竜也/山崎結
	(Band Ensemble Ⅲ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科・プロミュージシャン科・ヴォーカルプロフェッショナル/シンガー・ソングライター					曜日・時限	火曜日4限目
【授業の学習内容】 現在のライブシーンで役立つ技術・能力・知識を身につける。 イベント制作・課題曲を通してアンサンブル能力、コミュニケーション能力、ステージマナー、ステージパフォーマンスを学んでいく。 アレンジのアイデアと理解、各パートの演奏技術と知識、デジタル機材の使用法、楽曲や譜面に対する知識を身につける。 (講師プロフィール) 福岡中心にPops/Rock/Jazzなど広いフィールドで活躍するほかにもCM楽曲制・アーティストのサポート(LIVE/レコーディング)、など活動は多岐にわたる							
【到達目標】 様々なジャンルの楽曲より、バンドアレンジやデジタル機材を用いたアレンジ、ステージパフォーマンスができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、課題曲① 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ:ストレートなRock①
2回目	課題曲① 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ:ストレートなRock②
3回目	課題曲② 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ:Funk、R&B、POPSなどの16ビート①
4回目	課題曲② 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ:Funk、R&B、POPSなどの16ビート②
5回目	課題曲③ 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ:Shuffle、Swing16thなどのハネたグルーブ感①
6回目	課題曲③ 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ:Shuffle、Swing16thなどのハネたグルーブ感②
7回目	学園祭に向けて 課題曲より楽曲を仕上げていこう!
8回目	実演ライブに向けて 選曲、構成、アレンジなどアイデアを出して考えてみよう①
9回目	実演ライブに向けて 選曲、構成、アレンジなどアイデアを出して考えてみよう②
10回目	実演ライブに向けて 鏡を使ってお互いにステージパフォーマンスを確認しよう①
11回目	実演ライブに向けて 鏡を使ってお互いにステージパフォーマンスを確認しよう②
12回目	実演ライブに向けて 本番を想定してリハーサルをしよう!
13回目	実演ライブ 本番 前期で学んだことを活かし最高のパフォーマンスをしよう!
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外 学習	受講前には音源、譜面、歌詞を基に自身が歌唱・演奏する事前練習を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業へ取り組む姿勢(40%) ■ 各課題曲での目標の達成度、実践度(30%) ■ 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(30%)
受講生への メッセージ	ひとりひとりの最高のパフォーマンスを磨いていく為に、一緒に表現の幅をどんどん広げていきましょう!
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面(歌詞)、各自のMac、iPad(録音や動画撮影用)、各パートの楽器	

科目名 (英)	バンドアンサンブルⅣ	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	緒方諒使/宗正恭平/桐明航平 長谷駿輔/矢上竜也/山崎結
	(Band Ensemble Ⅳ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	スーパーエンターテインメント科・プロミュージシャン科・ヴォーカルプロフェッショナル/シンガーソングライター					曜日・時限	火曜日4限目
【授業の学習内容】 現在のライブシーンで役立つ技術・能力・知識を身につける。 イベント制作・課題曲を通してアンサンブル能力、コミュニケーション能力、ステージマナー、ステージパフォーマンスを学んでいく。 アレンジのアイデアと理解、各パートの演奏技術と知識、デジタル機材の使用法、楽曲や譜面に対する知識を身につける。 (講師プロフィール) 福岡中心にPops/Rock/Jazzなど広いフィールドで活躍するほかにもCM楽曲制・アーティストのサポート(LIVE/レコーディング)、など活動は多岐にわたる							
【到達目標】 楽曲を通してメンバーとコミュニケーションを取り、自分らしい演奏やパフォーマンスができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作1
2回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作2
3回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作3
4回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作4
5回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作5
6回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作6
7回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作7
8回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作8
9回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作9
10回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作10
11回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作11
12回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作12
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	受講前には音源、譜面、歌詞を基に自身が歌唱・演奏する事前練習を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業へ取り組む姿勢(40%) ■ 各課題曲での目標の達成度、実践度(30%) ■ 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(30%)
受講生への メッセージ	ひとりひとりの最高のパフォーマンスを磨いていく為に、一緒に表現の幅をどんどん広げていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面(歌詞)、各自のMac、iPad(録音や動画撮影用)、各パートの楽器	

科目名 (英)	スタイルアナライズ I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	柴田峰志
	(Style Analysis I)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	スーパー・エッセー・タイム・トリ・プロモーション・科・ヴォーカル・パフォーマンス・科 / シンガー・ソングライター						
【授業の学習内容】							
<p>・楽曲を教え、準備していく過程の中、音楽を構築していく為の知識と技術を学ぶ授業。発音、音程、リズム、アナライズ、あらゆるカテゴリーの必要性を知り、自身の歌唱力を上げていく。</p> <p>〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。</p>							
【到達目標】							
歌唱に必要な知識と技術を、楽曲を通して知ることができる。また、人前でパフォーマンスをすることでの経験値を積む事ができる。また、田原先生と連動しているので、継続してプロセスをふんでいくことができる。							

授業計画・内容	
1回目	授業内容説明。男性・女性 カントリーロードを学ぶ
2回目	カントリーロードの復習。歌唱技術・知識を学ぶ
3回目	カントリーロードの仕上げ。歌詞を見ずに、対面で歌う練習・アドバイス
4回目	男性・Take on me 女性 I feel the earth move を学ぼう
5回目	課題曲復習。歌唱技術・知識を学ぶ
6回目	2週目課題曲仕上げ。歌詞を見ずに、対面で歌う練習・アドバイス
7回目	田原先生の間発表会への予習(歌唱指導・ステージでの心がけ)
8回目	男性・The dock of the bay 女性・I say little prayer を学ぼう
9回目	課題曲復習。歌唱技術・知識を学ぶ
10回目	3週目課題曲仕上げ。歌詞を見ずに、対面で歌う練習・アドバイス
11回目	授業発表会に向けての指導・アドバイス
12回目	田原先生授業内発表会リハーサル
13回目	まとめ
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	課題曲の予習・復習
評価方法	出席率 授業態度 課題曲仕上げ度
受講生への メッセージ	課題曲を通して、授業外でのプロセスの積み方を、学生の間にも伝えているので、ぜひ結果が出る事を信じて、頑張りましょう
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	スタイルアナライズⅡ (Style Analysis Ⅱ)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	柴田峰志
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科・プロミュージシャン科・ヴォーカルパフォーマンス科/シンガー・ソングライター	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日4限目
【授業の学習内容】							
<p>・楽曲を教え、準備していく過程の中、音楽を構築していく為の知識と技術を学ぶ授業。発音、音程、リズム、アナライズ、あらゆるカテゴリーの必要性を知り、自身の歌唱力を上げていく。</p> <p>〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーを持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。</p>							
【到達目標】							
歌唱に必要な知識と技術を、楽曲を通して知ることができる。また、人前でパフォーマンスをすることでの経験値を積み重ねることができる。また、田原先生と連動しているので、継続してプロセスをふんでいくことができる。							

授業計画・内容	
1回目	後期授業プロセスの説明。男性 Honesty 女性 Time after time を学ぼう
2回目	1週目課題曲の復習、講義。楽曲に必要な技術・知識を学ぶ
3回目	1週目課題曲の仕上げ。対面での歌唱・アドバイス
4回目	男性 Every breath you take 女性 We are never ever getting better を学ぼう
5回目	2週目課題曲の復習、講義。楽曲に必要な技術・知識を学ぶ
6回目	2週目課題曲の仕上げ。歌詞を見ずに、対面での歌唱・アドバイス
7回目	中間発表会へのリハーサル
8回目	男性・Perfect 女性 Some one like you を学ぼう
9回目	3週目課題曲の復習、講義。楽曲に必要な技術・知識を学ぶ
10回目	3週目課題曲の仕上げ。歌詞を見ずに、対面での歌唱・アドバイス
11回目	田原先生の授業内発表会リハーサル
12回目	まとめ
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	課題曲の予習・復習
評価方法	出席率 授業態度 課題曲仕上げ度
受講生への メッセージ	1年後期を質の高さを意識したプロセスをふむことによって、2年次に向けて、モチベーションを高くもって迎える事ができます。音楽は積み重ねることで、表現が広がっていきます。後期も頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	スタイルアナライズⅢ	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	権藤勝
	(Style Analyze Ⅲ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	スーパースターアーティスト科・プロミュージシャン科・ヴォーカルプロフェッショナル/シンガーソングライター						
【授業の学習内容】							
文字表や短い会話文でのハングルの基礎解説と実践、課題曲を用いての言葉の基礎と音楽的表現の解説と実践、歴史や文化の解説とエンターテイメントについての考察と歌唱への応用実践							
《講師プロフィール》 200曲以上をレパートリーを持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロンアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカルクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】							
ハングルの発音の基礎を理解して歌えるようになろう♪ オギャンの基礎を理解して歌えるようになろう♪ 音楽的表現を理解し歌えるようになろう♪ 時代背景や文化を知りそれら理解して歌えるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	ことば、歌唱的発音、楽曲や歌唱分析、時代背景や文化を学ぶことで広がる可能性を見つけよう、デュオの課題曲①
2回目	発音①(母音、ワ行、ヤ行)
3回目	発音②(ロ、レ、オ、エ、平音、パッチム①)
4回目	発音③(ハ、ヒ、フ、ボ、濃音、激音、パッチム②)、デュオの課題曲②
5回目	オギャン①(低中の基本)、発音を意識して歌えるようになろう
6回目	オギャン②(高中の基本)、リズムとグルーブと発音を意識して歌えるようになろう
7回目	小テスト、デュオの課題曲③
8回目	発音①バリエーション、ダイナミクスを意識して歌えるようになろう
9回目	発音②バリエーション、音色を意識して歌えるようになろう
10回目	発音③バリエーション、デュオの課題曲④
11回目	オギャン①バリエーション、韓国文化と歴史から学ぼう
12回目	オギャン②バリエーション、K-POPの歴史から学ぼう
13回目	評価週
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	発音練習 楽曲の熟聴 歌唱練習
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	古き良きから最新の楽曲や王道曲の分析や歌唱と、時代背景や文化を知り学ぶことで、長く歌い続けられる自分自身の確かなスタイルと一緒に 見つけていきましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】	
課題曲音源、歌詞 ハングル表、オギャン解説表	

科目名 (英)	スタイルアナライズⅣ (Style Analysis Ⅳ)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	権藤勝	
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科・プロミュージシャン科・ヴォーカルプロフェッショナル/シンガー・ソングライター	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期	
							曜日・時限	火曜日4限目
【授業の学習内容】 課題曲や短いフレーズを用いて、歌唱のためのことばのアプローチ実践、ジャンルや年代ごとの歌唱解説と実践 コーラスワークの解説と実践、自身の歌唱スタイルを構築するための考察と実践 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーを持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカルクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。								
【到達目標】 ハングルの発音全般とオギャンを歌唱の中で活かせるようになろう♪ ジャンルや年代に対応した歌唱ができるようになろう♪ 少人数でのボーカルアンサンブルができるようになろう♪ 自分自身のスタイルを見つけ進化成長し続けられるようになろう♪								

授業計画・内容	
1回目	発音①ラップMix、デュオ課題曲⑤
2回目	発音②ラップMix、ジャンル年代歌唱比較①
3回目	発音③ラップMix、ジャンル年代歌唱比較②
4回目	オギャン①ラップMix、デュオ課題曲⑥
5回目	オギャン②ラップMix、課題曲⑥でアンサンブルチャレンジ①
6回目	小テスト、課題曲⑥でアンサンブルチャレンジ②
7回目	課題曲⑦、課題曲⑧でアンサンブルとラップチャレンジ①
8回目	課題曲⑧でアンサンブルとラップチャレンジ②
9回目	課題曲⑧でアンサンブルとラップチャレンジ③
10回目	自分自身のアーティストスタイルについて考えてみよう
11回目	成果成長のために、学びを振り返ろう
12回目	評価週
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	発音練習 楽曲の熟聴 歌唱練習
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	古き良きから最新の楽曲や王道曲の分析や歌唱と、時代背景や文化を知り学ぶことで、長く歌い続けられる自分自身の確かなスタイルと一緒に 見つけていきましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 課題曲音源、歌詞 ハングル表、オギャン解説表	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンス I (Vocal Performance I)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	池田祥子
学科・コース	スーパーエリートタイムズ科・プロミュージシャン科・ヴォーカルプロフェッショナル科・シンガーソングライター	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日3限目
【授業の学習内容】 ピアノと一対一の最小規模のスタイルで、ステージでの歌唱、表現、演出を学ぶ。世界的に評価の高いピアノデュオ向けの楽曲を通して、ピアノ演奏とのコミュニケーションや対応力、歌唱の基盤、パフォーマンスを身につける。また、ソロヴォーカリストとして独自の確立を図る。 <講師プロフィール> 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカリストスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 ピアノデュオというスタイルを、ピアニストと共に創り上げられるようになる。ピアノ以外に頼る部分がないことから、より一層歌唱を上げていけるようになる。ピアニストに明確に自分のイメージを演奏の形に指示できるようになる。フレージングやキー設定など、個々のスキルに沿った歌唱デザインが出来る様になる。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、課題曲①The Roseレクチャー(発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ)
2回目	①復習、発表(1コーラス)、フルコーラス仕上げ、コーラスワークレクチャー
3回目	①復習、発表(フルコーラス、コーラスワーク)
4回目	②The long and winding road レクチャー(発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ)
5回目	②復習、発表(1コーラス)、フルコーラス仕上げ
6回目	②復習、発表、フルコーラス仕上げ
7回目	③You light up my life, Now and foreverレクチャー(発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ)
8回目	③復習、発表(1コーラス)、フルコーラス仕上げ
9回目	③復習、発表、フルコーラス仕上げ
10回目	④I won't last a day without you, Honestyレクチャー(発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ)
11回目	④復習、発表(1コーラス)、フルコーラス仕上げ
12回目	④復習、発表、フルコーラス仕上げ
13回目	前期発表会
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外 学習	課題アーティストに関連する動画の鑑賞、歌詞の和訳等
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	ピアノデュオというスタイルはヴォーカリストそのものが際立つ、非常にシンプルでダイレクトなスタイルです。このスタイルを習得することにより、ヴォーカリストとしての自信もつけていながら、より繊細に、よりダイナミックに、自分の持つ力を更に磨いていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 歌詞カード・ノート・筆記用具・録音機器	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンスⅡ (Vocal Performance Ⅱ)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	池田祥子
学科・コース	スーパーエリート・タイムズ科・プロミュージシャン科・ヴォーカルプロフェッショナル科・シンガーソングライター	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜日3限目
【授業の学習内容】 ピアノと一対一の最小規模のスタイルで、ステージでの歌唱、表現、演出を学ぶ。世界的に評価の高いピアノデュオ向けの楽曲を通して、ピアノ演奏とのコミュニケーションや対応力、歌唱の基盤、パフォーマンスを身につける。また、ソロヴォーカリストとして独自の確立を図る。 <講師プロフィール> 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカリストスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 ピアノデュオというスタイルを、ピアニストと共に創り上げられるようになる。ピアノ以外に頼る部分がないことから、より一層歌唱を上げていけるようになる。ピアニストに明確に自分のイメージを演奏の形に指示できるようになる。フレージングやキー設定など、個々のスキルに沿った歌唱デザインが出来る様になる。							

授業計画・内容	
1回目	⑤Colorblind,Sheレクチャー(発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ)
2回目	⑤復習、発表(1コーラス)、フルコーラス仕上げ,レクチャー
3回目	⑤復習、発表(フルコーラス、コーラスワーク)
4回目	⑥Let it rain,Hard to say I'm sorryレクチャー(発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ)
5回目	⑥復習、発表(1コーラス)、フルコーラス仕上げ,レクチャー
6回目	⑥復習、発表(フルコーラス、コーラスワーク)
7回目	⑦Bridge over troubled waterレクチャー(発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ)
8回目	⑦復習、発表(1コーラス)、フルコーラス仕上げ,レクチャー
9回目	⑦復習、発表(フルコーラス、コーラスワーク)
10回目	⑧Let it beレクチャー(発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ)
11回目	⑧復習、発表(1コーラス)、フルコーラス仕上げ,レクチャー
12回目	総合発表会 本番
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	ピアノデュオというスタイルはヴォーカリストそのものが際立つ、非常にシンプルでダイレクトなスタイルです。このスタイルを習得することにより、ヴォーカリストとしての自信もつけていきながら、より繊細に、よりダイナミックに、自分の持つ力を更に磨いていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 歌詞カード・ノート・筆記用具・録音機器	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンスⅢ (Vocal Performance Ⅲ)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	権藤勝
学科・コース	スーパーエリート・アーティスト科・プロミュージシャン科・ヴォーカルプロフェッショナル/シンガーソングライター	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 月曜日3限目
【授業の学習内容】							
<p>ピアノと一対一の最小規模のスタイルで、ステージでの歌唱、表現、演出を学ぶ。世界的に評価の高いピアノデュオ向けの楽曲を通して、ピアノ演奏とのコミュニケーションや対応力、歌唱の基盤、パフォーマンスを身につける。また、ソロヴォーカリストとして独自の確立を図る。</p> <p>〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカリストスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。</p>							
【到達目標】							
<p>リズムやグルーブを意識して歌えるようになろう♪ タイミングをコントロールして歌えるようになろう♪ ダイナミックスを用いて音楽的に歌えるようになろう♪ リズム、タイミング、ダイナミックスを用いたアンサンブルができるようになろう♪</p>							

授業計画・内容	
1回目	デュオアンサンブルの要素を知り、可能性を見つけよう
2回目	基本となるテンポ、ビートを意識して歌えるようになろう
3回目	グルーブを体感して躍動感のある歌を歌えるようになろう
4回目	タイミングを意識して歌えるようになろう
5回目	タイミングをコントロールして歌えるようになろう
6回目	リズムとタイミングを用いて歌ってみよう
7回目	小テスト
8回目	楽曲のダイナミックスを意識して歌えるようになろう
9回目	楽曲のダイナミックスをコントロールして歌えるようになろう
10回目	リズムとダイナミックスを意識して歌えるようになろう
11回目	タイミングとダイナミックスを意識して歌えるようになろう
12回目	リズムとタイミングとダイナミックスを意識して歌ってみよう
13回目	評価週
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	課題曲の熟聴、分析 発音、リズム、メロディー、音楽的表現の試歌唱練習
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	歌唱スキルとアンサンブル要素を修練していきます♪ みなさんが成果成長を感じ、自信を持って歌い続けられるように努めていきますので、一緒に頑張りましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】	
歌唱 音源 振り返りシート	

科目名 (英)	ゼミ (Ableton I)	選択 必修	必修選択	年次	2	担当教員	宗正恭平
	(Seminar)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科プロミュージシャン科					曜日・時限	水曜日2限目
【授業の学習内容】 ・現代の音楽業界で標準となっているデジタル楽器を扱えるようになる ・DAW(Ableton Live)の操作を覚える ・楽曲制作の経験を通して、アイデアを形にする力を身に付ける (講師プロフィール) 福岡中心にPops/Rock/Jazzなどは広いフィールドで活躍するほかにも、編曲・ミュージカルでの演奏アレンジなど活動は多岐にわたる							
【到達目標】 ・デジタル機器を1つの楽器として捉え、その特徴を生かした「生楽器ではできない表現」と従来の「生楽器ではできない表現」を融合させた演奏を可能にする知識とアイデアを身につけて新しいスタイルの確立を目指す ・デジタル機器にも精通したマルチなミュージシャン／ボーカリストを目指す							

授業計画・内容	
1回目	DAW(Ableton Live)の基本操作1
2回目	DAW(Ableton Live)の基本操作2
3回目	DAW(Ableton Live)の基本操作3
4回目	Ableton Pushの基本操作1
5回目	Ableton Pushの基本操作2
6回目	Ableton Pushの基本操作3
7回目	楽曲制作1-1
8回目	楽曲制作1-2
9回目	楽曲制作1-3
10回目	楽曲制作1-4
11回目	楽曲制作1-5
12回目	楽曲発表1
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	・授業で使用するデジタル機器の音色や設定などの事前準備を行う ・アイデアを固め、制作・演奏に反映させられるよう準備しておく
評価方法	・授業へ取り組む姿勢(40%) ・各制作曲での目標の達成度、実戦度(30%) ・自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(30%)
受講生への メッセージ	現代の音楽シーンに必要な不可欠なデジタル機材・楽器を使用した「新しいパフォーマンス」を作り上げていくプロセスを通じて、自己実現力、アイデア力、コミュニケーション力を身につけるクラスです。自由な発想と広い視野を持ち、楽しむ気持ちを忘れずに受講しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・Mac ・Ableton Push ・各パートの楽器	

科目名 (英)	ゼミ (Ableton II)	選択 必修	必修選択	年次	2	担当教員	宗正恭平
	(Seminar)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	スーパー・エンターテインメント科プロミュージシャン科					曜日・時限	水曜日2限目
【授業の学習内容】 ・現代の音楽業界で標準となっているデジタル楽器を扱えるようになる ・DAW(Ableton Live)の操作を覚える ・楽曲制作の経験を通して、アイデアを形にする力を身に付ける (講師プロフィール) 福岡を中心にPops/Rock/Jazzなどは広いフィールドで活躍するほかにも、編曲・ミュージカルでの演奏アレンジなど活動は多岐にわたる							
【到達目標】 ・デジタル機器を1つの楽器として捉え、その特徴を生かした「生楽器ではできない表現」と従来の「生楽器でしかできない表現」を融合させた演奏を可能にする知識とアイデアを身につけて新しいスタイルの確立を目指す ・デジタル機器にも精通したマルチなミュージシャン／ボーカリストを目指す							

授業計画・内容	
1回目	楽曲制作2-1
2回目	楽曲制作2-2
3回目	楽曲制作2-3
4回目	楽曲制作2-4
5回目	楽曲制作2-5
6回目	楽曲発表2
7回目	楽曲制作3-1
8回目	楽曲制作3-2
9回目	楽曲制作3-3
10回目	楽曲制作3-4
11回目	楽曲制作3-5
12回目	楽曲発表3
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	・授業で使用するデジタル機器の音色や設定などの事前準備を行う ・アイデアを固め、制作・演奏に反映させられるよう準備しておく
評価方法	・授業へ取り組む姿勢(40%) ・各制作曲での目標の達成度、実戦度(30%) ・自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(30%)
受講生への メッセージ	現代の音楽シーンに必要な不可欠なデジタル機材・楽器を使用した「新しいパフォーマンス」を作り上げていくプロセスを通じて、自己実現力、アイデア力、コミュニケーション力を身につけるクラスです。自由な発想と広い視野を持ち、楽しむ気持ちを忘れずに受講しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・Mac ・Ableton Push ・各パートの楽器	

科目名 (英)	コンポジションソングライティングプロジェクト (Composition Songwriting Project)	必修 選択	必修 選択	年次	1.2.3	担当教員	永吉啓嗣
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科音楽プロデュース科・プロミュージシャン科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜3.4.5限
【授業の学習内容】 音楽プロダクション、レコードメーカー、一般企業より楽曲制作依頼を受け、滋慶学園COMグループ音楽系8校でそれぞれチームを編成し楽曲制作を行う。学生それぞれが、チームの中で役割を持ち、共同制作を行いながら実際の制作現場のシュミレーションを行う。 (講師プロフィール) 株式会社アミューズ所属アーティスト「ASTERISM」のプロデューサー・アレンジャーとして活動しながら、株式会社リブソンのプロデューサーとして福岡でメジャーに向けた新人発掘から音楽制作まで幅広く活躍中。							
【到達目標】 各案件での楽曲採用を最大の目標とし、総合的なクリエイティブ能力を向上させる。 1年生は主に楽曲制作スピードの向上 2年生は主に楽曲クオリティの向上 3年生はスピードとクオリティを踏まえ価値を生み出す実践力を身につける							

授業計画・内容	
1回目	企業課題制作／オリエンテーション
2回目	企業課題制作／コンペティション分析①
3回目	企業課題制作／プレゼンテーション基礎
4回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション①
5回目	企業課題制作／コンペティション分析②
6回目	企業課題制作／セルフコーディング基礎
7回目	企業課題制作／コライティング基礎
8回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション②
9回目	企業課題制作／コンペティション分析③
10回目	企業課題制作／コードワーク基礎
11回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション③
12回目	企業課題制作／コンペティション分析④
13回目	企業課題制作／ミックスダウン基礎
14回目	Jikei Composer GP
15回目	Jikei Composer GP
準備学習 時間外学習	課題を家に持ち帰るのではなく可能な限り授業中に集中して制作し完成させていくことを目標とします
評価方法	各案件での楽曲採用が最大の評価であり また、チーム編成である故の出席率、及び毎回の楽曲提出が最低限の評価基準となる
受講生への メッセージ	とにかく制作に向き合う時間であり、第一線で活躍する講師陣と制作を共有できる貴重な時間になります。音楽制作におけるインプットとアウトプットを兼ねた効率的な成長の場です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	コンポジションソングライティングプロジェクト (Composition Songwriting Project)	必修 選択	必修 選択	年次	1.2.3	担当教員	永吉啓嗣
授業 形態		授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	後期
学科・コース	スーパー・エンターテイメント科音楽プロデュース科・プロミュージシャン科					曜日・時限	月曜3.4.5限
【授業の学習内容】 音楽プロダクション、レコードメーカー、一般企業より楽曲制作依頼を受け、滋慶学園COMグループ音楽系8校でそれぞれチームを編成し楽曲制作を行う。学生それぞれが、チームの中で役割を持ち、共同制作を行いながら実際の制作現場のシュミレーションを行う。 (講師プロフィール) 株式会社アミューズ所属アーティスト「ASTERISM」のプロデューサー・アレンジャーとして活動しながら、株式会社リブソンのプロデューサーとして福岡でメジャーに向けた新人発掘から音楽制作まで幅広く活躍中。							
【到達目標】 各案件での楽曲採用を最大の目標とし、総合的なクリエイティブ能力を向上させる。 1年生は主に楽曲制作スピードの向上 2年生は主に楽曲クオリティの向上 3年生はスピードとクオリティを踏まえ価値を生み出す実践力を身につける							

授業計画・内容	
1回目	企業課題制作／コンペティション分析⑤
2回目	企業課題制作／マスタリング基礎
3回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション⑤
4回目	企業課題制作／コンペティション分析⑥
5回目	企業課題制作／楽曲アレンジ基礎
6回目	企業課題制作／サウンドエフェクト基礎
7回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション⑦
8回目	企業課題制作／コンペティション分析⑧
9回目	企業課題制作／ボーカルディレクション基礎
10回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション⑧
11回目	企業課題制作／コンペティション分析⑨
12回目	企業課題制作／プロデュースワーク基礎
13回目	We are FSM 卒業進級制作
14回目	We are FSM 卒業進級制作
15回目	We are FSM 卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	課題を家に持ち帰るのではなく可能な限り授業中に集中して制作し完成させていくことを目標とします
評価方法	各案件での楽曲採用が最大の評価であり また、チーム編成である故の出席率、及び毎回の楽曲提出が最低限の評価基準となる
受講生への メッセージ	とにかく制作に向き合う時間であり、第一線で活躍する講師陣と制作を共有できる貴重な時間になります。音楽制作におけるインプットとアウトプットを兼ねた効率的な成長の場です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ステージ・イベントプロダクションプロジェクト (Stage&Event Production Project)	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員	横山 綾子
	学科・コース	商業音楽科・スーパー・エンターテインメント科・コンサート企画制作	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
【授業の学習内容】							
<p>「考えること」や「ものを作る」ことを鍛えます。企画立案、実行力を養います。 前期では、企画書を作成する前段階の宣伝材料制作やグループでの企画立案を授業内容とする</p> <p><講師プロフィール>九州最大の夏フェス“Number Shot”や“Circle”“Sky Jumboree”の舞台監督を務め、有名アーティストが出演するエフエムの公開録音イベント、博多駅イルミネーション点灯式、福岡市のイベントなどを創り上げる</p>							
【到達目標】							
<p>企画力や発案力はイメージを大切にせる業界において必要不可欠なもの。 常に新しいものに興味を持ちまた、それをどのように活かせば集客力の高いイベントになるかを考え、スキルを磨いていくことが重要です。</p>							

授業計画・内容	
1回目	1年間 この授業でやること(チーム分け・年間スケジュール)
2回目	1回目イベント会議 ① 各チームでまずは話し合う
3回目	1回目イベント会議 ② 各チームの案をプレゼン・発表
4回目	1回目イベント会議 ③ それぞれの案を精査し、1つのイベントにまとめる
5回目	1回目イベント会議 ④ 本番を迎えるにあたり、詳細を決定する会議
6回目	1回目イベント会議 ⑤ 本番を見据えて、問題をイメージし解決していく → 1回目のイベント実施
7回目	1回目のイベントを終えての反省、感想(報告会)
8回目	2回目イベント会議 ① 各チーム内での提案出し
9回目	2回目イベント会議 ② 各チームの案をプレゼン・発表
10回目	2回目イベント会議 ③ それぞれの案を精査し、1つのイベントにまとめる(全体会議)
11回目	2回目イベント会議 ④ 本番を迎えるにあたり、詳細を決定する会議(全体会議)
12回目	2回目イベント会議 ⑤ 本番を見据えて、問題をイメージし解決していく → 2回目のイベント実施
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	プロの現場で実際に経験することにより社会に出てからのイメージが具体化でき、また現場でプロスタッフに出会うことにより就職・研修にもつながってゆきます。臆することなくどんどん現場に行きましょう。 * 現場力を養う
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	コンサートや多くのイベントは現場にて初めて完成されるもの。だからこそ自身の想像力やイメージは失敗しないイベントを作る上で必要不可欠なものです。多くの経験から沢山イメージし想像力を養ってほしいです。
【使用教科書・教材・参考書】	
実際に使用したコンサートでの資料など(横山が現場で使用したもの)を授業でも使用していきます。	

科目名 (英)	ステージ・イベントプロダクションプロジェクト (Stage&Event Production Project)	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	横山 綾子
	学科・コース	商業音楽科・スーパー・エンターテインメント科・コンサート企画制作	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
【授業の学習内容】							
<p>「考えること」や「ものを作る」ことを鍛えます。企画立案、実行力を養います。 後期では、実際に企画したイベントを実践に持って行きます。</p> <p><講師プロフィール>九州最大の夏フェス“Number Shot”や“Circle”“Sky Jumboree”の舞台監督を務め、有名アーティストが出演するエフエムの公開録音イベント、博多駅イルミネーション点灯式、福岡市のイベントなどを創り上げる</p>							
【到達目標】							
<p>企画力や発案力はイメージを大切にせる業界において必要不可欠なもの。 常に新しいものに興味を持ちまた、それをどのように活かせば集客力の高いイベントになるかを考え、スキルを磨いていくことが重要です。</p>							

授業計画・内容	
1回目	3回目イベント会議 ① 各チームでまずは話し合う
2回目	3回目イベント会議 ② 各チームの案をプレゼン・発表
3回目	3回目イベント会議 ③ それぞれの案を精査し、1つのイベントにまとめる
4回目	3回目イベント会議 ④ 本番を迎えるにあたり、詳細を決定する会議
5回目	3回目イベント会議 ⑤ 本番を見据えて、問題をイメージし解決していく → 1回目のイベント実施
6回目	3回目のイベントを終えての反省、感想(報告会)
7回目	4回目イベント会議 ① 各チームでまずは話し合う
8回目	4回目イベント会議 ② 各チームの案をプレゼン・発表
9回目	4回目イベント会議 ③ それぞれの案を精査し、1つのイベントにまとめる
10回目	4回目イベント会議 ④ 本番を迎えるにあたり、詳細を決定する会議
11回目	4回目イベント会議 ⑤ 本番を見据えて、問題をイメージし解決していく → 1回目のイベント実施
12回目	4回目のイベントを終えての反省、感想(報告会)
13回目	ミュージカル演習
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	プロの現場で実際に経験することにより社会に出てからのイメージが具体化でき、また現場でプロスタッフに出会うことにより就職・研修にもつながってゆきます。臆することなくどんどん現場に行きましょう。 * 現場力を養う
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	コンサートや多くのイベントは現場にて初めて完成されるもの。だからこそ自身の想像力やイメージは失敗しないイベントを作る上で必要不可欠なものです。多くの経験から沢山イメージし想像力を養ってほしいです。
【使用教科書・教材・参考書】	
実際に使用したコンサートでの資料など(横山が現場で使用したもの)を授業でも使用していきます。	

科目名 (英)	パフォーミングプロジェクト (Performing Project)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	池田祥子
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日1限目・2限目
【授業の学習内容】 往年の名曲から現代音楽、または世界でもトップクラスのエンターテイメント演目が集結するブロードウェイミュージカル楽曲を主に課題とし、世界に認められているより深い感情表現や体の使い方を学ぶ。また、作品制作などの特定の課題に対し、研究・演習からプレゼンテーションまでを行い、実践力を養う。 《講師プロフィール》 200曲以上をレパートリーを持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカルクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 ヴォーカリストとしてステージ上で機能するために必要な歌唱、表現、演出知識、コミュニケーションを含めた自身の総合プロデューサーが身に付く。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、課題曲①Good morning Baltimore ②I know where I've been レクチャー(発音、音程、リズム、コーラスワーク)
2回目	課題曲①②復習・チェック
3回目	課題曲①②復習・チェック、③Dancing Queen レクチャー(発音、音程、リズム、コーラスワーク)
4回目	課題曲③復習・チェック、リードチェック
5回目	課題曲③復習・チェック、リードチェック、④Little shop of horrors レクチャー(発音、音程、リズム、コーラスワーク)
6回目	課題曲④復習・チェック、リードチェック
7回目	課題曲④復習・チェック、リードチェック、⑤Zero to hero レクチャー(発音、音程、リズム、コーラスワーク)
8回目	発表会曲リードオーディション
9回目	リード・コーラス総合チェック、役割分担ミーティング(イベントを遂行するための各所担当決め)
10回目	リード・コーラス総合チェック、役割分担ミーティング
11回目	リード・コーラス総合チェック、役割分担ミーティング
12回目	発表会通しリハーサル
13回目	前期発表会本番
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外 学習	課題曲に関連するミュージカル、映画、動画の鑑賞や歌詞の和訳の準備など
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	世界のトップクラスのエンターテイメントをしっかりと学ぶことでより一つでも多くを吸収出来る授業内容です。出来るか出来ないかで判断する前に、まずは一緒に挑戦してみましょう！一つずつ挑戦を繰り返し、その先に待つ自分自身を想像しながら一緒に進んでいきましょう！コーラスの音振りなど、欠席分の授業は自己責任で他の履修生から録音を必ずもらって準備、対応をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面(歌詞)、各自のMac、iPad(録音や動画撮影用)、各パートの楽器	

科目名 (英)	パフォーミングプロジェクト (Performing Project)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	池田祥子
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日1限目・2限目
【授業の学習内容】							
<p>往年の名曲から現代音楽、または世界でもトップクラスのエンターテイメント演目が集結するブロードウェイミュージカル楽曲を主に課題とし、世界に認められているより深い感情表現や体の使い方を学ぶ。また、作品制作などの特定の課題に対し、研究・演習からプレゼンテーションまでを行い、実践力を養う。</p> <p>〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカルクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。</p>							
【到達目標】							
ヴォーカリストとしてステージ上で機能するために必要な歌唱、表現、演出知識、コミュニケーションを含めた自身の総合プロデューサーが身に付く。							

授業計画・内容	
1回目	課題曲①②レクチャー
2回目	課題曲①②復習・チェック
3回目	課題曲①②復習・チェック、③レクチャー
4回目	課題曲③復習・チェック、リードチェック
5回目	課題曲③復習・チェック、リードチェック、④レクチャー
6回目	課題曲④復習・チェック、リードチェック
7回目	発表会曲リードオーディション
8回目	リード・コーラス総合チェック、役割分担ミーティング
9回目	リード・コーラス総合チェック、役割分担ミーティング
10回目	コーラス総合チェック、演出仕上げ
11回目	通しリハ
12回目	発表会本番
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	課題曲に関連するミュージカル、映画、動画の鑑賞や歌詞の和訳の準備など
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業へ取り組む姿勢(40%) ■ 各課題曲での目標の達成度、実践度(30%) ■ 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(30%)
受講生への メッセージ	世界のトップクラスのエンターテイメントをしっかりと学ぶことでより一つでも多くを吸収出来る授業内容です。出来るか出来ないかで判断する前に、まずは一緒に挑戦してみましょう！一つずつ挑戦を繰り返し、その先に待つ自分自身を想像しながら一緒に進んでいきましょう！コーラスの音振りなど、欠席分の授業は自己責任で他の履修生から録音を必ずもらって準備、対応をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
音源、譜面(歌詞)、各自のMac、iPad(録音や動画撮影用)、各パートの楽器	

科目名 (英)	ミュージックビジネスプロジェクト (Music Business Project)	必修 選択	必修 演習	年次	2	担当教員	黒須亮成
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜、3・4時限目
【授業の学習内容】							
<p>◆猛スピードで変化していく社会では、個人や企業がひとつひとつゼロからその分野を極めていく時間はありません。そのためすべて自分(自社)で完結するのではなく、得意分野を組み合わせるように他者(他社)と協力することがとても大切な時代になりました。「良いものを作れば売れる」という時代ではなく、お客様が欲しいものをヒアリングし、「売れる流れを作る」ことがとても大切になっています。そしてフリーランス(個人)が活躍できる場が増えていることから、専門スキルを身につけるのはもちろんですが、その先のお客様にその物や技術、サービスを届ける力も必要になっています。これからは時間や物量で仕事をするのではなく、発想で仕事をする時代です。競合ではなく協力する考え方が必要なため、新しい価値を創造(プロデュース)し、協力者を募り、チームをマネジメントしディレクションできる人を育てていきます。</p> <p>◆プロデュース(何かを創造する)や、ディレクション(それらを指揮する)は、すべての科目に大きく関係します。各科目のスキルをビジネスに展開することで社会と繋がることができ、継続的にお客様(ファン)のニーズを満たすことができます。</p> <p>◆プロデュース&ディレクションを学ぶことで、エンタメ業界に限らず、どの業界でも通用する原理原則があることを勉強します。世の中で起こっているさまざまな戦略の基本が理解できるようになり、学生自らがイメージしたアイデアを具現化でき、自己表現ができるようになります。具体的には、講義形式(座学)とグループワーク(演習)を中心に構成します。グループワークでは、エンタメ業界や日常生活にある事例や課題を見つけ、みんなで考えをシェアし、どのような仕組みになっているかを紐解いていきます。またプロデュース&ディレクションに必要なマネジメント、コミュニケーション、マーケティングの勉強・体験もしていきます。学ぶことも大切にしなが、卒業後に即戦力となるように在学中から“実際にやってみる”ということに慣れるため、実践の場もあります。</p> <p>講師プロフィール:音楽制作プロダクションにて、数多くのアーティストのプロデュースワークを行う。</p>							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ■シミュレーション演習によって、今まで知らない職種や立場を理解し、業界の全体像を理解できるようになる。 ■プロデュースやディレクションを行う上でのコミュニケーションの大切さを理解できる。 ■身近にあるマーケティングの仕組みを理解し、そこから逆算してプロデュース&ディレクションを理解できるようになる。 ■プロデュース&ディレクションを学ぶことで、エンターテイメント業界に限らず、一般企業のビジネスの全体像が理解できるようになる。 ■タレント側、クライアント側、関係各所の気持ちや立場が理解できるようになる。 ■ゼロから1を作る方法がわかる。 							

授業計画・内容	
1回目	プロデュースとディレクションの意味や実務の基本を理解し、なぜそれが重要なかを学ぶ
2回目	プレゼンについて学び、自分プロデュースのためのプロフィール作成に着手し、自己表現できるようになる
3回目	「ビジョンボード」、「やりたいことリスト100」などを作成し、将来の目標を明確化できるようになる
4回目	エンターテインメントを含む世の中のビジネスの全体像を学び、お金について、仕組みについて理解する
5回目	既存アーティストや商品、サービスの独自のウリ(USP)を学び、プロデュース視点で物事を考えることスキルを学ぶ
6回目	ディレクションのスキル「リスクリバーサル」を学び、相手の立場に立った提案ができるようになる
7回目	事例を基に、プロデュースの基本となる「ジョイントベンチャー(戦略的業務提携)」を学び、あらゆる企画立案ができるようになる
8回目	テレマーケティングを学び、ディレクターとしての交渉術などあらゆるプロジェクトを円滑に進行する力を身につける
9回目	プロデューサーの視点を使って、実際に企画を立てる
10回目	立てた企画を実際にアウトプットして市場の反応を見ながらブラッシュアップすることを学ぶ
11回目	ディレクターの視点を使って、実際に企画したものを制作・運営する
12回目	筆記&実技テスト
13回目	テストの復習をして、応用を導き出せるようになる
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	<p>目標①:プロデュースやディレクションはチームの中で各々が主体性を発揮して物事を進めることが大切です。授業でも主体性を発揮してください。</p> <p>目標②:プロデュースやディレクションは質問の質が非常に重要です。授業では1人1回は講師に質問するという目標を持って臨んでください。</p> <p>目標③:プロデューサーやディレクターは目的や理由、コンセプトを持って仕事します。授業を受ける目的と目標を毎回明確にして臨んでください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率:60% ■受講態度:20% ■【到達目標に対する達成度】:20%
受講生への メッセージ	魅力:プロデュースやディレクションというスキルはエンターテインメント業界はもちろん、ほとんどの業界や企業で必要とされている役割です。あらゆる業界の事例を基にたくさん考えて、検証し、企画して、実際に、実行して、聞いて、触れて、行動しながら学ぶことで、どの分野でも活用できるようになります。そして今まで見えていなかった世界がきっとたくさん見えるようになり、可能性が広がっていくことを実感できるので楽しみにしててください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ミュージックビジネスプロジェクト (Music Business Project)	必修 選択	必修 演習	年次	2	担当教員	黒須亮成
学科・コース	スーパー・eエンターテインメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜、3・4時限目

【授業の学習内容】

◆猛スピードで変化していく社会では、個人や企業がひとつひとつゼロからその分野を極めていく時間はありません。そのためすべて自分(自社)で完結するのではなく、得意分野を組み合わせるように他者(他社)と協力することがとても大切な時代になりました。「良いものを作れば売れる」という時代ではなく、お客様が欲しいものをヒアリングし、「売れる流れを作る」ことがとても大切になっています。そしてフリーランス(個人)が活躍できる場が増えていることから、専門スキルを身につけるのはもちろんですが、その先のお客様にその物や技術、サービスを届ける力も必要になっています。これからは時間や物量で仕事をするのではなく、発想で仕事をする時代です。競合ではなく協力する考え方が必要のため、新しい価値を創造(プロデュース)し、協力者を募り、チームをマネジメントしディレクションできる人を育てていきます。

◆プロデュース(何かを創造する)や、ディレクション(それらを指揮する)は、すべての科目に大きく関係します。各科目のスキルをビジネスに展開することで社会と繋がることができ、継続的にお客様(ファン)のニーズを満たすことができます。

◆プロデュース&ディレクションを学ぶことで、エンタメ業界に限らず、どの業界でも通用する原理原則があることを勉強します。世の中で起こっているさまざまな戦略の基本が理解できるようになり、学生自らがイメージしたアイデアを具現化でき、自己表現ができるようになります。具体的には、講義形式(座学)とグループワーク(演習)を中心に構成します。グループワークでは、エンタメ業界や日常生活にある事例や課題を見つけ、みんなで考えをシェアし、どのような仕組みになっているかを紐解いていきます。またプロデュース&ディレクションに必要なマネジメント、コミュニケーション、マーケティングの勉強・体験もしていきます。学ぶことも大切にしなが、卒業後に即戦力となるように在学中から“実際にやってみる”ということに慣れるため、実践の場もあります。

講師プロフィール：音楽制作プロダクションにて、数多くのアーティストのプロデュースワークを行う。

【到達目標】

- シミュレーション演習によって、今まで知らない職種や立場を理解し、業界の全体像を理解できるようになる。
- プロデュースやディレクションを行う上でのコミュニケーションの大切さを理解できる。
- 身近にあるマーケティングの仕組みを理解し、そこから逆算してプロデュース&ディレクションを理解できるようになる。
- プロデュース&ディレクションを学ぶことで、エンターテインメント業界に限らず、一般企業のビジネスの全体像が理解できるようになる。
- タレント側、クライアント側、関係各所の気持ちや立場が理解できるようになる。
- ゼロから1を作る方法がわかる。

授業計画・内容	
1回目	メディアのプロデュースとディレクションを理解する
2回目	コミュニケーションを学び、ワンランク上のプロデュース力とディレクション力のスキルを身につける
3回目	商品やサービスのキャンペーンの仕組みについて学び、プロデュース力、提案力を身につける
4回目	コピーライティングやブランディングについて学び、視覚的なプロデュースができるようになる
5回目	音楽イベントなどのマーケティングを学び、仕組みや方法をディレクションできるようになる
6回目	ダイレクトメールを学び、ディレクターとしての交渉術などあらゆるプロジェクトを円滑に進行する力を身につける
7回目	お客様について学び、相手の立場を理解し「断る必要のない提案」ができる力を身につける
8回目	お金の基本を学び、お金を集める方法を学び、具体的なプロデュースの実務を学ぶ
9回目	企画書の作り方を学び、具体的にプロデュースしたものを紙に落とし込めるようになる
10回目	実際にプロデュースした案件を実行し、ディレクションできるようになる
11回目	筆記&実技テスト
12回目	テストの復習をして、応用を導き出せるようになる□
13回目	ミュージカル本番
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	目標①：プロデュースやディレクションはチームの中で各々が主体性を発揮して物事を進めることが大切です。授業でも主体性を発揮してください。 目標②：プロデュースやディレクションは質問の質が非常に重要です。授業では1人1回は講師に質問するという目標を持って臨んでください。 目標③：プロデューサーやディレクターは目的や理由、コンセプトを持って仕事します。授業を受ける目的と目標を毎回明確にして臨んでください。
評価方法	■出席率：60% ■受講態度：20% ■【到達目標に対する達成度】：20%
受講生への メッセージ	魅力：プロデュースやディレクションというスキルはエンタテインメント業界はもちろん、ほとんどの業界や企業で必要とされている役割です。あらゆる業界の事例を基にたくさん考えて、検証し、企画して、実例を見て、聞いて、触れて、行動しながら学ぶことで、どの分野でも活用できるようになります。そして今まで見えなかった世界がきっとたくさん見えるようになり、可能性が広がっていくことを実感できるので楽しみにしててください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ミュージカルプロジェクト (Musical Project)	必修 選択	必修	年次	1.2.3.4	担当教員	竹田 昌広
学科・コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	()	開講区分 曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】 幅広く活動できるプロを育成する為、ダンス・歌・演技の3つの要素を取り入れたミュージカルのスキルを身につけることができる。</p> <p>※実務経験:関西を中心に活躍する劇作家・演出家で、年間100本近くの上演を誇る高等学校向け進路啓発ミュージカルをはじめ、全国の専門学校で上演されている「Step of Life」「Hospital of Miracle」、ベストセラー書籍の舞台化「甲子園だけが高校野球ではない」など、 “日本一ティーンに観られている”と言えるほどの舞台演出家です。</p>							
<p>【到達目標】 「生きることの素晴らしさ」をそれぞれの学習分野を通して伝える。 ミュージカル・イベント制作に必要なスキルを学ぶ。 エンターテイナー・パフォーマーとしての考え方、感じ方を習得することができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーションにてミュージカルのコンセプトと内容、社会貢献について理解することができる
2回目	メンバー顔合わせと今後のスケジュール確認や製作期間中の注意事項、役割分担を決めレッスンを行う
3回目	台本の読み合わせを行い、オーディションに向けて自分がチャレンジしたい役を決定する
4回目	各役ごとに歌と演技のオーディションを行う
5回目	各役ごとに歌と演技のオーディションを行う
6回目	仮キャストの発表～台本の読み合わせ～発声方法・演技指導を行う
7回目	ダンスシーンの振付・歌唱稽古開始し、歌唱・振付を覚えることができる
8回目	台詞を暗記し立ち稽古開始～演技指導～ステージマナーを学ぶことができる
9回目	台詞を暗記し立ち稽古開始～演技指導～ステージマナーを学ぶことができる
10回目	立ち稽古～広いアクティングエリアを使用し立ち位置の確認と導線、動きの確認をすることができる
11回目	リハーサル～実施に公演するホールを使用し、衣装を着用、小道具を使用してのリハーサルを行う
12回目	ホールリハーサルでの反省点を振り返り、修正と強化練習によってクオリティーを上げることができる
13回目	ホールを使用してのリハーサル～本番に向けての最終確認とサウンドチェック・リハーサルを行う
14回目	進級発表本番1回目を行う
15回目	進級発表本番2回目を行う
準備学習 時間外学習	・事前に案内する課題の予習
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ■出席率 40% ■授業へ取り組む姿勢 30% ■各課題曲の目標の達成度、実践度 30%
受講生への メッセージ	スキルを身につけるだけでなく、パフォーマーとしての礼儀やマナーも身につけることができる。
【使用教科書・教材・参考書】	